

設置の趣旨等を記載した書類

ア リハビリテーション科学部設置の趣旨及び必要性

1. 建学の経緯と沿革

北海道医療大学は1974年4月に薬学部（薬学科・衛生薬学科）を開設して以来、4年後には歯学部（歯学科）を、1993年4月には看護福祉学部（看護学科・介護福祉学科）を、2002年4月には心理科学部（臨床心理学科・言語聴覚療法学科）を開設した。すべての学部に研究科を設置し、修士課程および博士課程を開設して大学院教育を行っている。また、この間に、アイソトープ研究センター（1982年設置）、動物実験センター（1988年）、医療科学センター（1990年、のちに個性差医療科学センター）、医科学研究センター（1994年、のちに個性差健康科学研究所）、NICEセンター（National and International Collaborative Extension Center、2000年）、大学教育開発センター（2007年）、北方系伝統薬物研究センター（2009年）という重要研究拠点機能を有するセンターを開設し、諸分野での研究・教育のための共同利用や情報提供、セミナーの開催などが行われてきた。また学術と社会貢献との融合という大学としての社会的役割から、心理臨床・発達支援センター（2003年）、認定看護師研修センター（2005年）、および薬剤師支援センター（2010年）を設置し、医療にかかわる人材の育成に広く着手してきた。これらの活動が評価され、日経グローバルが毎年行っている地域貢献度ランキングの医歯薬系大学において、2007年～2009年の3年間は第1位、2010年は第2位、2011年は第5位と例年高い評価を得ている。

このように建学38年の歴史は、常に新しい社会のニーズを先取りして人材育成に取り組んできており、北海道に限らず日本全国に向けて人間力と臨床力のある人材を送り続け、現在に至っている。

（資料1）北海道医療大学の沿革

2. リハビリテーション科学部設置の背景

先進諸国で進行する少子・高齢化は、社会の中での労働や役割、生きがいなどにおいてこれまでとは全く異なる枠組みで捉えなければならない新しい問題を提起している。

わが国では、少子化が続いている反面、発達障害など新しい障がい児の増加とそれによる特別支援教育希望者の増大、あるいは障害の重度化・重複化など、小児領域でのリハビリテーションサービスの整備・充実への要請が高まっている。

一方、世界に類例を見ないスピードで高齢社会に到達した我が国においては、必然的に高齢者福祉、医療保険、介護保険などの制度改革は、早急に解決しなければならない課題となっている。

また、それとは別の次元でみた場合、高齢社会というすべての国民が対峙する現実を見据えて、生き方などの意識におけるパラダイムシフトが求められているともいえる。すなわち高齢者はますます我が国における有用な人材として蓄積した能力を発揮すべく社会参加を継続することが求められてくる。そして、それを保証するためのところとからだの健康維持・増進が個人的にも社会的にも重要な責務となっていくものと考えられる。

そのためには、医学の進歩、医療の拡充が重要であることは言を待たず、それを必要とする人に対して、それを必要とする時に十分に提供することのできる制度や人材供給・配置が重要な課題となっている。特に広大な地域を擁して地域間格差の極めて著しい北海道におい

ては、それらの課題の解決が強く求められているのが現状である。

北海道医療大学は、「保健と医療と福祉の連携・統合教育の推進」を教育理念とし、「新医療人育成の北の拠点を目指す」ことを行動目標として、1974年の開学以来38年間にわたり、薬剤師、歯科医師、保健師、看護師、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、言語聴覚士、臨床心理士などの保健・医療・福祉分野の専門家を育て、卒業生1万有余名を全国に送り出してきた。

高齢者比率が著しく高い人口構成の我が国においては、中高齢者の健康を維持し、向上させ、生きがいを持って地域社会で生活するために、その人が生活する地域において人々の健康を多面的にサポートしていくことがますます求められている。

本学が位置する北海道は、その地域特性である積雪・寒冷が高齢者の冬季間における活動性を著しく低下させ、結果として高齢者の閉じこもりや心身機能の低下を招いている。加えて北海道の広域性は、保健医療福祉関連機関と人材が札幌市およびその近郊に集中するという、地域間格差を拡大させている。

こうした北海道における保健医療福祉の地域特性の克服には、歯科医師や保健師、歯科衛生士による食事指導や口腔衛生指導のみならず、理学療法士や作業療法士による運動の習慣化を通じた日常の活動性の向上などが重要である。さらに、あらゆる医療従事者の協力によって、病的な疾病（肺炎、脳卒中、心筋梗塞）と重篤な合併症を誘発するリスクの高い生活習慣病（糖尿病、脂質異常症、高血圧症）の発症を低減化することや、認知症や老年期うつ病など、高齢期に特徴的な疾患を早期に発見することが求められている。これらを実現するためには、高齢者が地域でより充実した生活を送ることができるようサポートしていくためのインフラ整備が必要であり、それを支える高度な知識と技術を有する人材が強く求められている。

すなわち、高齢社会における1次予防（健康増進と疾病予防）、2次予防（早期発見と合併症対策）、3次予防（再発予防とリハビリテーション）に対して、リハビリテーション科学によって裏付けされた知見を基盤に、十分に介入できる専門職能人の育成がますます重要となり、知識や技術に加え、豊かな教養と人間性を有する人材の養成が強く求められている。

本学の教育理念である「生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を目指す創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職能人を育成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献する」という理念の下、「リハビリテーション科学部」は、前述のように保健・医療・福祉への切実なニーズに十分に答えられる理学療法士および作業療法士を養成することを目的として設置しようとするものである。

1) 学生確保の見通し

北海道医療大学既設の4学部6学科の志願状況は、過去6年間（2007年～2012年）においては、薬学部の平均が2.6倍、歯学部（同）が1.7倍、過去4年間（2009年～2012年）においては、看護福祉学部看護学科の平均が5.3倍、同臨床福祉学科（同）が1.2倍、心理科学部臨床心理学科（同）が2.0倍、同言語聴覚療法学科（同）が2.0倍である。

ここ数年、全国私立大学の約40%が入学定員未充足の状態が続いている。本学は学部によっては一部未充足学科もあるが、幸いにして大学全体としての定員が未充足となったことはない。

一方、理学療法学科及び作業療法学科の全国4年制大学の過去5年間の志願状況を見ると、設置大学数がこの5年間で理学療法学科（専攻）が68大学から86大学に、作業療法学科が49大学から63大学にそれぞれ大幅に増加している。ほとんどが私立大学の増加によるものである。作業療法学科（専攻）は、一部定員未充足の大学もあるが、理学療法学科（専

攻)については、順調に志願者が増加していて入学者を確保している様子が伺える。

本学の位置する北海道には、現在、国立の北海道大学と北海道立の札幌医科大学、及び私立大学の北海道文教大学の計3大学が理学療法学科及び作業療法学科を有していて、志願者は十分集まっており入学定員を確保できている状態である。

なお、本学は、リハビリテーション科学部設置に当って、独自に本学への進学意向調査を2011年12月に実施した。その結果、別添資料が示す通り、本学の従来からの教育への取り組みに対する高い評価や医療大学としての人的、知的、物的資源への信頼感などから、二つの学科の入学定員120名に対して受験潜在需要が1,345名、進学希望者(合格した場合入学したいと思っている受験生)が241名と高い需要を示していることが判明した。

また、後述するように、両学科とも大学、短期大学、専門学校卒業者を対象とした2年次編入学制度導入を予定している。高齢社会において、より高度な大学教育を受けたリハビリテーションスタッフの需要はますます必要とされるため、基礎学力を有した者が、3年間で国家資格の受験資格を取得できる編入学制度は期待されるものと思われる。本件についても別添資料の通り、インタビュー調査を実施したが、本制度に対する期待は大きいものがある。

以上から、本学リハビリテーション科学部理学療法学科及び作業療法学科の学生確保の見通しは、十分期待できるものといえる。

(資料2-1) 学生受入状況推移表

(資料2-2) 全国理学療法士養成大学志願状況等推移グラフ

(資料2-3) 全国理学療法士養成大学志願状況(設置者別)

(資料2-4) 全国作業療法士養成大学志願状況等推移グラフ

(資料2-5) 全国作業療法士養成大学志願状況(設置者別)

(資料2-6) 北海道医療大学リハビリテーション科学部 進学需要調査(1)

2) 養成する人材像

北海道医療大学は基本三方針を2011年4月に策定し、実践している。すなわち、①入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)、②教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、③学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)の3つの方針である。北海道医療大学は、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究し、社会の要請と期待に応えるため、保健と医療と福祉に関する高度の研究に基づいた良質な教育を行っている。その教育を通して、チーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した専門職能人を育成することを目標としている。その目標を実現するために、入学者の受け入れ方針として、まず基礎的な学力を有していること、協調性や基礎的コミュニケーション能力を有していること、生命を尊重し、他者を大切に思う心があること、保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること、生涯にわたって学習を継続し、自己研鑽への意欲を強く持っていることなどを基準に学生を受け入れている。このような基盤を有する学生に対し、北海道医療大学は、「保健と医療と福祉の連携・統合」を目指す教育理念を基本として、広く社会に貢献できる確かな知識と技術、幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職能人を育成する。

(資料3) 北海道医療大学 三方針

3) 卒業後の進路

公的機関の理学療法士と作業療法士の需給予測としては、厚生労働省が超高齢化社会の到来を見据えて作成したゴールドプラン(1989年)、および新ゴールドプラン(1994年)、さらに引き続き作成されたゴールドプラン21(1999年)がある。

ゴールドプラン21は、5年後の2004年における理学療法士、作業療法士の需給見込みを

策定しているが、理学療法士の2004年度における需要見込み数は46,000人に対して供給見込みは37,200人(充足率80.9%)との数値を算出している(PTジャーナル2006.10)。需要目標を実際に上回ったのは、2007年の48,605人になってからである。今後の高齢化の進展に伴って需要と供給のバランスはさらに深刻となる。一方、別の試算では2016年の需要予測は91,400人に対して供給数は73,943人に止まると予測している。需給予測は、必要数の81%に止まるとされている(病院経営2006.10.20)。

作業療法士についても同様な予測がなされており、2016年の需要予測が84,000人に対して供給数は61,572人に止まると予測している。需給予測は、必要数の73%に止まるとされている(病院経営2006.10.20)。

わが国の高齢者人口は、2005年に21.0%を超えて世界最高となっているが、今後こうしたリハビリテーションの専門家の需要はますます高まることとなる。

本学が独自に行った理学療法士、作業療法士のニーズ調査の結果、北海道における需要は人口千人当り理学療法士が0.7人(全国22位)、作業療法士が0.43人(同24位)といずれも1人を下回っている。北海道の高齢化率は全国平均を上回る速度で進むことから、リハビリテーションスタッフの需要はさらに高まるものと考えられる。

ただし、こうした従来の量的な需給予測は、保健医療に関わる定められた定員などに基づくもので、量的整備を一義的に考慮した予測であるが、高齢社会における国民からの質の高いリハビリテーションサービスを求める声に応えるためには、従来の治療・リハビリテーションスタッフ定員配置は抜本的に見直されることが必要になると思われる。

したがって、こうした将来の保健医療のあり方を考慮すると、従来の需給予測は大きく変わり、大学さらには大学院教育を受けた質の高いリハビリテーション専門職の需要は今後ますます高まることになるとと思われる。例えば、精神科作業療法では1人の作業療法士が1日50人までを治療可能とされているなど、「治療」と称するには極めて貧困な状況が実態である。100床当りの看護師数に関しても国際比較で同様な状態にある。

こうした現状を改善するためには、大学における高度な教育を受けた専門職やリハビリ現場における指導者の養成が急務になる。

(資料4) 北海道医療大学 リハビリテーション科学部 就職需要調査

4) 教育研究上の目的

(1) どのような人材を養成するのか

本学部においては、大学の教育理念のもと、保健・医療・福祉分野で活躍する高度なリハビリテーション専門職(理学療法士及び作業療法士)を養成する。具体的には、以下に示すような人材養成を目指す。

- ① リハビリテーションを必要とするあらゆる人々の人権を尊重できる専門職能人を養成する。
- ② 高齢化や過疎化をはじめとする地域の実情に根ざした保健医療福祉活動はもとより、特にアジア諸国を中心とした国際活動にまで幅広く社会に貢献できる人材を養成する。
- ③ 科学的知識を基盤とした専門技術を備え、質の高いリハビリテーションサービスを提供できる人材を養成する。
- ④ 生涯にわたり最新の知識・技術を修得することに努め、リハビリテーションを通して地域の発展に貢献できる人材を養成する。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか

本学部では、前項で示した人材を養成するため、習得すべき能力を次のように掲げる。

- ① リハビリテーション従事者として求められる幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観と

コミュニケーション能力を養う。

- ② 多職種連携の必要性を理解し、実践できる人材基盤の確立を推進する。
- ③ 地域包括ケアの視点を持ち、保健・医療・福祉の連携・協働を図りながら、専門技術を提供できる能力を養う。
- ④ 身体及び精神の障害と、そこから派生する生活上の問題に適切に対処できる科学的根拠に基づいた専門知識・技術を身につける。
- ⑤ 社会の変化や科学技術の進展に合わせて専門性を検証し、常に自ら考え行動する能力を培う。

5) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学部が組織として研究対象とする中心的な学問分野は「リハビリテーション科学」である。リハビリテーション科学は学際的領域であるため、その発展には様々な学問分野の視点や手法、技術等の連携が不可欠となる。本学は、医療系総合大学であることから、長年にわたり保健・医療・福祉の各分野で先駆的研究に取り組んできた実績を有する。このことから、本学部では学部内の研究連携はもちろんのこと、既設学部とも連携を図りながら、これまで培われてきた医学、薬学、歯学、看護学、臨床福祉学、言語聴覚学、臨床心理学などの関連諸科学分野の研究資源を有機的に活用し、「リハビリテーション科学」の教育・研究を推進させていく。

イ 学部、学科の特色

1. 本学の特色

本学は、薬学部、歯学部、看護福祉学部（看護学科、臨床福祉学科）、心理科学部（臨床心理学科、言語聴覚療法学科）の4学部6学科からなる医療系の総合大学で、全国各地から学生が集まっている。臨床心理学科を除くいずれの学部学科も医療、福祉の専門職として卒業後国家試験受験資格を得る。臨床心理学科については、日本臨床心理士資格認定協会が認定する第1種認定校として、大学院修士課程修了後同協会が実施する臨床心理士資格認定試験の受験資格を得ることができる。いずれも卒業生は高い合格率を持って社会に巣立っており、多くの者は現場で生き生きと活躍している。この度、本学が申請する理学療法学科と作業療法学科の卒業生は、いずれも保健・医療・福祉の現場において当該国家資格有資格者とし業務に就くこととなる。さらに将来的に、より高度な専門職能人養成のために、大学院設置を目指している。

2005年1月28日に公表された中央教育審議会答申は、「我が国の高等教育の将来像」の第2章の3「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」において、「新時代の高等教育は、学習者の様々な需要に的確に対応するため、大学等がそれぞれの位置付けや期待される役割・機能を十分に踏まえた教育や研究を添加するとともに個々の学校が個性・特色を一層明確にしていかなければならない」としている。特に大学は、どの分野に比重を置いた経営戦略を立てていくのか明確化する必要があるとし、以下の7つの類型を例示している。

- ①世界的研究・教育拠点、②高度専門職能人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育、研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

本学は、②高度専門職能人養成に該当することは明確である。

（資料5-1）在学生の出身地分布および卒業生居住分布（都道府県別）

(資料5-2) 国家試験合格状況

(資料5-3 卒業生の進路状況 (学部別)

2. リハビリテーション科学部の特色

1) リハビリテーション科学部の理念

先進諸国で進行する少子・高齢化の中で、とりわけ我が国の少子高齢社会のスピードは世界でも類を見ない。それは必然的に子育て支援のあり方や高齢者福祉など様々な生活基盤整備の改革を早急に進めなければならない課題として国民に迫っている。一方で、このような急激な人口構造の変化に現代社会が十分に対応できず、勤労者や学生らの生活習慣病やストレスから発生するメンタルヘルスの問題が顕在化し、また、慢性疾患や難病の長期ケア、高齢者の多臓器疾患や重複障害、また、そのような高齢患者を収容するための施設や長期在宅医療の充実など、我が国の医療に対する国民のニーズの方向性は劇的に変化している。すなわち、病院医療や地域医療の診療水準は高度なチーム医療に依存する時代になってきている。言い換えればチーム医療を構成する医療職には、自らの専門領域のみならずチームを構成するすべての医療職やその専門性、あるいはそのチームに関与する機能について十分な理解を有する能力を備えていることが求められている。このような質的・量的変化に対応し高度な医療技術と科学に基づくリハビリテーションとそれを推進するチーム医療に対応できる医療人を養成するため、以下に述べる理念と基本方針に基づいて教育を行う。

また、リハビリテーション科学部は、「考える力」を培い、課題解決能力を有する人材を育成すること、「リハビリテーション」と「福祉・介護」の連携・統合を実践できる医療人を育成することを目標としている。そのため、急性期医療から在宅に至るいかなるシチュエーションにおいても、最先端の科学的知識を基盤とした高度な技術（Evidence Based Physical Therapy, EBPT、Evidence Based Occupational Therapy, EBOT）による広域社会に貢献する人材を育成することを、リハビリテーション科学部の教育上の基本理念としている。

2) リハビリテーション科学部の基本教育方針

上記の基本教育理念に基づいて、リハビリテーション科学部は以下のような教育方針を掲げて教育を実践していく。

(1) 双方向の講義および演習形態を目指す

これまでの大学教育の在り方における構造的な問題を解決し、学生にとって魅力的な講義とするため、双方向型講義および演習形態を採用する。

これまで多くの講義が一方通行的な「説明」となっている傾向があり、学生は高等学校までの「勉強」から、本来大学における「学問」への価値観の転換を体験する重要な機会とすべきであったものが、まだ旧態依然とした講義形式に終始する 경우가少なくない。

リハビリテーション科学部においては、双方向型講義を準備する段階から、講義のテーマの選択や学生間の双方向性の創出などについて十分に議論を重ね、リハビリテーション科学を学ぶ作業を教員と学生の協働作業の下に形成するという基本理念の基に教育を展開する。

また、双方向型講義とするためには、教員と学生との共通の問題意識と動機付けが重要となってくる。そこで、教員と学生との物理的な「距離」を短縮し、「議論」を通して学問の「コア」にアプローチしていく手法を通じて、「興味」をしっかりと共有するようにする

ことが重要である。そのためにも「発言」や「主体的な関与」を通して、学問的な「問題意識」の獲得を教育方針の根幹に据えたいと考えている。

(2) 科学的基盤形成に向けた反復学習に重点を置く

反復学習の目的は「記憶」である。記憶する目的は、医療の専門家として臨床現場において類似の課題と対峙した時に、その問題のパターンや例外、特異事例を分析して分類し、専門分野の枠組みの中で解決方法をイメージし構築することにより、問題の本質を理解しようとするところにある。しかし、この理解は、ある一定の作業の繰り返しや手順を覚えるだけの単なる反復学習では不可能で、対象事例に対する適切な問題意識や目的意識を持つことが重要である。そのためには、対象となる課題の本質を意識するような学習が構成されていなければならない。科学的な概念や理論あるいは、定理を見つけ出す方向性と意識性が不可欠である。これらの成果は言うまでもなく、課題の本質、すなわち科学的基盤形成に効果的にアプローチすることを可能とするし、極めて有効な手法であると考えられる。

(3) 医療コミュニケーション能力開発のための実地学習を積極的に推進する（体験の重要性）

医療におけるコミュニケーションの意義は、医療者－患者間の情報伝達や病歴聴取のみではなく、医療者－患者間の信頼関係の構築と患者教育の動機づけにある。それゆえ臨床で展開されるコミュニケーションは通常の日常会話とは異なる部分が多くある。患者への適切な情報提供は極めて重要であるが、場合によっては医療者側が発する無意識の態度そのものが患者への重大なメッセージとなることがあり、医療コミュニケーション学習の困難さを示している。ていねいな言葉遣いや説明だけでは不十分であり、①支持的態度や②共感的態度を十分に身につけていく必要があり、学内演習によるコミュニケーション能力の開発やボランティア活動などを通して社会的に成長していく場を多く提供していく必要がある。

(4) e-ラーニングの活用を推進する

e-ラーニングそれ自体は目的ではなく手段である。それゆえ、e-ラーニングを用いてどのような教育を展開するのかを検討しなくてはならないが、少なくとも学問の興味深い入り口と学生とを魅力的に引き合わせる場となるものと思われる。大学教員は通常、「教育技術」の体系的な訓練を受けていない。そのための教員側の基本的な問題意識から、授業改善に向けた具体的実現の有効な手法になる。すなわち e-ラーニングの構造構築の過程で、より良い授業へのモチベーションと授業デザイン力が培われるし、北海道医療大学における「改善支援システム」すなわち「大学教育開発センター」による授業コンテンツの醸成と物的・精神的サポートおよびマネジメントによるバックアップによって教員はより体系的な教育技術を有する教育者となり、結果として学生における学習スキルを体得できるものと期待できる。

すなわち、次の3つの側面から e-ラーニングを積極的に活用する。①教育効果として、学生の専門知識などの実力の向上が期待できる。②教育効率の向上として、短時間で、無理なく、無駄なく、むらもなく、効率的に教育効果を引き出すことができる。③この手法を使うことによりさらに勉強したいと思うようになる、すなわち継続動機が期待される。

(5) 他学部学生との交流を促進し、「チーム医療」を実践できる人材基盤の確立を推進する

とりわけ医療過疎が進行する北海道において医師、歯科医師、看護師、社会福祉士、薬剤師といった地域連携を推進していくスタッフに加えて、理学療法士と作業療法士が加わることにより、より地域生活住民のニーズを反映させた有効で実効性のある介入が可能と

なる。そのための教育を大学教育として具現化していくためには、単に同じキャンパス内にそれぞれの学部や学科があるのみでは全く機能せず、地域と大学との有機的な連携により地域固有の課題を大学のカリキュラムに組み込む仕組みが必要である。さらに、地域病院でのプライマリーケアや保健所・リハビリテーション施設など多様な施設における地域住民の生活基盤に立脚した実践的なチーム医療の活動が必要であると考えられる。

このような地域密着型のチーム医療実践学習を通して、他学部学生や地域住民との交流により「チーム医療」を実践できる人材基盤を確立することができるものと期待できる。

(6) 学生支援室を充実する

高等学校における未履修科目や不得意科目を克服するために、学生の学習支援を日常的に強力に推進する。学生一人ひとりの弱点科目を分析し、学習方法も含む個人指導を徹底し、「できない」をつくらない体制を整える。そのために、学習支援室を教員の研究施設の中心部に設け、学習支援室に隣接した場所に、可視化を基本概念として教員の個室を配置するようにする。さらに、理工系の学部で通常行われているような先輩が後輩を指導する態勢を構築する狙いから、学習支援室の一角に大学院生を配置できる構造とし、院生(TA)が学部生を教える環境を整備する。

3) 理学療法学科の特色

本学の理学療法学科教育は、「地域住民の健康増進への寄与」を全面的に実践できる人材育成を目指す。病気やけが、あるいは出生から発達過程や日常生活において起こる障害に対して、身体機能の回復と生活活動の向上を目標とした理学療法サービスを、チーム医療を通して提供できる理学療法士を育成する。すなわち、地域住民が地域に根差して豊かで活力ある生活を営み、住民が生き生きと社会に参画できるようにサポートできる人材の育成を目指す。

単に知識や技術を教授するのみでなく、人口構成や価値観が今後ますます変容する現代社会において、地域住民が医療に要請する豊かな人間性、柔軟に対応できる行動力、新たな発想や探究心、豊かな創造性と建設性をもつ人材教育を行う。そのための具体的な施策として、下記の4項目について述べる。

(1) 先進医療知識・技術の活用

歯学部や薬学部が既設されていることから、本学には優れた基礎医学研究棟が併設されており、人体の構造(解剖学)から機能(生理学)を有機的に学ぶ環境が整っている。また多チャンネル筋電計、テレメータ式心電計、三次元動作解析システム、呼吸機能解析装置など最新の計測機器を使用し、理学療法を学ぶ上での科学的視点を実践的に修得することができる。

また運動器障害や呼吸器障害を有する方たち、あるいは地域への応用や適用への具体的な理学療法技術を実践的に教授できる教員がそろっており、先進医療知識や技術を教育に活用していく。

(2) 教育ネットワーク体制の活用

北海道医療大学における他学部教員とのネットワークにより、高度な知識や技術を教授する環境が整っている。解剖学や生理学のみならず、老年期ケアや小児ケア、ソーシャルワーク論など看護学科や臨床福祉学科との共同参画講義および研究により、多面的な学習・研究活動が可能となる。また本学には大学教育開発センターという学部の枠にとられない教育支援組織があり、本学の有機的な教育環境における有効なネットワーク体制を構築している。

(3) チーム医療を推進する実践教育

医学の進歩と医療サービスの多様化は、エビデンスに基づく最良の医療を展開することが強く求められ、さらに自分の意思で医療を選択する権利を保障するための多様な医療サービスへと変化させてきている。それを具体化していくためには、自らの専門性と他の関連職種との役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる理学療法士の育成が必要である。さらに患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材を育成していく。本学科には豊かな臨床経験を有するそれぞれの専門領域の理学療法士教員が多数配置され、高度な技術教育と臨床教育を行うことができる。また、強力な臨床教育連携の可能な臨床実習による教育プログラムを推進していく。

(4) 臨床実習と医療専門技術教育

本学科の臨床実習施設として、最先端医療設備を有する医療機関を数多く確保している。また、このような臨床実習病院との連携を密接にし、臨床実習教育の質的向上と均質化、あるいは特徴化を推進するために、本学と臨床実習関連機関との協働による「臨床実習プロモートネットワーク」を構築し、教育側の要求と臨床側のニーズを強固にリンクさせていきながら、本学科における科目関連実習とも連携を図っていく。

4) 作業療法学科の特色

作業療法士は、生命誕生から死に至るまでのさまざまな人生のステージにおいて対象者に関わっていく。日々の生活や諸活動の向上を目指し、対象者が自らの意志で選択した方法に基づいて、「役割や生きがいを持って社会の中で暮らしていく」こと実現するために縦横に支援する役割を担う。すなわち、障害を有する方や、それを増悪させる可能性のある方に対して、日常生活の中のさまざまな作業の中で個人の有する生産的な側面を引き出し、内面の力に働きかけながら、可能な限り生き生きとした人生を送るための具体的な能力を向上させる。さらに、失われた能力等に対する代償的な環境調整をも担う。これらは、個々の意思を尊重しつつ、全人的な働きかけを通して展開されていかなければならない。これらを実現するために、作業療法学科では次の5項目を基盤として教育を遂行する。

(1) 豊かな人生をおくるための支援を可能にする作業療法士の育成

人が人生の中で、仕事、余暇（遊び）、日常生活活動に主体的に従事することを支援するために、その学術的知識・技術（生物学・心理学・社会的側面）について幅広い観点から学ぶための教科科目を系統的に組み立てている。すなわち、人が生活するための要素についての知識・技術として、人の構造や機能の側面、能力的な側面、意味的な側面について、科学的基盤に基づいた高度・先進知識や技術を提供していく。

また、知識・技術のみならず豊かな創造力や人を思いやる心を養うことなど、情意の側面についても、その基礎から応用まで一貫した取り組みを提供する。特に作業療法専門科目では、双方向の授業形態を取ったグループワークを通して、コミュニケーション能力及び、主体性や協調性を培う機会を設けていく。

(2) 教育ネットワーク体制の活用

北海道医療大学における他学部教員とのネットワークにより、高度な知識や技術を教授する環境が整っている。解剖学や生理学のみならず、老年期ケアや小児ケア、ソーシャルワーク論など看護学科や臨床福祉学科との共同参画講義および研究により、多面的な学習・研究活動が可能となる。また本学には大学教育開発センターという学部の枠にとらわ

れない教育支援組織があり、本学の有機的な教育環境における有効なネットワーク体制を構築している。

(3) チーム医療を推進する実践教育

医学の進歩と医療サービスの多様化は、エビデンスに基づく最良の医療を展開することが強く求められ、さらに自分の意思で医療を選択する権利を保障するための多様な医療サービスへと変化させてきている。それを具体化していくためには、自らの専門性と他の関連職種との役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる作業療法士の育成が必要である。さらに患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材を育成していく。本学科には豊かな臨床経験を有するそれぞれの専門領域の作業療法士教員が多数配置され、高度な技術教育と臨床教育を行うことができる。また、強力な臨床教育連携の可能な臨床実習による教育プログラムを推進していく。

(4) 地域連携と作業療法

地域での作業療法は、寝たきり予防や心身の障害を回復させるための機能訓練的なりハビリテーションのみを目的としているのではなく、地域での社会参加、社会貢献を目指すことであり、ノーマライゼーションをゴールとする考え方に到達する。つまり、たとえ介護が必要であっても仲間とともに地域の中で生き生きと、安心した生活が続けられる街づくりを目指すものである。

そのため、作業療法士は、「その人がその人らしく生活すること」を基本に、障がい者やその家族の声をしっかり受けとめ、それぞれにその意思を尊重し、住環境、人的環境、地域環境を整え、支援の枠組みを明確にし、支援コーディネーターとしての役割を認知し、その力を発揮できるような人材を育成していく。

具体的な教育内容としては、就労支援、多職種連携、地域作業療法学演習において、フィールドワークなどを利用した実践演習を用いた授業の活用を重要視していく。

(5) 実践教育としての臨床実習

臨床実習は、学内教育で学んだ知識や技術を実践の場での経験を通して統合する重要な必須課程である。さらに、実践領域が拡大し多様化する中では、従来から求められてきた基礎・臨床医学と専門科目に関する知識のみならず、社会の状況を考えながらより柔軟な思考と高い人間性が求められていることから、広い観点で対象者支援を可能にする実践的能力を育成するため、多くの実習時間数の確保と複数領域での実習経験ができるカリキュラム設定をしている。

また、臨床実習指導者と連携して早い時期から学生教育ができるように1年次前期に臨床体験学習の設定をして、医療専門職を目指す自覚を促し、学びへの動機づけを高められるように配慮している。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

リハビリテーション科学部は、「高齢化や過疎化をはじめとする地域の実情に根ざして、保健・医療・福祉の分野において、科学的知識を基盤とした質の高いリハビリテーションサービスを提供でき、地域社会の発展に貢献できる理学療法士ならびに作業療法士を養成する」ことを教育目的としている。したがって、学部名称は『リハビリテーション科学部』とし、学科名

称は養成する専門職能人を適切に表現できる『理学療法学科』と『作業療法学科』とする。また、それぞれの専門職能人になるための国家試験受験資格を取得できる教育課程を学修することから、学位の名称は『学士（理学療法学）』または『学士（作業療法学）』とする。

なお、学部、学科及び学位の英訳名称は次のとおりである。

学部	School of Rehabilitation Sciences (リハビリテーション科学部)
学科	Department of Physical Therapy (理学療法学科)
	Department of Occupational Therapy (作業療法学科)
学位	Bachelor of Science in Physical Therapy [学士（理学療法学）]
	Bachelor of Science in Occupational Therapy [学士（作業療法学）]

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程編成の基本的な考え方

当該学部では、次の教育理念・目標に基づき、高度な理学療法士ならびに作業療法士を養成することを目的に教育課程を編成する。

1) リハビリテーション科学部の教育理念

北海道医療大学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を基盤としたリハビリテーションの専門職育成をはかる教育を推進する。科学的専門知識の開発・教授にとどまらず、保健・医療・福祉の連携・統合を意識した、より広い総合の立場（ヒューマンケア）の専門職能人を育成することにより、国民の健康を守り、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部の教育理念とする。

2) リハビリテーション科学部の教育目標

- ① リハビリテーション従事者として求められる幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力を養う。
- ② 多職種連携の必要性を理解し、実践できる人材基盤の確立を推進する。
- ③ 地域包括ケアの視点を持ち、保健・医療・福祉の連携・統合を図りながら、専門技術を提供できる能力を養う。
- ④ 身体及び精神の障害と、そこから派生する生活上の問題について、適切に対処できる科学的根拠に基づいた専門知識・技術を身につける。
- ⑤ 社会の変化や科学技術の進展に合わせて専門性を検証し、常に自ら考え行動する能力を培う。

また、教科目については理学療法士又は作業療法士の国家資格受験資格が取得できるよう理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に沿って設定する。なお、教科目は全学教育科目（教

養教育科目、基礎科目、医療基盤科目）と専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）に分けて構成する。

2. 教育課程編成の特色

- ① リハビリテーション従事者としてふさわしい豊かな人間性の形成と専門教育の基礎となる全学教育科目を幅広く学べるよう科目を配置する。
- ② 1年次より専門教育科目を配当することで、早期から理学療法・作業療法分野に対する動機付けを図るよう配慮する。
- ③ 専門教育科目については、科学的根拠に基づいて理学療法・作業療法技術を実践できる能力を身につけさせるために、その理論的基盤となる専門基礎科目から理学療法・作業療法の治療技術に関する専門科目へと体系的に学習できるよう配置する。
- ④ 多様な障害に対して適切な理学療法・作業療法を実践できる能力を身につけるために、様々な治療技術を学べる科目を設定する。
- ⑤ 保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーションサービスに携わる様々な専門職種と連携できる協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携等の実践的な演習科目を設ける。
- ⑥ 社会の変化や科学技術の進展に合わせて常に自らの専門技術を検証し、生涯にわたり研鑽していく態度を身につけるために、3年次より研究法、セミナーの科目を配置する。
- ⑦ リハビリテーション従事者としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させた実践能力を涵養するために、早期より学外での臨床実習を配置し、各年次での学習レベルに対応させて4年間にわたり段階的に展開する。さらに、臨床実習時間数については、理学療法士作業療法士学校養成校指定規則の定める時間数を上回るよう設定し充実を図る。

3. 教育課程の枠組み

1) 全学教育科目

全学教育科目とは、北海道医療大学の教育目標を達成するために、全学共通の視点で提供される授業科目群である。いわゆる教養教育、一般教育、共通教育などに相当する。全学教育科目は、「教養教育科目」、「基礎教育科目」、「医療基盤教育科目」から編成される。必修科目 13 科目、選択科目 19 科目の合計 32 科目からなる。

(1) 教養教育科目

幅広く深い教養と豊かな人間性を支える科目からなる。いわゆる人間力、社会力を培うことをねらいとし、導入教育科目と教養科目に区分される。

① 導入教育科目

大学で学ぶ態度・習慣、技術を身につける。

必修科目：基礎ゼミナール（コミュニケーション実践論）、文章指導（日本語の表現）の 2 科目

② 教養科目

人間力の中心（教養のコア）をつくる科目として重視され、人間力の基礎を築く。生きていくための幅広い力をバランスよく身につけるために、人間と思想、人間と文化、人間と社会、自然と科学の 4 つの科目群からなる。

必修科目：自然と科学（生命科学）の 1 科目

選択科目：人間と思想（心理学）、人間と文化（文化人類学）、人間と社会（医療の経済

学)等の9科目

(2) 基礎科目

専門教育を学ぶための基礎をつくる科目からなる。外国語科目、健康・運動科学科目、情報科学科目、自然科学科目に区分される。

① 外国語科目

外国語の学習を通して、国際性と異文化理解能力を身につける。

必修科目：英語Ⅰ（オーラルイングリッシュA・B）の2科目

選択科目：英語Ⅱ（英語A・B）、韓国語、中国語、ドイツ語等の6科目

② 健康・運動科学科目

健康や運動に関する基礎的知識を習得するとともに、健康を日常的に支える能力を養う。

必修科目：健康・運動科学演習（運動科学演習）の1科目

③ 情報科学科目

現代の生活を支えるコンピュータ技能とその活用方法を実習も重視しながら学ぶ。

必修科目：情報処理演習（情報処理演習）、統計学（基礎統計学）の2科目

④ 自然科学科目

専門の土台となる物理・生物学・化学を学ぶ。また、不得意科目を克服するために、補正科目としての「基礎数理」も用意する。

必修科目：理学療法学科は自然科学入門（基礎数理）、自然科学科目入門（物理学）の2科目、作業療法学科は自然科学入門（基礎数理）、自然科学科目入門（生物学）の2科目

選択科目：理学療法学科は自然科学入門（化学）、自然科学入門（生物学）の2科目、作業療法学科は自然科学入門（化学）、自然科学科目入門（物理学）の2科目

(3) 医療基盤教育科目

医療全体に共通する基本的内容の科目である。医療の現場で求められる共通の態度・習慣や、個々人に合わせた医療の基本姿勢を身につける。また、地域とともにある医療の基礎や、チーム医療を実践するうえで必要な他の専門職との連携・統合の基礎を学ぶ。その学習過程で多職種を理解し、早期に共通言語を獲得できるように配慮する。

必修科目：個体差健康科学（個体差健康科学）、医療倫理（医療倫理）、多職種連携（多職種連携論）の3科目

選択科目：地域連携（地域包括ケア演習）、地域連携（メディカルカフェをつくるⅠ）の2科目

2) 専門教育科目

専門教育科目は「専門基礎科目」と「専門科目」からなる。

(1) 専門基礎科目

専門基礎科目は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則における専門基礎分野の区分に準拠し、「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」で構成する。理学療法、作業療法に関する専門科目を学ぶうえでの基盤となる科目である。必修科目26科目、選択科目5科目の合計31科目からなる。

① 人体の構造と機能及び心身の発達

身体の構造と機能、ならびに人間の生涯にわたる発達過程について講義や実習を通して

学ぶ。

必修科目：解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、人間発達学等の12科目

② 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

リハビリテーションの対象となる各種疾患の病態、診断、治療について学習する。

必修科目：病理学、整形外科学、神経学、精神医学等の10科目

選択科目：高次脳機能障害学、薬理学、栄養学の3科目

③ 保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念

保健・医療・福祉の制度を理解するとともに、リハビリテーションの歴史や理念、障がい者支援のあり方について学ぶ。また、リハビリテーションに関連する隣接領域についての理解を深め、多職種連携の基盤を身につける。

必修科目：リハビリテーション概論、保健医療福祉論、障がい者当事者論の3科目

選択科目：理学療法学科では作業療法概論と作業適用学の2科目、作業療法学科では理学療法概論と基礎理学療法学の2科目

(2) 専門科目

専門科目は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則における専門分野の区分に準拠し、理学療法専門科目は「基礎理学療法学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」に、作業療法専門科目は「基礎作業療法学」「作業療法評価学」「作業療法学」「地域作業療法学」「臨床実習」にそれぞれ区分し構成される。PTの必修科目は37科目、OTの必修科目は36科目で、両学科とも選択科目8科目であるので、合計はPTで45科目、OTで44科目となる。

3) 理学療法専門科目

① 基礎理学療法学

理学療法の理念、歴史、職域と社会的役割、基礎理論について学ぶ。また、理学療法学研究を遂行するための基本的知識と技能を修得する。

必修科目：理学療法概論、基礎理学療法学、理学療法研究法等の8科目

② 理学療法評価学

理学療法の治療計画を立案するうえで必要な情報収集、基本的検査・測定技術を修得する。

必修科目：医療コミュニケーション、理学療法基礎評価学Ⅰ・Ⅱ等の5科目

③ 理学療法治療学

理学療法における基本治療技術、各種障害別の理学療法、ならびに特殊治療技術の知識と技能について修得する。

必修科目：物理療法学、運動療法学Ⅰ・Ⅱ、骨関節理学療法学等の16科目

選択科目：神経筋促進治療論、徒手療法論、ハンドセラピー等の5科目

④ 地域理学療法学

理学療法を通して国内外の地域社会で生活する障がい者・高齢者を支援するための基礎的知識と技能を修得する。

必修科目：地域理学療法学、地域理学療法学演習、生活環境論等の3科目

選択科目：国際協力と理学療法、健康増進と理学療法、障がい者スポーツ指導論の3科目

⑤ 臨床実習

学外での実習を通して、理学療法士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させて理学療法の実践能力を修得する。

必修科目：臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの5科目

4) 作業療法専門科目

① 基礎作業療法学

作業療法の理念や歴史の変遷、社会的役割と職業倫理、治療の基盤となる作業療法理論等について学ぶ。また、作業療法学研究を遂行するために必要な基本的知識や手法を修得する。

必修科目：作業療法概論、作業療法技術学演習Ⅰ・Ⅱ等の8科目

② 作業療法評価学

作業療法の治療計画を立案するうえで必要な情報収集、観察・面接・検査・測定等の技術を修得し、臨床実習を実施する前段階の基盤を作る。

必修科目：評価学概論、身体機能評価学Ⅰ・Ⅱ、評価学実習等の6科目

選択科目：画像診断学の1科目

③ 作業療法治療学

作業療法における基本治療技術、各種障害別の作業療法、ならびに特殊治療技術の知識と技能を修得する。

必修科目：身体障害作業療法学、精神障害作業療法学、老年期障害作業療法学等の14科目

選択科目：音楽療法、園芸療法、ハンドセラピー等の6科目

④ 地域作業療法学

作業療法を通して地域で生活する障害者・高齢者を支援するための基礎的知識と技能を修得する。

必修科目：地域作業療法学、地域作業療法学演習、リハビリテーション工学等の4科目

選択科目：介護技術方法論の1科目

⑤ 臨床実習

学外での実習を通して、作業療法士としての態度、資質、行動を育成するとともに学内教育で修得した知識と技術を統合させて作業療法の実践能力を修得する。

必修科目：臨床見学・評価実習・総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの4科目

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 教員組織の編成の考え方

本学部の教員組織は、理学療法士及び作業療法士という専門職能人の養成を教育目的としていることから、その専門教育課程に対応できるよう理学療法士又は作業療法士の資格を取得した専任教員で主に編成する。理学療法士又は作業療法士である専任教員は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき、十分な実務実績を備えた教員とする。また、それぞれの専門領域を教授できるよう教員を適切に配置する。「全学教育科目」及び「専門基礎科目」を担当する教員については、本学が長年にわたり保健・医療・福祉分野の専門職能人を養成してきた実績を生かし、十分な教育経験を持つ既設学部的一般教育系教員ならびに基礎・臨床医学系教員を兼任教員として積極的に活用する。

2. 各学科における専任教員配置と特色

理学療学科では、完成年度までに13名の専任教員を配置する。教員整備の年次計画とし

ては、開設年度の2013年度に10名、2014年度に1名、2015年度に2名が就任予定である。配置する13名のうち12名が理学療法士資格を持ち、いずれも理学療法に関する実務経験を十分に備えている。職位の内訳は、教授8名、講師4名、助教1名である。年齢構成は、完成年度の3月末現在で30歳代4名、40歳代5名、50歳代3名、60歳代1名である。平均年齢は、45歳であり、教員の年齢構成に特に偏りはなくバランスのとれた配置となっており、教育水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がないものとする。

作業療学科では、完成年度までに12名の専任教員を配置する。教員整備の年次計画としては、開設年度の2013年度に9名、2014年度に2名、2015年度に1名が就任予定である。配置する12名のうち9名が作業療法士資格を持ち、いずれも作業療法に関する実務経験を十分に備えている。職位の内訳は、教授4名、准教授2名、講師5名、助教1名である。年齢構成は、完成年度の3月末現在で30歳代2名、40歳代6名、50歳代2名、60歳代1名、70歳代1名である。平均年齢は、49歳であり、教員の年齢構成に特に偏りはなくバランスのとれた配置となっており、教育水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がないものとする。

3. 研究体制

専任教員の主な研究領域は、解剖学、運動学、運動生理学、神経科学、精神医学等の基礎領域から、各種障害に対する治療学や地域リハビリテーション学などの臨床実践領域まで多岐にわたる。当該学部では、「生体機能・病態解析系」、「リハビリテーション治療学系」、「地域健康生活支援系」の3つの研究領域に大別し、両学科の専任教員をいずれかの研究領域に配置させ、学科を超えて研究交流を進めていく。さらに、学際的色彩の強いリハビリテーション科学という研究分野の発展を推進させるために、関連諸科学分野である医学、歯学、薬学、社会福祉学、心理学、看護学などを専門とする既設学部の教員と有機的に連携していくこととする。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

1) 配当年次

カリキュラムは全学教育科目と専門教育科目をくさび型に配当し、初年次から専門教育科目を履修させることで、早期に専門分野に対する動機付けを図るようにする。1年次には全学教育科目を多く配し、学年進行とともに専門教育科目の比重を高くする。また、専門教育科目については、1年次に基礎医学系科目、2年次に臨床医学系科目と理学療法／作業療法評価・基礎治療学系科目、3年次に各種障害に対する理学療法／作業療法治療学系科目、そして3年次後期から4年次にかけて理学療法／作業療法総合実習を配置し、体系的に学習できるように編成している。

2) 授業形態に適した学生数の設定

授業は講義、演習、学内及び学外実習によって構成される。学部共通科目として開講する全学教育科目や専門基礎科目の講義については、概ね120名規模を想定しているが、全学教育科目の一部（外国語科目や情報科学科目など）や専門教育科目の演習と学内実習においては、その授業内容に応じて教育効果を考慮し、40名程度の規模もしくはさらに小さなグループに分けて授業を実施する予定である。また、学外の医療機関等で行う臨床実習については、臨床実習施設側との事前調整のうえ、実習指導者数に適当な学生数を配置することとする。

る。

3) 状況学習を用いた実践的コミュニケーション能力の育成

医療人としてのふさわしいコミュニケーション能力を育成するために、初年次からコミュニケーションに関する科目を開講し、複数年次にわたり段階的に学習が進められるよう配置している。授業では、学生同士によるロールプレイ、模擬患者を用いた演習、客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination: OSCE) などといった手法を用いて実践的状況をつくり学習させる。なお、模擬患者については、地元住民の協力を得て既設学部ですでに養成、導入しており、そのノウハウを活用し実施する予定である。

4) 学部・学科を超えた多職種連携教育の実施

保健・医療・福祉の現場で様々な専門職種との連携・統合を図るうえで、各専門職種の果たす役割を理解し、互いに連携して職務を遂行できる能力を育成することが必要不可欠である。授業では、本学の医療系総合大学の特色を生かして、既設学部の教員の協力を得ながら他の専門職種の役割について教授するほか、「多職種連携」や「地域連携」等の学部・学科を超えた授業や地域でのフィールドワークなどを通して、他の専門職種との連携・協働の重要性について理解を深める。

5) e-ラーニングの活用

学生の自学自習支援や教員との双方向性コミュニケーションの促進を図るための教育ツールとして、e-ラーニングの導入を積極的に推進する。実施にあたっては、学内にe-ラーニングシステムを整備し、教員は担当授業に対応したe-ラーニング教材を開発、配信していく。

6) 症例 (事例) に基づく PBL 形式の演習を設定

対象者の問題を科学的根拠に基づいて解決できる能力を育成するために、専門教育科目の授業では単に知識や技術を伝授するに留まることなく、臨床や日常場面で遭遇する症例 (事例) を科学的思考に基づいて解決していく PBL (問題発見・解決型学習) 形式の演習を豊富に取り入れる。

7) ゼミと卒業論文指導

学生は3年次から各ゼミナールに配属され、2年間かけて指導教員のもと、少人数で各専門分野や研究法の学習、卒業論文の作成にあたる。これにより、理学療法学又は作業療法学の発展に寄与できる基本的能力を涵養する。

8) 学習支援室の設置とオフィスアワー制度の導入

学習支援室を教員研究室に隣接して設置し、普段から学生が授業に関することや学生生活全般に関する質問や相談を気軽に行える体制をとる。加えて、本学ですでに導入しているオフィスアワー制度を本学部においても採用し、放課後の1時間をそれにあて、学生からの相談に応じることとする。

9) 学生相談室の設置

本学では、学生が様々な問題に直面した際に適切なアドバイスをし、問題解決を図る目的で学生相談室を設置している。相談室には臨床心理士資格を有するカウンセラーが週2日体制で対応する。

2. 履修指導方法

1) 新入生オリエンテーションの実施

入学時に新入生ガイダンスを実施し、履修方法に関する事項の他、学生生活に必要な事項、総合図書館の利用方法等について説明をする。また、入学式直後に1泊2日の日程で宿泊研修を実施し、早期に学生生活に順応できるように動機付けを図る。

2) 学生担任制度の導入

学生生活全般や修学上の諸問題に対する指導助言を行うために、各学年に数名の学生担任を配置する。学生担任は、担当学生の履修科目と受講状況、成績等を常に把握し、個別にきめ細かい指導助言を行う。

3) カリキュラムガイダンスの実施

各学年で各学期初めに、教務スタッフや学生担任を中心に授業日程、履修方法、進級条件等についての指導を行う。

3. 卒業要件

1) 理学療法学科

卒業要件は、本学に4年以上在学し、所定の授業科目について総計128単位以上を修得することとする。履修方法として、全学教育科目は、必修科目19単位（導入科目2単位、教養科目2単位、健康・運動科学科目2単位、外国語科目2単位、情報科学科目3単位、自然科学科目3単位、医療基盤科目5単位）、選択科目30単位（教養科目18単位、外国語科目6単位、自然科学科目4単位、医療基盤科目2単位）のうち8単位以上（教養科目4単位以上、外国語科目2単位以上、自然科学科目2単位以上）の合計27単位以上とする。専門教育科目は、必修科目101単位（専門基礎科目31単位、専門科目70単位）とする。

2) 作業療法学科

卒業要件は、本学に4年以上在学し、所定の授業科目について総計128単位以上を修得することとする。履修方法として、全学教育科目は、必修科目19単位（導入科目2単位、教養科目2単位、健康・運動科学科目2単位、外国語科目2単位、情報科学科目3単位、自然科学科目3単位、医療基盤科目5単位）、選択科目30単位（教養科目18単位、外国語科目6単位、自然科学科目4単位、医療基盤科目2単位）のうち8単位以上（教養科目4単位以上、外国語科目2単位以上、自然科学科目2単位以上）の合計27単位以上とする。専門教育科目は、必修科目101単位（専門基礎科目34単位、専門科目67単位）とする。

4. 履修モデル

理学療法学科、作業療法学科の履修モデルは資料に示すとおりである。理学療法学科については、一般病院の理学療法士を希望する場合と老人保健施設の理学療法士を希望する場合の履修モデルをそれぞれ示す。作業療法については、精神病院を希望する場合、身体障害系の病院を希望する場合、および老人保健施設を希望する場合の履修モデルをそれぞれ示す。

(資料6-1) 理学療法学科 個別履修モデル

(資料6-2) 作業療法学科 個別履修モデル

キ 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

リハビリテーション科学部を設置する当別キャンパスは、札幌市に隣接する当別町の田園地帯に位置し、緑豊かな丘陵を背負い、前方には石狩平野が広がる、自然豊かな教育環境である。

J R 学園都市線の「北海道医療大学駅」は当別キャンパスと直結されており、2012 年 6 月に J R 札幌駅間の電化も行われたことから、札幌駅～北海道医療大駅間が 38 分のアクセスとなっている。

当別キャンパスの校地総面積は、290,863.28 m²（内大学設置基準上の面積 150,988.27 m²）で、その内、校舎・研究施設・福利厚生等の敷地面積が 261,312.28 m²（内大学設置基準上の面積 64,222.53 m²）、体育館、サッカー・ラグビー場、野球場、テニスコート等の運動場用地が 29,551 m²（内大学設置基準上の面積 27,800 m²）であり、大学設置基準を大きく上回っている。

学生の休息その他の利用のための適当な空地については、学生が休憩できるようベンチ等を設置したユニパーク（2,426m²）を整備している他、薬用植物園に隣接した保安林内は40種類以上の北方系生態植物群が自生していることから、ここに全長 2km にわたる散策路を整備し、北方系生態観察園として、植物だけではなく、野鳥や昆虫、小動物の観察園として学生に活用されている。

2. 校舎等施設の整備計画

リハビリテーション科学部を設置する当別キャンパスの現時点での総校舎面積は 68,580.04 m² である。リハビリテーション科学部が使用する校舎については、既設の中央講義棟（3 階建：4,755.92 m²）を 10 階建て（15,929.17 m²）に増築し、講義室・実習室を整備する。増築棟の 4 階は、234 名が収容できる大講義室を 2 室、L L 教室を 2 室整備する。同 5 階は 100 名収容可能な講義室を 2 室、70 名収容可能な講義室を 1 室、50 名収容可能な講義室 2 室を整備する。各講義室にマルチメディアシステムを整備し、大講義室の机の上に LAN 配線・個別電源を整備する。

また、同 6 階は主に理学療法学科で使用する運動学実習室、物理療法実習室、評価治療室、運動療法実習室を整備する。運動学実習室には、運動解析装置として三次元動作解析システムを配備する他、バイオフィードバック機器、体脂肪測定器具等学生数に対応した機器・備品を配備する。物理療法実習室には、検査測定治療台、電気刺激治療器、超音波治療器、腰椎けん引装置、頸椎けん引装置等を配備する。評価治療室にはマルチン式人体測定器、知覚・認知検査器具等を配備する。運動療法実習室には、起立訓練ベッド、オーバーヘッドフレーム等を配備する。

同 7 階は主に作業療法学科で使用する作業療法実習室（金工・木工・絵画・陶芸）、日常生活活動学実習室（バリアフリーラボ室・ADL 室）、義肢装具実習室、基礎医学実習室（人体解剖模型、上肢機能検査器具、心理検査器具等）、発達評価治療室（発達検査器具）等を整備し、学生数に対応した機器・備品を配備する。

中央講義棟の増築工事は 2012 年 7 月に着工し、2013 年 3 月に竣工する予定である。

また、専任教員の研究室については、教授及び准教授は個室、講師及び助教は共同研究室を基本とし、既設の歯学部棟 6 階の改修工事により整備する予定である。なお改修工事は 2013 年 3 月に竣工する予定である。

（資料 7）リハビリテーション科学部時間割 前期 後期

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書館の設置状況

本学は、当別キャンパスに総合図書館を、また、札幌あいの里キャンパスに分館を、それぞれ設置している。

2) リハビリテーション科学部新設に伴う図書資料の整備計画

本学の蔵書(2012年3月末集計)は、図書が237,932冊(総合図書館188,652冊、分館24,226冊、研究室・附属施設25,054冊)、視聴覚資料が5,906点(総合図書館3,666点、分館673点、研究室・附属施設1,567点)、学術雑誌(電子ジャーナル含む)が7,028種である。学術雑誌の内訳は、雑誌本体(電子ジャーナル含まず)が2,993種(総合図書館2,445種、分館119種、研究室・附属施設429種)である。電子ジャーナルは、4,035種が当別キャンパスと札幌あいの里キャンパスで区別無く利用できる。

リハビリテーション科学部(理学療法/作業療法)の設置に伴って必要となる図書資料(図書・視聴覚資料・学術雑誌(電子ジャーナル含む))は、米国国立医学図書館分類法(NLMC)のWB(臨床医学)、WE(筋/骨格系)に該当する分野を中心に、関連分野も含めて整備する。

なお、本学には、既に、WB(臨床医学)、WE(筋/骨格系)に該当する分野の図書が4,692冊、視聴覚資料が176点、学術雑誌が206種、電子ジャーナルが118種整備されている。

既存学部の図書および視聴覚資料は、例年、収容定員×3,000円を目安に予算計上しているが、2012年度は15,000,000円(薬学部2,820,000円、歯学部1,800,000円、看護福祉学部2,280,000円、心理科学部1,500,000円、その他共用6,600,000円)となっている。その他雑誌の整備予算として毎年44,000,000円を計上している。

リハビリテーション科学部の図書および視聴覚資料等の整備予算は、2012年度に4,200,000円(図書3,400,000円、視聴覚資料200,000円、雑誌600,000円)を計上する。2013年度から2015年度までは、毎年2,600,000円(図書1,800,000円、視聴覚資料200,000円、雑誌600,000円)を計上し、完成年度の2016年は、2,040,000円(図書1,300,000円、視聴覚資料140,000円、雑誌600,000円)を計上する計画である。2016年の完成年度の翌年以降は、他学部と同様収容定員に応じ、年次計画に基づいた整備を行う。

また、2012年度に新規購入する図書のうち、専門科目図書を理学療法/作業療法のそれぞれで100冊程度リストアップした詳細は資料に示す。

(資料8-1)学術雑誌リスト

(資料8-2)専門科目図書100冊リストアップ

3) 図書の冊数

蔵書構成は、別添資料に示すとおり基礎医学系図書が19,602冊(8.2%)、臨床医学系図書が67,822冊(28.5%)、学術雑誌製本図書が65,152冊(27.4%)で、医学系の図書が全体の64.1%(152,576冊)を占めている。

(資料8-3)蔵書構成

4) デジタルデータベース・電子ジャーナルなどの整備

デジタルデータベースは、現在19種を利用しているが、これらは理学療法学や作業療法学の関連医学系データベース(MEDLINE、JDreamII、医中誌Webなど)を含んでいるので、教育研究に支障はない。

電子ジャーナルは、現在、4,163タイトル(内国誌:915タイトル、外国誌:3,248タイトル)を購読しているが、その多くが、医学系コンソーシアムや医学系パッケージによる契約である

ことから、リハビリテーション科学部（理学療法/作業療法）の教育研究に十分寄与する。
 (資料8-4) デジタルデータベース
 (資料8-5) 電子ジャーナル

5) 図書館設備

図書館設備は以下のとおりである。

<p>閲覧室</p>	<p>総合図書館は、総面積 4,574 m²の 5 階建独立棟で、書架・閲覧席とも余裕のある配置をしている。</p> <p>分館は、心理科学部校舎内の 2 階部分に位置し、面積は 293 m²である。</p> <p>総合図書館・分館共に、床面はカーペット張を施し、防音対策をしている。また、冷暖房を完備し、四季を通して快適な学習環境を提供している。</p>
<p>閲覧席</p>	<p>総合図書館は 375 席。当別キャンパス学生収容定員 2,858 名の 13.1%分が確保されている。</p> <p>分館は 62 席。札幌あいの里キャンパス学生収容定員 606 名の 10.2%が確保されている。</p> <p>総合図書館には集団学習が可能なようにグループ閲覧室（1 室）を配置している。同室には大型テレビ、ビデオデッキなどの視聴覚機器や学内 LAN に対応した情報コンセントを設置している。</p>
<p>レファレンスルーム</p>	<p>総合図書館、分館それぞれに職員 2 名（司書有資格者）を常勤させ、平日は 9:00～17:00 の間、以下のレファレンスサービスを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学に所蔵していない資料の所蔵調査 ・ 文献の書誌事項の調査 ・ 図書の出版の有無 ・ OPAC/文献情報検索等のパソコン機器の操作方法 <p>また、総合図書館では文献情報検索用パソコンを 25 台、レーザープリンタを 2 台設置し、自主的な学習環境も整備している。</p>
<p>検索手法</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① オンライン蔵書目録 (OPAC) を整備し、書名、著者名、主題などをキーワードとして入力することで、希望資料の検索や、所蔵の有無、貸出状況の確認ができる。OPAC 検索用端末は、5 台設置している。本システムは、図書館のホームページから 24 時間、365 日利用可能である。また、学外からのアクセスも可能である。 ② 文献横断検索・文献収集システム「Metalib/SFX」により、複数の文献データベースを横断して検索し、検索結果から文献収集がナビゲートされ、一連の流れを合理的・統合的に検索可能である。 ③ 図書館の利用方法や資料/情報の探し方、データベースの使い方等の情報リテラシー講習会を開催している。

延長開館・休日開館	平日は、16:50～21:00 まで延長開館を実施している。 土曜日と試験期間の日曜日に休日開館を実施している。(2012 年度は、開館日数 312 日のうち休日開館日数は 75 日である。)
学習支援	総合図書館 <ul style="list-style-type: none"> ・ 貸出用ノートパソコンを 25 台設置 ・ VIDEO・DVD・CD ブースに各種メディアに対応した 7 台の視聴覚機器設置 ・ 無線 LAN に対応したインターネットコンセントを整備 分館 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 台の視聴覚機器設置 ・ 学内 LAN に対応した情報コンセント設置

6) 他大学図書館等との協力

北海道内 31 大学が、1999 年に「北海道地区大学図書館相互利用に関する申し合わせ」を締結している。締結校の教職員・学生は、身分証・学生証を提示すると、締結大学の図書の閲覧や資料の貸出などのサービスを受けることができる。

なお、地域貢献の一環として、2006 年には地元当別町教育委員会と、また、2007 年には北海道立図書館と相互協力に関する締結を結び、相互に図書の貸借やレファレンスサービスを行っている。

(資料 8-6) 北海道地区大学図書館相互利用サービス加盟一覧

ク 入学者選抜の概要

1. 入学者受入についての基本方針

北海道医療大学は「保健・医療・福祉の連携・統合を目指す創造的教育の推進」を教育理念とし、「新医療人育成の北の拠点を目指す」を行動目標として、チーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した専門職能人の育成を目指している。

そのため、北海道医療大学では、入学後の修学に必要な基礎的学力及び協調性や基礎的コミュニケーション能力を有し、生命を尊重し他者を大切に思う心、保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持った、生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持った人材を広く求めている。

以上を踏まえ、入学者選抜に当たっては、学力検査を主とした一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験の実施に加え、AO 方式入学試験、推薦入学試験（指定校特別推薦入学試験及び一般推薦入学試験）といった特別選抜において、学力検査に偏重しない選抜方法を実施し、多様な学生を受け入れることとする。また、大学・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）卒業生等を対象とした、2 年次への編入学試験も実施する。

なお、大学に入学することができる者は、学校教育法第 90 条の規定に基づき、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）、または文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた学校教育法施行規則第 150 条に定められている者とする。

2. 入学者選抜の方法・体制

学生の募集は学科単位で行い、初年度は大学入試センター試験利用入学試験指定校特別推薦入学試験及び編入学試験は行わず、一般入学試験、AO方式入学試験、一般推薦入学試験のみを行う。

募集定員は、一般選抜（一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験）で入学定員の約60%、特別選抜（AO方式入学試験、指定校特別推薦入学試験、一般推薦入学試験）で約40%とする。

なお、入学選抜の実施に当たっては、教員候補者からなる入学試験委員会を設置し、大学設置基準第2条の2及び大学入学者選抜実施要領の規定に従い、公正かつ妥当な方法により厳正な入学選抜を実施する。

各選抜試験は以下のとおりである。

1) 一般入学試験

前期と後期の2回実施し、試験科目は①「英語Ⅰ・Ⅱ」、②「数学Ⅰ・A」または「国語総合（古文・漢文を除く）」から1科目選択、③「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」「世界史B」「日本史B」「地理B」「現代社会」「政治・経済」から1科目選択の3科目とする。

また、前期入試では試験日自由選択制を導入し、2日間設定されている試験日を自由に選択でき、さらに2日間とも受験することも可能とする。

2) 大学入試センター試験利用入学試験

前期A、前期B、後期と3回実施する。試験科目は前期Aが①「英語」必修、②「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・B」「国語（近代以降の文章）」から1科目選択、③「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」から1科目選択の3教科、前期B後期が①「英語」「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・B」「国語（近代以降の文章）」から1科目選択、②「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」から1科目選択の2教科とする。

大学入試センター試験を利用した入学試験であることから、本学独自の試験は課さないこととする。

3) AO方式入学試験

AO方式入学試験は、第一志望として本学への入学を志す者で、本学の教育理念に共感し、本学に入学後の学習目標が明確であり、それを実現するに十分な意欲、適性及び能力を有し、かつ、本学を卒業後、地域社会ならびに国際社会に貢献することを希望する者を対象として行う。選抜は2段階で行い、1次選抜では、志願者調査書、志望理由書、志願者評価書、調査書による書類審査、2次選抜では面接と課題レポートを実施し、1次と2次の合計で合格者を決定する。

4) 推薦入学試験

推薦入学試験は、第一志望として本学への入学を志す者で出身学校長が推薦した者を対象とし、一般推薦、指定校特別推薦の2つの推薦入学試験制度を実施する。

- ・ 一般推薦入学試験
小論文・調査書・面接の結果を総合して合格者を決定する。
- ・ 指定校特別推薦入学試験

本学が予め指定した高校から推薦があった者に対し、出願書類及び面接結果を総合して合格者を決定する。

3. 2年次編入学試験

保健・医療・福祉の領域に深い関心を持ち、強い目的意識や高い学習意欲を有する者を対象にした2年次編入学試験を行う。制度の詳細については「ス 編入学制度」を参照願いたい。

編入学試験の概要（理学療法学科、作業療法学科）

区 分	一般選抜	社会人特別選抜
出願資格	下記のいずれかに該当する者 ① 大学、短期大学、高等専門学校または専修学校（修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時間数1,700時間以上）を卒業（修了）もしくは卒業（修了）見込みの者 ② 大学に2年以上在学し62単位以上を修得した者もしくは入学する前年度の3月31日までにこれらの条件を満たす見込みの者	下記のいずれかに該当する者で、卒業等の後、概ね3年の社会人経験もしくは同等以上の経験がある者 ① 大学、短期大学、高等専門学校または専修学校（修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時間数1,700時間以上）を卒業（修了）した者 ② 大学に2年以上在学し62単位以上を修得した者
試験科目	英語、小論文、面接	小論文、面接
編入学する学年	第2学年	
募集人員	理学療法学科5名、作業療法学科5名	
	1期	各学科 定員の60%
	2期	各学科 定員の40%
合格者の決定	出願書類、試験成績、面接結果を総合して判定	

ケ 取得できる資格

卒業生が取得可能な資格は次のとおりである。

学科名	取得可能な資格	備考
理学療法学科	理学療法士 国家資格（受験資格）	
作業療法学科	作業療法士 国家資格（受験資格）	

コ 実習の具体的計画

1. 理学療法学科

1) 臨床実習の概要

理学療法学科の臨床実習は、理学療法士を志す学生としてのモラルと責任感を身につけ、「基礎的な理学療法が実施できるレベル」を目指し、「自ら考える力」を身につけることを到達目標とし、1年次前期及び後期に各3日間の臨床実習Ⅰ（見学実習）、2年次後期に2週間1期（評価実習）の臨床実習Ⅱ、3年次後期に6週間1期の臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）、4年次前期に8週間1期の臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）を開講する。さらに、臨床実習Ⅳ終了後に、3週間1期の臨床実習Ⅴ（地域ケア実習）を開講する。

また、臨床実習Ⅴ（地域ケア実習）の開講形態は、A期3週間、B期3週間の計6週間を設定し、学生はA期もしくはB期のどちらか1期間（3週間）の実習を行うこととする。なお、実習を行っていない期間の学生対応としては、4年次開講科目である理学療法研究セミナーⅡの指導にあてる。

2) 臨床実習の実施について

(1) 臨床実習Ⅰ：見学実習

理学療法の実務的視点で初めて病院や施設、或いは対象者に接する機会となる。

臨床実習指導者はじめ関係スタッフとの関わりの中で、理学療法士の業務や活動分野についての基本的理解を得ることを目的とする。

目標および実習内容は以下のとおり。

- ① リハビリテーション関連分野の全体像の把握
- ② 理学療法士の役割とチームワークの重要性の理解
- ③ 患者（施設利用者）及び障害の実像の理解
- ④ 理学療法士としての基本的心構えの理解

(2) 臨床実習Ⅱ：検査測定実習

医療機関や施設において、情報収集、検査・測定、検査測定結果の解釈までの理学療法評価過程を、担当患者（施設利用者）を通して経験・学習することを目的とする。

目標および実習内容は以下のとおり。

- ① 情報収集および検査・測定技術の習得
- ② リスク管理
- ③ 検査・測定結果の解釈
- ④ 担当症例レジュメの作成

(3) 臨床実習Ⅲ・Ⅳ：総合臨床実習

理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した知識とこれまでの臨床実習における体験を踏まえ、担当患者（施設利用者）を通して経験・学習することを目的とする。

目標および実習内容は以下のとおり。

- ① 理学療法評価の実施
- ② リスク管理
- ③ 理学療法プログラムの立案と実施
- ④ 理学療法実施後の報告

- ⑤ 理学療法プログラムの変更（主に臨床実習Ⅳ）
- ⑥ 担当症例レジュメの作成
- ⑦ チーム体制の経験・情報交換

（４）臨床実習Ⅴ：地域ケア実習

理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した知識とこれまでの臨床実習における体験を踏まえ、施設ケアにおける理学療法士の役割や他職種との連携等について経験・学習することを目的とする。

目標および実習内容は以下のとおり。

- ① 理学療法評価の実施
- ② リスク管理
- ③ 理学療法プログラムの立案と実施
- ④ 理学療法実施後の報告
- ⑤ チーム体制の経験・情報交換
- ⑥ 介護職など他職種の業務理解並びに体験
- ⑦ 実習報告書の作成

実習施設に関しては、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳについて北海道内の医療機関の承諾を得ている。また、臨床実習Ⅴについては北海道内の高齢者及び障がい者関連施設の承諾を得ている。各実習施設には、必要な経験年数を有する理学療法士が配置され、本学科の教員（教授、准教授、講師、助教）は各実習期間中に必要に応じて実習先を訪問し、巡回指導を行う。

実習開始にあたっては、本学と病院・施設との間で実習計画、実習期間、実習費、個人情報の保護、機密情報の保護、実習中の事故及びその損害賠償、予防接種等を盛り込んだ協定書、覚書等を取り交わす。

特に危機管理に関しては、実習中の交通事故、医療事故感染症罹患、個人情報の漏えい、ハラスメント等について、その防止及び発生時の連絡経路、対策本部の設置等を記した「臨床実習危機管理マニュアル（仮）」を作成して実習施設と指導教員、学生に配布し、管理体制を整える。

加えて、実習中における各種傷害（感染事故含む）や各種賠償（個人情報漏えい、人格権侵害等含む）については、全学生が適用対象となる複数の保険契約を、複数（４社以上）の保険会社と締結し、想定されるあらゆる事故等へ可能な限り対応する。

また、全学生に入学時及び実習開始学年前にワクチン接種、各種抗体価検査を実施する。各学生のそれら抗体価等データについては、保健管理センターにて学生毎に記録し、抗体価数値の推移等についての管理を行い、学部と連携の上、実習前の感染症予防指導及び実習先での感染事故防止に努める。

３）事前・事後における指導計画

実習は、実習施設での実習と実習に伴う事前・事後学習の総体をあらわすものである。事前学習においてはオリエンテーションを実施し、実習における学習の意義と方向性を学生が認識するように指導する。実習後は報告会を開催し、症例・問題点等をまとめ報告することにより、情報の共有と学んだことを次の実習に生かす方途とする。また、実習Ⅱ及びⅢ開始前には、学内で総合演習を行い、円滑に実習開始が行えるよう指導する。

事前学習を兼ねた実習指導は、本学担当教員が臨床実習毎に実施し、それぞれの臨床実習に含まれるものとする。また、これらの臨床実習に関連する一連の実習指導プログラムの実施を円滑に進めてゆくために、教員は実習先との連絡調整、実習に関する情報管理、実習関

連のデータ処理、学生の利用に供する実習先情報の管理等を行う。

実習指導プログラムは以下のとおり。

(1) 事前学習（実習前の指導）

担当教員によるオリエンテーションを以下の内容で行う。

- ① 実習の目的と意義
- ② 実習プログラムのしくみとスケジュール
- ③ 実習先決定の手続きと説明
- ④ 実習指導者と担当教員の役割
- ⑤ 各実習内容の概要
- ⑥ 実習先で必要とされる知識の確認
- ⑦ 実習先の概要、専門部門（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）と関連部門の組織・業務連携の理解
- ⑧ 実習内容の確認
- ⑨ 実習計画及び実習課題の作成と検討
- ⑩ 記録・実習日誌等の書き方
- ⑪ 実習上の留意事項（守秘義務・実習態度等）

(2) 総合演習

総合実習Ⅱ及びⅢ開始前に、学内教員による総合演習を以下の内容で行う。

- ① 理学療法評価手法に関する実習
- ② 理学療法治療プログラムの立案演習
- ③ 客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination: OSCE）
- ④ その他

(3) 実習中の指導

実習中は、実習先の実習指導者の指導を受ける。また、担当教員が実習期間中少なくとも1回、実習先を巡回して以下の点について指導にあたる。

- ① 実習中の健康状態
- ② 実習計画・実習課題への取り組みに関する状況の確認
- ③ 記録・実習日誌等の点検
- ④ その他

(4) 事後学習（事後指導）

- ① 担当した対象者の症例（病態、生活障害の様子）を報告会で報告し合い、意見交換を行う。
- ② 担当教員や他の学生との集団討議を通して、次の実習に向けての課題を見出す。
- ③ 担当症例のレジюмеを作成する。（臨床実習Ⅴの場合は実習レポートを作成）

(5) 記録・日誌について

- ① 記録・日誌に、その日学んだことや感じた疑問点、実習の進め方を書くことにより、個々の学習状況を自分で把握する。また、担当する対象者の状況、症状、問題点など観察結果を記録した後、評価に基づいて今後の治療目標を設定し、具体的な治療計画を作成する資料とする。
- ② 担当教員及び実習指導者の点検指導を随時受けることにより、自分の改善点を考え

日々の実習に臨む。

4) 実習施設との連携体制について

実習先との連携体制を維持するため、本学担当教員と実習先とで綿密な連絡を取り合う。また、本学における研究成果を現場に導入し、本学と現場との相互協力の基盤づくりにも努める。そのためにリハビリテーション現場の実習指導者と本学担当教員とが実習のあり方について協議する場として、理学療法学科臨床実習指導者会議を年1回以上開催する。

内容は、当該年度の実習を振り返り、実習先からの意見や要望等を聴取し、次年度の実習の目的・目標・実習方法等について意見交換を行う。

5) 成績評価及び単位認定方法

実習成績の評価および単位認定は以下の通り行う。

(1) 臨床実習Ⅰ（見学実習）では、実習終了時期に臨床実習指導者が評価項目ごとに5段階評定による評価を行う。臨床見学全体に関する最終的な成績評価の判定（単位認定）は、学科内の成績判定会議において行うこととする。成績評価は、優、良、可、不可の4段階で行い、評価基準は、100点満点の場合、優：80点以上、良：70～79点、可：60～69点、不可：60点未満とし、60点以上を合格とする。

判定の基準は、以下の3項目とする。

- ① 臨床実習指導者による最終評価
- ② 実習終了後の学内セミナーでの報告内容
- ③ 実習レポート及び記録・提出物

(2) 臨床実習Ⅱ（評価測定実習）では、実習終了時期に臨床実習指導者が評価項目ごとに5段階評定による評価を行う。評価実習全体に関する最終的な成績評価の判定（単位認定）は、学科内の成績判定会議において行うこととする。成績評価は、優、良、可、不可の4段階で行い、評価基準は、100点満点の場合、優：80点以上、良：70～79点、可：60～69点、不可：60点未満とし、60点以上を合格とする。

判定の基準は、以下の3項目とする。

- ① 臨床実習指導者による最終評価
- ② 実習終了後の学内セミナーでの報告内容
- ③ 事例報告書及び記録・提出物

(3) 臨床実習Ⅲおよび臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）では、実習開始後3～4週目の中間時点で実習生が行う自己評価と臨床実習指導者が行う指導者評価により実施される中間評価を経て、実習終了時期に臨床実習指導者が評価項目ごとに5段階評定による評価を行う。総合臨床実習全体に関する最終的な成績評価の判定（単位認定）は、学科内の成績判定会議において行うこととする。成績評価は、優、良、可、不可の4段階で行い、評価基準は、100点満点の場合、優：80点以上、良：70～79点、可：60～69点、不可：60点未満とし、60点以上を合格とする。

判定の基準は、以下の3項目とする。

- ① 臨床実習指導者による最終評価
- ② 実習終了後の学内セミナーでの報告内容
- ③ 症例報告書及び記録・提出物

(4) 臨床実習Ⅴ（地域ケア実習）では、実習終了時期に臨床実習指導者が評価項目ごとに 5 段階評定による評価を行う。評価実習全体に関する最終的な成績評価の判定（単位認定）は、学科内の成績判定会議において行うこととする。成績評価は、優、良、可、不可の 4 段階で行い、評価基準は、100 点満点の場合、優：80 点以上、良：70～79 点、可：60～69 点、不可：60 点未満とし、60 点以上を合格とする。

判定の基準は、以下の 3 項目とする。

- ① 臨床実習指導者による最終評価
- ② 実習終了後の学内セミナーでの報告内容
- ③ 症例報告書及び記録・提出物

(資料 9-1) 理学療法学科 臨床実習受入施設一覧

臨床実習Ⅰ	(医療機関、老健・福祉施設)
臨床実習Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ	(医療機関)
臨床実習Ⅳ	(老健・福祉施設)

2. 作業療法学科

1) 臨床実習の概要

作業療法士の養成課程のカリキュラムは、学内授業（演習を含む）と実践教育としての臨床実習より構成される。臨床実習は、学内教育で学んだ知識や技術を実践の場での経験を通して統合する重要な機会であり、リハビリテーションの専門職として有能な実践者になるための必須過程である。作業療法学科の臨床実習は、作業療法士を志す学生としての「職業倫理や責任感」、および自ら考え行動する力である「主体性」といった基本的態度や姿勢について体験を通して学び、作業療法士として求められる認知領域（知識）、精神運動領域（技術）、情意領域（態度・習慣）の基礎的能力と資質を培い、これら 3 つの要素を統合することを到達目標とし、学生が将来一人の作業療法士として活躍できる能力を養うことを目的とする。

臨床実習の期間は、1 年次前期に臨床見学（1 週間）、2 年次後期に評価実習（4 週間）、3 年次後期に総合臨床実習Ⅰ（9 週間）、4 年次前期に総合臨床実習Ⅱ（9 週間）を開講する。見学実習では、領域は問わないが、作業療法士のもとでの実習とする。評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱでは、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害領域の 4 領域のうち、2 領域以上の実習を行うこととする。各臨床実習の実施においては、事前学習および事後学習の機会を設定し、一連の過程を通して、専門職としての資質を高めていくこととする。

2) 臨床実習の実施について

臨床実習の履修要件では、評価実習は、原則として、当該臨床実習までに開講されている全てのリハビリテーション基盤科目（必修科目）と作業療法専門科目（必修科目）を履修していること、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱに関しては、当該臨床実習までに開講されている全ての専門基礎科目（必修科目）と専門基幹科目（必修科目）を修得していなければならない。

(1) 臨床見学（1 年次前期：1 週間）

臨床の見学と体験を通して、当該施設におけるリハビリテーションとその中に位置づけられる作業療法の概要と役割を具体的に学ぶ機会とし、作業療法のイメージを具体化する。さらに、対象者、多職種との関わりについての理解を深めること、および専門職者としての基本的態度や姿勢を学ぶ機会とする。また、人との交流を通して、相手の立場に立って考えることを学び、コミュニケーション能力を培う機会とする。

実習前（事前学習）には、職種の専門性、専門領域、基本的なコミュニケーション技術、心構えについて学習する。

実習終了後には、レポートの提出およびそれぞれの経験を学生間で共有するために報告会を実施し、2年次の評価実習に積み上げられるように結びつける。

(2) 評価実習 (2年次後期：4週間)

臨床実習指導者のもとで、評価計画の立案から実践的な情報収集活動、面接や行動観察、検査・測定などの方法を用いて基本的な作業療法の評価を実際に体験する。さらに、評価結果をもとに、対象者の全体像のまとめ、課題(利点と問題点)の抽出、目標設定、までの一連の作業療法過程を経験・学習すること、また、実習生としての態度や姿勢を身につけることを目的とする。

目標および学習内容は、以下のとおりである。

○認知領域(知識)

- ① 当該施設の作業療法の概要と役割を学び理解する。
- ② 作業療法学生として必要な知識を学び理解する。

○精神運動領域(技術)

- ① 作業療法評価を経験し、作業療法学生として必要な技術を学び実施することができる。
- ② 実施したことを整理し記録することができる。
- ③ 必要なことを適切に報告・連絡・説明することができる。

○情意領域(態度・習慣)

- ① 対象者の状況を理解し、誠実に対応することができる。
- ② 実習指導者の指導を素直に受け入れ、前向きに取り組むことができる。
- ③ 作業療法学生として、倫理観に基づいた行動をとることができる(向上心、守秘義務、ルールの遵守等)。

(3) 総合臨床実習Ⅰ (3年次後期：9週間)

実習指導者のもとで、評価実習の経験をふまえ、対象者の生活支援・介入に必要な情報を収集すること、情報の整理・統合・解釈および対象者に有効な作業療法計画を立案する。さらに、実習生が実施可能な作業療法の介入経験を通じ、作業療法士としての資質を高めることを目的とする。

(4) 総合臨床実習Ⅱ (4年次前期：9週間)

総合臨床実習Ⅰの経験を踏まえ、さらに成長できるよう、自らが実施した作業療法評価に基づいた作業療法計画を立て、実習指導者の助言・指導を受けながら実際に実施する経験を持ち、作業療法士としての資質を高めるとともに、専門職としての知識・技術・態度を深化し、統合する機会とする。さらに、対象者が暮らす地域特性や資源を考慮し、単に機能回復を目的とした介入を行うのではなく、対象者の生活において重要な作業の意味を考慮し、健康や幸福を考える視点を培うことを目的とする。

総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの目標および学習内容は以下のとおりである。

○認知領域(知識)

- ① 地域特性を考慮しながら当該施設の特性と概要を理解するとともに、作業療法の役割を理解する。
- ② 対象者の支援のために必要とされる作業療法の基本的な知識について復習・補完しながら習得する。
- ③ 対象者の支援の中でその地域に暮らすために活用される社会資源やサービス、制度などについて理解する。

- ④ 作業療法の業務遂行に関連する診療報酬制度や機器・備品について理解する。
- 精神運動領域（技術）
 - ① 対象者の状況や背景を考慮した作業療法評価（法）を選択・計画し、必要な評価法を実施することができる。
 - ② 作業療法計画に基づいてプログラムを実施し、対象者の状況に合わせて対応することができる。
 - ③ 実施したこと・経験したことを適切かつ簡潔に整理し記録することができる。
 - ④ 作業療法実施上、必要とされる事項について適切に報告・連絡・説明することができる。
- 情意領域（態度・習慣）
 - ① 実習の中で必要とされる良好な人間関係を形成することができる（対象者、実習指導者、施設内スタッフ等）。
 - ② 対象者の状況を理解し、誠実に対応することができる。
 - ③ 実習指導者の指導を素直に受け入れ、前向きに取り組み、専門職としての資質を高めるための努力ができる。
 - ④ 作業療法学生として学ぶ姿勢を常に持ちながら、倫理観に基づいた行動をとることができる（向上心、守秘義務、ルールの遵守等）。

3) 臨床実習施設について

臨床見学、評価実習および総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの実習施設に関しては、道内の医療機関の承諾を得ている。各実習施設には、必要な経験年数を有する作業療法士が1ないし2名以上配置され、本学科の教員（教授、准教授、講師、助教）は各実習期間中に必要に応じて実習先を訪問し、巡回指導を行う。

実習開始にあたっては、本学と病院・施設との間で実習計画、実習期間、実習費、個人情報保護、機密情報の保護、実習中の事故及びその損害賠償、予防接種等を盛り込んだ協定書、覚書等を取り交わす。

特に危機管理に関しては、実習中の交通事故、医療事故、感染症罹患、個人情報の漏洩、ハラスメント等について、その防止及び発生時の連絡経路、対策本部の設置等を記した「臨床実習危機管理マニュアル」を作成して実習指導者と指導教員、学生に配布し、管理体制を整える。

加えて、実習中における各種傷害（感染事故含む）や各種賠償（個人情報漏えい、人格権侵害等含む）については、全学生が適用対象となる複数の保険契約を、複数（4社以上）の保険会社と締結し、想定されるあらゆる事故等へ可能な限り対応する。

また、全学生に入学時及び実習開始学年前にワクチン接種、各種抗体価検査を実施する。各学生のそれら抗体価等データについては、保健管理センターにて学生毎に記録し、抗体価数値の推移等についての管理を行い、学部と連携の上、実習前の感染症予防指導及び実習先での感染事故防止に努める。

4) 事前・事後における指導計画

実習は、実習施設での実習と実習に伴う事前・事後学習の総体を持って成立する。事前学習においては、①実習計画立案と実習教育環境整備、②学生の事前準備への指導を実施し、実習における学習の意義と方向性を学生が認識できるよう指導する。実習中の指導においては、指導者との連携を図るため、指導者と連絡・相談する機会を設け、必要に応じて訪問指導を行う。実習後は、学生が実習施設で経験したことを基に、さらに理解が深められるよう学内セミナー報告やグループディスカッションを行い、臨床実習の評定を行う。具体的には以下のとおりとする。

(1) 事前学習（実習前の指導）

施設での臨床実習が円滑に実施されるよう施設との連携を図り、学生にとって充実した経験になるよう学生の事前準備の指導を行う。

① 実習計画立案と実習教育環境整備を行う。

- a) 実施要綱を作成する。
- b) 実習施設の依頼・調整を行う。
- c) 指導者会議を開催する。

② 学生の事前準備への指導を行う。

a) 実習オリエンテーションを実施する

オリエンテーションのプログラムは、具体的には以下のとおりとする。

- ・実習の目的と意義について
- ・実習プログラムのしくみとスケジュール
- ・実習先決定の手続きと説明
- ・実習指導者と担当教員の役割
- ・各実習の内容と概要
- ・実習先で必要とされる知識の確認
- ・実習先の概要、専門部門（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）と関連部門の組織や業務連携の理解
- ・実習内容の確認
- ・実習計画及び実習課題の作成と検討
- ・記録や日誌の書き方
- ・実習上の留意事項（守秘義務、実習態度）

b) 実践的コミュニケーション能力の事前学習を実施する

- ・状況学習を用いた実践的コミュニケーション能力の育成として、学生同士によるロールプレイ、模擬患者を用いた演習や客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination: OSCE）を用いる。

(2) 実習中の指導

実習中は指導者との連携を図るため、以下のことを行う。

① 指導者と連絡・相談する機会を設ける。

② 実習期間中少なくとも1回、実習施設訪問指導を行う。

実習訪問指導では、特に以下の点について重視し、指導に当たる。

- ・実習中の健康状態の確認
- ・実習計画や実習課題への取り組みに関する状況の確認
- ・記録や実習日誌等の点検
- ・その他

(3) 事後学習（実習後の指導）

学生が実習施設で経験したことを基に、さらに理解が深められるよう指導し、臨床実習の評価を行う。

・学内セミナー

各実習終了後、学生は実習における学習内容の発表とそれに関するグループディスカッションを行う。各実習施設の特徴及び担当事例に関する発表・討議を通じて、学生は自己の体験を再確認し、また、互いの実習経験を分かち合うことにより、作業療法についての見識を広め、洞察を深める。

- ① 学内セミナー報告への支援を行う
プレゼンテーション用資料やレジュメ等の作成指導
- ② グループディスカッションの支援を行う
- ③ 学内での事後評価を実施する

5) 実習施設との連携体制について

本学科教員は、臨床実習指導者と意見交換を行い、臨床実習期間中に指導者と連絡をとり、臨床実習先への巡回訪問を行い、臨床実習訪問記録を作成する。実習中に問題が発生した場合には臨床実習指導者と連携をとりながらその解決にあたる。実習終了後は、実習指導者及び学生から実習に関するフィードバックを得て、以後の実習の改善、向上を図る。

実習施設との連携の一貫として、年1回以上、実習施設の実習指導担当者を本学に招き、本学科の専任教員や招聘講師らを構成員として実習指導担当者会議を実施する。会議は、学科の教育目的と内容、実習指導方針等、臨床実習の説明と質疑応答を行うこと、また、実習施設の担当者に対する学生の自己紹介と面接を行い、直接実習に関する説明を受けると共に、実習を前にして疑問点を質問する機会とし、臨床実習への円滑な導入を図ることを目的とする。

6) 成績評価・単位認定方法

実習成績の評価および単位認定は以下のように行うこととする。

(1) 臨床見学（1年次前期：1週間）

実習終了時期に臨床実習指導者が評価項目ごとに最終評価を行う。臨床見学全体に関する最終的な成績評価の判定（単位認定）は、学科内の成績判定会議において行うこととする。成績評価は、優、良、可、不可の4段階で行い、評価基準は、100点満点の場合、優：80点以上、良：70～79点、可：60～69点、不可：60点未満とし、60点以上を合格とする。判定の基準は、以下の3項目とする。

- ① 臨床実習指導者による最終評価
- ② 実習終了後の学内セミナーでの報告内容
- ③ 見学体験レポート及び記録・提出物

(2) 評価実習（2年次後期：4週間）

実習終了時期に臨床実習指導者が評価項目ごとに5段階評価による最終評価を行う。評価実習全体に関する最終的な成績評価の判定（単位認定）は、学科内の成績判定会議において行うこととする。成績評価は、優、良、可、不可の4段階で行い、評価基準は、100点満点の場合、優：80点以上、良：70～79点、可：60～69点、不可：60点未満とし、60点以上を合格とする。

判定の基準は、以下の3項目とする。

- ① 臨床実習指導者による最終評価
- ② 実習終了後の学内セミナーでの報告内容
- ③ 事例報告書及び記録・提出物

(3) 総合臨床実習Ⅰ（3年次後期：9週間）および総合臨床実習Ⅱ（4年次前期：9週間）

実習開始後3～4週目の中間時点で実習生が行う自己評価と臨床実習指導者が行う指導者評価により実施される中間評価を経て、実習終了時期に臨床実習指導者が評価項目ごとに5段階評価による評価を行う。総合臨床実習全体に関する最終的な成績評価の判定（単位認定）は、学科内の成績判定会議において行うこととする。成績評価は、優、良、可、不可の4段階

階で行い、評価基準は、100点満点の場合、優：80点以上、良：70～79点、可：60～69点、不可：60点未満とし、60点以上を合格とする。

判定の基準は、以下の3項目とする。

- ① 臨床実習指導者による最終評価
- ② 実習終了後の学内セミナーでの報告内容
- ③ 事例報告書及び記録・提出物

(資料9-2) 作業療法学科 臨床実習受入施設一覧 臨床見学, 評価実習 (医療機関、老健・福祉施設)
総合臨床実習Ⅰ, Ⅱ (医療機関)

サ 海外語学研修の具体的計画

1. 海外語学実習の概要

理学療法学科及び作業療法学科の海外語学実習は、理学療法士及び作業療法士を志す学生としての国際的視点を身につけ、広く海外での活動や研究を視野に入れた知見を身につけることを到達目標とし、本学が企画している語学研修を活用して、夏季及び春季休暇等を実施する。

2. 海外語学研修の実施について

語学研修において、英語の授業を受けるほか、施設見学や色々な課外活動の体験を通して、外国人の考え方や日本とは異なる習慣や文化を学ぶことにより国際性をはぐくむことを目的とする。

研修内容は以下のとおりである。

- ① 15名程度を1クラスとする講義
- ② 近郊への日帰りまたは、宿泊旅行
- ③ アウトドアアクティビティ
- ④ 施設見学
- ⑤ フェアウェルパーティー

研修受け入れ先としては、本学の姉妹校であるアルバータ大学(カナダ)及びモナシュ大学(オーストラリア)を予定している。研修実施に当たっては、本学教員が同行することとし、現地コーディネーターと連携しながら研修を進める。

3. 成績評価及び単位認定方法

海外語学研修の成績評価は、事前研修、現地研修とテスト、事後研修において一定の基準を満たしたものとし、英語科目1科目(英語Ⅰ(オーラルイングリッシュB):2年前期、英語Ⅱ(英語B):2年後期それぞれ1単位)と振り替えてその単位を認定する。なお、両大学の語学研修に参加しても、振替が可能なのは1科目のみとする。

事前研修、現地研修とテスト、事後研修の成績判定基準は以下の通りである。

各項目で60点以上をもって合格とする。成績評価は、優、良、可、不可の4段階で行い、評価基準は、100点満点の場合、優：80点以上、良：70～79点、可：60～69点、不可：60点未満とし、60点以上を合格とする。

ス 編入学制度

高齢社会において、高度な教育を受けたりハビリテーションスタッフの需要はますます必要とされている。本学部の2年次編入学制度は、保健・医療・福祉の領域に深い関心を持ち、強い目的意識や高い学習意欲を有する社会人等を広く社会に求め、その資格志向等を支援するものである。3年間で理学療法士または作業療法士国家資格の受験資格を取得できる編入学制度は、大いに期待されており、本学が独自に行ったインタビュー調査でも医療系学部編入学の潜在需要は相当数見込まれることが判明した。

本学部の編入学定員は各学科とも2年次編入学各5名を予定していて、1期は定員の60%、2期は定員の40%をそれぞれ採用する。

編入学後3年間の在学期間があるため、特に既習の学問分野は定めないものとする。

なお、上記のほかに医療や福祉関連分野の実務者の中で、新たな資格や学位取得を希望する者に対しては、社会人特別選抜方式を導入して再教育の場を提供する。

試験の実施要領は、下表の通りである。

編入学制度の概要（理学療法学科、作業療法学科）

区 分	一般選抜	社会人特別選抜
出願資格	下記のいずれかに該当する者 ③ 大学、短期大学、高等専門学校または専修学校（修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時間数1,700時間以上）を卒業（修了）もしくは卒業（修了）見込みの者 ④ 大学に2年以上在学し62単位以上を修得した者もしくは入学する前年度の3月31日までにこれらの条件を満たす見込みの者	下記のいずれかに該当する者で、卒業等の後、概ね3年の社会人経験もしくは同等以上の経験がある者 ③ 大学、短期大学、高等専門学校または専修学校（修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時間数1,700時間以上）を卒業（修了）した者 ④ 大学に2年以上在学し62単位以上を修得した者
試験科目	英語、小論文、面接	小論文、面接
編入学する学年	第2学年	
募集人員	理学療法学科5名、作業療法学科5名	
	1期	各学科 定員の60%
	2期	各学科 定員の40%
合格者の決定	出願書類、試験成績、面接結果を総合して判定	

編入学生は基本的に1年次に配当されている専門教育科目及び2年次以上に配当されている専門教育科目ならびに全学教育科目を履修するものとし、これ以外の単位を実際の編入学前の大学等での履修状況を勘案しながら個別に既修得単位として認定する方針である。また、認定する単位は、理学療法学科は上限を30単位、作業療法学科は上限を31単位とする。

本学ではすでに薬学部、看護福祉学部、心理科学部において正規の編入学定員を定めて編入学生の受入れを行っている。過去3年間の入学者数は、看護学科と臨床福祉学科は種々の要因から定員未充足が続いているが、薬学部（定員10名）、言語聴覚療法学科（定員9名）、臨床心理学科（定員2名）はほぼ定員を満たしている状況である。本学部は、本学における従来の編入学についてのノウハウを生かしながら、編入学運営委員会のもとに、編入学コーディネーター（両学科の教員）を配置し、編入学生一人ひとりの入学以前の既修得単位の状況に応じ、卒業までに必要な科目の履修や生活指導等について個別指導を行う。

また、編入学生の入学後の履修モデルは別紙のとおりとする。

(資料10-1) 北海道医療大学リハビリテーション科学部 進学需要調査(2)

(資料10-2) 理学療法学科編入学生履修モデル

(資料10-3) 作業療法学科編入学生履修モデル

ツ 管理運営

教員役職者としては、学部運営の最高責任者として学部長を置く。そのほか、学生部長、教務部長の責任者を置く。

教授会の構成員は教授以上とするが、学部長は、必要と認めるときは、教授会の議を経て、教授以外の教員を教授会に出席させることができることとする。当面、この規程に準じて、議決権は有しないが助教以上全員の参加のもとで教授会を開催する予定である。教授会の開催は定例月1回以上とし、(1)学部内規程等の制定及び改廃に関する事項、(2)学部教員の人事に関する事項、(3)予算に関する事項、(4)学生の入学・進学・転学・休学・退学及び卒業並びに除籍に関する事項、(5)教育課程の編成及び試験に関する事項、(6)学生の厚生補導並びに賞罰に関する事項など本学部の教育・研究及び運営等に関する重要事項を審議する。

教授会のもとには人事選考委員会をはじめ、就職、学生、教務等など両学科共通の事案を検討・審議する各種委員会を置く。また、国家試験対策委員会、臨床実習委員会などは各学科に別置き、学科独自に検討する体制をとるものとする。

テ 自己点検・評価管理運営

1. 実施方法

本学は、学則第2条において「教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする」と定め、「点検評価規程」に基づき、自己点検評価を実施している。

2. 実施体制

自己点検・評価の実施に当たっては、「点検評価全学審議会」において、点検及び評価の基本方針並びに実施基準を設定している。「点検評価全学審議会」は学長を長とし、副学長、各学部長、総合図書館長、大学病院長、歯科衛生士専門学校長、個体差医療科学センター長、個体差健康科学研究所長、事務局長で構成し、事務は総務企画課が所轄している。「点検評価全学審議会」の下に、実施部局ごとに「評価委員会」を置き、点検と評価を行っている。また、「点検評

価全学審議会」が行う点検評価に関して、本学職員からの質疑・異議の申立受理機関として「審査委員会」を置き、申立があった場合に、当該事項の資料収集、調査を行い、是正措置を講ずる体制を整備している。

3. 結果の活用・公表

自己点検・評価結果は、報告書として取りまとめ、ホームページを通じて、学内外に広く公表し、積極的な情報公開に努めている。

また、7年周期で実施される外部評価の他、その間に大学独自の点検・評価活動を行い、改善に向けた努力を行っている。

4. 評価項目

評価項目は「点検評価規程」第2条第2項において以下のとおり定めている。

- ・教育理念・目標に関する事項
- ・教育研究上の組織に関する事項
- ・学生受入に関する事項
- ・学生生活に関する事項
- ・教育活動に関する事項
- ・研究活動に関する事項
- ・診療及び臨床教育に関する事項
- ・教員組織に関する事項
- ・総合図書館・施設・設備に関する事項
- ・国際交流に関する事項
- ・社会との連携に関する事項
- ・広報に関する事項
- ・教育管理運営に関する事項
- ・自己評価体制に関する事項

5. 外部評価

本学は、1994年4月に、大学基準協会の加盟判定審査を受け、維持会員校（現在は「正会員」と呼称）となり、その後、以下のとおり外部評価を行っている。

1996年 大学基準協会第1回相互評価 申請・認定（本学1回目）

2003年 大学基準協会第8回相互評価 申請・認定（本学2回目）

2006年 財団法人日本高等教育評価機構＜私立大学協会加盟大学対象機関＞へ入会

2007年 大学基準協会第8回相互評価結果に係る「改善報告書」提出

2010年 大学基準協会第15回大学評価（旧相互評価）申請・認定（本学3回目）

ト 情報の公表

教育および研究活動の状況を明らかにし、それらの成果が広く社会で活用されることは本学の社会に対する使命であると考え、また、社会的存在として大学を広く認知してもらうことも必要であるので、本学はさまざまな情報の提供を積極的に推し進める。

大学ホームページにおいては、建学の理念から教育理念、教育目標、ならびに三ポリシー（入学者受け入れの方針・教育課程編成と実施の方針・学位授与の方針）など、大学および各学部

等の基盤となる考え方を示す。そして、それらに基づいて構築されている大学の根幹をなす教育課程については、4年間（あるいは6年間）の全体像を示したうえで教務日程、授業時間割、さらに授業内容の詳細に至るまで公表し、各学部および学科の特色も明らかにする。

また、大学の基本的情報である各学部および学科の定員や在籍学生数、教員数、大学と大学院の学則などを掲載するとともに、専任教員や各講座を紹介するページも設けて大学の実像を広く社会に発信する。加えて教育活動の成果でもある国家試験の結果や卒後の就職状況などについても具体的な数値によって公表する。

一方、大学のもう一つの使命である研究活動に関しては、各教員が所属する学会を示した上で現在どのような研究課題に取り組んでいるかを公表し、研究の成果である著書や研究論文の実績を明らかにする。科学研究費補助金の受給状況についても、ホームページ上のニュースとして随時最新の情報を提供する。

大学の管理運営的側面の情報公開に関しては、各年度の財務状況（予算及び決算）および事業報告書を公表し、さらに2011年3月に財団法人大学基準協会より認証評価を受けたことについて評価報告書も併せて掲載する。

大学ホームページによる情報公開に加えて、毎年6月に大学広報誌「MESSAGE」を発刊している（2011年度版は173ページ）。ここには、上述の教育や研究に関わる活動と実績、財務状況も含めた管理運営体制などを掲載し、加えて教育改革の取り組み、大学の施設と設備、履修と生活に関わる学生相談の体制、学生生活の現況、社会貢献の実績などについて、自己点検評価の概要を毎年更新して公表する。

ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

本学では、各学部、研究科ごとに設置されるFD委員会と全学的にFD活動を推進する「全学FD委員会」を設置し、「教育研究に携わる教員の資質あるいは能力開発」を目的として、種々の活動に取り組んでいる。その主な内容は、1) 教育、2) 研究、3) 社会サービス、4) 管理運営であり、教育には、1) カリキュラム、2) 教育内容、3) 教育・技術・技法が含まれている。

学生の授業評価はすでにこの春で20年目を迎え、学生、教員双方の意見を取り入れながら年々改善がくわえられてきた。教員の資質向上のための組織的取り組みとしては、平成14年度から2日間のFD（合宿）研修を、2004年度からは、新任教員研修をスタートさせ、毎年度定例開催しているほか、年2～3回のFDセミナー（シンポジウム等）を開催している。

また、全学FD活動とは別に、各学部独自の取り組みとして、例えば薬学部FD委員会では、学部独自でセミナーやワークショップを毎年度それぞれ1回開催している。

そのほかの取り組みとしては、「教員ハンドブック」や「FD News Letter」の発行も毎年継続して行っている。

ニ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

教育課程内においては、社会的・職業的自立を図るためには高度専門医療人としての専門知識および技術の習得に加え、学生が自ら考え自分自身の将来像を描き、それを実現するための具体的行動を取ることが出来る力を涵養することが必要である。

そのためには、1年次からの担任、3年次にはゼミナールを編成し日々の担当教員・仲間とのふれあいの中で医療人として重要な要素である「人と関わる力」を育てていく。また、同じく1年次前期より学部教員全員が関わる大学生活・健康医療を学ぶ導入演習「基礎ゼミナール」「文章指導」を必修科目で開講する。なお3年次前期には他学部学生とともに、共通のテーマに対しての課題抽出・解決をフィールドワークとグループワークを中心に行う「多職種連携(演習)」を同じく必修科目で開講する。

これらの取組により、学生のチームワーク・考える力・行動力等の社会人基礎力を涵養していくことで、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培っていく。

2. 教育課程外の取組について

教育課程外においては、低学年次より段階的に職業観・社会人基礎力の涵養及び、学生が主体的で自主的な進路選択行動を行う力を身につけることを目的とした取組を実施する。

2年次には自己分析・仕事への理解・自己表現・コミュニケーションを中心としたグループワーク型の特別キャリアデザイン集中講座を、3年次以降は就職課のキャリア・就職支援専門職員による、定期的な就職ガイダンスおよび個別面談の実施、4年次には併せて学生が主体的に参加する病院・施設見学の促進も行っていくなど、学生が自主的に具体的な就職活動を行うことが出来るよう支援を強化する。なお、4年次に高度専門医療人になるために不可欠な国家試験取得のための模擬試験受験等を促す。

3. 適切な体制の整備について

教育課程内は教員が、課程外の取組は学生が主体的に取り組むもののほかは、職員が主となり運営していくが、卒業までの4年間で学生の社会的及び職業的自立を図るために、教職員が綿密に連携し協働可能な体制をつくる。

医療系総合大学の強みを最大限発揮できるよう、他学部学科教員との連携で運営する「多職種連携(演習)」において、コメディカルでチーム医療に携わる体験学習を行う。

また教育課程内外の橋渡し役として、キャリア・就職支援専門職員が各種施策の企画・運営等をコーディネートすることで、より効果的な連携を可能なものとする。

なお、就職委員会においては各種施策の協議と情報共有を行い、教授会等で各教員へ向けて、支援の方向性と具体的な施策を逐次フィードバックすることで、学部学科教員が一体となった動きをとることが出来る体制とする。

(資料11) 社会的・職業的自立に関する指導体制概念図

北海道医療大学の沿革

1974年 2月	学校法人東日本学園大学設立
4月	薬学部(薬学科・衛生薬学科)開設
1978年 4月	歯学部(歯学科)開設
	大学院薬学研究科薬学専攻修士課程開設
12月	歯学部附属病院開設
1982年 3月	アイソトープ 研究センター設置
4月	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程開設
1984年 4月	歯学部附属歯科衛生士専門学校開設
1985年 9月	教養部を当別町に移転・統合
1986年 4月	薬学専攻科医療薬学専攻開設
12月	佐々木記念館・総合図書館設置
1988年 4月	大学院歯学研究科歯学専攻博士課程開設
12月	動物実験センター設置
1990年 4月	札幌医療福祉専門学校(看護学科・介護福祉学科)開設
10月	医療科学センター-医科歯科クリニック開設
1991年 4月	札幌医療福祉専門学校(言語聴覚療法学科)開設
1992年 4月	札幌医療福祉専門学校(言語聴覚療法専攻学科)開設
1993年 4月	看護福祉学部(看護学科/医療福祉学科医療福祉専攻・臨床心理専攻)開設
1994年 4月	学校法人名称・大学名称変更(学校法人東日本学園・北海道医療大学)
	大学基準協会「維持会員校」として承認
5月	医科学研究センター設置
6月	茨戸教育研修センター設置
10月	20周年記念会館設置
1996年 4月	薬学部総合薬学科開設(学科改組)
	大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程開設
	保健管理センター設置
1997年 4月	大学院看護福祉学研究科看護学専攻/臨床福祉・心理学専攻修士課程開設
1998年 6月	情報センター設置
1999年 4月	大学院看護福祉学研究科看護学専攻/臨床福祉・心理学専攻博士課程開設
2000年 4月	NICEセンター (National and International Collaboration and Extension Center) 設置
12月	学友会館設置
2002年 1月	個体差健康科学研究所設置(医科学研究センター廃止)
4月	心理科学部(臨床心理学科/言語聴覚療法学科)開設
	看護福祉学部医療福祉学科を臨床福祉学科へ名称変更
2003年 6月	心理臨床・発達支援センター設置
2004年 3月	札幌医療福祉専門学校閉校
4月	大学院看護福祉学研究科臨床福祉学専攻修士課程・博士課程開設
	大学院心理科学研究科臨床心理学専攻修士課程・博士課程開設
2005年 4月	認定看護師研修センター設置
7月	大学病院・歯科内科クリニック・個体差医療科学センター開設
2006年 3月	薬学専攻科医療薬学専攻廃止
4月	大学院心理科学研究科言語聴覚学専攻修士課程・博士課程開設
	薬学部薬学科開設(6年制)
2007年 4月	大学教育開発センター設置
2008年 4月	看護福祉学部臨床福祉学科教職課程開設
2009年 8月	北方系伝統薬物研究センター設置
2010年 4月	大学院薬学研究科生命薬科学専攻修士課程開設
10月	薬剤師支援センター設置
2011年 3月	大学院薬学研究科医療学専攻修士課程廃止
2012年 3月	大学院薬学研究科薬学専攻修士課程廃止
4月	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程開設



10周年記念誌



20周年記念誌



30周年記念誌

学生受入状況推移表

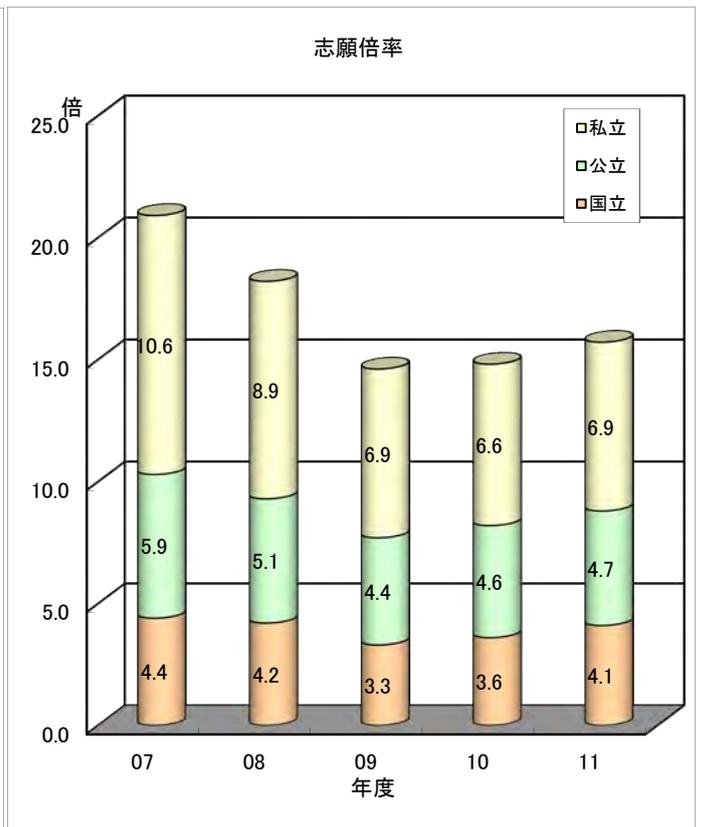
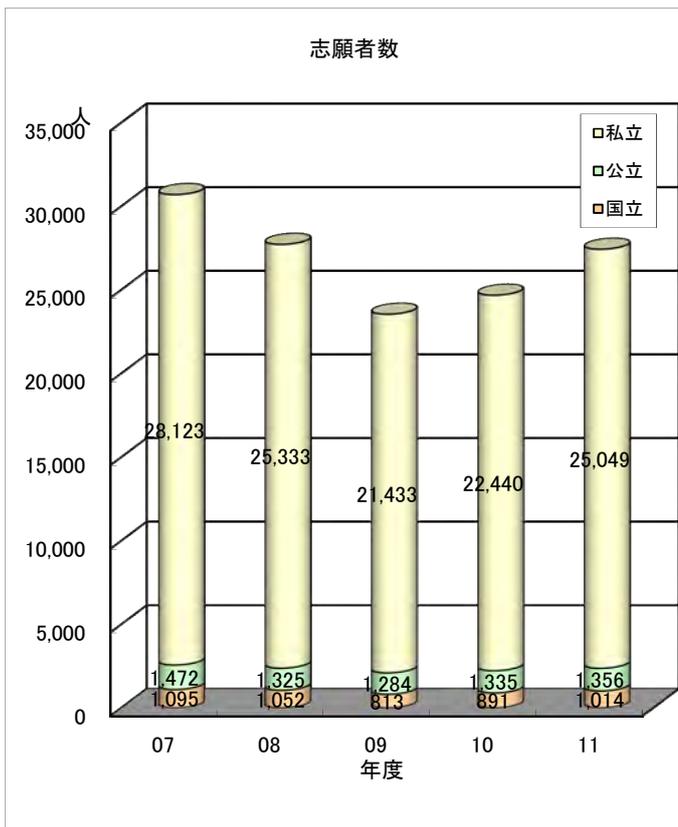
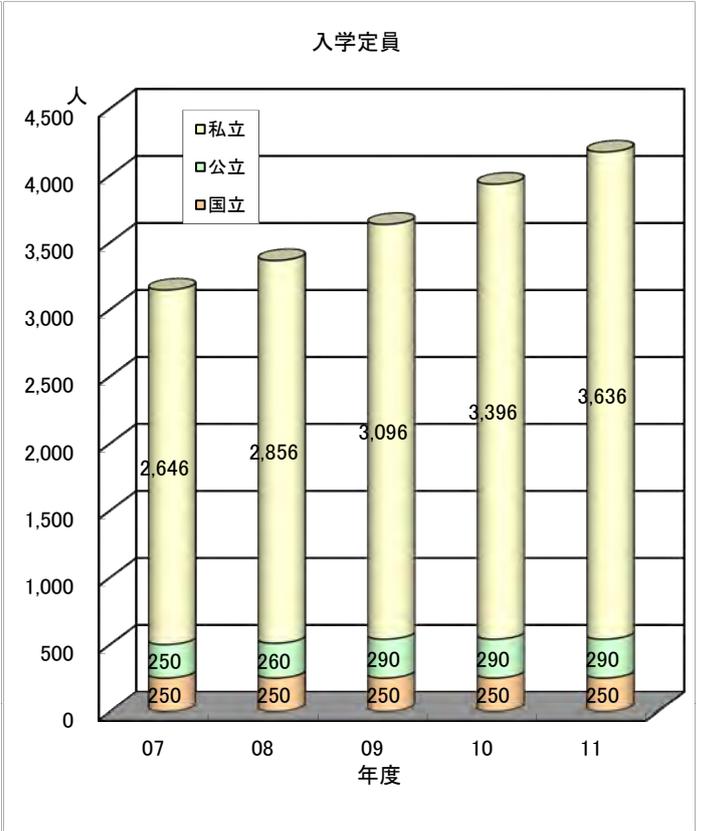
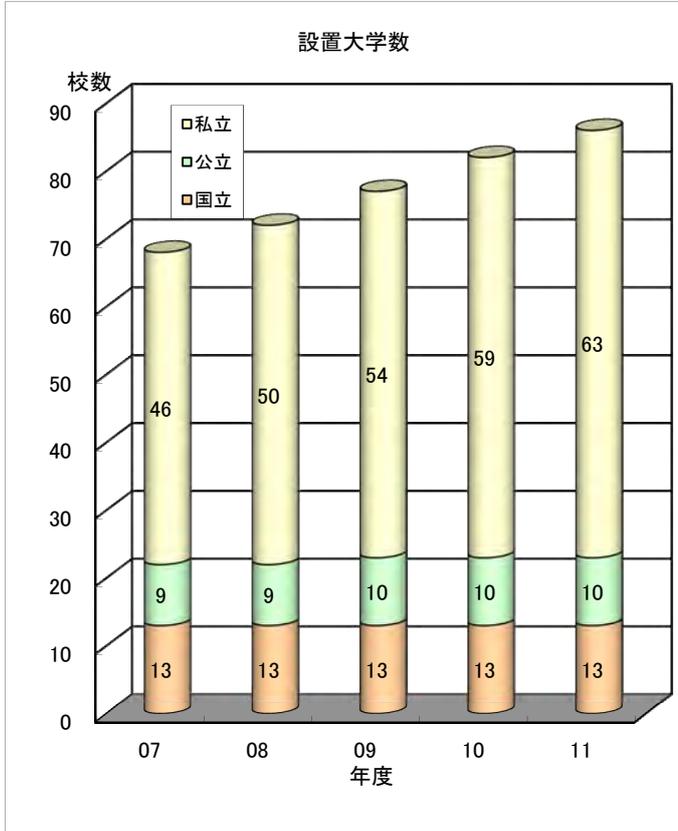
区分	項目	平均	24(2012)年度	23(2011)年度	22(2010)年度	21(2009)年度	20(2008)年度	19(2007)年度
薬学部	入学定員	151.7	160	150	150	150	150	150
	志願者数	902.8	826	887	769	893	1,108	934
	合格者数	352.5	316	336	357	364	399	343
	合格倍率	2.6	2.6	2.6	2.2	2.5	2.8	2.7
	入学者数	173.8	180	186	182	170	165	160
	入学定員超過率	1.14	1.12	1.24	1.21	1.13	1.10	1.06
歯学部	入学定員	96.7	80	100	100	100	100	100
	志願者数	429.3	267	262	270	401	686	690
	合格者数	248.2	227	226	223	298	293	222
	合格倍率	1.7	1.2	1.2	1.2	1.3	2.3	3.1
	入学者数	66.8	54	41	48	66	96	96
	入学定員超過率	0.69	0.67	0.41	0.48	0.66	0.96	0.96
看護福祉学部 (合計)	入学定員	180.0	180	180	180	180		
	志願者数	1652.3	1,792	1,770	1,594	1,453		
	合格者数	564.3	594	576	527	560		
	合格倍率	4.5	3.0	3.1	6.3	5.6		
	入学者数	186.0	194	183	185	182		
	入学定員超過率	1.02	1.07	1.01	1.02	1.01		
看護福祉学部 看護学科	入学定員	92.5	100	90	90	90		
	志願者数	1247.8	1,323	1,333	1,262	1,073		
	合格者数	237.3	231	227	244	247		
	合格倍率	5.3	5.7	5.9	5.2	4.3		
	入学者数	112.5	110	111	115	114		
	入学定員超過率	1.21	1.10	1.23	1.27	1.26		
看護福祉学部 臨床福祉学科	入学定員	87.5	80	90	90	90		
	志願者数	404.5	469	437	332	380		
	合格者数	327.0	363	349	283	313		
	合格倍率	1.2	1.3	1.3	1.2	1.2		
	入学者数	73.5	84	72	70	68		
	入学定員超過率	0.84	1.05	0.80	0.77	0.75		
心理科学部 (合計)	入学定員	122.3	135	118	118	118		
	志願者数	974.8	1,146	1,050	841	862		
	合格者数	484.0	466	486	497	487		
	合格倍率	2.0	2.5	2.2	1.7	1.8		
	入学者数	143.5	145	150	145	134		
	入学定員超過率	1.17	1.07	1.27	1.22	1.13		
心理科学部 臨床心理学科	入学定員	67.5	75	65	65	65		
	志願者数	536.0	611	572	458	503		
	合格者数	268.0	263	266	273	270		
	合格倍率	2.0	2.3	2.2	1.7	1.9		
	入学者数	74.3	76	73	75	73		
	入学定員超過率	1.10	1.01	1.12	1.15	1.12		
心理科学部 言語聴覚療法学科	入学定員	54.8	60	53	53	53		
	志願者数	438.8	535	478	383	359		
	合格者数	216.0	203	220	224	217		
	合格倍率	2.0	2.6	2.2	1.7	1.7		
	入学者数	69.3	69	77	70	61		
	入学定員超過率	1.26	1.15	1.45	1.32	1.15		
合計(4年間)	入学定員	549.8	555	548	548	548		
	志願者数	3770.8	4,031	3,969	3,474	3,609		
	合格者数	1635.0	1,603	1,624	1,604	1,709		
	合格倍率	2.3	2.5	2.4	2.2	2.1		
	入学者数	561.3	573	560	560	552		
	入学定員超過率	1.01	1.03	1.02	1.02	1.00		

薬学部、歯学部は過去6年間
看護福祉学部、心理科学部および合計(平均)は過去4年間

全国理学療法士養成大学志願状況等推移グラフ

設置区分	07年度				08年度				09年度				10年度				11年度			
	大学数	入学定員	志願者数	志願倍率																
国立	13	250	1,095	4.4	13	250	1,052	4.2	13	250	813	3.3	13	250	891	3.6	13	250	1,014	4.1
公立	9	250	1,472	5.9	9	260	1,325	5.1	10	290	1,284	4.4	10	290	1,335	4.6	10	290	1,356	4.7
私立	46	2,646	28,123	10.6	50	2,856	25,333	8.9	54	3,096	21,433	6.9	59	3,396	22,440	6.6	63	3,636	25,049	6.9
合計	68	3,146	30,690	9.8	72	3,366	27,710	8.2	77	3,636	23,530	6.5	82	3,936	24,666	6.3	86	4,176	27,419	6.6

年度によって志願者が不明または非公表の大学については、当該年度の大学数には加えているが、志願者は加えていない。そのため、全体の倍率は必ずしも正確ではない。



全国理学療法士養成大学志願状況（設置者別）

備考欄（ ）は3年次、《 》は2年次編入定員

設置者区分	都道府県	校数	設置年	大学名	学部・学科・課程名	作業療法学科の有無	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度			2011年度			備考
							入学定員	志願者	倍率	入学定員	志願者	倍率	入学定員	志願者	倍率	入学定員	志願者	倍率	入学定員	志願者	倍率	
国立（十三校）	北海道	1	04	北海道大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	18	98	5.4	18	80	4.4	18	82	4.6	18	74	4.1	18	87	4.8	
	青森県	1	01	弘前大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	20	66	3.3	20	79	4.0	20	74	3.7	20	62	3.1	20	111	5.6	
	秋田県	1	03	秋田大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	18	101	5.6	18	102	5.7	18	68	3.8	18	64	3.6	18	114	6.3	
	茨城県	1	06	筑波技術大学	保健科学部 保健学科 理学療法学専攻	×	10	21	2.1	10	15	1.5	10	11	1.1	10	19	1.9	10	13	1.3	
	群馬県	1	97	群馬大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	20	115	5.8	20	148	7.4	20	95	4.8	20	102	5.1	20	122	6.1	
	石川県	1	96	金沢大学	医薬保健学域 保健学類 理学療法学専攻	○	20	53	2.7	20	52	2.6	20	35	1.8	20	102	5.1	20	80	4.0	
	長野県	1	03	信州大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	18	不明	-	18	不明	-	18	不明	-	18	不明	-	18	不明	-	
	愛知県	1	98	名古屋大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	20	84	4.2	20	56	2.8	20	89	4.5	20	79	4.0	20	53	2.7	
	京都府	1	04	京都大学	医学部 人間健康科学科 理学療法学専攻	○	18	56	3.1	18	71	3.9	18	34	1.9	18	37	2.1	18	39	2.2	
	兵庫県	1	95	神戸大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	20	139	7.0	20	91	4.6	20	78	3.9	20	92	4.6	20	101	5.1	
	広島県	1	92	広島大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	30	160	5.3	30	167	5.6	30	113	3.8	30	114	3.8	30	107	3.6	
	長崎県	1	02	長崎大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	18	104	5.8	18	96	5.3	18	70	3.9	18	80	4.4	18	81	4.5	
	鹿児島県	1	99	鹿児島大学	医学部 保健学科 理学療法学専攻	○	20	98	4.9	20	95	4.8	20	64	3.2	20	66	3.3	20	106	5.3	
	国立小計	13	-	-	-	-	250	1,095	4.4	250	1,052	4.2	250	813	3.3	250	891	3.6	250	1,014	4.1	
公立（十校）	北海道	1	93	札幌医科大学	保健医療学部 理学療法学科	○	20	91	4.6	20	82	4.1	20	98	4.9	20	39	2.0	20	51	2.6	
	青森県	1	99	青森県立保健大学	健康科学部 理学療法学科	×	20	97	4.9	30	106	3.5	30	112	3.7	30	175	5.8	30	168	5.6	(2)
	山形県	1	00	山形県立保健医療大学	保健医療学部 理学療法学科	○	20	49	2.5	20	65	3.3	20	48	2.4	20	43	2.2	20	71	3.6	(5)
	茨城県	1	95	茨城県立医療大学	保健医療学部 理学療法学科	○	40	214	5.4	40	213	5.3	40	201	5.0	40	226	5.7	40	181	4.5	
	埼玉県	1	99	埼玉県立大学	保健医療福祉学部 理学療法学科	○	40	331	8.3	40	280	7.0	40	221	5.5	40	231	5.8	40	221	5.5	
	千葉県	1	09	千葉県立保健医療大学	健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	-	-	-	-	-	-	25	114	4.6	25	137	5.5	25	118	4.7	
	東京都	1	05	首都大学東京	健康福祉学部 理学療法学科	○	40	222	5.6	40	157	3.9	40	150	3.8	40	114	2.9	40	192	4.8	
	神奈川県	1	03	神奈川県立保健福祉大学	保健福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	20	119	6.0	20	93	4.7	20	70	3.5	20	105	5.3	20	65	3.3	(2)
	大阪府	1	05	大阪府立大学	総合リハビリテーション学部 総合リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	20	191	9.6	20	170	8.5	25	116	4.6	25	116	4.6	25	133	5.3	(5)
	広島県	1	05	県立広島大学	保健福祉学部 理学療法学科	○	30	158	5.3	30	159	5.3	30	154	5.1	30	149	5.0	30	156	5.2	
	公立小計	10	-	-	-	-	250	1,472	5.9	260	1,325	5.1	290	1,284	4.4	290	1,335	4.6	290	1,356	4.7	
私立（六三校）	北海道	1	06	北海道文教大学	人間科学部 理学療法学科	○	80	389	4.9	80	383	4.8	80	393	4.9	80	455	5.7	80	447	5.6	
	宮城県	99	東北文化学園大学	医療福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	80	435	5.4	80	370	4.6	80	224	2.8	80	474	5.9	80	240	3.0		
		08	東北福祉大学	健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	-	-	-	40	348	8.7	40	523	13.1	40	441	11.0	40	531	13.3		
	茨城県	1	07	つくば国際大学	医療保健学部 理学療法学科	×	80	362	4.5	80	237	3.0	80	133	1.7	80	154	1.9	80	162	2.0	
	栃木県	1	95	国際医療福祉大学	保健医療学部 理学療法学科	○	80	1,172	14.7	80	1,020	12.8	80	731	9.1	80	690	8.6	80	818	10.2	
	群馬県	05	群馬パース大学	保健科学部 理学療法学科	×	50	203	4.1	50	167	3.3	50	211	4.2	50	179	3.6	50	172	3.4		
		10	高崎保健福祉大学	保健医療学部 理学療法学科	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	709	17.7	40	758	19.0		
	埼玉県	07	埼玉医科大学	保健医療学部 理学療法学科	×	40	309	7.7	50	247	4.9	50	202	4.0	50	154	3.1	50	105	2.1		
		11	日本医療科学大学	保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	80	649	8.1	80	707	8.8	80	460	5.8	80	322	4.0	80	487	6.1		
		07	人間総合科学大学	保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	87	2.2		
		06	文京学院大学	保健医療技術学部 理学療法学科	○	80	1,060	13.3	80	651	8.1	80	452	5.7	80	414	5.2	80	610	7.6		
		05	目白大学	保健医療学部 理学療法学科	○	80	1,439	18.0	80	1,079	13.5	80	685	8.6	80	722	9.0	80	663	8.3		
	千葉県	08	植草学園大学	保健医療学部 理学療法学科	×	-	-	-	40	非公表	-	40	67	1.7	40	171	4.3	40	163	4.1		
		08	帝京平成大学	地域医療学部 理学療法学科	○	-	-	-	80	387	4.8	80	653	8.2	80	571	7.1	80	366	4.6		
		06	了徳寺大学	健康科学部 理学療法学科	×	80	867	10.8	80	689	8.6	80	485	6.1	80	327	4.1	80	487	6.1		
	東京都	09	杏林大学	保健学部 理学療法学科	○	-	-	-	-	-	-	40	941	23.5	40	1,105	27.6	40	1,036	25.9		
		02	帝京平成大学	健康メディカル学部 理学療法学科	○	80	2,215	27.7	80	2,270	28.4	80	1,494	18.7	80	1,232	15.4	80	942	11.8		
		07	帝京科学大学	医療科学部 東京理学療法学科	×	40	133	3.3	40	237	5.9	40	225	5.6	80	217	2.7	80	511	6.4		
		10	東京工科大学	医療保健学部 理学療法学科	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80	621	7.8	80	1,065	13.3		
	神奈川県	94	北里大学	医療衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	38	1,069	28.1	38	765	20.1	38	530	13.9	38	509	13.4	38	484	12.7	(2)	
		06	国際医療福祉大学	小田原保健医療学部 理学療法学科	○	40	1,266	31.7	40	953	23.8	40	683	17.1	40	555	13.9	40	580	14.5		
		01	昭和大学	保健医療学部 理学療法学科	○	30	428	14.3	30	431	14.4	30	297	9.9	30	317	10.6	30	326	10.9		
	新潟県	02	新潟医療福祉大学	医療技術学部 理学療法学科	○	80	606	7.6	80	673	8.4	80	501	6.3	80	503	6.3	80	455	5.7		
		10	新潟リハビリテーション大学院大学	医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	×	-	-	-	-	-	-	-	-	40	不明	-	40	不明	-	不明	志願者リハビリテーション学科一括で公表のため専攻別(PT,ST)不明	
	石川県	1	07	金城大学	医療健康学部 理学療法学科	×	80	303	3.8	80	305	3.8	80	248	3.1	80	266	3.3	80	181	2.3	
	山梨県	03	健康科学大学	健康科学部 理学療法学科	○	80	358	4.5	80	248	3.1	80	186	2.3	80	150	1.9	80	118	1.5	(5)	
		07	帝京科学大学	医療科学部 理学療法学科	○	80	133	1.7	80	237	3.0	80	225	2.8	80	217	2.7	80	282	3.5		
	岐阜県	1	07	中部学院大学	リハビリテーション学部 理学療法学科	×	40	215	5.4	40	303	7.6	60	227	3.8	60	199	3.3	60	138	2.3	
	静岡県	04	聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	30	426	14.2	30	460	15.3	30	323	10.8	30	298	9.9	30	432	14.4		
		09	浜松大学	保健医療学部 理学療法学科	○	-	-	-	-	-	-	40	143	3.6	40	161	4.0	40	160	4.0		
	愛知県	02	星城大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	40	493	12.3	40	355	8.9	40	296	7.4	40	322	8.1	40	316	7.9		
		06	豊橋創造大学	保健医療学部 理学療法学科	×	60	386	6.4	60	343	5.7	60	215	3.6	60	271	4.5	60	257	4.3		
06		名古屋学院大学	リハビリテーション学部 理学療法学科	×	80	599	7.5	80	358	4.5	80	360	4.5	80	287	3.6	80	392	4.9			
08		日本福祉大学	健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	-	-	-	40	721	18.0	40	672	16.8	40	626	15.7	40	742	18.6			
04		藤田保健衛生大学	医療科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	45	504	11.2	45	388	8.6	45	484	10.8	45	426	9.5	45	301	6.7	(6)		
10		中部大学	生命健康科学部 理学療法学科	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	475	11.9	40	413	10.3			

備考欄 () は3年次、《 》は2年次編入定員

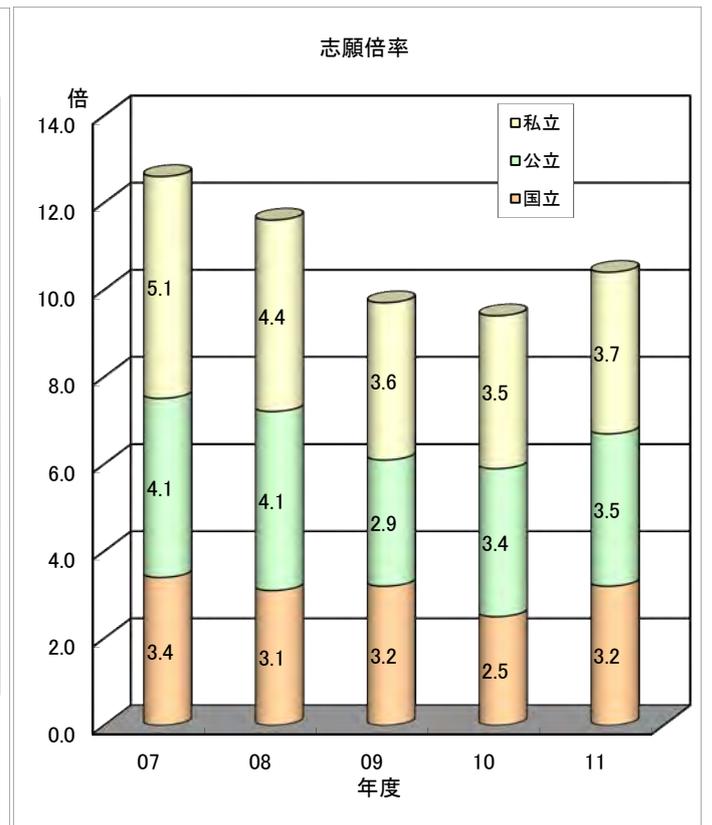
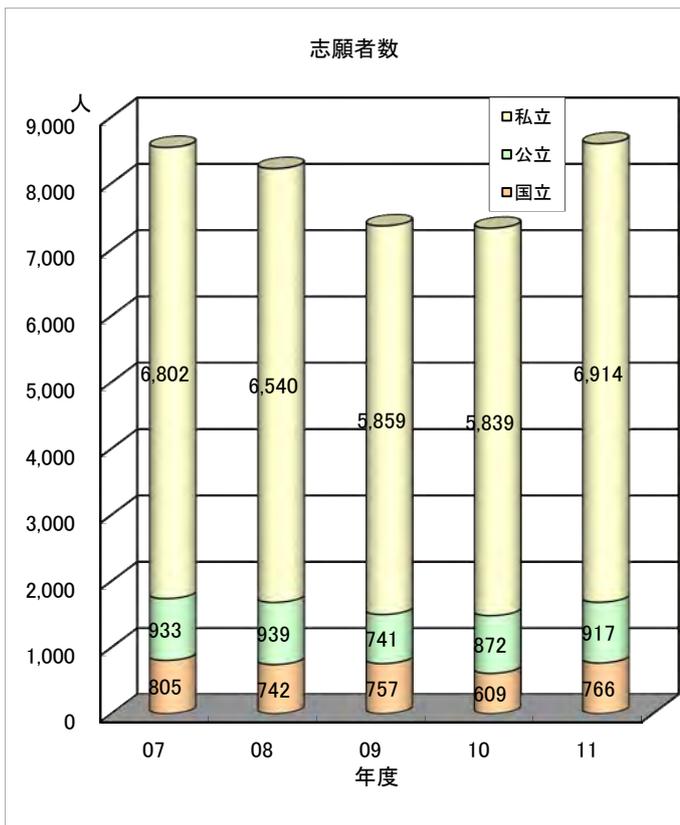
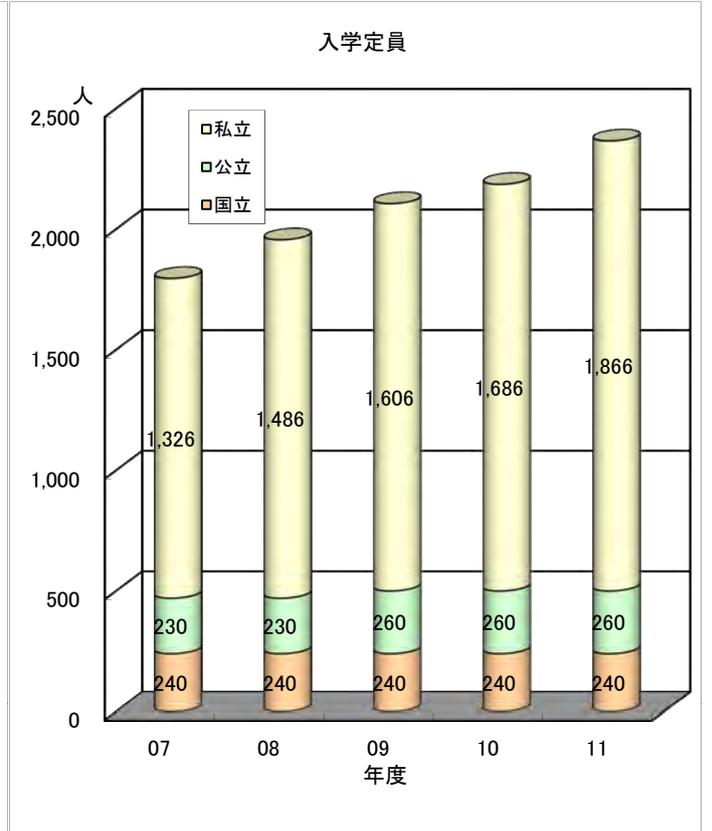
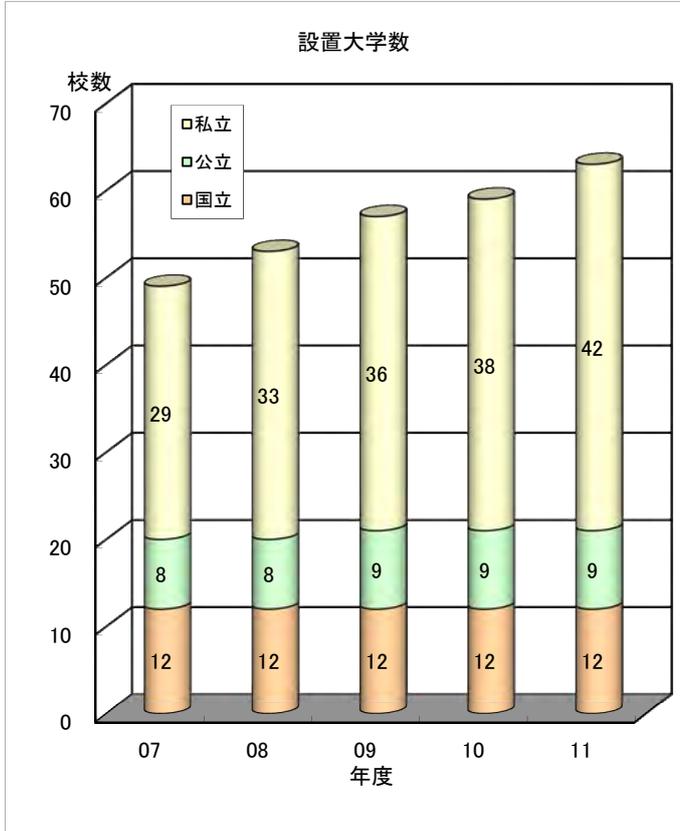
設置 区分	都道府県	校数	設置年	大学名	学部・学科・課程名	作業療法学 科の有無	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度			2011年度			備考	
							入学定員	志願者	倍率														
私 立 (六三校)	三重県	1	02	鈴鹿医療科学大学	保健衛生学部 理学療法学科	×	40	460	11.5	40	405	10.1	40	258	6.5	40	200	5.0	40	168	4.2		
	京都府	1	06	佛教大学	保健医療技術学部 理学療法学科	○	40	1,122	28.1	40	687	17.2	40	720	18.0	40	716	17.9	40	927	23.2		
	大阪府	8	04	藍野大学	医療保健学部 理学療法学科	○	80	261	3.3	80	355	4.4	80	186	2.3	80	148	1.9	80	266	3.3		
			06	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	60	214	3.6	60	93	1.6	60	158	2.6	60	98	1.6	60	130	2.2		
			04	大阪電気通信大学	医療福祉工学部 理学療法学科	×	40	367	9.2	40	290	7.3	40	162	4.1	40	171	4.3	40	163	4.1		
			09	大阪保健医療大学	保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	-	-	-	-	-	-	60	239	4.0	60	327	5.5	60	271	4.5		
			07	関西医療大学	保健医療学部 理学療法学科	×	40	853	21.3	40	584	14.6	40	352	8.8	40	489	12.2	40	375	9.4		
			11	関西福祉科学大学	保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80	213	2.7	
			05	四条学園大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	40	321	8.0	40	148	3.7	40	108	2.7	40	84	2.1	40	149	3.7		
			07	森ノ宮医療大学	保健医療学部 理学療法学科	×	60	863	14.4	60	709	11.8	60	非公表	-	60	292	4.9	60	426	7.1		
	兵庫県	6	07	甲南女子大学	看護リハビリテーション学部 理学療法学科	×	60	288	4.8	60	579	9.7	60	419	7.0	60	460	7.7	60	670	11.2		
			05	神戸学院大学	総合リハビリテーション学部 医療リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	40	986	24.7	40	704	17.6	40	604	15.1	40	547	13.7	40	588	14.7		
			09	神戸国際大学	リハビリテーション学部 理学療法学科	×	-	-	-	-	-	-	80	249	3.1	80	358	4.5	80	327	4.1		
			11	宝塚医療大学	保健医療学部 理学療法学科	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	160	4.0		
			06	姫路獨協大学	医療保健学部 理学療法学科	○	40	非公表	-	40	363	9.1	40	483	12.1	40	331	8.3	40	230	5.8		
			07	兵庫医療大学	リハビリテーション学部 理学療法学科	○	40	642	16.1	40	438	11.0	40	353	8.8	40	325	8.1	40	442	11.1		
	奈良県	1	03	畿央大学	健康科学部 理学療法学科	×	60	1,800	30.0	60	1,517	25.3	60	1,217	20.3	60	1,247	20.8	60	1,532	25.5		
	岡山県	2	95	川崎医療福祉大学	医療技術学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	33	483	14.6	33	473	14.3	33	522	15.8	33	441	13.4	33	535	16.2	(3)	
			95	吉備国際大学	保健科学部 理学療法学科	○	40	433	10.8	40	232	5.8	40	259	6.5	40	171	4.3	40	252	6.3		
	広島県	1	06	広島国際大学	保健医療学部 総合リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	60	1,477	24.6	60	832	13.9	60	766	12.8	60	525	8.8	60	734	12.2		
	徳島県	1	10	徳島文理大学	保健福祉学部 理学療法学科	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	不明	-	60	不明	-		
			11	九州栄養福祉大学	リハビリテーション学部 理学療法学科	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80	144	1.8		
	福岡県	3	05	国際医療福祉大学	福岡リハビリテーション学部 理学療法学科	○	80	431	5.4	80	389	4.9	80	284	3.6	80	226	2.8	80	262	3.3		
			05	帝京大学	福岡医療技術学部 理学療法学科	○	80	459	5.7	80	389	4.9	80	292	3.7	80	296	3.7	80	271	3.4		
			07	西九州大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	40	不明	-	40	120	3.0	40	81	2.0	40	不明	-	40	不明	-		
	熊本県	2	06	九州看護福祉大学	看護福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	×	60	518	8.6	60	296	4.9	60	218	3.6	60	210	3.5	60	332	5.5		
			07	熊本保健科学大学	保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	○	40	126	3.2	40	398	10.0	40	234	5.9	40	238	6.0	40	255	6.4		
	私立小計	63	-	-	-	-	2,646	28,123	10.6	2,856	25,333	8.9	3,096	21,433	6.9	3,396	22,440	6.6	3,636	25,049	6.9		
	国公私合計	86	-	-	-	-	3,146	30,690	9.8	3,366	27,710	8.2	3,636	23,530	6.5	3,936	24,666	6.3	4,176	27,419	6.6		

毎年の志願者数値は、旺文社発行の蛍雪時代6月臨時増刊号より抜粋

全国作業療法士養成大学志願状況等推移グラフ

設置区分	07年度				08年度				09年度				10年度				11年度			
	大学数	入学定員	志願者数	志願倍率																
国立	12	240	805	3.4	12	240	742	3.1	12	240	757	3.2	12	240	609	2.5	12	240	766	3.2
公立	8	230	933	4.1	8	230	939	4.1	9	260	741	2.9	9	260	872	3.4	9	260	917	3.5
私立	29	1,326	6,802	5.1	33	1,486	6,540	4.4	36	1,606	5,859	3.6	38	1,686	5,839	3.5	42	1,866	6,914	3.7
合計	49	1,796	8,540	4.8	53	1,956	8,221	4.2	57	2,106	7,357	3.5	59	2,186	7,320	3.3	63	2,366	8,597	3.6

年度によって志願者が不明または非公表の大学については、当該年度の大学数には加えているが、志願者は加えていない。そのため、全体の倍率は必ずしも正確ではない。



全国作業療法士養成大学志願状況（設置者別）

備考欄（ ）は3年次、《 》は2年次編入定員

設置区分	都道府県	校数	設置年	大学名	学部・学科・課程名	理学療法学科の有無	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度			2011年度			備考	
							入学定員	志願者	倍率	入学定員	志願者	倍率	入学定員	志願者	倍率	入学定員	志願者	倍率	入学定員	志願者	倍率		
国立（十二校）	北海道	1	04	北海道大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	18	66	3.7	18	47	2.6	18	42	2.3	18	73	4.1	18	30	1.7		
	青森県	1	01	弘前大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	20	80	4.0	20	77	3.9	20	103	5.2	20	44	2.2	20	71	3.6		
	秋田県	1	03	秋田大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	18	125	6.9	18	83	4.6	18	60	3.3	18	77	4.3	18	105	5.8		
	群馬県	1	97	群馬大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	20	87	4.4	20	75	3.8	20	96	4.8	20	52	2.6	20	59	3.0		
	石川県	1	96	金沢大学	医薬保健学域 保健学類 作業療法学専攻	○	20	65	3.3	20	60	3.0	20	50	2.5	20	55	2.8	20	46	2.3		
	長野県	1	03	信州大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	18	不明	-	18	不明	-	18	不明	-	18	不明	-	18	不明	-		
	愛知県	1	98	名古屋大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	20	53	2.7	20	60	3.0	20	41	2.1	20	33	1.7	20	76	3.8		
	京都府	1	04	京都大学	医学部 人間健康科学科 作業療法学専攻	○	18	56	3.1	18	53	2.9	18	50	2.8	18	41	2.3	18	41	2.3		
	兵庫県	1	95	神戸大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	20	92	4.6	20	79	4.0	20	72	3.6	20	61	3.1	20	74	3.7		
	広島県	1	92	広島大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	30	83	2.8	30	98	3.3	30	93	3.1	30	48	1.6	30	48	1.6		
	長崎県	1	02	長崎大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	18	53	2.9	18	45	2.5	18	79	4.4	18	57	3.2	18	57	3.2		
	鹿児島県	1	99	鹿児島大学	医学部 保健学科 作業療法学専攻	○	20	45	2.3	20	65	3.3	20	71	3.6	20	68	3.4	20	159	8.0		
	国立小計	12	-	-	-	-	-	240	805	3.4	240	742	3.1	240	757	3.2	240	609	2.5	240	766	3.2	
	公立（九校）	北海道	1	93	札幌医科大学	保健医療学部 作業療法学科	○	20	79	4.0	20	111	5.6	20	65	3.3	20	35	1.8	20	46	2.3	
山形県		1	00	山形県立保健医療大学	保健医療学部 作業療法学科	○	20	59	3.0	20	65	3.3	20	45	2.3	20	44	2.2	20	62	3.1	(5)	
茨城県		1	95	茨城県立医療大学	保健医療学部 作業療法学科	○	40	144	3.6	40	224	5.6	40	155	3.9	40	161	4.0	40	157	3.9		
埼玉県		1	99	埼玉県立大学	保健医療福祉学部 作業療法学科	○	40	228	5.7	40	165	4.1	40	140	3.5	40	141	3.5	40	195	4.9		
千葉県		1	09	千葉県立保健医療大学	健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	-	-	-	-	-	-	25	58	2.3	25	122	4.9	25	55	2.2		
東京都		1	05	首都大学東京	健康福祉学部 作業療法学科	○	40	112	2.8	40	109	2.7	40	64	1.6	40	141	3.5	40	61	1.5		
神奈川県		1	03	神奈川県立保健福祉大学	保健福祉学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	20	85	4.3	20	72	3.6	20	52	2.6	20	40	2.0	20	42	2.1	(2)	
大阪府		1	05	大阪府立大学	総合リハビリテーション学部 総合リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	20	88	4.4	20	68	3.4	25	54	2.2	25	71	2.8	25	92	3.7	(5)	
広島県		1	05	県立広島大学	保健福祉学部 作業療法学科	○	30	138	4.6	30	125	4.2	30	108	3.6	30	117	3.9	30	207	6.9		
公立小計	9	-	-	-	-	-	230	933	4.1	230	939	4.1	260	741	2.9	260	872	3.4	260	917	3.5		
私立（四二校）	北海道	1	07	北海道文教大学	人間科学部 作業療法学科	○	40	81	2.0	40	120	3.0	40	132	3.3	40	88	2.2	40	126	3.2		
	青森県	1	09	弘前医療福祉大学	保健学部 医療技術学科 作業療法学専攻	×	-	-	-	-	-	-	40	56	1.4	40	68	1.7	40	56	1.4		
	宮城県	08	東北福祉大学	健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	-	-	-	40	141	3.5	40	299	7.5	40	251	6.3	40	254	6.4			
		99	東北文化学園大学	医療福祉学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	80	165	2.1	80	149	1.9	80	100	1.3	80	101	1.3	80	74	0.9			
	栃木県	95	国際医療福祉大学	保健医療学部 作業療法学科	○	80	421	5.3	80	384	4.8	80	355	4.4	80	293	3.7	80	268	3.4			
		06	文京学院大学	保健医療技術学部 作業療法学科	○	40	462	11.6	40	277	6.9	40	205	5.1	40	174	4.4	40	248	6.2			
	埼玉県	05	目白大学	保健医療学部 作業療法学科	○	40	275	6.9	40	203	5.1	40	210	5.3	60	250	4.2	60	208	3.5			
		07	日本医療科学大学	保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	40	128	3.2	40	250	6.3	40	150	3.8	40	115	2.9	40	196	4.9			
		08	帝京平成大学	地域医療学部 作業療法学科	○	-	-	-	40	167	4.2	40	203	5.1	40	172	4.3	40	130	3.3			
	東京都	11	杏林大学	保健学部 作業療法学科	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	250	6.3		
		02	帝京平成大学	健康メディカル学部 作業療法学科	○	80	848	10.6	80	562	7.0	80	365	4.6	80	338	4.2	80	255	3.2			
		10	東京工科大学	医療保健学部 作業療法学科	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	123	3.1	40	292	7.3			
	神奈川県	94	北里大学	医療衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	38	365	9.6	38	261	6.9	38	227	6.0	38	217	5.7	38	181	4.8	(2)		
		02	昭和大学	保健医療学部 作業療法学科	○	30	148	4.9	30	173	5.8	30	116	3.9	30	121	4.0	30	141	4.7			
		06	国際医療福祉大学	小田原保健医療学部 作業療法学科	○	40	434	10.9	40	340	8.5	40	237	5.9	40	145	3.6	40	186	4.7			
	新潟県	1	01	新潟医療福祉大学	医療技術学部 作業療法学科	○	40	241	6.0	40	220	5.5	40	189	4.7	40	170	4.3	40	123	3.1		
	山梨県	03	健康科学大学	健康科学部 作業療法学科	○	80	223	2.8	80	64	0.8	80	59	0.7	80	56	0.7	80	41	0.5	(5)		
		08	帝京科学大学	医療科学部 作業療法学科	○	-	-	-	40	65	1.6	40	67	1.7	40	93	2.3	40	69	1.7			
	静岡県	04	聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	30	148	4.9	30	155	5.2	30	153	5.1	30	181	6.0	30	183	6.1			
		09	浜松大学	保健医療学部 作業療法学科	○	-	-	-	-	-	-	40	45	1.1	40	34	0.9	40	92	2.3			
		02	星城大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	40	235	5.9	40	143	3.6	40	159	4.0	40	134	3.4	40	144	3.6			
	愛知県	08	日本福祉大学	健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	-	-	-	40	357	8.9	40	382	9.6	40	315	7.9	40	430	10.8			
		04	藤田保健衛生大学	医療科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	35	219	6.3	35	176	5.0	35	182	5.2	35	157	4.5	35	159	4.5	(4)		
		10	中部大学	生命健康科学部 作業療法学科	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	137	3.4	40	147	3.7			
	京都府	06	佛教大学	保健医療技術学部 作業療法学科	○	40	560	14.0	40	299	7.5	40	286	7.2	40	430	10.8	40	454	11.4			
		04	藍野大学	医療保健学部 作業療法学科	○	60	67	1.1	60	65	1.1	60	33	0.6	60	40	0.7	60	104	1.7			
	大阪府	06	大阪府立リハビリテーション大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	60	79	1.3	60	54	0.9	60	56	0.9	60	26	0.4	60	47	0.8			
		09	大阪保健医療大学	保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	-	-	-	-	-	-	40	65	1.6	40	91	2.3	40	94	2.4			
		11	関西福祉科学大学	保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	130	3.3			
		05	四条学院大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	40	176	4.4	40	64	1.6	40	34	0.9	40	42	1.1	40	74	1.9			
		05	神戸学院大学	総合リハビリテーション学部 医療リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	40	417	10.4	40	373	9.3	40	189	4.7	40	298	7.5	40	236	5.9			
	兵庫県	06	姫路獨協大学	医療保健学部 作業療法学科	○	40	非公表	-	40	360	9.0	40	305	7.6	40	238	6.0	40	200	5.0			
		07	兵庫医療大学	リハビリテーション学部 作業療法学科	○	40	190	4.8	40	133	3.3	40	173	4.3	40	168	4.2	40	205	5.1			

備考欄 ()は3年次、《 》は2年次編入定員

設置 区分	都道府県	校数	設置年	大学名	学部・学科・課程名	理学療法学 科の有無	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度			2011年度			備考
							入学定員	志願者	倍率													
私立 (四一校)	岡山県	2	95	川崎医療福祉大学	医療技術学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	33	229	6.9	33	339	10.3	33	321	9.7	33	273	8.3	33	313	9.5	(3)
			95	吉備国際大学	保健科学部 作業療法学科	○	40	194	4.9	40	117	2.9	40	80	2.0	40	87	2.2	40	92	2.3	
	広島県	1	11	広島国際大学	保健医療学部 総合リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	276	6.9	
			11	九州栄養福祉大学	リハビリテーション学部 作業療法学科	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	60	1.5
	福岡県	3	05	国際医療福祉大学	福岡リハビリテーション学部 作業療法学科	○	40	183	4.6	40	138	3.5	40	137	3.4	40	100	2.5	40	100	2.5	
			05	帝京大学	福岡医療技術学部 作業療法学科	○	40	119	3.0	40	88	2.2	40	72	1.8	40	81	2.0	40	67	1.7	
	佐賀県	1	07	西九州大学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	40	不明	-	40	53	1.3	40	39	1.0	40	不明	-	40	不明	-	
	熊本県	1	07	熊本保健科学大学	保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	○	40	50	1.3	40	141	3.5	40	104	2.6	40	119	3.0	40	128	3.2	
	宮崎県	1	00	九州保健福祉大学	保健科学部 作業療法学科	×	40	145	3.6	40	109	2.7	40	74	1.9	40	113	2.8	40	81	2.0	
	私立小計	42	-	-	-	-	-	1,326	6,802	5.1	1,486	6,540	4.4	1,606	5,859	3.6	1,706	5,839	3.4	1,866	6,914	3.7
国公私合計	63	-	-	-	-	-	1,796	8,540	4.8	1,956	8,221	4.2	2,106	7,357	3.5	2,206	7,320	3.3	2,366	8,597	3.6	

毎年の志願者数値は、旺文社発行の蛍雪時代6月臨時増刊号より抜粋



北海道医療大学 リハビリテーション科学部 進学需要調査(1)

1. 調査対象高校生の男女数、卒業後の進路

男女数の結果

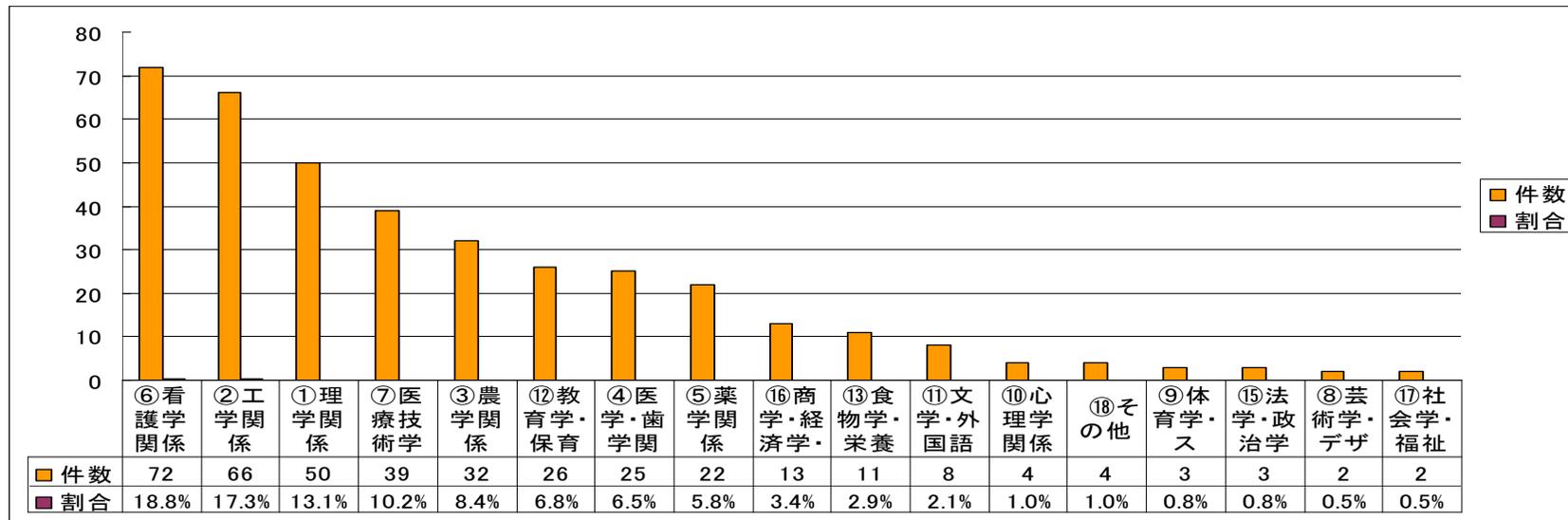
選択肢	件数	全体	不明を除く
男性	187	42.1%	46.4%
女性	216	48.6%	53.6%
不明	41	9.2%	
サンプル数	444	100.0%	

高校生卒業後の進路の結果

選択肢	件数	全体	不明を除く
大学進学	404	91.0%	93.3%
短期大学進学	3	0.7%	0.7%
専門学校進学	21	4.7%	4.8%
就職	3	0.7%	0.7%
その他	2	0.5%	0.5%
不明	11	2.5%	
サンプル数	444	100.0%	

➤ 大学・短大進学希望が94%となった。北海道の大学等進学率(平成23年41.1%)を大幅に上回る結果となった。

2. 高校生の進学希望分野



➤ 理系、資格取得可能な学問分野に進学需要があることが分かった。北海道の就職環境の厳しさが進路選択に影響を及ぼしていることが推察される

➤ 上位を理系が独占する結果となった。上位4分野で全体の59.4%を占める

・ 1位看護学関係、2位工学関係、3位理学関係、4位農学関係となった。

➤ 医療関係(医療技術、医学・歯学)、薬学関係で全体の41.3%を占める

・ 看護学関係18.8%、医療技術関係10.2%、医学・歯学関係6.5%、薬学関係5.8%。

➤ 北海道の就職環境の厳しさが進学希望分野に影響していることが推察される

・ 高校生は将来の就職を考慮して、資格取得可能な分野・専門性の高い分野を選択していると推察される。

※グラフは不明22名を除く

3. アンケート・インタビュー 調査結果要旨

➤ 進学需要

■ 進学の際重視する事項

✓ 専攻分野について

- 北海道では理系、資格系が重視されていることが分かった。

✓ 進路指導の傾向について

- 大学の伝統・知名度を重視し、生徒の入学できそうな大学を勧めるという指導方法から、生徒の将来から逆算して進路を選択させる方法に変わりつつあることが分かった。

✓ 取得できる資格

- 高校進路指導教員の資格に対する意識は、予備校関係者、高校生に比べると低いことが分かった

✓ 学費

- 保護者は初年度費用を気にする傾向があることが分かった。

✓ 奨学金

- 一年間だけの奨学金ではなく、4年間継続の奨学金が望まれていることが分かった。
- 入学時点で受給が確定する奨学金は進路に大きな影響を与えることが分かった。
- 入学手続き段階で受給が確定しない奨学金は評価されないことが分かった。

■ 高校生が進学の際に重視する事項

- ✓ 学部・学科の専攻分野、入試難易度・入試科目に高い興味を示していることがわかった。大学入学後のことよりも入試に関することを重視している。

■ 高校進路指導教員が進路指導の際に重視する事項

- ✓ 学部・学科の専攻分野、入試難易度、学費を重視していることが分かった。
- ✓ 学部・学科の専攻分野を特に重視していることが分かった。

■ 予備校関係者が進路指導の際に重視している事項

- ✓ 学部・学科の専攻分野、取得できる資格、就職実績、学費、家族の意見を重視していることが分かった。
- ✓ 高校進路指導教員と比較して、幅広く現実的な面まで配慮して進路指導を行っていることが推察される。

■ 北海道医療大学健康科学部への進学意向

- ✓ 高校進路指導教員、予備校関係者の全てが生徒に対して北海道医療大学健康科学部への進学を勧める、若しくは進学候補の一つとして生徒に勧める意向を持っていることが分かった。
- ✓ 高校生の約9%が北海道医療大学健康科学部に対する何らかの進学意向を持っていることが分かった

4. 新学部への進学意向(進路指導教員、予備校関係者)

進路指導教員、予備校関係者の結果

No.	選択肢	件数	全体
1	進学を勧める	4	66.7%
2	進学候補の一つとして勧める	2	33.3%
3	分からない	0	
4	進学を勧めない	0	
	サンプル数	6	100.0%

生徒に進学を勧める又は進学候補の一つとして勧める理由

➤ 理学療法士、作業療法士という資格が取得できることが評価されている。北海道医療大学の姿勢、付属病院がある点に対して高い評価が得られた。

➤ 大学の真摯な姿勢と教育環境の良さに期待

・非常に期待している。北海道医療を担う人材育成、大学の施設等、大学の真摯な姿勢と教育環境の良さに期待します。(高校進路指導教員)

➤ 医療大の勢力から行くとカリキュラム、スタッフとも相当なものが出来るはず

・基本的には生徒に進学を勧める。ただし、現実的にはどういう先生が来られて、カリキュラムが実際にはどうなるのを見ないと最終的には分からない。医療大はそんなに変なことはしないと思うので進めると思う。文教大も医大の先生を中心にやっているのだから変なことをやっているわけではない。ただ医療大の勢力から行くとカリキュラム、スタッフ共に相当なものが出来るはずなので間違いなく生徒を送ると思う。(予備校関係者)

➤ 資格が魅力。文教さんと比べても付属病院があるなどかなり違う

・結局資格に魅力がある。特に道内の就職を考えると医療系なのが良い。偏差値的に文教か医療大さんかという話になった場合、私は医療大さんを勧める。理由は環境が良い。文教さんがどのようにやられているか分かりませんが、もともと文系しかなかった大学にポッと作った感じが否めない。医療大さんは付属病院があるのは大きい。さらにリハビリセンターまで作るとなるとかなり違ってくるのではないかと。(予備校関係者)

➤ 北海道には理学療法、作業療法の学部学科が少ないので選択肢が広がる

・北海道には理学療法、作業療法の学部学科がそれほど多くないので第一志望がダメだった場合の選択肢の一つとして受験を勧めたい。(予備校関係者)

5. 新学部への進学意向(高校生)

高校生の結果

No.	選択肢	件数	全体	不明を除く
1	進学を希望する	6	1.5%	1.6%
2	進学を検討する	28	6.9%	7.3%
3	分からない	122	30.2%	31.6%
4	進学を希望しない	230	56.9%	59.6%
5	不明	18	4.5%	
	サンプル数	404	100.0%	

北海道内潜在需要予測

平成23年卒業者総数	46,672人	平成25年卒業者総数予測	46,037人※2
大学等進学者数※1	18,878人	大学等進学者数	18,598人※3
大学等進学率	40.4%	大学以外進学者数	▲3,475人※4
		大学進学者数予測	15,123

北海道内潜在需要予測結果

北海道医療大学健康科学部受験潜在需要 北海道医療大学健康科学部進学希望者数
 $15,123 \times (1.6\% + 7.3\%) = \underline{1,345}$ 人 $15,123 \times 1.6\% = \underline{241}$ 人

※数値は平成23年学校基本調査速報(北海道分)より

※1 大学等進学者数=大学、短期大学、放送大学、高等学校専攻科、特別支援学校高等部専攻科へ進学した者

※2 平成23年度高等学校2年生

※3 大学等進学率は平成23年同様と仮定

※4 短期大学進学者2,965人+500人で仮定

北海道医療大学 三方針

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)
<p>【大学全体(全学共通)】</p> <p>北海道医療大学は、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追求し、社会の要請と期待に応えるため、保健と医療と福祉に関する高度の研究に裏打ちされた良質な教育を行います。その教育を通して、チーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した専門職業人を育成することを目標としています。</p> <p>そのため、本学では次のような人材を広く求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学後の修学に必要な基礎的学力を有していること。 2. 協調性や基礎的コミュニケーション能力を有していること。 3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心があること。 4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること。 5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っていること。 	<p>【大学全体】</p> <p>北海道医療大学は、「保健と医療と福祉の連携・統合」をめざす教育理念を基本として、広く社会に貢献できる確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成するために、「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」からなる学士課程教育を組んでいます。</p>	<p>【大学全体】</p> <p>北海道医療大学は、各学部・学科の教育理念・目標に沿った学士課程の授業科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応する高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけ、かつ各学部が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与します。</p>

<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>
	<p>【薬学部】</p> <p>本学「入学者受入れの方針」に従い薬学部へ入学した学生に対し、薬学部の教育理念・目標に基づき、以下の方針のもとで教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学年を通して、薬学教育モデルコアカリキュラムに基づく教育を展開するとともに、チーム医療の重要性を体験する教育プログラムなどを通して、本学で学んだアイデンティティが自覚できるプログラムを構築する。 2. 1年から2年次にかけては、豊かな人間性の醸成、コミュニケーション能力の向上、薬学専門教育へ向けての基礎学力向上を主目的とした全学教育科目を中心とした教育プログラムを配当する。 3. 2年次以降は、薬学教育における基礎薬学領域から社会薬学領域、医療薬学領域へと順次段階を経て総合的に修得できるよう専門教育科目を中心とした教育プログラムを展開する。 4. 4年次では、薬学教育モデルコアカリキュラムの「一般目標」と「到達目標」に基づき、長期実務実習前の共用試験(CBT、OSCE)に対応できる総合的な力を身につけさせる。 5. 5年次には、長期実務実習を配当し、4年間で修得した知識・技能・態度を医療現場で実践して、医療人として必要な基礎的・応用的能力を養成する。5年次後半から6年次では、科学者としての能力を涵養するため、少人数制による総合薬学研究を行う。 6. 6年次では、総合薬学研究と並行して、身につけた薬剤師として必要な知識・技能・態度を統合して発揮できるよう総合的な演習を行う。 	<p>【薬学部】</p> <p>本学薬学部卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊重を基本とした他者に対する深い愛情と豊かな人間性を身につけている。 2. 最新の医療分野の進展を理解し、それを遂行できる薬学の基本的知識・技術を修得している。 3. 医薬品に関する基礎および応用の科学的知識を修得している。 4. チーム医療を担う一員として、他のスタッフと協調して医療に貢献できる態度と技能を身につけている。 5. 国際的および地域的視野を有する医薬品の専門家として活躍できる能力を身につけている。 6. 薬剤師として保健・医療分野における社会的使命を遂行しうる能力を修得している。

<p style="text-align: center;">入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p style="text-align: center;">教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p style="text-align: center;">学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>
	<p>【歯学部】</p> <p>本学「入学者受入れの方針」に従い歯学部へ入学した学生に対し、歯学部の教育理念・目標に基づき、以下の方針のもとで教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次では、歯科医師に必要な知識・技能・態度を生涯学ぶための自主的学習意欲を身につけさせ、専門教育を学ぶ上で必要な基礎的知識とコミュニケーション能力を修得させる。 2. 2年次では、1年次で身につけた学習習慣を基に、歯科医療に必要な基礎科目である人体の正常構造・機能、人体の発生・成長・発達・加齢、口腔の生態系、生体材料、医療面接などに関する理解を深めさせる 3. 3年次には、基礎科目に加えて臨床科目を配当する。臨床系科目の実習では、本学が独自に開発した臨床シミュレーションシステムを用いて、一連の診療術式に関する理解を深めさせる。また、高齢者・全身疾患を有する患者への対応を理解できるようにするため、医学に関する科目も配当する。 4. 4年次では、実際の医療技術について学ぶ臨床科目を配当する。また、臨床実習前の共用試験(CBT、OSCE)に対応できる総合的な知識・技能・態度を身につけさせる。 5. 5年次では、これまでの基礎および臨床の講義と実習から得た知識を実際の診療に応用する臨床実習を通して、歯科医学・医療の理解を深化させる。 6. 6年次前期では、5年次に引き続き臨床実習を通して、歯科医学の理解をより完全なものにさせる。後期には、これまで学んだ歯科医学の知識・技能・態度を体系的・総合的に修得させる。 	<p>【歯学部】</p> <p>本学歯学部卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々のライフステージにおける疾患の予防、診断および治療を実践するための基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健、歯科医療技術を修得している。 2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。 3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につけている。 4. 歯科医療の専門家として、地域的、国際的視野で活躍できる能力を身につけている。 5. チーム医療(保健と医療と福祉)において協調し建設的に行動できる態度と能力を身につけている。

<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>
	<p>【看護福祉学部(看護学科・臨床福祉学科共通)】</p> <p>本学「入学者受入れの方針」に従い看護福祉学部へ入学した学生に対し、看護福祉学部の教育理念・目標に基づき、以下の方針のもとで教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護福祉学部の教育理念である「看護と福祉の連携・統合」を積極的に展開するために、看護学科・臨床福祉学科に共通する4領域～「人間」、「環境」、「健康」、「実践」～を設定し、それらの概念を基本として、各領域における授業科目間の関連性と一貫性を保つ。 2. 1年次では、全学教育科目および専門教育科目を通し、大学教育の効果的な発展を促進するとともに、学習動機の高まりを図り、自律性と協調性を身につけさせる。 3. 2年次では、全学教育科目と専門教育科目の融合を図ることにより、看護・福祉に共通する資質の確立とともに、専門知識の基礎を修得させる。 4. 3年次では、講義科目および演習・実習を通し専門知識を深め、最終学年における学習の総合化に向けて準備させる。 5. 4年次では、3年次までの成果の上に立ち、さらなる実習、専門演習、卒業研究(卒業論文)を通し、理論と実践の双方に習熟した専門資質を養成する。 	<p>【看護福祉学部(看護学科・臨床福祉学科共通)】</p> <p>本学看護福祉学部卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。 2. 看護・福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切な判断と解決のできる学術的・実践的能力を身につけている。 3. 保健・医療・福祉をはじめ人間に関する様々な領域の人々と連携、協働できる実践的能力を身につけている。 4. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域を発展させる能力を身につけている。 5. 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。

<p style="text-align: center;">入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p style="text-align: center;">教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p style="text-align: center;">学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>
	<p>【心理科学部】</p> <p>本学「入学者受入れの方針」に従い心理科学部へ入学した学生に対し、心理科学部の教育理念・目標に基づき、以下の方針のもとで教育を実施する。</p> <p>臨床心理学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次には、大学教育へのスムーズな移行を図るために、導入教育を行う。また、健康・運動および情報化社会への対応科目も1年次に配当する。 2. 自己認識、他者・組織・社会的ルール等を理解するために、教養科目を1年次から4年次にわたって配当する。また、社会のグローバル化・多文化に対応する外国語科目を1年次から3年次に配当する。 3. 1年次から3年次にかけては、医療基盤科目、医科学の履修を通し、心の基礎的な知識を身につけさせる。特に身体科学と対応することにより、心の機能・構造を理解させる。 4. 1年次より、専門教育科目の体系化・構造化を図り、科目の履修目的が明確となるよう配慮するとともに、臨床心理専門領域の理解・深化を目的とした科目を配当する。 5. 2年次より、心理臨床の職能人としての自覚を促し、キャリア形成を図るため、基礎心理学・医療関連・産業関連等の心理臨床の基本的技能を学び、自立した研究の初歩を修得する科目を配当する。 6. 3年次以降は、専門演習、卒業研究を通して自らテーマを決めて研究を实践させる。 	<p>【心理科学部】</p> <p>本学心理科学部卒業のために臨床心理学科、言語聴覚療法学科ごとに以下の要件を満たすことが求められる。</p> <p>臨床心理学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の問題にかかわる職能人として必要な幅広い専門知識を修得している。 2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、専門性を維持向上させる能力を獲得している。 3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し援助する基礎的スキルを修得している。

	<p>言語聴覚療法学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚士養成および言語聴覚学の発展を目的とするカリキュラムを展開する。言語聴覚士国家試験受験取得に必要な指定規則に定められた科目を配当する。 2. 幅広い教養を身につけ、多様な価値観を理解できるようにするために、教養科目を1、2年次に配当する。また、健康・運動および情報化社会への対応科目も1年次に配当する。 3. 社会のグローバル化に対応できるように、外国語科目を1～3年次に配当する。 4. 1、2年次では、基礎医学、言語科学、認知科学関連科目の履修を通して、言語聴覚士として医療に従事するために必要な基本的な知識を身につけさせる。 5. 3年次前半では言語聴覚障害に関する専門領域の理解を目的とした科目を配当する。3年次後半では、言語聴覚障害の実践的な対処法を学び、様々な検査・評価法を修得する科目を配当し、専門職能人としての基本を身につけさせる。 6. 4年次では、言語聴覚士国家試験に向けたまとめの学習および臨床実習、研究体験を実践させる。 	<p>言語聴覚療法学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚士としての幅広い専門知識と技能を有し、近年の著しい医療技術の進展に合わせて常に専門性を検証し、積極的に自己研鑽できる能力を身につけている。 2. 生命の尊厳と専門性の関わりを常に意識し、患者の抱える問題に共感できる感性を身につけている。 3. 地域社会や国際社会において、言語聴覚障害に関する医療の発展に貢献しうる学識と実践力を身につけている。
--	---	--



北海道医療大学 リハビリテーション科学部 就職需要調査

1.就職需要 既存データ分析:理学療法士

人口千人当たりの理学療法士数

協会会員数:社団法人理学療法士協会会員数(2011年4月現在)

想定人数:協会会員数を協会組織率0.799で除した数

人口:平成21年度 総務省統計局全国人口推計(H21年10月1日現在)

順位	都道府県	協会会員数(人)	想定人数(人)	人口(千人)	想定人数(人)／人口(千人)
1	大阪府	4,902	6,135	1,399	4.38
2	兵庫県	2,879	3,603	1,004	3.58
3	広島県	1,829	2,289	718	3.18
4	岡山県	1,229	1,538	591	2.6
5	長崎県	1,410	1,764	852	2.07
6	愛媛県	1,047	1,310	766	1.71
7	熊本県	1,541	1,928	1,430	1.34
8	高知県	1,061	1,327	999	1.32
9	鹿児島県	1,734	2,170	1,708	1.27
10	京都府	1,393	1,743	1,405	1.24
11	徳島県	777	972	789	1.23
12	静岡県	1,845	2,309	2,092	1.1
13	宮城県	948	1,186	1,096	1.08
14	沖縄県	1,085	1,357	1,382	0.98
15	福岡県	3,679	4,604	5,053	0.91
16	山梨県	605	757	867	0.87
17	宮崎県	754	943	1,132	0.83
18	佐賀県	787	984	1,195	0.82
19	福井県	527	659	808	0.81
20	山口県	878	1,098	1,455	0.75
21	長野県	1,259	1,575	2,159	0.72
22	北海道	3,124	3,909	5,507	0.7
23	石川県	651	814	1,165	0.69
24	大分県	966	1,209	1,814	0.66
25	群馬県	1,039	1,300	2,007	0.64

順位	都道府県	協会会員数(人)	想定人数(人)	人口(千人)	想定人数(人)／人口(千人)
26	愛知県	3,545	4,436	7,418	0.59
27	香川県	670	838	1,436	0.58
28	山形県	523	654	1,179	0.55
29	新潟県	1,056	1,321	2,378	0.55
30	三重県	831	1,040	1,870	0.55
31	富山県	474	593	1,095	0.54
32	茨城県	1,252	1,566	2,960	0.52
33	青森県	568	710	1,379	0.51
34	福島県	837	1,047	2,040	0.51
35	千葉県	2,432	3,043	6,139	0.49
36	埼玉県	2,658	3,326	7,130	0.46
37	東京都	4,642	5,809	12,868	0.45
38	神奈川県	3,193	3,996	8,943	0.44
39	栃木県	701	877	2,006	0.43
40	秋田県	382	478	1,340	0.35
41	岩手県	593	742	2,336	0.31
42	岐阜県	950	1,188	3,792	0.31
43	滋賀県	599	749	2,622	0.28
44	鳥取県	421	526	1,942	0.27
45	島根県	437	546	2,863	0.19
46	和歌山県	781	977	5,583	0.17
47	奈良県	732	916	8,801	0.1
	全国計	66,226	82,861	127,513	0.64

都道府県別の理学療法士想定人数から、人口千人当りの理学療法士人数を算出、1位は大阪府で人口千人当たり4.38人。再下位は奈良県で千人あたり0.1人。上位5位はどれも千人当たり2人以上となっている。

年齢別人口構成にも影響されるが、今後高齢化が進むことを考慮すると、北海道は全国22位で、人口千人当たり0.7人と1人を下回っており、地域需要はまだあると考えられる。

2.就職需要 既存データ分析:作業療法士

人口千人当たりの作業療法士数

協会会員数:社団法人作業療法士協会会員数(2011年11月現在)

想定人数:協会会員数を協会組織率0.799で除した数

人口:平成21年度 総務省統計局全国人口推計(H21年10月1日現在)

順位	都道府県	協会会員数(人)	想定人数(人)	人口(千人)	想定人数(人)／人口(千人)
1	兵庫県	1,778	2,225	1,004	2.21
2	岡山県	1,016	1,271	591	2.15
3	大阪府	2,324	2,908	1,399	2.07
4	広島県	1,173	1,468	718	2.04
5	愛媛県	849	1,062	766	1.38
6	長崎県	773	967	852	1.13
7	宮城県	803	1,005	1,096	0.91
8	熊本県	1,004	1,256	1,430	0.87
9	徳島県	499	624	789	0.79
10	静岡県	1,316	1,647	2,092	0.78
11	鹿児島県	1,065	1,332	1,708	0.77
12	京都府	848	1,061	1,405	0.75
13	山口県	879	1,100	1,455	0.75
14	山梨県	504	630	867	0.72
15	高知県	570	713	999	0.71
16	福岡県	2,884	3,609	5,053	0.71
17	石川県	617	772	1,165	0.66
18	長野県	1,090	1,364	2,159	0.63
19	沖縄県	689	862	1,382	0.62
20	山形県	576	720	1,179	0.61
21	福井県	389	486	808	0.6
22	青森県	594	743	1,379	0.53
23	富山県	469	586	1,095	0.53
24	北海道	2,327	2,912	5,507	0.52
25	宮崎県	448	560	1,132	0.49

順位	都道府県	協会会員数(人)	想定人数(人)	人口(千人)	想定人数(人)／人口(千人)
26	佐賀県	459	574	1,195	0.48
27	福島県	769	962	2,040	0.47
28	大分県	686	858	1,814	0.47
29	群馬県	719	899	2,007	0.44
30	新潟県	852	1,066	2,378	0.44
31	香川県	490	613	1,436	0.42
32	秋田県	430	538	1,340	0.4
33	茨城県	885	1,107	2,960	0.37
34	栃木県	583	729	2,006	0.36
35	三重県	547	684	1,870	0.36
36	愛知県	1,860	2,327	7,418	0.31
37	岩手県	535	669	2,336	0.28
38	千葉県	1,358	1,699	6,139	0.27
39	神奈川県	1,977	2,474	8,943	0.27
40	埼玉県	1,462	1,829	7,130	0.25
41	東京都	2,625	3,285	12,868	0.25
42	鳥取県	384	480	1,942	0.24
43	滋賀県	380	475	2,622	0.18
44	岐阜県	504	630	3,792	0.16
45	島根県	373	466	2,863	0.16
46	和歌山県	353	441	5,583	0.07
47	奈良県	420	525	8,801	0.05
48	海外	21	26		
49	不明	548	685		

全国計	44,135	55,213	127,513	0.43
-----	--------	--------	---------	------

* 海外、不明を除く

都道府県別の作業療法士想定人数から、人口千人当たりの作業療法士人数を算出、1位は兵庫県で人口千人当たり2.21人。再下位は奈良県で千人あたり0.05人。上位4位までが千人当たり2人以上となっている。

年齢別人口構成にも影響されるが、今後高齢化が進むことを考慮すると、北海道は全国24位で、人口千人当たり0.52人と1人を下回っており、理学療法士と同じく、地域需要はまだあると考えられる。

3.就職需要 アンケート・インタビュー調査結果要旨

➤ 就職需要

■ 採用計画について

- ✓ 調査対象施設の38.1%(100施設)が5年以内に理学療法士の採用を計画していることが分かった。
- ✓ 調査対象施設の33%(92施設)が5年以内に作業療法士の採用を計画していることが分かった。
- ✓ 都心部では定期採用は少なく欠員補充対応だが、理学療法士、作業療法士には若い女性が多く、離職する可能性が高いことが推察される。

■ 採用実績について

- ✓ 調査対象施設の約67.3%(179施設)が過去3年以内に理学療法士を採用していることが分かった。
- ✓ 調査対象施設の62.9%(166施設)が過去3年以内に作業療法士を採用していることが分かった。
- ✓ 調査対象施設では過去3年間で428人以上の理学療法士の採用があったことが分かった。
- ✓ 調査対象施設では過去3年間で361人以上の作業療法士の採用があったことが分かった。
- ✓ 調査対象施設では1施設当り年間0.53名以上の理学療法士の採用があったことが分かった。
- ✓ 調査対象施設では1施設当り年間0.45名以上の作業療法士の採用があったことが分かった。

■ 採用意向について

- ✓ 調査対象施設の約4割が北海道医療大学健康科学部卒業生に対する何らかの採用意向を持っていることが分かった。
- ✓ 僻地、過疎地域では人材が不足している可能性が高い。

4.就職需要 調査対象病院病床数・診療数

調査対象病院の病床数

選択肢	件数	全体	不明を除く
病床なし	34	12.3%	/
1～30床	25	9.0%	
31～60床	13	4.7%	
61～90床	39	14.1%	
91～120床	52	18.8%	
121床以上	114	41.2%	
不明	0	0.0%	
サンプル数	277	100.0%	

➤ 病床数121床以上が41.2%、90～120床が18.8%、61～90床が14.1%という結果になった。

リハビリテーション科1日あたり診療数

選択肢	件数	全体	不明を除く
0～50人	106	38.3%	53.0%
51～100人	50	18.1%	25.0%
101人～150人	20	7.2%	10.0%
151人～200人	11	4.0%	5.5%
201人以上	13	4.7%	6.5%
不明	77	27.8%	
サンプル数	277	100.0%	

➤ 1日診療数50人以下の医療機関が53%と全体の半数を上回る結果となった。

5.就職需要 在籍する理学療法士、作業療法士

在籍理学療法士数

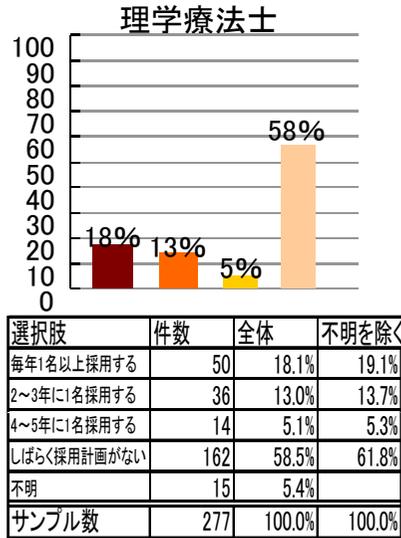
選択肢	件数	全体	不明を除く
0人	16	5.8%	6.8%
1～5人	158	57.0%	66.7%
6～10人	29	10.5%	12.2%
11人～15人	18	6.5%	7.6%
16人～20人	7	2.5%	3.0%
21人以上	9	3.2%	3.8%
不明	40	14.4%	
サンプル数	277	100.0%	

在籍作業療法士数

選択肢	件数	全体	不明を除く
0人	21	7.6%	9.4%
1～5人	156	56.3%	69.6%
6～10人	29	10.5%	12.9%
11人～15人	7	2.5%	3.1%
16人～20人	6	2.2%	2.7%
21人以上	5	1.8%	2.2%
不明	53	19.1%	
サンプル数	277	100.0%	

➤ 理学療法士、作業療法士共に1～5人の医療機関が50%以上という結果になった。

6.就職需要 理学療法士・作業療法士の採用計画



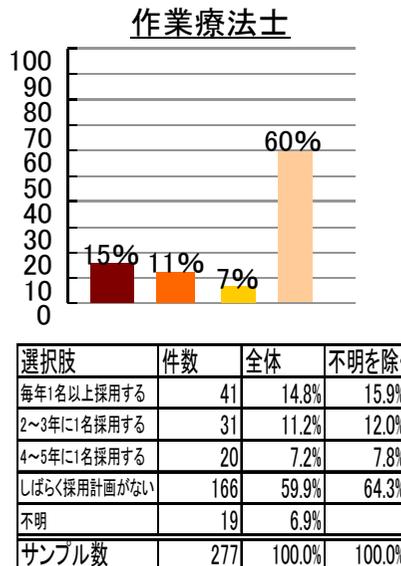
➤ 長寿化による高齢化社会の進行で理学療法士、作業療法士の需要は高まる

➤ 長寿化による高齢化社会の進行で、理学療法士、作業療法士の需要は高まる

- ・医療、介護、福祉等の制度によって、今後、需要に見合った投資が行なわれるかわからないが、患者さんの実態としての需要からいえば、高齢化と長寿化により理学療法士・作業療法士の需要は間違いなく増える。(医療関係者)
- ・行政政策で考えると、医療は早めに退院を推進しているので、リハビリは重要。診療報酬制度やリハビリテーション病棟施設を整備し、人材を配置する必要性は高い。(医療関係者)
- ・あと10年程度で、団塊の世代が引退していくため、若い世代が育っても退職によって相殺されていく。(医療関係者)



➤ 3割程度が計画的に採用を行なう一方、半数以上は計画的採用はない。また、採用には法律制度の影響も大きい。



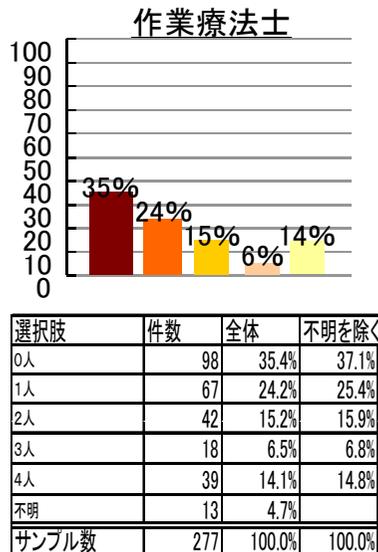
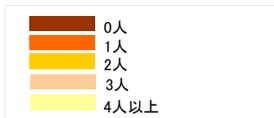
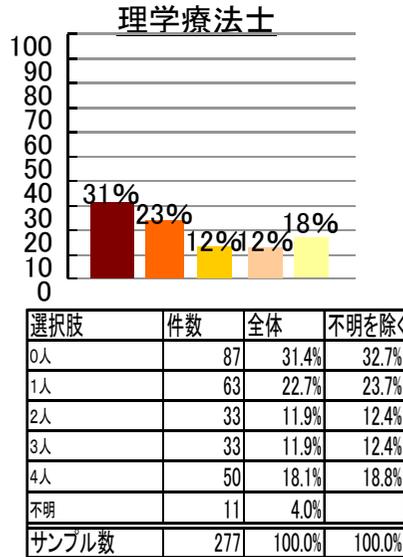
➤ 3割程度は計画的に採用。半数以上の医療関連機関では計画的な採用は無い

- ・採用は退職等による欠員補充の形で行なう。(医療関係者)
- ・最低人員配置基準で職員を配置しているため現在採用している職員が退職しない限り新規職員採用することは考えていない。(医療関係者)

➤ 求人には法律制度の影響も大

- ・国家資格が必要な職種は法律制度で動いていくため、今後求人が増えるかどうかは、法律制度の動向による。(作業療法士)
- ・これまで旧法の肢体不自由者更生施設であったのでPTの設置が必要だったが、何年もPTに来てもらえなかった。H23. 10月より自立支援法の障害者支援施設に移行しPT・OTの設置義務はなくなった。(医療関係者)
- ・診療報酬制度が明らかになって初めて採用計画が立てられる。(医療関係者)

7.就職需要 過去3年間の採用実績



➤ 6割以上の医療機関が過去3年に1名以上採用、3割は採用なし

➤ 医療機関での定員は充足しており定期的採用は少ないが、欠員充足による採用は行なわれている。

- ・現在は人員が充足されており欠員の時点で公募を行なう。(医療関係者)
- ・女性比率の高い職種(OT70%、PT60%)のため結婚による退職も多く、それを考慮すると、過去3年間ではOT、PT共毎年4人以上を採用している。(医療機関関係者)
- ・新しく病棟を作るなど業務・事業拡大していくときは、相当数の採用を行っている。(医療関係者)
- ・現在訪問リハビリを拡大している。若い女性が多く、結婚退職が多い。その補充で過去3年間で4人以上採用している。(医療関係者)

➤ 人材需要に地域や規模による格差が見られる

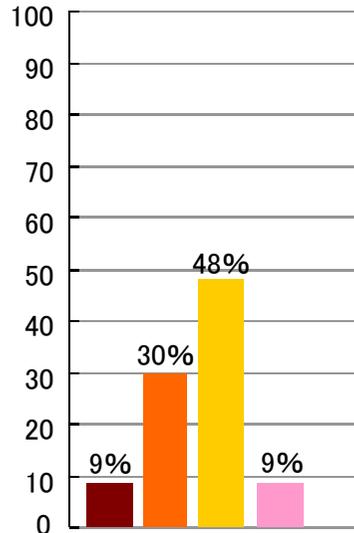
➤ 僻地、過疎地域では人材が不足しているが、都市部では大規模機関以外の人材は充足しており、採用に地域や規模による格差がある。

- ・田舎には人材が集まらず苦慮している。僻地医療を志すような教育を考えて欲しい。(医療関係者)
- ・OT・PTがとにかく不足している。以前OT・PTの採用を希望していたが応募が無い。(医療関係者)
- ・OT・PTは充足しており、これ以上養成施設は必要ないとする。(医療関係者)
- ・職員定数に不足が出たとき採用を行なっている。(医療関係者)
- ・通所介護施設のため採用等に限りがある。(医療関係者)
- ・職員定数に不足が出たとき採用を行なっている。(医療関係者)

調査対象病院の過去3年間の採用実績

	過去3年採用数	1年当り採用数	1施設当り年間採用数
理学療法士	428名	143名	0.53名
作業療法士	361名	120名	0.45名

8.就職需要 新学部卒業生の採用意向



【凡例】



選択肢	件数	全体	不明を除く
採用を希望する	24	8.7%	9.0%
採用を検討する	82	29.6%	30.8%
分からない	134	48.4%	50.4%
採用を希望しない	26	9.4%	9.8%
不明	11	4.0%	
サンプル数	277	100.0%	

➤ 採用では出身大学よりも個人の資質が重視される

➤ 出身大学よりも個人の能力、人間性を重視

- ・採用はどのような教育環境でどのような種目を勉強したかではなく、その人の能力、人柄、資格の有無によって決まる。(医療関係者)
- ・採用にあたってはあくまで個人の資質を重視している。(医療関係者)
- ・卒業校では採用を決定しない。入職を希望される方の熱意や人柄等で検討する。(医療関係者)
- ・出身校で基準は左右されない。現在でも貴校出身STと他校出身者に差はない。(医療関係者)
- ・学生の個人差は大きいので出身校にこだわらず、幅広く人材を集めたい。(医療関係者)
- ・教育内容に関しては感心するところですが、最後は人です。医療者として人柄を含め総合的に評価していくことになります。(医療関係者)

➤ 新学部から質の高い人材が送り出されることへの期待が大きい

➤ 質の高い人材を送り出すための教育内容へ一定の評価（採用意向を持つ医療機関の7割が教育内容を評価）

- ・専門学校では学生の人数に対して教員の人数が少なく指導者との接触が少ない。学生アドバイザー制度等の導入によるキメ細かな指導に魅力を感じる。(医療関係者)
- ・社会福祉、看護、心理、STといった既存学部に加えた医学部を除く総合医療大学という環境で学んだ学生に魅力を感じる。(医療関係者)
- ・精神科作業療法に熱意のある人材の育成を希望する。(医療関係者)
- ・今までの教育実績から前向きな学生を育てただけだと期待している(医療関係者)
- ・学習・教育体制に期待すると共に質の高い若人の育成・輩出をお願いします。(医療関係者)
- ・当院はクリニックですがクリニックレベルでも1人でリハビリ担当できる人材の育成を期待しています。(医療関係者)
- ・PT2名、OT2名は最低必要と考えている現在は柔道整復士にておこなっているものも多い。卒業生が待ち遠しい。(医療関係者)

在学生の出身地分布および卒業生居住分布(都道府県別)

都道府県	薬学部		歯学部		看護学科		臨床福祉学科		臨床心理学科		言語聴覚療法学科		計		卒業生居住地	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
北海道	929	87.2	232	48.9	442	96.1	259	94.2	240	84.5	248	84.6	2,350	82.4	11,470	70.3
青森県	36	3.4	4	0.8	2	0.4	4	1.5	10	3.5	9	3.1	65	2.3	269	1.6
岩手県	6	0.6	2	0.4	2	0.4	3	1.1	3	1.1	7	2.4	23	0.8	193	1.2
宮城県	10	0.9	6	1.3	1	0.2	3	1.1	4	1.4	2	0.7	26	0.9	167	1.0
秋田県	8	0.8	2	0.4	4	0.9	2	0.7	4	1.4	4	1.4	24	0.8	184	1.1
山形県	6	0.6	4	0.8					3	1.1			13	0.5	85	0.5
福島県	3	0.3	4	0.8	1	0.2			2	0.7	1	0.3	11	0.4	140	0.9
東北計	69	6.5	22	4.6	10	2.2	12	4.4	26	9.2	23	7.8	162	5.7	1,038	6.4
茨城県	8	0.8	6	1.3					1	0.4	1	0.3	16	0.6	165	1.0
栃木県	2	0.2	4	0.8					1	0.4			7	0.2	96	0.6
群馬県			7	1.5							1	0.3	8	0.3	87	0.5
埼玉県	2	0.2	6	1.3								0.0	8	0.3	217	1.3
千葉県	3	0.3	6	1.3			1	0.4			2	0.7	12	0.4	277	1.7
東京都	4	0.4	23	4.9	1	0.2	1	0.4	2	0.7	4	1.4	35	1.2	576	3.5
神奈川県	4	0.4	10	2.1	2	0.4			2	0.7	2	0.7	20	0.7	365	2.2
関東計	23	2.2	62	13.1	3	0.7	2	0.7	6	2.1	10	3.4	106	3.7	1,783	10.9
新潟県	2	0.2	1	0.2					3	1.1	2	0.7	8	0.3	101	0.6
富山県	2	0.2	2	0.4									4	0.1	38	0.2
石川県			1	0.2									1	0.0	29	0.2
福井県			2	0.4									2	0.1	17	0.1
北陸計	4	0.4	6	1.3	0	0.0	0	0.0	3	1.1	2	0.7	15	0.5	185	1.1
山梨県	2	0.2									1	0.3	3	0.1	30	0.2
長野県	3	0.3	10	2.1	1	0.2			2	0.7	2	0.7	18	0.6	86	0.5
岐阜県	1	0.1	1	0.2					1	0.4	1	0.3	4	0.1	41	0.3
静岡県	2	0.2	8	1.7			1	0.4			2	0.7	13	0.5	112	0.7
愛知県	3	0.3	12	2.5			1	0.4					16	0.6	166	1.0
中部計	11	1.0	31	6.5	1	0.2	2	0.7	3	1.1	6	2.0	54	1.9	435	2.7
三重県			2	0.4									2	0.1	51	0.3
滋賀県			3	0.6							1	0.3	4	0.1	34	0.2
京都府			2	0.4	1	0.2			1	0.4			4	0.1	66	0.4
大阪府	2	0.2	14	3.0	1	0.2			2	0.7	1	0.3	20	0.7	239	1.5
兵庫県			18	3.8									18	0.6	136	0.8
奈良県			4	0.8					1	0.4			5	0.2	33	0.2
和歌山県			2	0.4									2	0.1	18	0.1
関西計	2	0.2	45	9.5	2	0.4	0	0.0	4	1.4	2	0.7	55	1.9	577	3.5
鳥取県			1	0.2									1	0.0	14	0.1
島根県	1	0.1											1	0.0	8	0.0
岡山県	2	0.2	4	0.8									6	0.2	48	0.3
広島県	2	0.2	13	2.7	1	0.2							16	0.6	88	0.5
山口県	1	0.1	2	0.4							1	0.3	4	0.1	36	0.2
中国計	6	0.6	20	4.2	1	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.3	28	1.0	194	1.2
徳島県			2	0.4									2	0.1	19	0.1
香川県			2	0.4	1	0.2							3	0.1	15	0.1
愛媛県	1	0.1	1	0.2									2	0.1	23	0.1
高知県			1	0.2									1	0.0	24	0.1
四国計	1	0.1	6	1.3	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	0.3	81	0.5
福岡県	4	0.4	21	4.4									25	0.9	108	0.7
佐賀県			5	1.1									5	0.2	13	0.1
長崎県			1	0.2									1	0.0	29	0.2
熊本県			5	1.1					1	0.4	1	0.3	7	0.2	41	0.3
大分県			6	1.3									6	0.2	22	0.1
宮崎県	2	0.2											2	0.1	26	0.2
鹿児島県			3	0.6									3	0.1	33	0.2
沖縄県	13	1.2	9	1.9					1	0.4			23	0.8	276	1.7
九州・沖縄計	19	1.8	50	10.5	0	0.0	0	0.0	2	0.7	1	0.3	72	2.5	548	3.4
外国	1	0.1		0.0									1	0.0		0.0
合計	1,065	-	474	-	460	-	275	-	284	-	293	-	2,851	-	16,311	-

国家試験 合格状況

一 薬剤師

年	卒業期	卒業者数	取得者数	取得率(%)
S53～H24	1～35	4,689	4,572	97.5
H24	35	122	117	95.9
合計		4,811	4,689	97.5

*4年制卒業者数

*6年制卒業者数

一 歯科医師

年	卒業期	卒業者数	取得者数	取得率(%)
S59～H21	1～26	2,628	2,600	98.9
H22	27	74	72	97.3
H23	28	77	66	85.7
H24	29	62	51	82.3
合計		2,841	2,789	98.2

一 看護師

年	卒業期	卒業者数	取得者数	取得率(%)
H9～H21	1～13	1,298 (1,127)	1,286 (1,114)	99.1 (98.8)
H22	14	113 (103)	109 (99)	96.5 (96.1)
H23	15	99 (95)	99 (95)	100.0 (100.0)
H24	16	112 (110)	101 (101)	91.0 (91.8)
合計		1,622 (1,435)	1,595 (1,409)	98.4 (98.2)

※卒業者数には既に看護師免許を有する編入学生が含まれるため、編入学生以外の受験者数、合格者数、合格率を()で表示した。

一 保健師

年	卒業期	卒業者数	取得者数	取得率(%)
H9～H21	1～13	1,298	1,182	91.0
H22	14	113	93	82.3
H23	15	99	95	96.0
H24	16	112	101	91.0
合計		1,622	1,471	90.7

一 社会福祉士

年	卒業期	卒業者数	取得者数	取得率(%)
H9～H21	1～13	1,040	611	58.8
H22	14	66	22	33.3
H23	15	80	31	38.8
H24	16	74	28	37.8
合計		1,260	692	54.9

一 精神保健福祉士

年	卒業期	卒業者数	取得者数	取得率(%)
H13～H21	5～13	185	152	82.2
H22	14	19	13	68.4
H23	15	24	16	66.7
H24	16	28	15	53.6
合計		256	196	76.6

一 言語聴覚士

年	卒業期	卒業者数	取得者数	取得率(%)
H18～H21	1～4	228	221	96.9
H22	5	47	46	97.9
H23	6	50	50	100.0
H24	7	66	55	83.3
合計		391	372	95.1

卒業生の進路状況（学部別）

※各年度5月1日時点

薬学部

年度 職種別進路先	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院薬剤師	42	33.6%	9	31.0%			53	45.7%
調剤薬局	42	33.6%	14	48.3%			40	34.5%
一般薬局	13	10.4%		0.0%			7	6.0%
製薬	3	2.4%	1	3.4%			12	10.3%
医薬品卸	0	0.0%		0.0%			2	1.7%
行政機関	0	0.0%		0.0%			2	1.7%
大学院進学	25	20.0%	5	17.2%			0	0.0%
計	125	100.0%	29	100.0%	—	—	116	100.0%
<参考>卒業生数（秋卒含む）	141		45		3		123	

歯学部

年度 職種別進路先	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
歯科臨床研修医	67	100.0%	56	100.0%	58	100.0%	50	100.0%
計	67	100.0%	56	100.0%	58	100.0%	50	100.0%
<参考>卒業生数（秋卒含む）	96		74		77		62	

*2012年度卒業生で国家試験合格者1名、帰国（韓国）により研修せず。

看護福祉学部 看護学科

年度 職種別進路先	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院看護師	82	85.4%	97	89.8%	93	93.9%	98	95.1%
その他看護師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
市町村保健師	4	4.2%	2	1.9%	0	0.0%	2	1.9%
その他保健師	1	1.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
大学院進学	5	5.2%	3	2.8%	5	5.1%	1	1.0%
その他（専攻科進学）	4	4.2%	6	5.6%	0	0.0%	2	1.9%
計	96	100.0%	108	100.0%	99	100.0%	103	100.0%
<参考>卒業生数（秋卒含む）	98		113		99		112	

看護福祉学部 臨床福祉学科

年度 職種別進路先	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院	15	22.1%	17	28.8%	18	23.7%	17	23.0%
社会福祉施設	23	33.8%	21	35.6%	40	52.6%	33	44.6%
介護老人保健施設	2	2.9%	2	3.4%	1	1.3%	3	4.1%
社会福祉協議会	3	4.4%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
行政機関	4	5.9%	3	5.1%	2	2.6%	3	4.1%
一般企業	9	13.2%	5	8.5%	3	3.9%	4	5.4%
教員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	8.1%
大学院進学	2	2.9%	0	0.0%	2	2.6%	2	2.7%
その他	10	14.7%	10	16.9%	10	13.2%	6	8.1%
計	68	100.0%	59	100.0%	76	100.0%	74	100.0%
<参考>卒業生数（秋卒含む）	85		66		81		74	

心理科学部 臨床心理学科

年度 職種別進路先	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院	1	2.0%	2	3.6%	1	1.7%	3	5.2%
社会福祉施設	1	2.0%	6	10.7%	10	16.9%	11	19.0%
一般企業	26	51.0%	26	46.4%	23	39.0%	21	36.2%
行政機関	1	2.0%	5	8.9%	4	6.8%	4	6.9%
大学院進学	17	33.3%	10	17.9%	10	16.9%	8	13.8%
その他（編入学等）	5	9.8%	7	12.5%	11	18.6%	11	19.0%
計	51	100.0%	56	100.0%	59	100.0%	58	100.0%
<参考>卒業生数（秋卒含む）	63		66		71		68	

心理科学部 言語聴覚療法学科

年度 職種別進路先	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院	45	93.8%	42	100.0%	45	91.8%	49	92.5%
社会福祉施設	2	4.2%	0	0.0%	1	2.0%	2	3.8%
一般企業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
行政機関	0	0.0%	0	0.0%	3	6.1%	2	3.8%
大学院進学	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	48	100.0%	42	100.0%	49	100.0%	53	100.0%
<参考>卒業生数（秋卒含む）	66		47		50		66	

【理学療法学科 個別履修モデル】 一般病院の理学療法士を希望する学生の履修例

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計	
全学教育	教養教育科目	導入科目	コミュニケーション実践論 1 日本語の表現 1				2
		教養科目	生命科学 2 心理学 2 医療の法学 2	環境の歴史 2			8
	基礎教育科目	健康・運動科学科目	運動科学演習 2				2
		外国語科目	オーラルイングリッシュA 1 英語A 1	オーラルイングリッシュB 1 英語B 1			4
		情報科学科目	情報処理演習 1 基礎数理学 1		基礎統計学 2		3
		自然科学科目	物理学 2 生物学 2				5
	医療基盤教育科目	医療基盤科目	個体差健康科学 2 医療倫理 2		多職種連携論 1		5
	専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ 1 解剖学Ⅱ 1 生理学Ⅰ 1 生理学Ⅱ 1 生理学実習 1 運動学Ⅰ 1	解剖学実習 1 運動生理学 1 運動学Ⅱ 1 運動学実習 1 老年学 1 人間発達学 1			12
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		医学概論 1	病理学 1 整形外科学 2 内科学 2 神経学 2 小児科学 1 精神医学 2 病態運動学 1 臨床心理学 1 公衆衛生学 1			14	
保健福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論 2	障がい者当事者論 1	保健医療福祉論 1 積雪寒冷地の生活と諸問題 1		5	
専門	基礎理学療法学	理学療法概論 2 基礎理学療法学 2	理学療法英文原著読解 2	理学療法研究法 2 理学療法研究セミナーⅠ 1	理学療法管理・運営論 1 理学療法セミナーⅡ 2 理学療法学総合講義 1	14	
	理学療法評価学		医療コミュニケーション 1 理学療法基礎評価学Ⅰ 2 理学療法基礎評価学Ⅱ 2 理学療法評価学総合演習 1	画像診断学 1		7	
	理学療法治療学		運動療法学Ⅰ 1 運動療法学Ⅱ 1 義肢装具学Ⅰ 1 日常生活動作学Ⅰ 1	物理療法学 2 義肢装具学Ⅱ 1 骨関節障害理学療法学 2 骨関節障害理学療法学演習 2 神経障害理学療法学 2 神経障害理学療法学演習 2 発達障害理学療法学 2 発達障害理学療法学演習 2 内部障害理学療法学 2 内部障害理学療法学演習 2 理学療法治療学総合演習 2 神経筋促進治療論 1		26	
	地域理学療法学			地域理学療法学 2 地域理学療法学演習 1 生活環境論 1		4	
	臨床実習	臨床実習Ⅰ 1	臨床実習Ⅱ 2	臨床実習Ⅲ 6	臨床実習Ⅳ 8 臨床実習Ⅴ 3	20	
	計		36	38	42	15	131

【理学療法学科 個別履修モデル】 老人保健施設の理学療法士を希望する学生の履修例

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計	
全学教育	教養教育科目	導入科目	コミュニケーション実践論 1 日本語の表現 1				2
		教養科目	生命科学 2 死生学入門 2 医療の経済学 2				6
		健康・運動科学科目	運動学演習 2				2
	基礎教育科目	外国語科目	オーラルイングリッシュA 1 英語A 1	オーラルイングリッシュB 1 英語B 1			4
		情報科学科目	情報処理演習 1 基礎数理学 1		基礎統計学 2		3
		自然科学科目	物理学 2 生物学 2				5
	医療基盤教育科目	医療基盤科目	個体差健康科学 2 医療倫理 2		多職種連携論 1 地域包括ケア演習 1		5
	専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ 1 解剖学Ⅱ 1 生理学Ⅰ 1 生理学Ⅱ 1 生理学実習 1 運動学Ⅰ 1	解剖学実習 1 運動生理学 1 運動学Ⅱ 1 運動学実習 1 老年学 1 人間発達学 1			12
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論 1	病理学 1 整形外科学 2 内科学 2 神経学 2 小児科学 1 精神医学 2 病態運動学 1 臨床心理学 1 公衆衛生学 1			14
		保健福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論 2	障がい者当事者論 1	保健医療福祉論 1 積雪寒冷地の生活と諸問題 1		5
専門	基礎理学療法学	理学療法概論 2 基礎理学療法学 2	理学療法英文原著読解 2	理学療法研究法 2 理学療法研究セミナーⅠ 2	理学療法管理・運営論 1 理学療法セミナーⅡ 2 理学療法学総合講義 1	14	
	理学療法評価学		医療コミュニケーション 1 理学療法基礎評価学Ⅰ 2 理学療法基礎評価学Ⅱ 2 理学療法評価学総合演習 1	画像診断学 1		7	
	理学療法治療学		運動療法Ⅰ 1 運動療法Ⅱ 1 義肢装具学Ⅰ 1 日常生活動作学Ⅰ 1	物理療法学 2 義肢装具学Ⅱ 1 骨関節障害理学療法学 2 骨関節障害理学療法学演習 2 神経障害理学療法学 2 神経障害理学療法学演習 2 発達障害理学療法学 2 発達障害理学療法学演習 2 内部障害理学療法学 2 内部障害理学療法学演習 2 理学療法治療学総合演習 2		25	
	地域理学療法学			地域理学療法学 2 地域理学療法学演習 1 生活環境論 1	健康増進と理学療法 1	5	
	臨床実習	臨床実習Ⅰ 1	臨床実習Ⅱ 2	臨床実習Ⅲ 6	臨床実習Ⅳ 8 臨床実習Ⅴ 3	20	
	計		36	36	42	16	130

【作業療法学科 個別履修モデル】 身障系病院の作業療法士を希望する学生の履修例

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計	
全学教育	教養教育科目	導入科目	コミュニケーション実践論 1 日本語の表現 1				2
		教養科目	生命科学 2 心理学 2 死生学入門 2 医療の経済学 2				8
	基礎教育科目	健康・運動科学科目	運動科学演習 2				2
		外国語科目	オーラルイングリッシュA 1 英語A 1	オーラルイングリッシュB 1 英語B 1			4
		情報科学科目	情報処理演習 1		基礎統計学 2		3
		自然科学科目	基礎数学 1 物理学 2 生物学 2				5
	医療基盤教育科目	医療基盤科目	個体差健康科学 2 医療倫理 2		地域包括ケア演習 1 多職種連携論 1		6
	専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ 1 解剖学Ⅱ 1 生理学Ⅰ 1 生理学Ⅱ 1 生理学実習 1 運動学Ⅰ 1	解剖学実習 1 運動生理学 1 運動学Ⅱ 1 運動学実習 1 老年学 1 人間発達学 1			12
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		医学概論 1	病理学 1 整形外科 2 内科学 2 神経学 2 小児科学 1 精神医学Ⅰ 2 精神医学Ⅱ 2 病態運動学 1 高次脳機能障害学 1 臨床心理学 1 公衆衛生学 1 薬理学 1			18	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論 2	障がい者当事者論 1	保健医療福祉論 1 積雪寒冷地の生活と諸問題 1		5	
専門	基礎作業療法学	作業療法概論 2 理学療法概論 2	作業療法技術学演習Ⅰ 1 作業療法技術学演習Ⅱ 1	作業療法研究法 1 作業療法研究セミナーⅠ 2	職業倫理・管理学 1 作業療法学総合講義 1 作業療法研究セミナーⅡ 2	13	
	作業療法評価学		評価学概論 1 身体機能評価学Ⅰ 1 精神機能評価学 1 発達系評価学 1 評価学実習 1	身体機能評価学Ⅱ 1 画像診断学 1		7	
	作業治療学	作業適用学 2	日常生活援助学 2	日常生活援助学演習 1 身体障害作業療法学 2 身体障害作業療法学演習 2 精神障害作業療法学 1 精神障害作業療法学演習 1 発達障害作業療法学 2 発達障害作業療法学演習 1 老年期障害作業療法学 2 老年期障害作業療法学演習 1 高次脳機能障害作業療法学 2 高次脳機能障害作業療法学演習 2 義肢装具学 2 ハンドセラピー 1 徒手療法論 1 呼吸リハビリテーション学 1 神経筋促進治療論 1		26	
	地域作業療法学			地域作業療法学 2 地域作業療法学演習 1 リハビリテーション工学 1	就業援助論 1	5	
計		臨床実習 1 臨床見学 1	評価実習 4	総合臨床実習Ⅰ 9	総合臨床実習Ⅱ 9	23	
		40	39	46	14	139	

【作業療法学科 個別履修モデル】 精神科系病院・精神科デイケアの作業療法士を希望する学生の履修例

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計	
全学教育	教養教育科目	導入科目	コミュニケーション実践論 1 日本語の表現 1				2
		教養科目	生命科学 2 心理学 2 哲学 2		国際社会福祉論 2		8
	基礎教育科目	健康・運動科学科目	運動科学演習 2				2
		外国語科目	オーラルイングリッシュA 1 英語A 1	オーラルイングリッシュB 1 英語B 1			4
		情報科学科目	情報処理演習 1 基礎数理学 1		基礎統計学 2		3
		自然科学科目	化学 2 生物学 2				5
	医療基盤教育科目	医療基盤科目	個体差健康科学 2 医療倫理 2	メディカルカフェをつくる I 1	多職種連携論 1		6
	専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I 1 解剖学 II 1 生理学 I 1 生理学 II 1 生理学実習 1 運動学 I 1	解剖学実習 1 運動生理学 1 運動学 II 1 運動学実習 1 老年学 1 人間発達学 1			12
医学概論 1			病理学 1 整形外科学 2 内科学 2 神経学 2 小児科学 1 精神医学 I 2 精神医学 II 2 病態運動学 1 高次脳機能障害学 1 臨床心理学 1 公衆衛生学 1			17	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論 2	障がい者当事者論 1	保健医療福祉論 1 積雪寒冷地の生活と諸問題 1		5	
専門	基礎作業療法学	作業療法概論 2	作業療法技術学演習 I 1 作業療法技術学演習 II 1	作業療法研究法 1 作業療法研究セミナー I 2	職業倫理・管理学 1 作業療法学総合講義 1 作業療法研究セミナー II 2	11	
	作業療法評価学		評価学概論 1 身体機能評価学 I 1 精神機能評価学 1 発達系評価学 1 評価学実習 1	身体機能評価学 II 1		6	
	作業治療学	作業適応学 2	日常生活援助学 2	日常生活援助学演習 1 身体障害作業療法学 2 身体障害作業療法学演習 1 精神障害作業療法学 2 精神障害作業療法学演習 1 発達障害作業療法学 2 発達障害作業療法学演習 1 老年期障害作業療法学 2 老年期障害作業療法学演習 1 高次脳機能障害作業療法学 2 高次脳機能障害作業療法学演習 1 義肢装具学 2 音楽療法 1 園芸療法 1		24	
	地域作業療法学			地域作業療法学 2 地域作業療法学演習 1 リハビリテーション工学 1	就業援助論 1	5	
	臨床実習	臨床見学 1	評価実習 4	総合臨床実習 I 9	総合臨床実習 II 9	23	
計		36	39	44	14	133	

【作業療法学科 個別履修モデル】 老人保健施設の作業療法士を希望する学生の履修例

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計	
全学教育	教養教育科目	導入科目	コミュニケーション実践論 1 日本語の表現 1				2
		教養科目	生命科学 2 死生学入門 2 文化人類学 2	環境の歴史 2			8
	基礎教育科目	健康・運動科学科目	運動科学演習 2				2
		外国語科目	オーラルイングリッシュA 1 英語A 1 中国語 1 韓国語 1				4
		情報科学科目	情報処理演習 1		基礎統計学 2		3
		自然科学科目	基礎数理学 1 物理学 2 生物学 2				5
	医療基盤教育科目	医療基盤科目	個体差健康科学 2 医療倫理 1	地域包括ケア演習 1 メディカルカフェをつくるⅠ 1	多職種連携論 1		7
	専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ 1 解剖学Ⅱ 1 生理学Ⅰ 1 生理学Ⅱ 1 生理学実習 1 運動学Ⅰ 1	解剖学実習 1 運動生理学 1 運動学Ⅱ 1 運動学実習 1 老年学 1 人間発達学 1			12
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		医学概論 1	病理学 1 整形外科学 2 内科学 2 神経学 2 小児科学 1 精神医学Ⅰ 2 精神医学Ⅱ 2 病態運動学 1 高次脳機能障害学 1 臨床心理学 1 公衆衛生学 1			17	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論 2 基礎理学療法学 2	障がい者当事者論 1	保健医療福祉論 1 積雪寒冷地の生活と諸問題 1		7	
専門	基礎作業療法学	作業療法概論 2	作業療法技術学演習Ⅰ 1 作業療法技術学演習Ⅱ 1	作業療法研究法 1 作業療法研究セミナーⅠ 2	職業倫理・管理学 1 作業療法学総合講義 1 作業療法研究セミナーⅡ 2	11	
	作業療法評価学		評価学概論 1 身体機能評価学Ⅰ 1 精神機能評価学 1 発達系評価学 1 評価学実習 1	身体機能評価学Ⅱ 1		6	
	作業治療学	作業適用学 2	日常生活援助学 2	日常生活援助学演習 1 身体障害作業療法学 2 身体障害作業療法学演習 1 精神障害作業療法学 2 精神障害作業療法学演習 1 発達障害作業療法学 2 発達障害作業療法学演習 1 老年期障害作業療法学 2 老年期障害作業療法学演習 1 高次脳機能障害作業療法学 2 高次脳機能障害作業療法学演習 1 義肢装具学 2 音楽療法 1 呼吸リハビリテーション学 1 神経筋促進治療論 1			25
	地域作業療法学			地域作業療法学 2 地域作業療法学演習 1 リハビリテーション工学 1 介護技術方法論 1	就業援助論 1	1	
	臨床実習	臨床見学 1	評価実習 4	総合臨床実習Ⅰ 9	総合臨床実習Ⅱ 9		23
計		40	40	44	14	138	

リハビリテーション科学部時間割 前期

曜日	学年	学科	I		II		III		IV		V	
			9:00~10:20	教室	10:30~11:50	教室	12:40~14:00	教室	14:10~15:30	教室	15:40~17:00	教室
月	1	理学 作業	◎基礎ゼミナール (コミュニケーション実践論) 鎌田・国永・澤村・朝日・ 木村・武田・高橋・鈴木・ 山口・長谷川・澤田	10F ゼミ室	◎文章指導(日本語 の表現) 本家・上野・浅野雅・浅 野葉・児玉・泉・吉田・小 島・堀本・宮崎・大塚	10F ゼミ室	人間と思想 (死生学入門) 江口	講義 室1	人間と思想 (哲学入門) 小野	講義 室1		
	2	理学 作業	人間と文化 (国際文化比較論) 花洲・ターノフ・半田	講義 室1	◎英語 I (オールイングリッシュ B) ターノフ・ケイン・ショー ン	LL1 LL2	◎解剖学実習 高橋・坂倉・入江	解 剖 学 実 習 室	◎解剖学実習 高橋・坂倉・入江	解 剖 学 実 習 室		
	3	理学 作業	◎統計学 (基礎統計学) 石田	講義 室2	人間と社会 (国際社会福祉論) 千葉・花洲・半田	講義 室3	地域連携 (地域包括ケア演習) 鎌田・国永・澤村・朝日・ 木村・鈴木・小島・高橋・ 堀本・大塚・長谷川	講義 室2	◎多職種連携 (多職種連携論) 本家・上野・浅野雅・浅 野葉・児玉・泉・吉田・武 田・山口・宮崎・澤田	講義 室2	●理学療法研究セ ミ ナー I 理学全教員	10F ゼミ 室
	4	理学 作業										
火	1	理学 作業	◎自然と科学 (生命科学) 国永	講義 室1	◎英語 I (オールイングリッシュ A) ターノフ・ケイン・ショー ン	LL1 LL2	◎情報処理演習 二瓶 ◎健康・運動科学演 習(運動科学演習) 山口・森田	LL1 体育館	◎健康・運動科学演 習(運動科学演習) 山口・森田 ◎情報処理演習 二瓶	体育館 LL1		
	2	理学 作業	◎運動生理学 宮崎	講義 室2	◎運動学 II 小島	講義 室2	◎老年学 山田・萩野 ↓ ◎人間発達学 木村・堀本	講義 室2			○評価学概論 朝日・澤村・木村・児 玉	講義 室3
	3	理学 作業			●理学療法研究法 堀本 ○作業療法研究法 鎌田・本家・浅野雅	講義 室3 講義 室4	●物理療法学 小島・宮崎・大塚 ○身体機能評価学 II 本家・浅野葉・澤村	講義 室3 ③	●物理療法学 小島・宮崎・大塚 ○日常生活援助学演 習 浅野葉・朝日	講義 室3 ⑤	○積雪寒冷地の生活 と諸問題 鈴木	講義 室2
	4	理学 作業										
水	1	理学 作業	◎自然科学入門 (基礎数理) 石田	講義 室1	◎個体差健康科学 千葉・花洲・廣重・松田・ 新川・太田・北市・大沢・ 浜上・坂野・半田・中山・ 荒川・小林・向谷地	講義 室1	◎・(編)解剖学 I 高橋・坂倉・入江	講義 室1	◎・(編)生理学 I 倉橋	講義 室1		
	2	理学 作業	◎整形外科学 薄井	講義 室2	◎障がい者当事者論 鈴木・浅野葉	講義 室2			ドイツ語 (ドイツ語) 阿部	講義 室5	●精神医学 上野 ○精神医学 I 上野	講義 室2
	3	理学 作業	●神経障害理学療法 学 吉田・大塚 ○精神障害作業療法 学 鎌田・児玉	講義 室3 講義 室4	●発達障害理学療法 学 堀本 ○発達障害作業療法 学 木村	講義 室3 講義 室4	ハンドセラピー 片平	講義 室3	●内部障害理学療法 学 高橋・泉 ○老年期障害作業療 法学 鎌田	講義 室3 講義 室4		
	4	理学 作業										

集中講義等

理学療法学科

地域連携(マイカルフエをつくる)	二年次	
臨床実習 I	一年次	1週間
臨床実習 IV	四年次前期	8週間
臨床実習 V	四年次前期	3週間

作業療法学科

臨床見学	一年次	1週間
総合臨床実習 II	四年次前期	9週間

曜日	学年	学科	I		II		III		IV		V		
			9:00~10:20	教室	10:30~11:50	教室	12:40~14:00	教室	14:10~15:30		15:40~17:00	教室	
木	1	理学 作業	◎・(編)リハビリテーション概論 上野・鎌田・泉	講義室1	○・(編)作業療法概論 鎌田・本家・浅野雅・浅野葉・澤村・朝日・木村・児玉	講義室1	●・(編)理学療法概論 泉・鈴木	講義室1					
	2	理学 作業			●運動療法学 I 吉田・宮崎・澤田	③④	○身体障害作業療法学 本家	講義室3	●理学療法英文原著 読解 理学全教員	10F ゼミ室			
	3	理学 作業	●生活環境論 鈴木・長谷川	講義室3 ⑤	●地域理学療法学 鈴木	講義室3	○地域作業療法学 浅野葉・朝日・菊地	講義室4	○身体障害作業療法学 本家	講義室3			
	4	理学 作業	呼吸リハビリテーション学 高橋	講義室4	○高次脳機能障害作業療法学 澤村	講義室4	○地域作業療法学 浅野葉・朝日・菊地	講義室4	音楽療法 <small>(浅野雅)</small> ↓ 園芸療法 <small>(雅・児玉・杉原)</small>	音楽療法室・ 講義室4		●理学療法研究セミナーⅡ 理学全教員	10F ゼミ室
金	1	理学 作業	◎・(編)医学概論 上野	講義室1			人間と文化 (文化人類学) 花淵	講義室1	中国語 工藤	LL1			
	2	理学 作業			◎病理学 安彦・山崎	講義室1	●理学療法基礎評価学 I 小島・武田・宮崎・長谷川	③	●日常生活動作学 I 鈴木・高橋・長谷川	⑤	●理学療法基礎評価学 II 吉田・高橋・堀本・大塚	③	
	3	理学 作業	●義肢装具学 II 武田・高橋・澤村・安田・高橋	⑥	◎保健医療福祉論 鈴木・加賀谷・森・菊池	講義室2	●骨関節障害理学療法学 武田	講義室3	○リハビリテーション工学 本家・澤村	講義室2		○作業療法研究セミナーⅠ 作業全教員	10F ゼミ室
	4	理学 作業	介護技術方法論 池森・高橋由	⑤									

◎=両学科必修科目 ●=理学療法学科必修科目 ○=作業療法学科必修科目 (編)=各学科の編入学生が履修必須となる1年次配当科目
アンダーライン=各期半分(8コマ)で終了する科目

中央講義棟講義室等一覧

階	教室名	収容定員	※	備考
1F	演習室1~3	25		3室
2F	演習室4~8	25		4室
	中講義室1	100	100	全学 共用
	中講義室2	100	100	全学 共用
3F	大講義室1	230	230	主に薬学部使用
	大講義室2	230	230	主に薬学部使用
	大講義室3	230	230	主に薬学部使用
4F	大講義室4	241	241	午前中 薬学部使用
	大講義室5	241	241	午前中 薬学部使用
	LL教室1	60	60	
	LL教室2	80	80	
5F	講義室1	144	216	
	講義室2	144	216	
	講義室3	129	132	
	講義室4	90	108	
	講義室5	45	45	
10F	演習室9~16	10~25		8室
	演習室15	10~25	150	4室に分割可

※は最大限利用した場合

中央講義棟実習室一覧

階	教室名	番号
6F	運動学実習室	①
	物理療法実習室	②
	評価治療室	③
	運動療法実習室	④
7F	日常生活活動学実習室	⑤
	義肢装具実習室	⑥
	基礎医学実習室 織物・手芸	⑦
	発達評価治療室	⑧
	作業療法実習室 金工・木工・絵画・陶芸	⑨

リハビリテーション科学部時間割 後期

曜日	学年	学科	I		II		III		IV		V	
			9:00~10:20	教室	10:30~11:50	教室	12:40~14:00	教室	14:10~15:30	教室	15:40~17:00	教室
月	1	理学 作業	人間と思想 (心理学) 松岡	講義室1	◎・(編)生理学Ⅱ 倉橋	講義室1	◎・(編)生理学実習 吉田・宮崎・長谷川・大塚・倉橋・澤村・朝日・児玉・長田・石井	①⑦	◎・(編)生理学実習 吉田・宮崎・長谷川・大塚・倉橋・澤村・朝日・児玉・長田・石井	①⑦		
	2	理学 作業	●理学療法評価学総合演習 理学全教員	講義室2	英語Ⅱ(英語B) 渡辺	講義室3	フランス語(フランス語) 柳田	講義室3	人間と文化 (環境の歴史) 千葉	講義室3	◎臨床心理学 松岡	講義室2
	3	理学 作業	●画像診断学 三谷	講義室3	◎積雪寒冷地の生活と諸問題 鈴木	講義室2	●骨関節障害理学療法学演習 武田・澤田・佐々木 ○身体障害作業療法学演習 本家	②④ ③⑤	●骨関節障害理学療法学演習 武田・澤田・佐々木 ○身体障害作業療法学演習 本家	②④ ③⑤		
	4	理学 作業			国際協力と理学療法 長谷川	講義室4	健康増進と理学療法 鈴木・澤田	講義室4	障害者スポーツ指導論 小島・児玉・大塚・岡崎	講義室4	●理学療法研究セミナーⅡ 理学全教員 ○作業療法研究セミナーⅡ 作業全教員	10Fゼミ室
火	1	理学 作業	英語Ⅱ(英語A) 塚越	LL1	●自然科学入門(物理学) 橋本	講義室1	○自然科学入門(生物学) 国永	講義室1	自然科学入門(化学) 黒澤	講義室1	○・(編)作業適用学 鎌田・本家・浅野雅・浅野葉・澤村・朝日・木村・児玉	講義室1
	2	理学 作業	◎神経学 上野	講義室2	薬理学 谷村 ↓ 栄養学 荒川	講義室2	◎小児科学 太田 ↓ ○高次脳機能障害学 上野	講義室2	◎病態運動学 吉田・武田・堀本	講義室2		
	3	理学 作業	●内部障害理学療法学演習 高橋・泉・澤田 ○老年期障害作業療法学演習 鎌田	③④ ⑧⑨	●内部障害理学療法学演習 高橋・泉・澤田 ○高次脳機能障害作業療法学演習 澤村	③④ ⑦	スポーツ障害理学療法論 前田・大森 ○義肢装具学 武田・高橋・澤村・安田・高橋	② ⑥	神経筋促進治療論 高橋・本家	③	●理学療法治療学総合演習 理学全教員	講義室2
	4	理学 作業										
水	1	理学 作業			人間と社会(医療の経済学) 櫻井	講義室1	人間と社会(医療の法学) 森元	講義室1				
	2	理学 作業	●運動療法Ⅱ 吉田・宮崎・大塚 ○評価学実習 鎌田・本家・浅野雅・浅野葉・澤村・朝日・木村・児玉	④ ③⑤ ⑧⑨	○評価学実習 鎌田・本家・浅野雅・浅野葉・澤村・朝日・木村・児玉	③⑤ ⑧⑨	●理学療法英文原著読解 理学全教員 ○精神医学Ⅱ 上野	10Fゼミ室 講義室4	●医療コミュニケーション 理学全教員 ○作業療法技術学演習Ⅱ 作業全教員	10Fゼミ室 ⑤⑦ ⑧	●義肢装具学Ⅰ 武田・高橋・澤村・安田・高橋	⑥
	3	理学 作業	●地域理学療法学演習 鈴木・長谷川	講義室3・⑤	●理学療法研究セミナーⅠ 理学全教員	10Fゼミ室	○地域作業療法学演習 浅野葉・朝日	⑤⑨ ⑧			○作業療法研究セミナーⅠ 作業全教員	10Fゼミ室
	4	理学 作業	●理学療法管理・運営論 泉	講義室4								

集中講義等

理学療法学科

臨床実習Ⅰ	一年次	1週間
臨床実習Ⅱ	二年次後期	2週間
臨床実習Ⅲ	三年次後期	6週間

作業療法学科

臨床見学	一年次	1週間
評価実習	二年次後期	4週間
総合臨床実習Ⅰ	三年次後期	9週間

曜日	学年	学科	I		II		III		IV		V		
			9:00~10:20	教室	10:30~11:50	教室	12:40~14:00	教室	14:10~15:30	教室	15:40~17:00	教室	
木	1	理学 作業	◎・(編)解剖学Ⅱ 高橋・坂倉・入江	講義室1	◎医療倫理 (医療倫理) 江口	講義室1	●・(編)基礎理学療法 学 吉田・小島・武田・高橋・堀本	講義室1	韓国語 (韓国語) 李	LL1			
	2	理学 作業			●理学療法基礎評価学Ⅰ 小島・武田・宮崎・長谷川	②			●理学療法基礎評価学Ⅱ 吉田・高橋・塚本・大塚	③	◎公衆衛生学 千葉・水谷	講義室2	
	3	理学 作業	●神経障害理学療法 学演習 吉田・澤田・大塚 ○発達障害作業療法 学演習 木村	④ ⑦⑧	●神経障害理学療法 学演習 吉田・澤田・大塚 ○精神障害作業療法 学演習 鎌田・児玉	④ ⑦⑧		徒手療法論 清川	②				
	4	理学 作業										●理学療法総合講義 理学全教員	講義室2
金	1	理学 作業	◎健康・運動科学演習 (運動科学演習) 山口・森田	体育館			◎・(編)運動学Ⅰ 小島	講義室1					
	2	理学 作業	●日常生活動作学Ⅱ 鈴木・高橋・長谷川 ○日常生活援助学 浅野葉・朝日	⑤ 講義室2	◎内科学 家子・高橋・岸本・伊藤	講義室1			◎運動学実習 小島・武田・宮崎・澤田・大塚・本家・木村・浅野葉	① ② ④	◎運動学実習 小島・武田・宮崎・澤田・大塚・本家・木村・浅野葉	① ② ④	
	3	理学 作業	●発達障害理学療法 学演習 堀本・澤田	⑧	●発達障害理学療法 学演習 堀本・澤田	⑧							
	4	理学 作業			○作業療法学総合講義 作業全教員	講義室4	○作業療法研究セミナーⅡ 作業全教員	10F ゼミ室					

◎=両学科必修科目 ●=理学療法学科必修科目 ○=作業療法学科必修科目 (編)=各学科の編入学生が履修必須となる1年次配当科目
アンダーライン=各期半分(8コマ)で終了する科目

中央講義棟講義室等一覧

階	教室名	収容定員	※	備考
1F	演習室1~3	25		3室
2F	演習室4~8	25		4室
	中講義室1	100	100	全学 共用
	中講義室2	100	100	全学 共用
3F	大講義室1	230	230	主に薬学部使用
	大講義室2	230	230	主に薬学部使用
	大講義室3	230	230	主に薬学部使用
4F	大講義室4	241	241	午前中 薬学部使用
	大講義室5	241	241	午前中 薬学部使用
	LL教室1	60	60	
	LL教室2	80	80	
5F	講義室1	144	216	
	講義室2	144	216	
	講義室3	129	132	
	講義室4	90	108	
	講義室5	45	45	
10F	演習室9~16	10~25		8室
	演習室15	10~25	150	4室に分割可

※は最大限利用した場合

中央講義棟実習室一覧

階	教室名	番号
6F	運動学実習室	①
	物理療法実習室	②
	評価治療室	③
	運動療法実習室	④
7F	日常生活活動学実習室	⑤
	義肢装具実習室	⑥
	基礎医学実習室 織物手芸	⑦
	発達評価治療室	⑧
	作業療法実習室 金工・木工・絵画・陶芸	⑨

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
1	Acta odontologica Scandinavica	P.A. Norstedt & Söner	00016357
2	Acta physiologica : official journal of the Federation of European Physiological Societies	Blackwell Publishing	17481708
3	Advances in nursing science : ANS	An Aspen Publication	01619268
4	Aichi-Gakuin dental science	Aichi-Gakuin Society of Dental Science	09162062
5	Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology	Blackwell Science	13238930
6	American journal of health-system pharmacy : AJHP	American Society of Health-System Pharmacists	10792082
7	Analyses of social issues and public policy	Blackwell Publishers	15297489
8	Anatomical science international	Blackwell Publishing	14476959
9	Angle orthodontist		00033219
10	Annals of internal medicine	American College of Physicians	00034819
11	Annals of otology, rhinology and laryngology	Jones H. Parker	00034894
12	Annals of the New York Academy of Sciences	New York Academy of Sciences	00778923
13	Archives of histology and cytology	Japan Society of Histological Documentation	09149465
14	Archives of otolaryngology- head & neck surgery	American Medical Association	08864470
15	Arzneimittel Forschung	Verlag für Medizin nud Naturwissenschaften	00044172
16	Biological & pharmaceutical bulletin	Pharmaceutical Society of Japan	09186158
17	Biological chemistry	W. de Gruyter	14316730
18	Bioscience, biotechnology, and biochemistry	Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry	09168451
19	Blood : journal of hematology	Grune & Stratton	00064971
20	British journal of clinical pharmacology	Blackwell Scientific Publications	03065251
21	British journal of music therapy	Produced jointly by the British Society for Music Therapy (BSMT) and the Association of Professional Music Therapists (APMT)	13594575
22	British journal of pharmacology	Macmillan (Journals)	00071188
23	British Society for Music Therapy bulletin : BSMT	British Society for Music Therapy	09537511
24	Bulletin of the World Health Organization	World Health Organization	00429686
25	Cancer nursing : an international journal for cancer care	Masson	0162220X
26	Cell and tissue research	[Springer]	0302766X
27	Chemical & pharmaceutical bulletin	Pharmaceutical Society of Japan	00092363
28	Chemistry letters	Chemical Society of Japan	03667022
29	Circulation : the journal of the American Heart Association	Grune & Stratton	00097322
30	Circulation research : an official journal of the American Heart Association	American Heart Association	00097330
31	Clinical and experimental immunology	Blackwell Scientific	00099104
32	Clinical pharmacokinetics	ADIS press Australasia pty limited.	03125963
33	Clinical pharmacology and therapeutics		00099236
34	Critical care medicine	John N. Kolon	00903493
35	Development	Company of Biologists	09501991
36	Developmental psychology	American Psychological Association	00121649
37	Dokkyo journal of medical sciences	Dokkyo University School of Medicine	03855023
38	Drugs	S. Karger	00126667
39	EMBO reports	Published for the European Molecular Biology Organization by Oxford University Press	1469221X
40	Endocrine reviews	Endocrine Society	0163769X
41	Environmental health and preventive medicine	Japanese Society for Hygiene	1342078X
42	European journal of clinical investigation : the journal of the European Society for Clinical Investigation	European Society for Clinical Investigation	00142972
43	European journal of haematology	Munksgaard	09024441
44	European journal of oral sciences	Munksgaard International Pub.	09098836
45	Families in society : the journal of contemporary human services	Family Service America	10443894
46	Family relations : journal of applied family and child studies	National Council on Family Relations	01976664
47	General medicine	Japanese Society of General Medicine	13460072
48	Genes & development	Cold Spring Harbor Laboratory in association with the Genetical Society of Great Britain	08909369
49	Heterocycles	Sendai Institute of Heterocyclic Chemistry	03855414
50	Histopathology : official journal of the British Division of the International Academy of Pathology	Blackwell Scientific Publications	03090167
51	Hormone and metabolic research	G. Thieme	00185043
52	International journal of clinical pharmacology and therapeutics	Dustri-Verlag Dr. Karl Feistle	09461965
53	International journal of palliative nursing	Mark Allen Publishing	13576321
54	International journal of systematic and evolutionary microbiology : IJSEM	Society for General Microbiology	14665026
55	International journal of urology	Churchill Livingstone Japan	09198172
56	Issues in comprehensive pediatric nursing	McGraw-Hill	01460862
57	Japanese journal of radiology : the official journal of the Japan Radiological Society	Japan Radiological Society	18671071
58	Jona's healthcare law, ethics, and regulation	Lippincott Williams & Wilkins	15209229

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
59	Journal of advanced nursing	Blackwell Scientific	03092402
60	Journal of anatomy		00218782
61	Journal of applied behavior analysis	Society for the Experimental Analysis of Behavior	00218855
62	Journal of applied physiology	American Physiological Society	87507587
63	Journal of bone and joint surgery. British volume	British Editorial Society of Bone and Joint Surgery	0301620X
64	Journal of clinical periodontology	Munksgaard	03036979
65	Journal of endocrinology	Oxford University Press, etc	00220795
66	Journal of endodontics	[American Association of Endodontists]	00992399
67	Journal of experimental medicine	Rockefeller University Press	00221007
68	Journal of experimental psychology. Human perception and performance	American Psychological Association	00961523
69	Journal of family theory & review	Wiley Subscription Services	17562570
70	Journal of immunoassay & immunochemistry	Marcel Dekker	15321819
71	Journal of immunology	Williams & Wilkins	00221767
72	Journal of infectious diseases	University of Chicago Press	00221899
73	Journal of investigative medicine	SLACK	10815589
74	Journal of lipid research : JLR	Lipid Research, Inc.	00222275
75	Journal of liquid chromatography & related technologies	Marcel Dekker	10826076
76	Journal of marriage and the family	[National Council on Family Relations]	00222445
77	Journal of music therapy	National Association for Music Therapy	00222917
78	Journal of neurophysiology	Charles C. Thomas	00223077
79	Journal of nursing administration	Journal of Nursing Administration	00020443
80	Journal of nursing education		01484834
81	Journal of oral pathology & medicine	Munksgaard	09042512
82	Journal of oral rehabilitation	Blackwell Scientific Publications, [1974]-	0305182X
83	Journal of oral science	Nihon University School of Dentistry	13434934
84	Journal of orthodontics	Oxford University Press	14653125
85	Journal of Osaka Dental University	Osaka Dental University	04752058
86	Journal of pain & palliative care pharmacotherapy	Haworth Medical Press	15360288
87	Journal of periodontal research	Munksgaard	00223484
88	Journal of pharmaceutical sciences		00223549
89	Journal of pharmacological sciences	Japanese Pharmacological Society	13478613
90	Journal of pharmacy and pharmacology	Direction of the Council of the Pharmaceutical Society of Gt. Britain	00223573
91	Journal of rheumatology	Journal of Rheumatology Pub. Co.	0315162X
92	Journal of social issues	Plenum Press	00224537
93	Journal of social policy and social work : JSPSW	Japan College of Social Work	13427482
94	Journal of the American Dental Association	American Dental Association	00028177
95	Journal of toxicology and environmental health. Part A	Taylor & Francis	15287394
96	Journal of toxicology and environmental health. Part B, Critical reviews	Taylor & Francis	10937404
97	Journal of urban health : bulletin of the New York Academy of Medicine	Oxford University Press	10993460
98	Microbiology and immunology	[Center for Academic Publications Japan]	03855600
99	Nagoya medical journal	Nagoya City University Medical School	00277649
100	Nature	Macmillan Journal	00280836
101	Nature medicine	Nature Pub. Co.	10788956
102	New England journal of medicine	Massachusetts Medical Society	00284793
103	Nursing research	American Journal of Nursing Company	00296562
104	Nursing times : NT : the independent voice of nursing	Macmillan Magazines	09547762
105	Nutrition reviews		00296643
106	Orthodontic waves : journal of the Japanese Orthodontic Society : 日本矯正歯科学会雑誌	日本矯正歯科学会	13440241
107	Pakistan journal of zoology	Zoological Society of Pakistan	00309923
108	Palliative medicine	Edward Arnold/Cambridge University Press, North American distributors	02692163
109	Pediatric dental journal : international journal of Japanese Society of Pediatric Dentistry	Japanese Society of Pediatric Dentistry	09172394
110	Pediatric dentistry		01641263
111	Physiological reviews		00319333
112	Psychological bulletin	American Psychological Association	00332909
113	Quintessence international : journal of practical dentistry	Quintessenz Verlags	00336572
114	Science. New series	Moses King	00368075
115	Social issues and policy review	Blackwell, the Society for the Psychological Study of Social Issues, c2007-	17512395
116	Social security bulletin	Social Security Board	00377910
117	Sociology of health & illness : a journal of medical sociology	Routledge & Kegan Paul	01419889
118	Swedish dental journal	[s.n.]	03479994
119	Synthesis : international journal of methods in synthetic organic chemistry	G. Thieme	00397881

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
120	Synthetic communications	Mercel Dekker	00397911
121	The American journal of nursing	J. B. Lippincott Co. for the American Journal of Nursing Co.	0002936X
122	The bulletin of Tokyo Dental College	Tokyo Dental College Press	00408891
123	The Cleft palate-craniofacial journal	American Cleft Palate-Craniofacial Association	10556656
124	The EMBO journal	Published for the European Molecular Biology Organization by IRL Press	02614189
125	The FASEB journal : official publication of the Federation of American Societies for Experimental Biology	Federation of American Societies for Experimental Biology	08926638
126	The FEBS journal	Blackwell	1742464X
127	The International journal of oral & maxillofacial implants	[Quintessence Pub.]	08822786
128	The Japanese dental science review	Elsevier	18827616
129	The journal of biochemistry	[Samuro Kakiuchi]	0021924X
130	The Journal of bone and joint surgery. American volume	American Orthopaedic Association	00219355
131	The journal of cell biology	Rockefeller Institute Press	00219525
132	The journal of general physiology	Rockefeller Institute for Medical Research	00221295
133	The Journal of neuroscience : the official journal of the Society for Neuroscience	Society for Neuroscience	02706474
134	The Journal of physiology	Cambridge University Press	00223751
135	Translational endocrinology & metabolism	Endocrine Society	19489536
136	World Health Organization technical report series		05123054
137	Bacterial adherence & biofilm	Bacterial Adherence & Biofilm事務局	13486071
138	Capsule	日本製薬工業協会	02872358
139	Clinician		03871541
140	Data book	日本製薬工業協会	
141	Dementia Japan	エースアート	1342646X
142	Dental medicine research	昭和大学・昭和歯学会	18820719
143	Drug delivery system	医薬ジャーナル社	09135006
144	Infection control : the Japanese journal of infection control	メディカ出版	09191011
145	JAPIC J	日本医薬情報センター	
146	Journal of oral biosciences	Japanese Association for Oral Biology	13490079
147	Journal of toxicological sciences	毒作用研究会	03881350
148	MEAW研究会雑誌	日本MEAW研究会	13410334
149	Medicina : 内科雑誌メディチーナ	医学書院	00257699
150	Medico	[千代田開発]	02888114
151	Monthlyミクス : medical information express	ミクス	13413864
152	Neonatal care : 新生児医療と看護専門誌	メディカ出版	13414577
153	Newton : graphic science magazine	教育社	02860651
154	Newton. 別冊 : graphic science magazine	教育社	02860651
155	Nursing today	日本看護協会出版会	09122974
156	Orthodontic waves : 日本矯正歯科学会雑誌	日本矯正歯科学会	13490303
157	Quintessence of dental technology : クインテッセンス/デンタル・テクノロジー	[Quintessence Publishing]	03882705
158	The Quintessence	クインテッセンス出版	0286407X
159	あいみっく	国際医学情報センター	03864502
160	アレルギー	日本アレルギー学会	00214884
161	インターナショナルナーシングレビュー : 世界の論文とニュース	日本看護協会出版会	03863247
162	エネルギーレビュー : 広く詳しく正確な情報・評論	エネルギーレビューセンター	02892804
163	からだの科学	日本評論社	04533038
164	がん看護	南江堂	13420569
165	こころの健康 : 日本精神衛生学会誌	日本精神衛生学会/金剛出版(発売)	09126945
166	こども医療センター医学誌	神奈川県立こども医療センター	03012654
167	コミュニティケア	日本看護協会出版会	
168	コミュニティ福祉学部紀要	立教大学コミュニティ福祉学部研究センター	13446096
169	ジュリスト	有斐閣	04480791
170	ジュリスト. 増刊	有斐閣	04480791
171	ソーシャルワーク研究 : 社会福祉実践の総合研究誌	相川書房	03853772
172	デンタル・ダイヤモンド		03862305
173	デンタルハイジーン	医歯薬出版	02850508
174	ノーマライゼーション : 障害者の福祉	日本障害者リハビリテーション協会	13414216
175	ファルマシア	日本薬学会	00148601
176	ホルモンと臨床. 増刊号 : clinical endocrinology	医学の世界社	
177	ホルモンと臨床		00457167
178	までりあ : 日本金属学会会報	日本金属学会/丸善(発売)	13402625
179	モダンメディア		00268054
180	リハビリテーション医学	日本リハビリテーション医学会	18813526
181	リハビリテーション研究	日本障害者リハビリテーション協会	
182	リンパ学	日本リンパ系研究会	09104186

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
183	愛知学院大学歯学会誌	愛知学院大学歯学会	00446912
184	愛媛医学	愛媛医学会	02863677
185	移植	日本移植学会	05787947
186	遺伝.別冊:生物の科学	裳華房	13407376
187	遺傳	北隆館	03870022
188	医薬の門	医薬の門発行所	05792762
189	医薬品情報学	日本医薬品情報学研究会	13451464
190	医療	医療同好会	00211699
191	医療と社会	医療科学研究所	09169202
192	医療情報学	日本医療情報学会	02898055
193	茨城県歯科医学会誌	茨城県歯科医学会	
194	奥羽大学歯学誌	奥羽大学歯学会	09162313
195	横浜医学	横浜市立大学医学会	03727726
196	岡山県立大学保健福祉学部紀要	岡山県立大学保健福祉学部	13412531
197	岡山歯学会雑誌	岡山歯学会	09133941
198	化学と生物	東京大学出版会	0453073X
199	化学	化学社	04511964
200	科学	岩波書店	00227625
201	介護福祉	社会福祉振興・試験センター	
202	解剖学雑誌	日本解剖學會	00227722
203	海外社会保障研究	アーバン・コネクションズ	13443062
204	外科	外科雑誌社	0016593X
205	学術の動向:JSCニュース	日本学術協力財団	13423363
206	感染症学雑誌:日本伝染病学会機関誌:the journal of the Japanese Association for Infectious Diseases	日本伝染病学会	03875911
207	漢方と診療	臨床情報センター	18845991
208	漢方医学	漢方医学社	02882485
209	漢方医薬学雑誌	臨床情報センター	18810454
210	看護		00228362
211	看護管理	医学書院	09171355
212	看護技術	メヂカルフレンド社	0449752X
213	看護教育		00471895
214	看護研究		00228370
215	看護実践の科学	看護の科学社	03854280
216	看護展望	メヂカルフレンド社	0385549X
217	緩和ケア	青海社	13497138
218	関西福祉大学社会福祉学部研究紀要	関西福祉大学社会福祉学部研究会	1883566X
219	癌と化学療法	癌と化学療法社	03850684
220	癌の臨床	医歯薬出版	00214949
221	癌患者と対症療法	メディカルレビュー社	09188509
222	岩手医科大学歯学雑誌	岩手医科大学歯学会	03851311
223	岩手県立大学看護学部紀要	岩手県立大学看護学部	13449745
224	岐阜歯科学会雑誌	岐阜歯科学会	03850072
225	季刊環境研究	公害調査センター	02859769
226	季刊社会保障研究	東京大学出版会	03873064
227	宮城大学看護学部紀要	宮城大学看護学部	13440233
228	救急医学	へるす出版	03858162
229	京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター紀要	京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター	
230	京都府立医科大学看護学科紀要	京都府立医科大学医学部看護学科	13485962
231	教育	国土社	03869938
232	教育と医学	慶應通信	04529677
233	近畿医療福祉大学紀要	近畿医療福祉大学	18831788
234	近畿東海矯正歯科学会雑誌		03865207
235	金属	アグネ技術センター, 1977-	03686337
236	金沢医科大学雑誌	金沢医科大学医学会	03855759
237	金沢大学つるま保健学会誌	金沢大学医学部保健学科	13468502
238	九州社会福祉研究	西九州大学社会福祉学科	09124802
239	九州歯科学會雑誌:Kyūshū-Shika-Gakkai-zasshi	九州歯科学會	03686833
240	駒澤大学心理学論集:KARP	駒澤大学文学部心理学研究室	13493728
241	熊本大学医学部保健学科紀要	熊本大学医学部保健学科紀要委員会	18807151
242	群馬県歯科医学会雑誌	群馬県歯科医学会	13432435
243	群馬保健学紀要	群馬大学医学部保健学科	13434179
244	形成外科	克誠堂出版	00215228
245	月刊ケアマネジメント	環境新聞社	
246	月刊ナーシング	学習研究社	03898326
247	月刊福祉	全国社会福祉協議会	13416669

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
248	月刊薬事	薬業時報社	00165980
249	研究紀要	静岡県立大学短期大学部	09147810
250	現代化学	東京化学同人	0386961X
251	公衆衛生情報	日本公衆衛生協会	
252	公衆衛生	日本醫學雑誌	03685187
253	厚生指標	厚生統計協会	04526104
254	口腔衛生学会雑誌	口腔衛生学会	00232831
255	口腔病学会雑誌	口腔病学会	03009149
256	広島大学歯学雑誌	広島大学歯学会	00467472
257	甲北信越矯正歯科学会雑誌	[甲北信越矯正歯科学会]	13402366
258	香川大学看護学雑誌	香川大学医学部看護学科	13498673
259	国際医療福祉大学学会誌	国際医療福祉大学学会	21863652
260	国際社会福祉情報	京都国際社会福祉協会	09122109
261	再生医療：日本再生医療学会雑誌	メディカルレビュー社	13477919
262	最新醫學	最新醫學社	03708241
263	細胞	ニュー・サイエンス社	13467557
264	細胞工学	秀潤社	02873796
265	材料	日本材料学会	05145163
266	材料の科学と工学	日本材料科学会	13474774
267	埼玉医科大学短期大学紀要	埼玉医科大学短期大学	0915714X
268	作業療法ジャーナル	医学書院	09151354
269	札幌医学雑誌	札幌医科大学	0036472X
270	札幌誌	札幌薬剤師会	
271	三重医学	三重大学医学部三重医学会	03850978
272	山形保健医療研究	山形県立保健医療短期大学	1343876X
273	四国歯学会雑誌	四国歯学会	09146091
274	思想	岩波書店	03862755
275	歯科医学		00306150
276	歯科技工	医歯薬出版	03891895
277	歯科技工,別冊	医歯薬出版	
278	歯科放射線		03899705
279	歯界展望		00118702
280	児童養護		13436694
281	治療	南山堂書店	00225207
282	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	医学書院	09143491
283	耳鼻咽喉科臨床	耳鼻咽喉科臨床会	00326313
284	鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要	鹿児島純心女子大学看護栄養学部	13421468
285	社会学評論	有斐閣	00215414
286	社会関係研究	熊本学園大学社会関係学会『社会関係研究』編集委員会	13410237
287	社会事業研究	日本社会事業大学社会福祉学会	02884828
288	社会事業史研究	社会事業研究会	2186232X
289	社会福祉：クリップ・ライブラリー	エヌ・シー・エル	
290	社会福祉学	全国社会福祉協議会	09110232
291	社会福祉研究	鉄道弘済会福祉センター弘済会館	02862980
292	社会論集	関東学院大学社会学会	1343215X
293	手術	杏林社	00374423
294	周産期医学	東京医学社	03869881
295	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻, 2009.10-	18840167
296	週刊社会保障	社会保険法規研究会	13435736
297	週刊醫學のあゆみ：igaku no ayumi	医歯薬出版	00392359
298	集団精神療法	日本集団精神療法学会	09124268
299	住友病院医学雑誌	住友病院	02858177
300	助産雑誌	医学書院	13478168
301	助産師：日本助産師会機関誌：the journal of Japanese Midwives' Association	日本助産師会出版部	1347684X
302	小児の精神と神経	日本小児医事出版社	05599040
303	小児科	金原出版	00374121
304	小児科診療		03869806
305	小児科臨床	日本小児医事出版部	0021518X
306	小児看護	へるす出版	03866289
307	小児歯科学雑誌		05831199
308	小児保健研究		00374113
309	松本歯学	松本歯科大学学会	03851613
310	障害者歯科	心身障害者歯科医療研究会	09131663
311	障害者問題研究	全国障害者問題研究会出版部	03884155
312	上智大学社会福祉研究	上智大学文学部社会福祉学科	18819389

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
313	食品衛生学雑誌	[日本食品衛生学会]	00156426
314	信州醫學雑誌	長野縣醫學會	00373826
315	心身医学	日本心身医学会/医学書院(発売)	03850307
316	心臓	医事通信社	05864488
317	心理学評論	心理学評論刊行会	03861058
318	新潟歯学会雑誌	新潟歯学会	03850153
319	新潟大学医学部保健学科紀要	新潟大学医学部保健学科	13452576
320	新薬と臨牀	医薬情報研究所	05598672
321	神経心理学 : Japanese journal of neuropsychology	日本神経心理学会/金剛出版(製作・発売)	09111085
322	神戸市看護大学紀要	神戸市看護大学	13429027
323	神戸女子大学健康福祉学部紀要	神戸女子大学	18836143
324	神奈川歯学	神奈川歯科大学学会	04548302
325	診断と治療		0370999X
326	進歩する心臓研究	協和企画	02856581
327	人間の福祉 : 立正大学社会福祉学部紀要	立正大学社会福祉学部	13429191
328	人間科学論究	常盤大学大学院人間科学研究科	09189572
329	人間情報学研究	東北学院大学人間情報学研究所	13419811
330	人間生活学研究	藤女子大学人間生活学部人間生活学科	13467069
331	人間福祉研究	北海道女子大学	13440039
332	整形・災害外科	金原出版	03874095
333	整形外科	南江堂	00305901
334	星薬科大学紀要	星薬科大学	04412559
335	生きがい研究	長寿社会開発センター	13414763
336	生化学	日本生化学會	00371017
337	生活と福祉	[全国社会福祉協議会]	13416677
338	生体の科学	醫學書院	03709531
339	生体工医学 : 日本エム・イー学会誌	日本エム・イー学会/日本学会事務センター(発売)	1347443X
340	生物科学	岩波書店(発売)	00452033
341	生命倫理	成文堂	13434063
342	精神医学	医学書院	04881281
343	精神科治療学	星和書店	09121862
344	精神神経學雑誌	日本精神神経學會	00332658
345	精神保健福祉 : 日本精神保健福祉士協会誌	日本精神保健福祉士協会	13452231
346	精神療法	金剛出版	09168710
347	聖カタリナ大学聖カタリナ大学短期大学部研究紀要	聖カタリナ大学/聖カタリナ大学短期大学部	13499270
348	聖マリア学院大学紀要	聖マリア学院大学	21850054
349	聖隷クリストファー大学看護学部紀要	聖隷クリストファー大学看護学部	13482017
350	聖路加看護大学紀要	聖路加看護大学	02892863
351	製剤機械技術研究会誌	製剤機械技術研究会	13428764
352	西南女学院大学紀要	西南女学院大学	13426354
353	仙台白百合女子大学紀要	仙台白百合女子大学・短期大学	13427350
354	千葉医学雑誌	千葉医学会	03035476
355	千葉大学大学院看護学研究科紀要	千葉大学大学院看護学研究科	21859698
356	川崎医学会誌	川崎医学会	03865924
357	川崎市立看護短期大学紀要	川崎市立看護短期大学	13421921
358	全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会誌	全国歯放技連絡協議会	
359	総合リハビリテーション	医学書院	03869822
360	総合看護	現代社	00380660
361	総合臨牀	永井書店	03711900
362	体育の科学	体育の科学社	00398985
363	大阪大学看護学雑誌	大阪大学医学部保健学科看護学専攻	13413112
364	大阪大學齒學雑誌	大阪大学歯学会	04734629
365	大阪府歯科医師会雑誌		09122672
366	大阪府薬雑誌		04750683
367	大正大学臨床心理学専攻紀要	大正大学大学院文学研究科臨床心理学専攻	
368	大塚薬報		0030669X
369	達人ナース : 経験知の伝授誌	日総研出版	09166580
370	地域福祉研究	日本生命済生会福祉事業部	03853616
371	地域保健		03852229
372	鶴見歯学	鶴見大学歯学会	0385020X
373	島津評論	[島津製作所]	0371005X
374	東京矯正歯科学会雑誌	東京矯正歯科学会	09171266
375	東京慈恵会医科大学雑誌	東京慈恵会医科大学成医会	03759172
376	東京都歯科医師会雑誌	東京都歯科医師会	09124462
377	東京薬科大学研究紀要	東京薬科大学	13438956
378	東京醫科大學雑誌	東京醫科大學醫學會	00408905

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
379	東北矯正歯科学会雑誌	東北矯正歯科学会	13402668
380	東北大学医学部保健学科紀要	東北大学医学部保健学科	13488899
381	東北大学歯学雑誌	東北大学歯学会	02873915
382	糖尿病	日本糖尿病学会	0021437X
383	同朋福祉	同朋大学社会福祉学部	13463322
384	道医シリーズ		
385	道歯会通信	北海道歯科医師会	
386	道薬誌：北海道薬剤師会誌	北海道薬剤師会	09147578
387	徳島文理大学研究紀要	徳島文理大学研究紀要編集委員会	02869829
388	奈良県立医科大学医学部看護学科紀要	[奈良県立医科大学医学部看護学科]	13493884
389	内科	南江堂	00221961
390	日経サイエンス：Scientific American日本版	日経サイエンス社	0917009X
391	日大歯学		03850102
392	日本がん看護学会誌	日本がん看護学会	09146423
393	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌	[日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会]	18820115
394	日本プライマリ・ケア連合学会誌	日本プライマリ・ケア連合学会	21852928
395	日本医用歯科機器学会誌	日本医用歯科機器学会	18817734
396	日本外科学会雑誌		03014894
397	日本顎変形症学会雑誌	日本顎変形症学会	09167048
398	日本顎咬合学会誌：咬み合わせの科学	日本顎咬合学会	13468111
399	日本看護科学学会誌	日本看護科学学会	02875330
400	日本看護研究学会雑誌	日本看護研究学会	02859262
401	日本金属学会誌	日本金属学会	00214876
402	日本血管外科学会雑誌	日本血管外科学会	09186778
403	日本口蓋裂学会雑誌		03865185
404	日本口腔インプラント学会誌	日本口腔インプラント学会	09146695
405	日本口腔科学学会雑誌		00290297
406	日本口腔外科学会雑誌		00215163
407	日本細菌学雑誌	日本細菌学雑誌会	00214930
408	日本歯科医学会誌	日本歯科医学会	0286164X
409	日本歯科医師会雑誌	日本歯科医師会	00471763
410	日本歯科医療管理学会雑誌	日本歯科医療管理学会	03875687
411	日本歯科技工学会雑誌	日本歯科技工学会	09147713
412	日本歯科東洋医学会誌	日本歯科東洋医学会	09157573
413	日本歯科評論	日本歯科評論社	02890909
414	日本歯科保存学雑誌		03872343
415	日本歯科理工学会誌：歯科材料・器械	日本歯科理工学会	18844421
416	日本歯技	[日本歯技工士会]	09107975
417	日本歯周病学会誌		03850110
418	日本歯内療法学会雑誌	日本歯内療法学会	13478672
419	日本耳鼻咽喉科学會會報	日本耳鼻咽喉科学會	00306622
420	日本生理学雑誌		00319341
421	日本赤十字秋田看護大学日本赤十字秋田短期大学紀要	日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要編集委員会	13430033
422	日本大学歯学部紀要	日本大学歯学部	1348818X
423	日本内科学会雑誌	日本内科学会	00215384
424	日本内分泌学会雑誌		00290661
425	日本農村医学会雑誌		04682513
426	日本泌尿器科学會雑誌	[日本泌尿器科学會]	00215287
427	日本病院薬剤師会雑誌	日本病院薬剤師会	13418815
428	日本保健福祉学会誌	日本保健福祉学会	13408194
429	日本補綴歯科学会誌	日本補綴歯科学会	18834426
430	日本味と匂学会誌	[日本味と匂学会]	13404806
431	日本薬局方フォーラム	日本公定書協会	13446541
432	日本薬剤師会雑誌	日本薬剤師会	0369674X
433	日本薬理学雑誌	日本薬理学会	00155691
434	日本臨床矯正歯科医会雑誌	日本臨床矯正歯科医会	09155589
435	日本臨床歯周病学会誌	日本臨床歯周病学会	13454919
436	日本臨牀	日本臨牀社	00471852
437	日本老年泌尿器科学会誌	日本老年泌尿器科学会	13417118
438	日本衛生学雑誌	[日本衛生学会]	00215082
439	日本褥瘡学会誌：日本褥瘡学会機関誌	日本褥瘡学会編集委員会	13450417
440	日本醫事新報	日本醫事新報社	03859215
441	日本醫學放射線學會雑誌	日本醫學放射線學會	00480428
442	白梅学園大学・短期大学紀要	白梅学園大学/白梅学園短期大学	18812600
443	発達障害研究	日本文化科学社	03879682
444	発達心理学研究	日本発達心理学会	09159029

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
445	病院・地域精神医学	病院・地域精神医学会	09104798
446	病理と臨床	文光堂	02873745
447	福岡歯科大学学会雑誌	福岡歯科大学学会	03850064
448	福岡大学薬学集報	福岡大学総合研究所	13461559
449	福島県立医科大学看護学部紀要	福島県立医科大学看護学部	13446975
450	文學	岩波書店	03894029
451	兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	兵庫県立大学看護学部/[兵庫県立大学]地域 ケア開発研究所	18816592
452	別冊ジュリスト	有斐閣	13425048
453	別冊整形外科	南江堂	02871645
454	別冊日経サイエンス	日経サイエンス	09170626
455	別冊日本臨牀. 新領域別症候群シリーズ	日本臨牀社	00471852
456	保健の科学	杏林書院	00183342
457	保健科学研究誌	熊本保健科学大学	13487043
458	保健師ジャーナル	医学書院	13488333
459	補綴臨床	医歯薬出版	00186341
460	放射線科学	実業公報社	04412540
461	法律時報	日本評論社	03873420
462	訪問看護と介護	医学書院	13417045
463	防衛医科大学校雑誌	防衛医科大学校	03851796
464	北医療大デンタルトピックス	北海道医療大学歯学会	18847129
465	北海道の公衆衛生	北海道公衆衛生協会	
466	北海道医療大学看護福祉学部学会誌	北海道医療大学看護福祉学部学会	13498967
467	北海道医療大学看護福祉学部紀要	[北海道医療大学看護福祉学部]	13404709
468	北海道医療大学歯学会雑誌	北海道医療大学歯学会	18805892
469	北海道医療大学心理科学部研究紀要 : J Psychol Sci	[北海道医療大学心理科学部]	18809804
470	北海道医療大学人間基礎科学論集	北海道医療大学人間基礎科学論集編集委員会	13463020
471	北海道環境科学研究センター所報	北海道環境科学研究センター	09168656
472	北海道歯科医師会誌	北海道歯科医師会	00732915
473	北海道歯学雑誌	北海道歯学会	09147063
474	北海道醫學雑誌	北海道醫學會	03676102
475	北星学園大学社会福祉学部北星論集	北星学園大学	13426958
476	麻酔	克誠堂出版	00214892
477	膜		03851036
478	明海歯科医学	明海歯科医学会	18814298
479	薬学研究所の進歩 : 研究成果報告集	薬学研究奨励財団	
480	薬剤疫学	日本薬剤疫学研究会	13420445
481	薬剤学	日本薬学会	03727629
482	理学療法ジャーナル	医学書院	09150552
483	立正大学社会福祉研究所年報	立正大学社会福祉研究所	13449532
484	琉球医学会誌	琉球医学会	1346888X
485	臨床と微生物	近代出版	09107029
486	臨床栄養	医歯薬出版	04851412
487	臨床化学	日本臨床化学研究会	03705633
488	臨床核医学	放射線診療研究会	09125817
489	臨床血液		04851439
490	臨床検査		04851420
491	臨床評価		03003051
492	臨床評価. 別冊	臨床評価刊行会	03003051
493	臨床病理	臨床病理刊行会	00471860
494	臨床麻酔		03873668
495	臨床免疫・アレルギー科	科学評論社	18811930
496	臨牀ト研究	大道學館出版部	00214965
497	臨牀外科	日本醫學雜誌	03869857
498	臨牀看護	へるす出版	03867722
499	臨牀放射線	金原出版	00099252
500	労働の科学	労働科学研究所内労働科学研究会	00357774
501	老年歯科医学	日本老年歯科医学研究会	09143866
502	老年社会科学	サンエイジング	03882446
503	老年精神医学雑誌	ワールドプランニング	09156305
504	和歌山医学	和歌山医学会	00430013
505	和歌山県立医科大学保健看護学部紀要	和歌山県立医科大学保健看護学部	18801366
506	栄養学雑誌	国民栄養部研究会	00215147
507	薬局	南山堂	00440035
508	薬学雑誌	日本薬学会	00316903
509	醫學と生物學	醫學生物學速報會	00191604

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
510	歯科学報	歯科学報社	00373710
511	歯學	[日本歯科大学歯學會]	00298484
512	Ritsumeikan law review	Ritsumeikan University	09124322
513	Cosmica	京都外国語大学	03899780
514	Library and information science	[三田図書館情報学会]	03734447
515	SELL : studies in English linguistics & literature	京都外国語大学英米語学科研究会	09106634
516	アカデミア. 社会科学編	南山大学	21853274
517	アカデミア. 人文・自然科学編	南山大学	21853282
518	アカデミア. 文学・語学編	南山大学	03898431
519	オンライン検索	日本端末研究会関東地区部会	02863200
520	くらしき作陽大学作陽音楽短期大学研究紀要	くらしき作陽大学/作陽音楽短期大学	18846998
521	ソフィア：西洋文化ならびに東西文化交流の研究	創文社	04896432
522	メディア・コミュニケーション研究	北海道大学	18825303
523	ルーテル学院研究紀要：テオロギア・ディアコニア：ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校紀要	ルーテル学院大学	18809855
524	愛知県立大学看護学部紀要	愛知県立大学看護学部	18848869
525	愛知淑徳大学論集. メディアプロデュース学部篇	愛知淑徳大学	18811922
526	芦屋大学論叢	芦屋大学	03853233
527	安田女子大学紀要	安田女子大学/安田女子短期大学	02896494
528	医学図書館	日本医学図書館協議会	04452429
529	一般教育論集	愛知大学教養部	09160159
530	応用社会学研究	東京国際大学	09159835
531	応用社会学研究	立教大学文学部研究室	03876756
532	岡山商大論叢	岡山商科大学学会	02868652
533	沖縄法學	沖縄国際大学法学会	02870649
534	下関市立大学論集		03875296
535	花園大学文学部研究紀要	花園大学文学部	1342467X
536	看護と情報：看護図書館協議会誌	看護図書館協議会	13403753
537	関西医科大学教養部紀要	関西医科大学教養部	02889552
538	関東学院大学人文科学研究所報	関東学院大学人文科学研究所	03867919
539	関東学院大学文学部紀要	関東学院大学[文学部]人文学会	02861216
540	岩手医科大学共通教育研究年報	岩手医科大学共通教育センター	18829325
541	岐阜経済大学論集	岐阜経済大学学会	03865932
542	紀要		13415840
543	紀要	弘前学院大学文学部	13479709
544	宮城学院女子大学研究論文集	宮城学院女子大学	03867501
545	京都ノートルダム女子大学研究紀要	京都ノートルダム女子大学	02868989
546	京都精華大学紀要	京都精華大学	09173986
547	桐蔭論叢	[桐蔭学園横浜大学]	13413805
548	九州産業大学国際文化学部紀要	九州産業大学国際文化学部	13409425
549	九州女子大学紀要	九州女子大学/九州女子短期大学	18840159
550	釧路公立大学紀要. 人文・自然科学研究	釧路公立大学	09152989
551	熊本学園大学文学・言語学論集	熊本学園大学文学・言語学論集編集会議	13410229
552	恵泉女学園大学紀要	恵泉女学園大学紀要委員会	18812554
553	研究紀要	青森大学・青森短期大学学術研究会	03892425
554	研究紀要	つくば国際大学	13412078
555	研究紀要	東京成徳大学人文学部・応用心理学部	18840582
556	研究論叢	京都外国語大学	03899152
557	県立広島大学人間文化学部紀要	県立広島大学	13467816
558	現代の図書館	日本図書館協会	00166332
559	言語と文化：文教大学言語文化研究所紀要	文教大学言語文化研究所	09147977
560	広島経済大学経済研究論集	広島経済大学経済学会	03871436
561	広島経済大学研究論集	広島経済大学経済学会	03871444
562	広島文教女子大学紀要	広島文教女子大学/広島文教女子大学短期大学部	0919181X
563	弘前学院大学社会福祉学部研究紀要	弘前学院大学社会福祉学部	13464655
564	甲南女子大学研究紀要. 人間科学編	甲南女子大学文学部事務室/[甲南女子大学文学部]人間科学部事務室	13471228
565	甲南女子大学研究紀要. 文学・文化編	甲南女子大学文学部事務室/[甲南女子大学文学部]人間科学部事務室	1347121X
566	国際学研究	明治学院大学国際学部	0918984X
567	国立国会図書館月報	国立国会図書館	00279153
568	根室市歴史と自然の資料館紀要	根室市歴史と自然の資料館	0912599X
569	札幌大学総合論叢	札幌大学総合論叢編集委員会	1342324X
570	三重中京大学研究フォーラム	三重中京大学学術研究会	18807798
571	産業経済研究	久留米大学産業経済研究所	03897044
572	四国学院論集	四国学院文化学会	13479229

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
573	鹿児島経済論集	鹿児島国際大学経済学部学会	13460226
574	社会学研究科年報	立教大学大学院社会学研究科	13466259
575	女子栄養大学紀要	女子栄養大学	02860511
576	女性歴史文化研究所紀要	京都橘女子大学女性歴史文化研究所	09193545
577	昭和大学富士吉田教育部紀要	昭和大学富士吉田教育部	18814573
578	松山大学論集	松山大学学術研究会	09163298
579	情報の科学と技術	情報科学技術協会	09133801
580	情報管理	日本科学技術情報センター	00217298
581	人間の発達と教育：明治学院大学教職課程論叢	明治学院大学文学会	13499718
582	人間学部研究報告	京都文教大学	
583	人文学報	大日本図書	03868729
584	図書館雑誌	日本文庫協会	03854000
585	杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部紀要	杉野服飾大学/杉野服飾大学短期大学部	13483501
586	成蹊大学一般研究報告	成蹊大学	03888835
587	星薬科大学一般教育論集	星薬科大学	0289369X
588	跡見学園女子大学文学部紀要	跡見学園女子大学	13481444
589	千葉商大紀要	千葉商科大学国府台学会	03854566
590	専修自然科学紀要	専修大学自然科学研究会	03865827
591	川村学園女子大学研究紀要	川村学園女子大学研究紀要編集委員会	09186050
592	大学の図書館	大学図書館問題研究会	02866854
593	大学図書館研究	学術文献普及会	03860507
594	大阪産業大学産業研究所所報	大阪産業大学産業研究所	03882624
595	大阪産業大学論集. 自然科学編	大阪産業大学学会	02871394
596	大阪産業大学論集. 人文・社会科学編	大阪産業大学学会	18825966
597	大阪商業大学論集	大阪商業大学商経学会	02870959
598	大阪体育大学紀要	大阪体育大学	02891190
599	大手前大学論集	大手前大学	1882644X
600	大正大学研究紀要. 人間学部・文学部	大正大学出版部	13415271
601	大東文化大学紀要. 自然科学	大東文化大学	09122346
602	大東文化大学紀要. 社会科学	大東文化大学	09122338
603	大東文化大学紀要. 人文科学	大東文化大学	03861082
604	地域と住民	名寄女子短期大学道北地域研究所	02884917
605	地域総合研究	鹿児島経済大学地域総合研究所	09142355
606	中央学院大学商経論叢	中央学院大学商学部	09129820
607	朝日大学一般教育紀要	朝日大学一般教育研究協議会	13413589
608	長野大学紀要	長野大学	02875438
609	鶴見大学紀要. 第4部. 人文・社会・自然科学篇	鶴見大学	03898032
610	帝京平成大学紀要	帝京平成大学	13415182
611	都留文科大学研究紀要	都留文科大学	02863774
612	東京医科歯科大学教養部研究紀要	東京医科歯科大学教養部	03863492
613	東京歯科大学教養系研究紀要	東京歯科大学教養系	
614	東北薬科大学一般教育関係論集	東北薬科大学	09146008
615	東洋大学紀要. 自然科学篇	東洋大学	13468987
616	徳山大学総合研究所紀要	徳山大学総合研究所	18814115
617	奈良大学紀要	奈良大学	03892204
618	南九州大学研究報告. A. 自然科学編	南九州大学	1348639X
619	南九州大学研究報告. B. 人文社会科学編	南九州大学	13486381
620	南山経営研究	南山大学経営学会	09126147
621	南山経済研究	南山大学経済学会	09126139
622	南島文化	沖縄国際大学南島文化研究所	03886484
623	二松：大学院紀要	二松学舎大学大学院文学研究科	09143602
624	二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊	二松学舎大学東アジア学術総合研究所	18804969
625	二松学舎大学論集	二松学舎大学	02867206
626	日本歯科大学紀要. 一般教育系	日本歯科大学	03851605
627	日本女子大学紀要. 理学部	日本女子大学理学部	09191593
628	日本女子大学大学院文学研究科紀要	日本女子大学	13412361
629	日本図書館情報学会誌	日本図書館情報学会/紀伊国屋書店(発売)	13448668
630	日本体育大学紀要	日本体育大学	02850613
631	日本文学研究	梅光女学院大学日本文学会	02862948
632	函館大学論究	函館大学商学部	02866137
633	飯田女子短期大学紀要	飯田女子短期大学	09128573
634	富士大学紀要	富士大学学術研究会	03855007
635	武蔵大学人文学会雑誌	武蔵大学人文学会	02865696
636	別府大学紀要	別府大学	02864983
637	防衛医科大学校進学課程研究紀要	防衛医科大学校進学課程研究紀要編集委員会	03868133
638	北海学園大学人文論集	北海学園大学人文学会	09199608

学術雑誌リスト

No	誌名	出版者	ISSN
639	北海道開拓記念館研究紀要	北海道開拓記念館	13412795
640	北海道教育大学大雪山自然教育研究施設研究報告	北海道教育大学大雪山自然教育研究施設	03864464
641	北海道情報大学紀要	北海道情報大学	09156658
642	北星学園大学経済学部北星論集	北星学園大学	02893398
643	北星学園大学文学部北星論集	北星学園大学	0289338X
644	名古屋女子大学紀要. 家政・自然編. 人文・社会編	名古屋女子大学	21857962
645	明星大学研究紀要. 情報学部	明星大学青梅校舎	13444379
646	明星大学研究紀要. 人文学部	明星大学人文学部	03881318
647	明星大学研究紀要. 人文学部・日本文化学科	明星大学日野校	21862818
648	薬学図書館	日本薬学図書館協議会	03862062
649	立命館法學	立命館大学人文科学研究所	04831330
650	麗沢大学紀要	麗沢大学	02874202
651	論叢：玉川大学文学部紀要	玉川大学出版部	02868903
652	和洋女子大学紀要	和洋女子大学	18846351
653	國學院大學紀要	國學院大學	02865823
654	圖書館界	日本圖書館研究會	00409669

専門科目図書100冊リストアップ

理学療法選書

No.	書名	編著者	出版社	刊年	価格(税込)	版
1	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学	奈良 勲	医学書院	2012	4,200	初版
2	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学	奈良 勲	医学書院	2010	5,040	第3版
3	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学	奈良 勲	医学書院	2010	3,696	第3版
4	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達	奈良 勲	医学書院	2010	4,368	初版
5	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科	奈良 勲	医学書院	2010	2,940	第3版
6	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学	奈良 勲	医学書院	2009	3,780	第3版
7	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科	奈良 勲	医学書院	2009	4,704	第3版
8	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学	奈良 勲	医学書院	2009	3,864	第3版
9	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学	奈良 勲	医学書院	2009	3,528	第3版
10	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学	奈良 勲	医学書院	2007	3,528	第3版
11	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学	奈良 勲	医学書院	2004	5,040	第2版
12	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理	奈良 勲	医学書院	2001	2,520	初版
13	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト	細田多穂	南江堂	2011	3,780	初版
14	シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト	細田多穂	南江堂	2009	4,032	初版
15	シンプル理学療法学シリーズ 理学療法入門テキスト	細田多穂	南江堂	2007	3,192	初版
16	シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト	細田多穂	南江堂	2012	4,032	改訂第2版
17	シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト	細田多穂	南江堂	2011	3,528	初版
18	シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト	細田多穂	南江堂	2010	4,032	初版
19	シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト	細田多穂	南江堂	2010	4,788	初版
20	シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト	細田多穂	南江堂	2010	3,528	初版
21	シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト	細田多穂	南江堂	2010	4,032	初版
22	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト	細田多穂	南江堂	2008	3,780	初版
23	シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト	細田多穂	南江堂	2008	3,528	初版
24	シンプル理学療法学シリーズ 中枢神経障害理学療法学テキスト	細田多穂	南江堂	2008	4,032	初版
25	標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学	奈良 勲	医学書院	2012	3,948	第3版
26	標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ	奈良 勲	医学書院	2011	3,948	第2版
27	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論	奈良 勲	医学書院	2010	4,872	第3版
28	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論	奈良 勲	医学書院	2010	3,948	第3版
29	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境	奈良 勲	医学書院	2009	4,536	第3版
30	標準理学療法学 専門分野 物理療法学	奈良 勲	医学書院	2008	3,948	第3版
31	標準理学療法学 専門分野 基礎理学療法学	奈良 勲	医学書院	2006	4,872	初版
32	標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法	奈良 勲	医学書院	2006	3,948	第2版
33	標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学	奈良 勲	医学書院	2004	4,872	第2版
34	標準理学療法学 専門分野 臨床動作分析	奈良 勲	医学書院	2001	3,948	初版
35	理学療法MOOK 1 脳損傷の理学療法1【第2版】 超早期から急性期のリハビリテーション	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2005	2,772	第2版
36	理学療法MOOK 2 脳損傷の理学療法2【第2版】 回復期から維持期のリハビリテーション	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2005	2,772	第2版
37	理学療法MOOK 3 疼痛の理学療法【第2版】 慢性痛の理解とエビデンス	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2008	3,528	第2版
38	理学療法MOOK 4 呼吸理学療法 第2版	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2009	4,032	第2版
39	理学療法MOOK 5 物理療法	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2000	3,192	初版
40	理学療法MOOK 6 運動分析	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2000	2,772	初版
41	理学療法MOOK 7 義肢装具	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2000	3,192	初版
42	理学療法MOOK 8 下肢関節疾患の理学療法	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2001	3,192	初版
43	理学療法MOOK 9 スポーツ傷害の理学療法 第2版	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2009	3,864	第2版
44	理学療法MOOK 10 高齢者の理学療法 第2版	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2011	3,192	第2版
45	理学療法MOOK 11 健康増進と介護予防 増補版	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2009	3,360	増補版
46	理学療法MOOK 12 循環器疾患のリハビリテーション	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2005	3,528	初版

専門科目図書100冊リストアップ

47	理学療法MOOK 13 GOLと理学療法 患者満足度をいかに高めるか	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2006	3,360	初版
48	理学療法MOOK 14 腰痛の理学療法	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2008	3,528	初版
49	理学療法MOOK 15 子どもの理学療法	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2008	3,528	初版
50	理学療法MOOK 16 脳科学と理学療法	黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正	三輪書店	2009	3,528	初版
51	理学療法のとらえかた	奈良 勲	文光堂	2001	4,032	初版
52	理学療法のとらえかた PART 2	奈良 勲	文光堂	2003	4,032	初版
53	理学療法のとらえかた PART 3	奈良 勲	文光堂	2005	4,200	初版
54	理学療法のとらえかた PART 4	奈良 勲	文光堂	2007	5,040	初版
55	理学療法ハンドブック 改訂第4版 第1巻 理学療法の基礎と評価	細田多穂/柳澤健	協同医書出版社	2010	18,480	改訂第4版
56	理学療法ハンドブック 改訂第4版 第2巻 治療アプローチ	細田多穂/柳澤健	協同医書出版社	2010		改訂第4版
57	理学療法ハンドブック 改訂第4版 第3巻 疾患別・理学療法基本プログラム	細田多穂/柳澤健	協同医書出版社	2010		改訂第4版
58	理学療法ハンドブック 改訂第4版 第4巻 疾患別・理学療法の臨床思考	細田多穂/柳澤健	協同医書出版社	2010		改訂第4版
59	運動器障害理学療法学 I 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト	河村廣幸	中山書店	2011	2,016	初版
60	運動器障害理学療法学 II 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	河村廣幸	中山書店	2011	2,016	初版
61	神経障害理学療法学 I 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	大畑光司/玉木彰	中山書店	2011	2,016	初版
62	神経障害理学療法学 II 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	大畑光司/玉木彰	中山書店	2012	2,016	初版
63	内部障害理学療法学 呼吸 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	石川 朗/玉木彰	中山書店	2010	2,016	初版
64	内部障害理学療法学 循環・代謝 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	木村雅彦	中山書店	2010	2,016	初版
65	義肢学 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	永富史子	中山書店	2011	2,016	初版
66	装具学 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	石川 朗/佐竹将宏	中山書店	2011	2,016	初版
67	理学療法概論	奈良 勲	医歯薬出版株式会社	2007	4,956	第5版
68	概説理学療法	嶋田智明	文光堂	2007	4,200	初版
69	ビジュアルレクチャーシリーズ基礎理学療法学	大橋ゆかり	医歯薬出版株式会社	2012	2,352	初版
70	図解理学療法技術ガイド	石川齊他	文光堂	2007	7,140	第3版
71	アドバンス版 図解理学療法技術ガイド	細田多穂	文光堂	2005	8,400	初版
72	理学療法士プロフェッショナル・ガイド 臨床の現場で役立つマネジメントのすべて	細田多穂	文光堂	2003	5,460	初版
73	科学的根拠に基づく理学療法 理論を実践に生かすヒント	Kathryn Refsha uge、Louise Ad a、Elizabeth Elli	エルゼビア・ジャパン	2008	4,368	初版
74	理学療法学事典	奈良 勲	医学書院	2006	7,560	初版
75	理学療法の本質を問う	奈良 勲	医学書院	2002	1,596	初版
76	リハビリテーションにおける評価法ハンドブック	赤居正美	医歯薬出版	2009	4,032	初版
77	障害と活動の測定・評価ハンドブック	岩谷力	南江堂	2005	4,620	初版
78	リハビリテーション評価ガイドブック	望月 久	NAP	2004	3,192	初版
79	考える理学療法 評価から治療手技の選択	丸山仁司	文光堂	2004	4,620	初版
80	考える理学療法 評価から治療手技の選択[中枢神経疾患編]	丸山仁司	文光堂	2006	4,788	初版
81	考える理学療法 評価から治療手技の選択[内部障害]	丸山仁司	文光堂	2008	5,460	初版
82	神経筋骨格系の検査と評価	中山孝	医歯薬出版株式会社	2010	5,712	初版
83	カラー写真で学ぶ運動器疾患のみかたと保存的治療	竹内義享・田口大輔	医歯薬出版株式会社	2008	3,192	初版
84	カラー写真で学ぶ四肢関節の触診法	竹内義享・大橋淳・上村英記	医歯薬出版株式会社	2007	3,192	初版
85	関節可動域・筋長検査法	奈良勲	医歯薬出版株式会社	2005	6,216	初版
86	筋力	奈良勲・岡西哲夫	医歯薬出版株式会社	2004	3,864	初版
87	筋・感覚検査法	奈良勲	医歯薬出版株式会社	2001	5,712	初版

専門科目図書100冊リストアップ

88	関節可動域測定法	木村哲彦	協同医書出版社	2002	3,360	改訂第2版
89	臨床評価指標入門	内山 靖, 小林武, 潮見泰藏	協同医書出版社	2003	4,620	初版
90	臨床判断学入門	内山 靖, 小林武, 前田眞治	協同医書出版社	2006	3,528	初版
91	新・徒手筋力検査法	津山直一, 中村耕三	協同医書出版社	2008	6,300	原著第8版
92	理学療法評価学	松澤 正	金原出版株式会社	2011	5,208	改訂第3版
93	誰でもわかる動作分析II	村井貞夫	南江堂	2010	1,932	初版
94	目でみる運動機能検査法	竹内義享/澤田規	南江堂	2005	4,620	初版
95	理学療法士のための6ステップ式臨床動作分析マニュアル	黒川幸雄ほか	文光堂	2010	4,368	第2版
96	アクティブIDストレッチング	鈴木重行	三輪書店	2007	3,780	初版
97	IDストレッチング	鈴木重行	三輪書店	2006	3,780	第2版
98	ID触診術 Individual Muscle Palpaton	鈴木重行	三輪書店	2005	5,040	初版
99	筋骨格系検査法	石川斉・嶋田智明	医歯薬出版株式会社	2011	6,048	原著第3版
100	Brunnstrom's Clinical Kinesiology	Peggy A., Ph.D. Hougum, Dolores B. Bertoti	F a Davis Co	2011	7,751	6版
101	Gait Analysis: Normal and Pathological Function	Jacquelin Perry, Judith Burnfield	Slack Inc	2010	8,685	2版
102	Human Walking	Jessica Rose, James G. Gamble	Lippincott Williams & Wilkins	2005	9,773	3版
103	Kinesiology of the Musculoskeletal System: Foundations for Rehabilitation	Donald A. Neumann	Mosby	2009	7,904	2版
104	Kinesiology: The Mechanics and Pathomechanics of Human Movement	Carol A. Oatis	Lippincott Williams & Wilkins	2008	8,403	2版
105	Joint Structure And Function: A Comprehensive Analysis	Pamela K. Levangie, Cynthia C. Norkin	F a Davis Co	2011	7,657	5版
106	Muscles: Testing and Function, with Posture and Pain, International Edition: Includes a Bonus Primal Anatomy CD-ROM	Florence Peterson Kendall	Lippincott Williams & Wilkins	2010	7,056	5版
107	Anatomy and Human Movement: Structure and function with PAGEBURST Access	Nigel Palastanga	Churchill Livingstone	2011	6,875	6版
108	Clinical Kinesiology and Anatomy	Lynn S. Lippert	F a Davis Co	2010	4,386	5版
109	Functional Anatomy: Musculoskeletal Anatomy, Kinesiology, and Palpaton for Manual Therapists	Christy Cael	Lippincott Williams & Wilkins	2011	5,201	Revised and Updated Version edition
110	Exercise Physiology, International Edition: Nutrition, Energy, and Human Performance	William D. McArdle	Lippincott Williams & Wilkins	2009	6,045	7版
111	ACSM's Advanced Exercise Physiology	American College of Sports Medicine	Lippincott Williams & Wilkins	2011	10,686	2版
112	Laboratory Manual for Exercise Physiology	G. Gregory Haff	Human Kinetics	2012	6,688	初版
113	Essentials of Exercise Physiology, International Edition	William D. McArdle	Lippincott Williams & Wilkins	2010	4,990	4版
114	Biomechanics and Motor Control of Human Movement.	Winter, David A.	Wiley	2009	11,481	4版
115	Motor Control	Shumway-Cook & M.H. Woolacott	Lippincott Williams & Wilkins	2012	6,174	4版
116	Physical Medicine & Rehabilitation	R.L. Braddom, L. Chan, M.A.	W B Saunders Co	2011	24,993	4版
117	Basic Biomechanics of the Musculoskeletal System	M. Nordin & .V.H. Frankel	Lippincott Williams & Wilkins	2012	5,872	4版

専門科目図書100冊リストアップ

118	ANATOMY, REGIONAL ATLAS OF THE HUMAN BODY (CLEMENTE)	Carmine D. Clemente PhD	Lippincott Williams & Wilkins	2010	6,652	6版
119	Principles of Neural Science.	Eric R. Kandel / James H. Schwartz / Thomas M.	Appleton & Lange	2000	4,952	4th ed.
120	Therapeutic Exercise: Foundations and Techniques	Carol Kisner	F a Davis Co	2007	6,816	5版

563,840

専門科目図書100冊リストアップ

作業療法選書

No.	書名	編著者	出版社	刊年	価格(税込)	版
1	作業療法学全書 作業療法概論	日本作業療法士協会	協同医書出版社	2010	2,856	改訂3版
2	作業療法学全書 基礎作業学			2009	2,688	改訂3版
3	作業療法学全書 作業療法評価学			2009	3,192	改訂3版
4	作業療法学全書 身体障害			2008	3,192	改訂3版
5	作業療法学全書 精神障害			2010	3,192	改訂3版
6	作業療法学全書 発達障害			2010	2,688	改訂3版
7	作業療法学全書 老年期			2008	2,352	改訂3版
8	作業療法学全書 高次脳機能障害			2011	2,688	改訂3版
9	作業療法学全書 義肢装具学			2009	2,688	改訂3版
10	作業療法学全書 福祉用具の使い方、住環境整備			2009	2,520	改訂3版
11	作業療法学全書 日常生活活動			2009	3,024	改訂3版
12	作業療法学全書 職業関連活動			2009	2,520	改訂3版
13	作業療法学全書 地域作業療法学			2009	2,688	改訂3版
14	標準作業療法学専門分野 基礎作業学	矢谷令子シリーズ監修	医学書院	2012	3,192	第2版
15	標準作業療法学専門分野 高次脳機能作業療法学			2012	3,192	初版
16	標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学			2011	3,948	第2版
17	標準作業療法学専門分野 作業療法評価学			2011	4,872	第2版
18	標準作業療法学専門分野 精神機能作業療法学			2008	3,192	初版
19	標準作業療法学専門分野 発達過程作業療法学			2006	3,360	初版
20	標準作業療法学専門分野 地域作業療法学			2012	3,192	第2版
21	標準作業療法学専門分野 作業療法 臨床実習とケーススタディ			2011	3,528	第2版
22	標準作業療法学専門分野 作業療法学概論			2011	3,192	第2版
23	標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学			2010	3,192	第2版
24	標準作業療法学専門分野 社会生活行為学			2007	3,948	初版
25	標準作業療法学専門分野 作業療法研究法			2005	3,192	初版
26	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト1 作業療法学			栗原トヨ子	メジカルビュー	2012
27	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2 作業学	浅沼 辰志	2010	3,948		初版
28	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト3 作業療法評	佐竹 勝	2012	4,704		初版
29	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト4 身体障害作業療法学	長崎 重信	2010	4,536		初版
30	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト6 精神障害作業療法学	長崎 重信	2010	3,528		初版
31	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト7 発達障害作業療法学	神作 一実	2011	3,864		初版
32	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト8 日常生活活動(ADL)・福祉用具	木之瀬 隆	2012	3,528		初版
33	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト9 地域作業療法学・老年期作業療法学	長崎 重信	2011	3,528		初版
34	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学	シリーズ監修 奈良勲	医学書院	2012	4,200	初版
35	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学			2010	5,040	第3版
36	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学			2010	3,696	第3版
37	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達			2010	4,368	初版
38	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科			2010	2,940	第3版
39	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学			2009	3,780	第3版
40	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科			2009	4,704	第3版
41	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学			2009	3,864	第3版
42	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学			2009	3,528	第3版
43	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学			2007	3,528	第3版
44	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学			2004	5,040	第2版
45	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理			2001	2,520	初版
46	作業療法ルネッサンスひとと生活障害1 食べることの障害とアプローチ	山根寛	三輪書店	2002	2,352	初版
47	作業療法ルネッサンスひとと生活障害2 移るものの障害とアプローチ			2004	2,352	初版
48	作業療法ルネッサンスひとと生活障害3 着る・装うものの障害とアプローチ			2006	2,352	初版
49	作業療法ルネッサンスひとと生活障害4 伝えるものの障害とアプローチ			2006	2,352	初版
50	作業療法ルネッサンスひとと生活障害5 創る・楽しむものの障害とアプローチ			2007	2,352	初版
51	クリニカル作業療法シリーズ 発達障害領域の作業療法	長谷龍太郎ほか	中央法規出版	2011	3,360	初版
52	クリニカル作業療法シリーズ 精神障害領域の作業療法	石井良和ほか		2010	3,696	初版
53	クリニカル作業療法シリーズ 高齢期障害領域の作業療法	山田孝		2010	3,192	初版
54	クリニカル作業療法シリーズ 身体障害領域の作業療法	大嶋伸雄		2010	3,864	初版

専門科目図書100冊リストアップ

55	基礎作業学実習ガイド～作業活動のポイントを学ぶ～	岩瀬 義昭	協同医書出版社	2005	2,100	初版
56	作業療法のとらえかた	古川 宏	文光堂	2005	4,368	初版
57	地域に根ざした作業療法～理論と実践～	Marjorie E. Scaffa	協同医書出版社	2005	4,620	初版
58	作業療法の世界～作業療法を知りたい・考えたい人のた	鎌倉 矩子	三輪書店	2004	2,772	第2版
59	「クライアント中心」作業療法の実践～多様な集団への展開～	Thelma Sumsion	協同医書出版社	2001	3,192	初版
60	クライアント中心の作業療法～カナダ作業療法の展開～	Mary Law	協同医書出版社	2000	3,192	初版
61	スウェーデンの作業療法士～大変なんです、でも最高に面白いんです～	河本 佳子	新評論	2000	1,680	初版
62	人間作業モデル-理論と応用	Gary Kielhofner	協同医書出版社	2007	7,140	改訂第3版
63	ひとと集団・場～ひとの集まりと場を利用する	鎌倉 矩子	三輪書店	2007	2,772	第2版
64	COPM～カナダ作業遂行測定～	Mary Law	大学教育出版	2007	1,512	原著第4
65	作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド	吉川 ひろみ	医学書院	2008	3,192	初版
66	作業療法のとらえかた PART2	古川 宏	文光堂	2008	4,620	初版
67	作業療法の理論	山田孝	医学書院	2008	3,948	原著第3
68	アクティビティと作業療法	アクティビティ研究会	三輪書店	2010	2,856	初版
69	続・作業療法の視点～作業を通しての健康と公正～	エレザベス・タウンゼント	大学教育出版	2011	3,192	初版
70	作業療法の知・技・理	山根 寛	金剛出版	2011	2,856	初版
71	作業療法はおもしろいーあるパイオニアOTのオリジナルな半生	勝屋なつみ	シービーアール	2012	1,512	初版
72	“作業”の捉え方と評価・支援技術ー生活行為の自律に向けたマネジメント	日本作業療法士協会	医歯薬出版	2011	1,932	初版
73	「作業」って何だろうー作業科学入門	吉川ひろみ	医歯薬出版	2008	1,848	初版
74	ひとと作業・作業活動ーひとにとって作業とは?どのように使うのか?	山根寛	三輪書店	2005	2,772	第2版
75	作業科学ー作業的存在としての人間の研究	Ruth Zemke	三輪書店	1999	7,980	初版
76	作業療法実践のための6つの理論:理論の形成と発展	B.Rosalie Johanna Miller	協同医書出版社	1995	2,688	初版
77	作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス	澤俊二	医歯薬出版	2010	4,368	初版
78	I・ADL 作業療法の戦略・戦術・技術	生田 宗博	三輪書店	2012	4,536	第3版
79	高次脳機能障害の作業療法	鎌倉矩子	三輪書店	2010	4,032	初版
80	覗いてみたい!?先輩OTの頭の中-精神科OTの醍醐味!	荻山和生	三輪書店	2010	2,016	初版
81	作業療法の面接技術 ストーリーの共有を目指して	香山 明美	三輪書店	2009	2,688	初版
82	働くことの意義と支援		三輪書店	2009	2,856	初版
83	新 作業療法の源流	秋元波留夫	三輪書店	1991	3,669	初版
84	手と道具の人類史 チンパンジーからサイボーグまで	関 昌家	協同医書出版社	2008	2,520	初版
85	標準 リハビリテーション医学	上野敏	医学書院	2012	5,880	第3版
86	現代医学概論	柳澤信夫	医歯薬出版	2012	2,520	初版
87	学生のためのリハビリテーション医学概論	栢森良二	医歯薬出版	2011	2,016	初版
88	PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論	椿原彰夫	診断と治療社	2011	3,024	改訂第2版
89	リハビリテーション医学テキスト	三上真弘	南江堂	2010	4,452	改訂第3
90	現代リハビリテーション医学	千野直一	金原出版	2009	7,392	改訂第3
91	リハビリテーション序説	安藤徳彦	医学書院	2009	2,856	初版
92	セラピストのための概説リハビリテーション	嶋田智明	文光堂	2009	3,360	初版
93	ICF(国際生活機能分類)の理解と活用ー人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか	上田敏	きょうされん	2005	559	初版
94	OT臨地実習ルートマップ	菊池恵美子	メジカルビュー社	2011	4,200	初版
95	作業療法士・理学療法士 臨床実習ガイドブック	京極真ほか	誠信書房	2009	2,352	初版
96	PT・OT学生のための 実習を乗り切るらくらく実践術	長野康博	医歯薬出版	2010	1,512	初版
97	臨床実習フィールドガイド	石川朗ほか	南江堂	2004	4,788	初版
98	メディカルサポートコーチング:医療スタッフのコミュニケーション力+セルフケア力+マネジメント力を伸ばす	奥田弘美	中央法規出版	2012	2,016	初版
99	よりよき医療コミュニケーションを求めてー模擬患者を通して見えてきたものー	前田純子	ライフ・サイエンス社	2011	1,176	初版
100	よくわかる医療面接と模擬患者	鈴木富雄	名古屋大学出版会	2011	1,512	初版
101	医療関係者のための信念対立解明アプローチ:コミュニケーション・スキル入門	京極真	誠信書房	2011	2,940	初版
102	医療コミュニケーション・ハンドブック	杉本なおみ	中央法規	2008	1,680	初版
103	医療コミュニケーション 「スキル」を学ぶ前に読む本	岩堀禎廣	薬事日報	2008	1,680	初版

専門科目図書100冊リストアップ

104	作業療法ケースブック コミュニケーションスキルの磨き	沢俊二	医歯薬出版	2007	3,192	初版
105	医療者のためのコミュニケーション入門	杉本なおみ	精神看護出版	2005	1,680	初版
106	コミュニケーション・マナーの基本—福祉と医療に携わる人のための	大竹栄ほか	中央法規	2005	1,680	初版
107	すぐ使える看護・介護職の接遇インストラクター指導者マニュアル	高橋啓子	日総研出版	2003	2,520	初版
108	医療従事者のための「効果的な文章の書き方」入門	園部俊晴	運動と医学の出版社	2010	1,512	初版
109	医薬系学生のための文章作成法	堤敏彦, 徳永仁	医療科学社	2006	1,680	初版
110	Conceptual Foundations of Occupational Therapy (Cram101 Textbook Outlines)	Gary Kielhofner	Academic Internet Publishers	2009	2,846	4th
111	Occupational Therapy for Physical Dysfunction	Mary Vining Radomski	Lippincott Williams & Wilkins	2007	8,311	6th
112	1001 Pediatric Treatment Activities: Creative Ideas for Therapy Sessions	Ayelet H. Danto	Slack Incorporated	2011	4,573	1st
113	Pedretti's Occupational Therapy: Practice Skills for Physical Dysfunction	Heidi McHugh Pendleton	Mosby	2011	7,819	7th
114	Occupational Therapy in Mental Health: A Vision for Participation	Catana Brown	F.A. Davis Company	2010	8,405	1st
115	Clinical and Professional Reasoning in Occupational Therapy	Barbara A	Lippincott Williams & Wilkins	2007	5,845	1st
116	Model of Human Occupation: Theory and Application	Gary Kielhofner	Lippincott Williams & Wilkins	2007	6,941	4th
117	Politics of Occupation-Centred Practice: Reflections on Occupational Engagement Across Cultures	Nick Pollard	Wiley-Blackwell	2012 6月刊行	4,081	1st
118	Occupational Therapy and Rehabilitation..., Volume 1	American Occupational Therapy Association	Naubu Press	2011	4,532	1st
119	The Core Concepts of Occupational Therapy: A Dynamic Framework for Practice	Jennifer Creek	Jessica Kingsley Pub	2010	3,441	1st
120	Occupational Science: Society, Inclusion, Participation	Gail E. Whiteford	Wiley-Blackwell	2012	4,506	1st

411,440

理学療法選書	120冊	563,840
作業療法選書	120冊	411,440
合計	240冊	975,280

蔵書構成

・米国国立医学図書館分類法(NLMC)

基礎医学系

QS	人体解剖学	1,768冊	0.7%
QT	生理学	1,861冊	0.8%
QU	生化学	3,544冊	1.5%
QV	薬理学	6,872冊	2.9%
QW	微生物学と免疫学	1,903冊	0.8%
QX	寄生虫学	49冊	0.0%
QY	臨床病理学	1,259冊	0.5%
QZ	病理学	2,346冊	1.0%
計		19,602冊	8.2%

臨床医学系

W	医業	7,224冊	3.0%
WA	公衆衛生	3,936冊	1.7%
WB	臨床医学	4,066冊	1.7%
WC	感染症	404冊	0.2%
WD	全身性疾患、代謝性疾患、環境由来の疾患など	401冊	0.2%
WE	筋骨格系	1,431冊	0.6%
WF	呼吸器系	614冊	0.3%
WG	心臓血管系	1,118冊	0.5%
WH	血液系とリンパ系	469冊	0.2%
WI	消化器系	1,248冊	0.5%
WJ	泌尿生殖器系	439冊	0.2%
WK	内分泌系	615冊	0.3%
WL	神経系	3,311冊	1.4%
WM	精神医学	7,024冊	3.0%
WN	放射線医学.画像診断	1,000冊	0.4%
WO	外科学	1,835冊	0.8%
WP	婦人科学	421冊	0.2%
WQ	産科学	716冊	0.3%
WR	皮膚科学	440冊	0.2%
WS	小児科学	3,758冊	1.6%
WT	老年医学.慢性疾患	1,298冊	0.5%
WU	歯科学.口腔外科学	12,491冊	5.2%
WV	耳鼻咽喉科学	1,526冊	0.6%
WW	眼科学	584冊	0.2%
WX	病院その他の保健医療施設	883冊	0.4%
WY	看護学	9,847冊	4.1%
WZ	医学史	292冊	0.1%
Z	論文の書き方など	431冊	0.2%
計		67,822冊	28.5%

・日本十進分類法(NDC)

000	総記（図書館、図書、百科事典、一般論文集、逐次刊行物など）	8,032冊	3.4%
100	哲学（哲学、心理学、倫理学、宗教）	10,325冊	4.3%
200	歴史（歴史、伝記、地理）	3,095冊	1.3%
300	社会科学（政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗習慣、国防）	22,754冊	9.6%
400	自然科学（数学、理学、医学）	20,288冊	8.5%
500	技術（工学、工業、家政学）	3,090冊	1.3%
600	産業（農林水産業、商業、運輸、通信）	956冊	0.4%
700	芸術（美術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸、娯楽）	3,024冊	1.3%
800	言語	6,902冊	2.9%
900	文学	6,890冊	2.9%
計		85,356冊	35.9%

製本図書

	学術雑誌製本図書	65,152冊	27.4%
合 計		237,932冊	

デジタルデータベース

No.	データベース名
1	MEDLINE
2	Biological Abstracts
3	PsycINFO
4	Web of Knowledge
5	コクラン・ライブラリー
6	Sociological Abstracts
7	Social Services Abstracts
8	Linguistics&Language Behavior Abstracts
9	ERIC
10	CINAHL
11	Abstracts in Social Gerontology
12	SciFinder (Academic)
13	JDreamII
14	医中誌Web Ver.5
15	iyakuSearch
16	最新看護索引Web
17	学術コンテンツ・ポータル: GeNii(ジーニイ)
18	化学書資料館
19	理科年表

電子ジャーナルリスト

契約パッケージ	収容タイトル数	2012年度契約価格	備考
ScienceDirect	5 タイトル	460,051	
Wiley	1,107 タイトル	9,255,700	一覧は、過年度購入した1,053タイトル含む合計2,160タイトル
PsycARTICLES	104 タイトル	800,000	
Springer	13 タイトル	4,300,872	一覧は、過年度購入した223タイトル含む合計236タイトル
ACS	50 タイトル	1,846,950	
LWW	14 タイトル	2,154,180	
ProQuest・PQ04	1,950 タイトル	1,964,000	一覧は、過年度購入した1,364タイトル含む合計3,314タイトル
Nature	2 タイトル	1,981,025	
Science	1 タイトル	332,850	
Journals@OVID	2 タイトル	837,730	
メディカルオンライン	915 タイトル	2,257,500	
合計	4,163 タイトル	26,190,858	

北海道地区大学図書館相互利用サービス 加盟一覧

	大 学
1	旭川大学
2	旭川医科大学
3	小樽商科大学
4	帯広畜産大学
5	釧路公立大学
6	札幌医科大学
7	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部
8	札幌学院大学
9	札幌市立大学
10	札幌大学
11	千歳科学技術大学
12	天使大学
13	東海大学(札幌キャンパス)
14	東海大学(旭川キャンパス)
15	東京農業大学
16	名寄市立大学

	大 学
17	藤女子大学
18	北翔大学
19	北星学園大学
20	北海学園大学
21	北海商科大学
22	北海道医療大学
23	北海道教育大学(札幌校)
24	北海道教育大学(函館校)
25	北海道教育大学(旭川校)
26	北海道教育大学(釧路校)
27	北海道教育大学(岩見沢校)
28	北海道工業大学
29	北海道情報大学
30	北海道文教大学
31	酪農学園大学

理学療法学科 臨床実習受入れ施設一覧
(臨床実習Ⅰ－医療機関・福祉施設等)

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
札幌円山整形外科病院	中澤一也(リハビリテーション科・理学療法士(技士長))(10年)	1
愛全病院	吉川文博(愛全病院リハビリテーション部・理学療法士(科長))(14年)	1
松田整形外科記念病院	前田克史(松田整形外科記念病院・理学療法士(課長))(25年) 元木純(松田整形外科記念病院・理学療法士(主任))(12年) 上村沙奈恵(リハビリテーション科・理学療法士)(10年) 益田洋史(リハビリテーション科・理学療法士)(9年) 小田孝(リハビリテーション科・理学療法士)(8年) 市村幸枝(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 佐藤徳保(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 大日向純(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 石垣智恒(リハビリテーション科・理学療法士)(5年) 吉野広一郎(リハビリテーション科・理学療法士)(4年)	1
北海道社会保険病院	館博明(リハビリテーション部・理学療法士(技師長))(23年) 似内希久子(リハビリテーション部・理学療法士(リハビリテーション部係長))(18年) 岩佐志歩(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(16年) 尾山陽平(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(11年) 田中翔(リハビリテーション部・理学療法士)(4年)	1
札幌社会保険総合病院	田附満(リハビリテーション部・理学療法士(技師長))(24年) 三輪昌子(リハビリテーション部・理学療法士)(15年) 大山聡(リハビリテーション部・理学療法士)(13年) 佐々木美紀(リハビリテーション部・理学)(9年) 佐藤直人(リハビリテーション科・理学療法士)(5年)	1
長沼整形外科・リハビリテーション科	本間道介(理学療法士(主任))(15年) 佐々木隆裕(理学療法士)(5年) 笠山雅史(理学療法士)(5年)	1
北海道済生会 西小樽病院	高田千春(機能訓練課・理学療法士)(9年) 大須田裕亮(機能訓練課・理学療法士)(5年)	1
北海道済生会 小樽病院	澤田篤史(リハビリテーション室・理学療法士(技術課長))(10年) 西谷淳(リハビリテーション室・理学療法士(技術係長))(10年) 髭内紀幸(リハビリテーション室・理学療法士(技術主任))(9年)	1
北海道社会事業協会小樽病院	照井豊(リハビリテーション科・理学療法士(係長))(17年)	1
高橋病院	三島誠一(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(21年)	1
函館脳神経外科病院	石田亮介(リハビリテーション科 理学療法課・理学療法士(課長))(19年)	1
八雲総合病院	阿部悟(リハビリテーション室・理学療法士(主任))(11年) 小河原実(リハビリテーション室・理学療法士(主任))(11年) 小岩江里子(リハビリテーション室 理学療法係・理学療法士)(19年) 成田征司(リハビリテーション室 理学療法係・理学療法士(主任))(15年) 三関雄一郎(リハビリテーション室・理学療法士)(3年)	1
登別厚生年金病院	山田幸信(リハビリテーション室・理学療法主任技師)(18年) 大波聡司(リハビリテーション室・理学療法士)(8年) 大西拓哉(リハビリテーション室・理学療法士)(8年)	1
日鋼記念病院	小山内康夫(リハビリテーションセンター訓練部門・理学療法士)(25年) 堀伸全(リハビリテーションセンター訓練部門 理学療法科・理学療法士(主任))(14年) 小林直子(リハビリテーションセンター訓練部門 理学療法科・理学療法士(主任))(24年) 高橋知己(リハビリテーションセンター訓練部門 理学療法科・理学療法士(主任))(12年)	1
北海道脳神経外科記念病院	布目雅明(リハビリテーション科・理学療法士)(22年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
斗南病院	加藤寿司(リハビリテーション部・理学療法士)(12年) 中村恵二(リハビリテーション部・理学療法士)(12年目) 加藤純代(リハビリテーション部・理学療法士)(22年目) 佐藤明紀(リハビリテーション部・理学療法士)(12年目)	1
市立札幌病院	小山昭人(リハビリテーション科・リハビリテーション担当課長)(27年)	1
北祐会神経内科病院	中城雄一(診療部リハビリテーション課・理学療法士(課長))(20年)	1
開成病院	鷺頭由宜(理学診療科・理学療法士)(主任))(10年)	1
札幌整形循環器病院	工藤義教(リハビリテーション部・理学療法士(技師長))(23年)	1
羊ヶ丘病院	山崎肇(リハビリテーション科・理学療法士)(23年) 佐藤史子(リハビリテーション科・理学療法士)(15年) 阿久澤弘(リハビリテーション科・理学療法士)(9年)	1
新さっぽろ脳神経外科病院	濱本龍哉(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(26年) 佐藤一成(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(13年)	1
東小樽病院	平塚 渉(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(17年) 佐藤誠一(リハビリテーション科・理学療法士(8年2か月)) 海淵亜紗子(リハビリテーション科・理学療法士)(8年目) 宇治俊弥(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 筒井隆裕(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 高西桂代(リハビリテーション科・理学療法士)(4年目)	1
滝川脳神経外科病院	辰川泰蔵(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 高橋智(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 森川奈美(リハビリテーション科・理学療法士(4年))	1
札幌ひばりが丘病院	菅靖司(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(24年) 小関由美(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(23年) 山崎淳也(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 大淵麻美(リハビリテーション科・理学療法士)(6年)	1
勤医協中央病院	伴正博(リハビリテーション部・理学療法士(技士長))(12年) 湯野健一(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(14年)	1
札幌徳洲会病院	中田敦(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(10年) 小野寺智亮(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 荒木奈津希(リハビリテーション科・理学療法士)(11年) 越後麻美(リハビリテーション科・理学療法士) 三浦亜由美(リハビリテーション科・理学療法士)(3年) 梅田健太郎(リハビリテーション科理学療法士)(7年1か月) 塙健一(リハビリテーション科・理学療法士(6年1か月)) 柴崎達也(リハビリテーション科・理学療法士)(7年1か月) 荒木浩二郎(リハビリテーション科・理学療法士)(3年1か月) 田中拓(リハビリテーション科・理学療法士)(6年10ヶ月) 戸松正樹(リハビリテーション科・理学療法士)(11年)	1
帯広病院	森茂樹(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(26年)	1
協立病院	西山文恵(リハビリテーション課・理学療法士(課長))(22年) 松川桂子(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(12年) 中薮幸広(リハビリテーション課・理学療法士(係長))(9年) 高橋義樹(リハビリテーション課・理学療法士)(4年)	2
王子総合病院	芳賀浩司(医療技術部 リハビリテーション科・理学療法士(主任科長))(29年)	1
製鉄記念室蘭病院	佐藤貴文(リハビリテーション部・理学療法士)(14年) 工藤恵美(リハビリテーション部・理学療法士)(11年) 藤原誠嗣(リハビリテーション部・理学療法士)(9年)	1
洞爺温泉病院	植田明子(リハビリテーション課・理学療法士(課長))(27年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
洞爺病院	高城幸恵(リハビリテーション科・理学療法士)(6年)	1
北見赤十字病院	千石英嗣(リハビリテーション科部 理学療法課・係長)(13年) 渡部将人(リハビリテーション科部・理学療法士)(19年)	1
小林病院	大森達也(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(12年) 鈴木廉太郎(リハビリテーション科・理学療法士)(3年) 米田佳(小林病院リハビリテーション科・理学療法士)(3年)	1
オホーツク海病院	伊藤大介(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(10年)	1
札幌緑愛病院	鈴木藤子(リハビリテーション科・理学療法士)(11年) 田淵美根子(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(10年)	1
千歳豊友会病院	小菌由貴(リハビリテーション科・理学療法士)(4年2か月) 竹ヶ原智行(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(6年2か月)	1
市立芦別病院	小林要(医局リハビリテーション室・理学療法士(主任技師))(23年) 鎌田真美(医局リハビリテーション室・理学療法士)(21年) 後藤隆博(医局リハビリテーション室・理学療法士)(4年)	1
富良野病院	中山良人(リハビリテーションセンター・理学療法(係長))(12年) 千葉恒(リハビリテーションセンター・理学療法士(主任))(11年)	1
ふらの西病院	奈良 仁(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(11年)	1
柏葉脳神経外科病院	釘本充((リハビリテーション科理学療法・理学療法士 主任)(17年)	1
輪厚三愛病院	菅井和己(リハビリテーション科・理学療法士)(22年) 中田綾香(リハビリテーション科・理学療法士)(12年) 伊藤冨香(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 廣瀬絵里(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 大倉由佳(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 槇坂友洋(リハビリテーション科・理学療法士)(4年)	1
千歳第一病院	舟川和孝(リハビリテーション科・科長)(20年)	1
北海道内科・リウマチ科病院	佐藤潤一(リハビリテーション課・理学療法士(リハビリテーション課課長))(17年)	1
平成会病院	堀田麻実子(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(8年) 中野順子(リハビリテーション科・理学療法士)(3年)	1
岩見沢市立総合病院	丸山敬光(理学療法科・理学療法士(技師))(19年) 幸嶋悠介(理学療法科・技師)(9年) 奈良弘樹(理学療法科・理学療法士)(6年) 対馬ひとみ(理学療法科・理学療法士)(6年) 阿部襟香(理学療法科・理学療法士)(8年)	1
北海道中央労災病院	大野靖昭(中央リハビリテーション部・主任理学療法士)(18年)	1
旭川高砂台病院	芳澤昭仁(リハビリテーション科・理学療法士(室長))(27年) 大藪佑介(リハビリテーション科・理学療法士(副主任))(8年) 加藤大悟(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 白井慎介(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 芝山真一(リハビリテーション科・理学療法士)(6年)	1
旭川医科大学病院	朝野裕一(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(26年) 吉川法生(リハビリテーション部・作業療法士)(26年)	1
大西病院	芳澤松根(理学療法科・理学療法士(科長))(23年) 天野智文(理学療法科・理学療法士(主任))(11年) 江蔵勇助(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(9年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
豊岡中央病院	前田健太郎(リハビリテーション部・リハビリテーション室室長 理学療法士)(14年)	1
大雪病院	大津伸也(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(26年)	1
旭川厚生病院	岩渕達也(理学療法技術科・理学療法士(技師長))(27年)	1
手稲いなづみ病院	及川哲史(リハビリテーション科・理学療法士(課長))(12年)	1
旭川リハビリテーション病院	神田千絵(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(16年)	1
札幌北楡病院	湯藤裕美(理学診療技術部・技師長)(14年)	1
北星病院	川島康洋(医療技術部 リハビリテーション科・理学療法士(科 長))(13年) 小松原直矢(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 林拓次(リハビリテーション科・理学療法士)(5年) 塚田花奈恵(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(7年)	1
南札幌病院	中田成紀(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(22年)	1
函館渡辺病院	小坂敏則(リハビリテーション科・理学療法士(技士長))(12年)	1
西堀病院	佐藤千春(リハビリテーション課・理学療法士(課長兼通所リハ ビリ主任))(7年) 斉藤亨(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(5年) 鎌田斉伸(リハビリテーション課・理学療法士)(4年) 鍵谷珠貴(リハビリテーション課・理学療法士)(3年)	1
函館協会病院	萬宮卓(リハビリテーション科・理学療法士)(7年)	1
函館中央病院	湯浅敦智(リハビリテーション科・副技士長)(7年)	1
恵み野病院	本田欣誠(リハビリテーション科・医学療法士(技士長))(10年) 木村元明(リハビリテーション科理学療法士(主任))(12年) 奥山洋平(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 佐藤晴香(リハビリテーション科・理学療法士)(5年)	1
みなみ病院	川辺大樹(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(12年)	1
花川病院	妹尾忠久(リハビリテーション部・理学療法士(教務マネー ジャー))(10年)	1
星が浦病院	諏訪智哉(リハビリテーション部・理学療法科・理学療法士(係 長))(7年)	1
釧路北病院	佐藤修二(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(22年)	1
市立釧路総合病院	栗本一宏(リハビリテーション科・理学療法士(技幹))(26年) 近藤優佳子(リハビリテーション科・理学療法士(専門員))(18 年) 北出亜希子(リハビリテーション科・理学療法士(主査))(15年) 松江岳人(リハビリテーション科・理学療法士(主査))(15年) 佐々木道子(リハビリテーション科・理学療法士(主査))(11年) 青木裕也(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(12年) 今井幸子(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(11年) 中本恭央(リハビリテーション科・理学療法士(技師))(5年)	1
町立厚岸病院	岡本康世(リハビリテーション室・リハビリテーション室長)(17 年)	1
東北海道病院	今野樹(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(8年)	1
総合病院釧路赤十字病院	笠井里紗(リハビリテーション科・理学療法士)(3年)	1
釧路孝仁会記念病院	阪本拓也(リハビリテーション部・理学療法士)(3年2か月) 北所大輔(理学療法士)(11年) 武山大祐(リハビリテーション部・理学療法士)(4年2か月) 植田拓馬(リハビリテーション部・理学療法士)(4年) 内間千夏子(リハビリテーション部・理学療法士)(5年2か月) 熊谷文宏(リハビリテーション部・理学療法士)(6年2か月) 高橋直子(リハビリテーション部・理学療法士)(5年2か月) 大野麻沙美(リハビリテーション部・理学療法科)(4年2か月)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
標茶町立病院	原田亮(リハビリテーション科・技士長)(18年) 馬淵裕介(理学療法士・8年)	1
釧路労災病院	石田祥雄(中央リハビリテーション部・理学療法士(主任))(25年)	1
町立中標津病院	加藤礼子(リハビリテーション室・理学療法士(室長))(22年)	1
石田病院	松岡陽二(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(29年)	1
摩周厚生病院	工藤基彦(理学療法技術科・理学療法士(主任))(13年)	1
公立芽室病院	大沼崇(リハビリテーション係・理学療法士)(20年)	1
更別村国民健康保険診療所	堀那緒子(理学療法士)(8年)	1
札幌清田整形外科病院	高木貴史(リハビリテーション科・課長)(9年) 榎本勝博(リハビリテーション科・理学療法士)(9年) 岡田多史(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 小笠原隆仁(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 田上真也(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 浜本龍樹(リハビリテーション科・理学療法士)(9年)	1
札幌しらかば台病院	野谷明浩(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(19年)	1
宮の森記念病院	坂本良祐(リハビリテーション科・理学療法士)(8年) 庄司哲之(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 本波百恵(リハビリテーション科・理学療法士)(3年) 羽野秀明(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 斉藤透(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 伊藤溪(リハビリテーション科・理学療法士)(2年) 齋之裕(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(10年) 尾野香織(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 高木翼(リハビリテーション科・理学療法士)(2年) 岡孝一(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 尾谷恵子(リハビリテーション科・理学療法士)(2年)	1
野幌病院	森岡雅志(リハビリテーション科・理学療法士)(6年)	1
なかむら整形外科クリニック	木下 滋(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(21年)	1
栄町ファミリークリニック	小野俊也(リハビリテーション部門・理学療法士(課長))(18年)	1
北光記念病院	近藤和夫(心臓リハビリテーション室・理学療法士(課長))(24年)	1
病院小計	87	214
		88

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
介護老人保健施設 ゆとりろ	佐藤美知子(機能回復訓練室・理学療法士(室長))(14年) 中川修(機能回復訓練室・理学療法士(主任))(13年) 佐山万奈美(機能回復訓練室・理学療法士(主任))(17年) 栗盛和香(機能回復訓練室・理学療法士)(11年)	1
老人保健施設 柏ヶ丘	伴寿(老人保健施設柏ヶ丘リハビリテーション科・理学療法士 (技士長))(12年) 宇部希(勤医協老人保健施設柏ヶ丘 リハビリテーション科・理 学療法士(主任))(10年) 石塚研二(老人保健施設柏ヶ丘 リハビリテーション科・理学療 法士)(28年)	1
介護老人保健施設 サンビオーズ新琴似	肥田理恵(リハビリテーション課・理学療法士)(24年) 佐々木謙二(リハビリテーション課・理学療法)(4年) 加後勇人(リハビリテーション課・理学療法士)(7年) 山中なつみ(リハビリテーション課・理学療法士)(6年) 川原亜弓(リハビリテーション課・理学療法士)(8年)	1
介護老人保健施設 月形緑苑	岡下真貴子(リハビリテーション課・理学療法士(リーダー))(10 年) 山本典嗣(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(10年)	1
介護老人保健施設 浦河緑苑	岩崎敦子(リハビリテーション課・理学療法療法士(課長))(24 年) 吉田哲也(リハビリテーション課・理学療法士(サブリー ダー))(5年)	1
介護老人保健施設 プライムヘルシータウン湘南	加賀谷芳夫(機能訓練室・リハビリテーション室長 理学療法 士)(30年) 富岡憲哉(機能訓練室・理学療法士)(7年)	1
介護老人保健施設 札幌北翔館 そとこと	梅田奈央子(リハビリテーション科・理学療法士)(10年)	1
介護老人保健施設 ら・ぱーす	櫻田周(リハビリ科・理学療法士(リハビリ科・デイケア科副部 長))(20年) 渡部和也(リハビリ科・理学療法士(リハビリ科主任))(7年) 伊藤亜紀子(リハビリ科・理学療法士)(9年) 日野尚子(リハビリ科・理学療法士)(8年) 高松和徳(リハビリ科・理学療法士)	1
芦別市介護老人保健施設	菅原道宏(相談療養係・理学療法士(DC責任者))(7年) 竹内真(相談療養係・理学療法士)(11年目)	1
介護老人保健施設 けあ・ばんけい	肥田英昭(リハビリテーション部・理学療法士(部長))(25.5年) 高橋朋寛(リハビリテーション部・理学療法士)(7.5年) 高嶋成泰(リハビリテーション部・理学療法士)(4.5年)	1
介護老人保健施設 恵み野ケアサポート	山本幸司(リハビリテーション科・理学療法士(北農会統括技士 長))(21年) 師岡のぞみ(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 中川絢子(リハビリテーション科・理学療法士)(4年)	1
滝川市子ども発達支援センター	村井新知(滝川市保健福祉部子育て応援課・理学療法士(所 長))(26年)	1
介護老人保健施設 エスポワール北広島	中村宏明(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(22年) 戸沼正樹(リハビリテーション科・理学療法士(係長))(8年) 中田裕弥(リハビリテーション科・理学療法士)(8年) 近藤環(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 宮本利行(リハビリテーション科・理学療法士)(7年)	2
介護老人保健施設 北星館	澤田大輔(リハビリテーション科・理学療法士(係長))(12年)	1
介護老人保健施設 アートライフ恵庭	橋本郁子(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(25年) 斗澤渚(リハビリテーション科・理学療法士)(8年)	1
小樽介護老人保健施設 はまなす	野村絹代(リハビリテーション科・理学療法士)(12年) 塩野谷千恵子(リハビリテーション科・理学療法士)(24年)	1
介護老人保健施設 グラーネ北の沢	鉢呂享平(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(8年)	2

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
介護老人保健施設 老健たいよう	木村里佳(リハビリ・理学療法士)(13年) 沼口託也(リハビリ・理学療法士)(11年) 立塚夏澄(理学療法(課長))(21年)	1
介護老人保健施設 グランドサン亀田	篠村広之(リハビリテーション室・理学療法士)(9年)	2
介護老人保健施設 もえれパークサイド	山口広美(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(14年)	1
介護老人保健施設 豊平北翔館 「豊翔の郷」	井雲真理(リハビリテーション科・理学療法士)(12年) 梅原協子(リハビリテーション科・理学療法士(パート))(24年)	1
介護老人保健施設 ラポール東小樽	金子直美(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(24年)	1
介護老人保健施設 ラポール朝里温泉	柴田和子(リハビリテーション課・理学療法士(課長))(23年) 栗林規子(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(19年)	1
介護老人保健施設 ケアライフ王子	芳賀浩司(医療技術部 リハビリテーション科・理学療法士(主任科長))(29年)	1
老人介護保健施設 母恋	高橋徳子(老健リハビリ・理学療法士(主任))(14年)	1
介護老人保健施設 憩	吉田剣一(介護老人保健施設 憩・理学療法士)(7年)	1
サンビュー中の島	飯山隆志(診療部 リハビリテーション・理学療法士(係長))(19年)	1
介護老人保健施設アメニティ本別	飯田亮子(看護部リハビリ課・理学療法士)(8年)	1
介護老人保健施設 おおぞら	田井玲奈(リハビリテーション科・理学療法士)(13年) 荒井幸恵(リハビリテーション科・理学療法士)(14年) 福島寛(リハビリテーション科・理学療法士) 榊田まゆみ(リハビリテーション科・理学療法士)(13年)	1
老人保健施設 さくら館	酒井安弘(リハビリテーション課・理学療法士(係長))(12年) 大矢敏之(リハビリテーション課・理学療法士(リーダー))(7年目)	2
老人保健施設 サニーヒル	後藤航(医務課・理学療法士(主任))(7年) 高尾尚子(医務課・理学療法士)(6年) 佐藤巧(サニーヒルデイケアセンター・理学療法士)(27年)	1
介護老人保険施設 ことぶき	鈴木大樹(通所リハビリ・理学療法士(主任))(11年)	1
介護老人保健施設 北翔館	後藤さつき(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(8年)	1
介護老人保健施設 ジョイウェルス桔梗	小番恵利(リハビリテーション室・理学療法士(主任))(11年) 澤口裕樹(リハビリテーション室・理学療法士)(9年)	1
介護老人保健施設 道南森ロイヤルケアセンター	近野久実(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(7年)	1
介護老人保健施設 徳洲苑なえぼ	鈴木麻里(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 山本英紀(リハビリテーション科・理学療法士)(28年)	1
老人保健施設 グリーンライフ	岩崎梓(通所リハビリテーション・理学療法士)(10年) 藤原妙子(通所リハビリテーション・作業療法士)(11年)	1
介護老人保健施設 回生苑	森明彦(リハビリテーション部・理学療法士(技師長))(24年)	2

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
介護老人保健施設 あつべつ	新井民子(業務課リハビリ係・理学療法士(リハビリ主任))(21年) 深川あゆみ(業務課リハビリ係・理学療法士)(5年) 薄田小百合(業務課リハビリ係・理学療法士)(5年)	1
介護老人保健施設 ケンゆのかわ	吉荒龍哉(リハビリテーション部門・理学療法士(主任))(14年)	1
老人保健施設 あかまつの里ななえ	渡邊亜紀(理学療法士)(11年) 高橋茂(理学療法士)(24年) 千田正吾(理学療法士)(21年)	1
江別地域複合型ライフケアセンター 夢あかり	吉谷敬(理学療法士 施設長)(25年)	1
ポット北31条ディサービスセンター	小川真太郎(理学療法士(センター長))(12年)	1
介護老人保健施設 ひまわり	竹内宏幸(通所リハビリテーション課・理学療法士(課長))(19年) 関山一彦(通所リハビリテーション課・理学療法士)(10年)	2
特別養護老人ホーム 西野ケアセンター	菊地伸(西野ケアセンター理学療法士)(13年)	1
介護老人保健施設 かたくりの郷	廣富美保(リハビリ・理学療法士(主任))(9年) 吉田鈺平(リハビリ・理学療法士)(6年)	1
介護老人保健施設 旭泉苑	田中友紀子(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(19年) 山村幸子(リハビリテーション室・理学療法士)(9年)	1
介護老人保健施設 あづまの里 ホームケアクリニック あづま	島田崇光(理学療法士(主任))(7年)	1
介護老人保健施設 アメニティ西岡	中村公洋(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(6年)	1
老人保健施設 ひだまりの里	下川健幸(生活介護部 医務課 療法・理学療法士(主任))(13年) 及川尚人(生活介護部 医務課 療法・理学療法士)(8年)	1
介護老人保健施設 ケアコートひまわり	宮田直美(リハビリテーション室・理学療法士)(10年)	1
介護老人保健施設 札幌東ナーシング	本田充伸(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(9年)	1
介護老人保健施設 生きがい	庭田崇宏(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(11年)	1
介護老人保健施設 愛里苑	三島善一(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(20年)	1
施設小計	54	102
合計	164	148

臨床実習Ⅰ（一年次一週間）は見学実習で、学生は40名ずつの2グループに分かれ一つのグループは医療機関、もう一方のグループは福祉施設等で3日間の見学を行い、これをローテーションします。このため、施設の総受け入れ可能数は40名以上で実施可能です。

理学療法学科 臨床実習受入れ施設一覧
(臨床実習Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ－医療機関)

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
札幌円山整形外科病院	中澤一也(リハビリテーション科・理学療法士(技士長))(10年)	1
愛全病院	吉川文博(愛全病院リハビリテーション部・理学療法士(科長))(14年)	1
松田整形外科記念病院	前田克史(松田整形外科記念病院・理学療法士(課長))(25年) 元木純(松田整形外科記念病院・理学療法士(主任))(12年) 上村沙奈恵(リハビリテーション科・理学療法士)(10年) 益田洋史(リハビリテーション科・理学療法士)(9年) 小田孝(リハビリテーション科・理学療法士)(8年) 市村幸枝(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 佐藤徳保(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 大日向純(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 石垣智恒(リハビリテーション科・理学療法士)(5年) 吉野広一郎(リハビリテーション科・理学療法士)(4年)	1
北海道社会保険病院	館博明(リハビリテーション部・理学療法士(技師長))(23年) 似内希久子(リハビリテーション部・理学療法士(リハビリテーション部係長))(18年) 岩佐志歩(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(16年) 尾山陽平(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(11年) 田中翔(リハビリテーション部・理学療法士)(4年)	1
札幌社会保険総合病院	田附満(リハビリテーション部・理学療法士(技師長))(24年) 三輪昌子(リハビリテーション部・理学療法士)(15年) 大山聡(リハビリテーション部・理学療法士)(13年) 佐々木美紀(リハビリテーション部・理学)(9年) 佐藤直人(リハビリテーション科・理学療法士)(5年)	1
長沼整形外科・リハビリテーション科	本間道介(理学療法士(主任))(15年) 佐々木隆裕(理学療法士)(5年) 笠山雅史(理学療法士)(5年)	1
北海道済生会 西小樽病院	高田千春(機能訓練課・理学療法士)(9年) 大須田裕亮(機能訓練課・理学療法士)(5年)	1
北海道済生会 小樽病院	澤田篤史(リハビリテーション室・理学療法士(技術課長))(10年) 西谷淳(リハビリテーション室・理学療法士(技術係長))(10年) 髭内紀幸(リハビリテーション室・理学療法士(技術主任))(9年)	1
北海道社会事業協会小樽病院	照井豊(リハビリテーション科・理学療法士(係長))(17年)	1
高橋病院	三島誠一(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(21年)	1
函館脳神経外科病院	石田亮介(リハビリテーション科 理学療法課・理学療法士(課長))(19年)	1
八雲総合病院	阿部悟(リハビリテーション室・理学療法士(主任))(11年) 小河原実(リハビリテーション室・理学療法士(主任))(11年) 小岩江里子(リハビリテーション室 理学療法係・理学療法士)(19年) 成田征司(リハビリテーション室 理学療法係・理学療法士(主任))(15年) 三関雄一郎(リハビリテーション室・理学療法士)(3年)	1
登別厚生年金病院	山田幸信(リハビリテーション室・理学療法主任技師)(18年) 大波聡司(リハビリテーション室・理学療法士)(8年) 大西拓哉(リハビリテーション室・理学療法士)(8年)	1
日鋼記念病院	小山内康夫(リハビリテーションセンター訓練部門・理学療法士)(25年) 堀伸全(リハビリテーションセンター訓練部門 理学療法科・理学療法士(主任))(14年) 小林直子(リハビリテーションセンター訓練部門 理学療法科・理学療法士(主任))(24年) 高橋知己(リハビリテーションセンター訓練部門 理学療法科・理学療法士(主任))(12年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
北海道脳神経外科記念病院	布目雅明(リハビリテーション科・理学療法士)(22年)	1
斗南病院	加藤寿司(リハビリテーション部・理学療法士)(12年) 中村恵二(リハビリテーション部・理学療法士)(12年目) 加藤純代(リハビリテーション部・理学療法士)(22年目) 佐藤明紀(リハビリテーション部・理学療法士)(12年目)	1
市立札幌病院	小山昭人(リハビリテーション科・リハビリテーション担当課長)(27年)	1
北祐会神経内科病院	中城雄一(診療部リハビリテーション課・理学療法士(課長))(20年)	1
開成病院	鷲頭由宜(理学診療科・理学療法士)(主任)(10年)	1
札幌整形循環器病院	工藤義教(リハビリテーション部・理学療法士(技師長))(23年)	1
羊ヶ丘病院	山崎肇(リハビリテーション科・理学療法士)(23年) 佐藤史子(リハビリテーション科・理学療法士)(15年) 阿久澤弘(リハビリテーション科・理学療法士)(9年)	1
新さっぽろ脳神経外科病院	濱本龍哉(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(26年) 佐藤一成(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(13年)	1
東小樽病院	平塚 渉(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(17年) 佐藤誠一(リハビリテーション科・理学療法士(8年2か月)) 海淵亜紗子(リハビリテーション科・理学療法士)(8年目) 宇治俊弥(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 筒井隆裕(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 高西桂代(リハビリテーション科・理学療法士)(4年目)	1
滝川脳神経外科病院	辰川泰蔵(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 高橋智(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 森川奈美(リハビリテーション科・理学療法士)(4年)	1
札幌ひばりが丘病院	菅靖司(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(24年) 小関由美(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(23年) 山崎淳也(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 大淵麻美(リハビリテーション科・理学療法士)(6年)	1
勤医協中央病院	伴正博(リハビリテーション部・理学療法士(技士長))(12年) 湯野健一(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(14年)	1
札幌徳洲会病院	中田敦(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(10年) 小野寺智亮(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 荒木奈津希(リハビリテーション科・理学療法士)(11年) 越後麻美(リハビリテーション科・理学療法士) 三浦亜由美(リハビリテーション科・理学療法士)(3年) 梅田健太郎(リハビリテーション科理学療法士)(7年1か月) 堀健一(リハビリテーション科・理学療法士(6年1か月)) 柴崎達也(リハビリテーション科・理学療法士)(7年1か月) 荒木浩二郎(リハビリテーション科・理学療法士)(3年1か月) 田中拓(リハビリテーション科・理学療法士)(6年10ヶ月) 戸松正樹(リハビリテーション科・理学療法士)(11年)	1
帯広病院	森茂樹(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(26年)	1
協立病院	西山文恵(リハビリテーション課・理学療法士(課長))(22年) 松川桂子(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(12年) 中藪幸広(リハビリテーション課・理学療法士(係長))(9年) 高橋義樹(リハビリテーション課・理学療法士)(4年)	2
王子総合病院	芳賀浩司(医療技術部 リハビリテーション科・理学療法士(主任科長))(29年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
製鉄記念室蘭病院	佐藤貴文(リハビリテーション部・理学療法士)(14年) 工藤恵美(リハビリテーション部・理学療法士)(11年) 藤原誠嗣(リハビリテーション部・理学療法士)(9年)	1
洞爺温泉病院	植田明子(リハビリテーション課・理学療法士(課長))(27年)	1
洞爺病院	高城幸恵(リハビリテーション科・理学療法士)(6年)	1
北見赤十字病院	千石英嗣(リハビリテーション科部 理学療法課・係長)(13年) 渡部将人(リハビリテーション科部・理学療法士)(19年)	1
小林病院	大森達也(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(12年) 鈴木廉太郎(リハビリテーション科・理学療法士)(3年) 米田佳(小林病院リハビリテーション科・理学療法士)(3年)	1
オホーツク海病院	伊藤大介(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(10年)	1
札幌緑愛病院	鈴木藤子(リハビリテーション科・理学療法士)(11年) 田淵美根子(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(10年)	1
千歳豊友会病院	小菌由貴(リハビリテーション科・理学療法士)(4年2か月) 竹々原智行(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(6年2か月)	1
市立芦別病院	小林要(医局リハビリテーション室・理学療法士(主任技師))(23年) 鎌田真美(医局リハビリテーション室・理学療法士)(21年) 後藤隆博(医局リハビリテーション室・理学療法士)(4年)	1
富良野病院	中山良人(リハビリテーションセンター・理学療法(係長))(12年) 千葉恒(リハビリテーションセンター・理学療法士(主任))(11年)	1
ふらの西病院	奈良 仁(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(11年)	1
柏葉脳神経外科病院	釘本充((リハビリテーション科理学療法・理学療法士 主任)(17年)	1
輪厚三愛病院	菅井和己(リハビリテーション科・理学療法士)(22年) 中田綾香(リハビリテーション科・理学療法士)(12年) 伊藤冨香(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 廣瀬絵里(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 大倉由佳(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 横坂友洋(リハビリテーション科・理学療法士)(4年)	1
千歳第一病院	舟川和孝(リハビリテーション科・科長)(20年)	1
北海道内科・リウマチ科病院	佐藤潤一(リハビリテーション課・理学療法士(リハビリテーション課課長))(17年)	1
平成会病院	堀田麻実子(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(8年) 中野順子(リハビリテーション科・理学療法士)(3年)	1
岩見沢市立総合病院	丸山敬光(理学療法科・理学療法士(技師))(19年) 幸嶋悠介(理学療法科・技師)(9年) 奈良弘樹(理学療法科・理学療法士)(6年) 対馬ひとみ(理学療法科・理学療法士)(6年) 阿部襟香(理学療法科・理学療法士)(8年)	1
北海道中央労災病院	大野靖昭(中央リハビリテーション部・主任理学療法士)(18年)	1
旭川高砂台病院	芳澤昭仁(リハビリテーション科・理学療法士(室長))(27年) 大萩佑介(リハビリテーション科・理学療法士(副主任))(8年) 加藤大悟(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 白井慎介(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 芝山真一(リハビリテーション科・理学療法士)(6年)	1
旭川医科大学病院	朝野裕一(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(26年) 吉川法生(リハビリテーション部・作業療法士)(26年)	1
大西病院	芳澤松根(理学療法科・理学療法士(科長))(23年) 天野智文(理学療法科・理学療法士(主任))(11年) 江蔵勇助(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(9年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
豊岡中央病院	前田健太郎(リハビリテーション部・リハビリテーション室室長 理学療法士)(14年)	1
大雪病院	大津伸也(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(26年)	1
旭川厚生病院	岩淵達也(理学療法技術科・理学療法士(技師長))(27年)	1
手稲いなづみ病院	及川哲史(リハビリテーション科・理学療法士(課長))(12年)	1
旭川リハビリテーション病院	神田千絵(リハビリテーション部・理学療法士(主任))(16年)	1
札幌北楡病院	湯藤裕美(理学診療技術部・技師長)(14年)	1
北星病院	川島康洋(医療技術部 リハビリテーション科・理学療法士(科 長))(13年) 小松原直矢(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 林拓次(リハビリテーション科・理学療法士)(5年) 塚田花奈恵(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(7年)	1
南札幌病院	中田成紀(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(22年)	1
函館渡辺病院	小坂敏則(リハビリテーション科・理学療法士(技士長))(12年)	1
西堀病院	佐藤千春(リハビリテーション課・理学療法士(課長兼通所リハ ビリ主任))(7年) 斉藤亨(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(5年) 鎌田斉伸(リハビリテーション課・理学療法士)(4年) 鍵谷珠貴(リハビリテーション課・理学療法士)(3年)	1
函館協会病院	萬宮卓(リハビリテーション科・理学療法士)(7年)	1
函館中央病院	湯浅敦智(リハビリテーション科・副技士長)(7年)	1
恵み野病院	本田欣誠(リハビリテーション科・医学療法士(技士長))(10年) 木村元明(リハビリテーション科理学療法士(主任))(12年) 奥山洋平(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 佐藤晴香(リハビリテーション科・理学療法士)(5年)	1
みなみ病院	川辺大樹(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(12年)	1
花川病院	妹尾忠久(リハビリテーション部・理学療法士(教務マネー ジャー))(10年)	1
星が浦病院	諏訪智哉(リハビリテーション部・理学療法科・理学療法士(係 長))(7年)	1
釧路北病院	佐藤修二(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(22年)	1
市立釧路総合病院	栗本一宏(リハビリテーション科・理学療法士(技幹))(26年) 近藤優佳子(リハビリテーション科・理学療法士(専門員))(18 年) 北出亜希子(リハビリテーション科・理学療法士(主査))(15年) 松江岳人(リハビリテーション科・理学療法士(主査))(15年) 佐々木道子(リハビリテーション科・理学療法士(主査))(11年) 青木裕也(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(12年) 今井幸子(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(11年) 中本恭央(リハビリテーション科・理学療法士(技師))(5年)	1
町立厚岸病院	岡本康世(リハビリテーション室・リハビリテーション室長)(17 年)	1
東北道病院	今野樹(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(8年)	1
総合病院釧路赤十字病院	笠井里紗(リハビリテーション科・理学療法士)(3年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
釧路孝仁会記念病院	阪本拓也(リハビリテーション部・理学療法士)(3年2か月) 北所大輔(理学療法士)(11年) 武山大祐(リハビリテーション部・理学療法士)(4年2か月) 植田拓馬(リハビリテーション部・理学療法士)(4年) 内間千夏子(リハビリテーション部・理学療法士)(5年2か月) 熊谷文宏(リハビリテーション部・理学療法士)(6年2か月) 高橋直子(リハビリテーション部・理学療法士)(5年2か月) 大野麻沙美(リハビリテーション部・理学療法科)(4年2か月)	1
標茶町立病院	原田亮(リハビリテーション科・技士長)(18年) 馬淵裕介(理学療法士・8年)	1
釧路労災病院	石田祥雄(中央リハビリテーション部・理学療法士(主任))(25年)	1
町立中標津病院	加藤礼子(リハビリテーション室・理学療法士(室長))(22年)	1
石田病院	松岡陽二(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(29年)	1
摩周厚生病院	工藤基彦(理学療法技術科・理学療法士(主任))(13年)	1
公立芽室病院	大沼崇(リハビリテーション係・理学療法士)(20年)	1
更別村国民健康保険診療所	堀那緒子(理学療法士)(8年)	1
札幌清田整形外科病院	高木貴史(リハビリテーション科・課長)(9年) 榎本勝博(リハビリテーション科・理学療法士)(9年) 岡田多史(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 小笠原隆仁(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 田上真也(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 浜本龍樹(リハビリテーション科・理学療法士)(9年)	1
札幌しらかば台病院	野谷明浩(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(19年)	1
宮の森記念病院	坂本良祐(リハビリテーション科・理学療法士)(8年) 庄司哲之(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 本波百恵(リハビリテーション科・理学療法士)(3年) 羽野秀明(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 斎藤透(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 伊藤溪(リハビリテーション科・理学療法士)(2年) 齋之裕(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(10年) 尾野香織(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 高木翼(リハビリテーション科・理学療法士)(2年) 岡孝一(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 尾谷恵子(リハビリテーション科・理学療法士)(2年)	1
野幌病院	森岡雅志(リハビリテーション科・理学療法士)(6年)	1
なかむら整形外科クリニック	木下 滋(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(21年)	1
栄町ファミリークリニック	小野俊也(リハビリテーション部門・理学療法士(課長))(18年)	1
北光記念病院	近藤和夫(心臓リハビリテーション室・理学療法士(課長))(24年)	1
合計	87	214
		88

**理学療法学科臨床実習受け入れ施設一覧
(臨床実習Ⅴ－福祉施設等)**

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
介護老人保健施設ゆとりろ	佐藤美知子(機能回復訓練室・理学療法士(室長))(14年) 中川修(機能回復訓練室・理学療法士(主任))(13年) 佐山万奈美(機能回復訓練室・理学療法士(主任))(17年) 栗盛和香(機能回復訓練室・理学療法士)(11年)	1
老人保健施設 柏ヶ丘	伴寿(老人保健施設柏ヶ丘リハビリテーション科・理学療法士(技士長))(12年) 宇部希(勤医協老人保健施設柏ヶ丘 リハビリテーション科・理学療法士(主任))(10年) 石塚研二(老人保健施設柏ヶ丘 リハビリテーション科・理学療法士)(28年)	1
介護老人保健施設 サンビオーズ新琴似	肥田理恵(リハビリテーション課・理学療法士)(24年) 佐々木謙二(リハビリテーション課・理学療法士)(4年) 加後勇人(リハビリテーション課・理学療法士)(7年) 山中なつみ(リハビリテーション課・理学療法士)(6年) 川原亜弓(リハビリテーション課・理学療法士)(8年)	1
介護老人保健施設 月形緑苑	岡下真貴子(リハビリテーション課・理学療法士(リーダー))(10年) 山本典嗣(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(10年)	1
介護老人保健施設 浦河緑苑	岩崎敦子(リハビリテーション課・理学療法士(課長))(24年) 吉田哲也(リハビリテーション課・理学療法士(サブリーダー))(5年)	1
介護老人保健施設 プライムヘルシータウン湘南	加賀谷芳夫(機能訓練室・リハビリテーション室長 理学療法士)(30年) 富岡憲哉(機能訓練室・理学療法士)(7年)	1
介護老人保健施設 札幌北翔館 そとこと	梅田奈央子(リハビリテーション科・理学療法士)(10年)	1
介護老人保健施設 ら・ぱーす	櫻田周(リハビリ科・理学療法士(リハビリ科・デイケア科副部長))(20年) 渡部和也(リハビリ科・理学療法士(リハビリ科主任))(7年) 伊藤亜紀子(リハビリ科・理学療法士)(9年) 日野尚子(リハビリ科・理学療法士)(8年) 高松和徳(リハビリ科・理学療法士)	1
芦別市介護老人保健施設	菅原道宏(相談療養係・理学療法士(DC責任者))(7年) 竹内真(相談療養係・理学療法士)(11年目)	1
介護老人保健施設 けあ・ばんけい	肥田英昭(リハビリテーション部・理学療法士(部長))(25.5年) 高橋朋寛(リハビリテーション部・理学療法士)(7.5年) 高嶋成泰(リハビリテーション部・理学療法士)(4.5年)	1
介護老人保健施設 恵み野ケアサポート	山本幸司(リハビリテーション科・理学療法士(北農会統括技士長))(21年) 師岡のぞみ(リハビリテーション科・理学療法士)(6年) 中川絢子(リハビリテーション科・理学療法士)(4年)	1
滝川市子ども発達支援センター	村井新知(滝川市保健福祉部子育て応援課・理学療法士(所長))(26年)	1
介護老人保健施設 エスポワール北広島	中村宏明(リハビリテーション科・理学療法士(科長))(22年) 戸沼正樹(リハビリテーション科・理学療法士(係長))(8年) 中田裕弥(リハビリテーション科・理学療法士)(8年) 近藤環(リハビリテーション科・理学療法士)(7年) 宮本利行(リハビリテーション科・理学療法士)(7年)	2
介護老人保健施設 北星館	澤田大輔(リハビリテーション科・理学療法士(係長))(12年)	1
介護老人保健施設 アートライフ恵庭	橋本郁子(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(25年) 斗澤渚(リハビリテーション科・理学療法士)(8年)	1
小樽介護老人保健施設 はまなす	野村絹代(リハビリテーション科・理学療法士)(12年) 塩野谷千恵子(リハビリテーション科・理学療法士)(24年)	1
介護老人保健施設 グラーネ北の沢	鉢呂享平(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(8年)	2

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
介護老人保健施設 老健たいよう	木村里佳(リハビリ・理学療法士)(13年) 沼口託也(リハビリ・理学療法士)(11年) 立塚夏澄(理学療法(課長))(21年)	1
介護老人保健施設 グランドサン亀田	篠村広之(リハビリテーション室・理学療法士)(9年)	2
介護老人保健施設 もえれパークサイド	山口広美(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(14年)	1
介護老人保健施設 豊平北翔館 「豊翔の郷」	井雲真理(リハビリテーション科・理学療法士)(12年) 梅原協子(リハビリテーション科・理学療法士(パート))(24年)	1
介護老人保健施設 ラポール東小樽	金子直美(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(24年)	1
介護老人保健施設 ラポール朝里温泉	柴田和子(リハビリテーション課・理学療法士(課長))(23年) 栗林規子(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(19年)	1
介護老人保健施設 ケアライフ王子	芳賀浩司(医療技術部 リハビリテーション科・理学療法士(主任科長))(29年)	1
老人介護保健施設 母恋	高橋徳子(老健リハビリ・理学療法士(主任))(14年)	1
介護老人保健施設 憩	吉田剣一(介護老人保健施設 憩・理学療法士)(7年)	1
サンビュー中の島	飯山隆志(診療部 リハビリテーション・理学療法士(係長))(19年)	1
介護老人保健施設 アメニティ本別	飯田亮子(看護部リハビリ課・理学療法士)(8年)	1
介護老人保健施設おおぞら	田井玲奈(リハビリテーション科・理学療法士)(13年) 荒井幸恵(リハビリテーション科・理学療法士)(14年) 福島寛(リハビリテーション科・理学療法士) 榊田まゆみ(リハビリテーション科・理学療法士)(13年)	1
老人保健施設 さくら館	酒井安弘(リハビリテーション課・理学療法士(係長))(12年) 大矢敏之(リハビリテーション課・理学療法士(リーダー))(7年目)	2
老人保健施設 サニーヒル	後藤航(医務課・理学療法士(主任))(7年) 高尾尚子(医務課・理学療法士)(6年) 佐藤巧(サニーヒルデイケアセンター・理学療法士)(27年)	1
介護老人保険施設 ことぶき	鈴木大樹(通所リハビリ・理学療法士(主任))(11年)	1
介護老人保健施設 北翔館	後藤さつき(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(8年)	1
介護老人保健施設 ジョイウェルス桔梗	小番恵利(リハビリテーション室・理学療法士(主任))(11年) 澤口裕樹(リハビリテーション室・理学療法士)(9年)	1
介護老人保健施設 道南森ロイヤルケアセンター	近野久実(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(7年)	1
介護老人保健施設 徳洲苑なえぼ	鈴木麻里(リハビリテーション科・理学療法士)(4年) 山本英紀(リハビリテーション科・理学療法士)(28年)	1
老人保健施設 グリーンライフ	岩崎梓(通所リハビリテーション・理学療法士)(10年) 藤原妙子(通所リハビリテーション・作業療法士)(11年)	1
介護老人保健施設 回生苑	森明彦(リハビリテーション部・理学療法士(技師長))(24年)	2
介護老人保健施設 あつべつ	新井民子(業務課リハビリ係・理学療法士(リハビリ主任))(21年) 深川あゆみ(業務課リハビリ係・理学療法士)(5年) 薄田小百合(業務課リハビリ係・理学療法士)(5年)	1
介護老人保健施設 ケンゆのかわ	吉荒龍哉(リハビリテーション部門・理学療法士(主任))(14年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
老人保健施設 あかまつの里ななえ	渡邊亜紀(理学療法士)(11年) 高橋茂(理学療法士)(24年) 千田正吾(理学療法士)(21年)	1
江別地域複合型ライフケアセンター 夢あかり	吉谷敬(理学療法士 施設長)(25年)	1
ポット北3条1デイサービスセンター	小川真太郎(理学療法士(センター長)(12年)	1
介護老人保健施設 ひまわり	竹内宏幸(通所リハビリテーション課・理学療法士(課長))(19年) 関山一彦(通所リハビリテーション課・理学療法士)(10年)	2
特別養護老人ホーム 西野ケアセンター	菊地伸(西野ケアセンター理学療法士)(13年)	1
介護老人保健施設 かたくりの郷	廣富美保(リハビリ・理学療法士(主任))(9年) 吉田鈺平(リハビリ・理学療法士)(6年)	1
介護老人保健施設 旭泉苑	田中友紀子(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(19年) 山村幸子(リハビリテーション室・理学療法士)(9年)	1
介護老人保健施設 あづまの里 ホームケアクリニック あづま	島田崇光(理学療法士(主任))(7年)	1
介護老人保健施設 アメニティ西岡	中村公洋(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(6年)	1
老人保健施設 ひだまりの里	下川健幸(生活介護部 医務課 療法・理学療法士(主任))(13年) 及川尚人(生活介護部 医務課 療法・理学療法士)(8年)	1
介護老人保健施設 ケアコートひまわり	宮田直美(リハビリテーション室・理学療法士)(10年)	1
介護老人保健施設 札幌東ナーシング	本田充伸(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(9年)	1
介護老人保健施設 生きがい	庭田崇宏(リハビリテーション課・理学療法士(主任))(11年)	1
介護老人保健施設 愛里苑	三島善一(リハビリテーション科・理学療法士(主任))(20年)	1
合計	54	102
		60

臨床実習Ⅴ（四年次前期3週間）は4年次学生を40名ずつの2グループに分け、一つのグループは福祉施設での臨床実習を、もう一方のグループは卒業研究を行い3週間後にローテーションします。このため、施設の総受け入れ可能数は40名以上で実施可能です。

別添資料として理学療法学科実習先の承諾書 141 枚を添付した。

作業療法学科 臨床実習受入れ施設一覧
(臨床見学, 評価実習 - 医療機関・福祉施設等)

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
旭山病院	山下聖子(リハビリテーション部・作業療法士(課長))(28年)	1
札幌山の上病院	平恵浩(リハビリテーション部・作業療法士(課長))(24年) 清水兼悦(リハビリテーション部・作業療法士(部長))(27年) 竹内大人(リハビリテーション部・作業療法士(室長))(23年) 小林豪(リハビリテーション部・作業療法士(課長))(19年)	1
北海道済生会小樽病院	三崎一彦(リハビリテーション室・作業療法士(技術係長))(22年)	1
札幌徳洲会病院	越後歩(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(15年) 井部光滋(リハビリテーション科・作業療法士(副主任))(5年2か月)	1
岩見沢市立総合病院	鈴木光広(医務局 作業療法科・作業療法士(主任))(23年) 磯石栄一郎(医務局 作業療法科・作業療法士)(15年) 北川いづみ(医務局 作業療法科)(作業療法士)(14年) 宮本実(医務局 作業療法科)(作業療法士)(10年) 高橋右(医務局 作業療法科・作業療法士)(4年)	1
千歳豊友会病院	沼田士嗣(リハビリテーション科・作業療法士(科長))(8年) 岡崎里恵(リハビリテーション科・作業療法士)(4年)	1
牧田病院	山口竜矢(デイケアセンター・デイケア(主任)、作業療法)(12年) 工藤由佳子(デイケアセンター・作業療法士)(10年) 土屋語(デイケアセンター・作業療法士)(7年) 畑山裕太(デイケアセンター・作業療法士)(2年)	1
北海道中央労災病院	三宮孝太(中央リハビリテーション部・作業療法士)(9年)	2
KKR札幌医療センター	太田加苗(リハビリテーション科・作業療法士)(12年)	1
愛全病院	斉藤佑弥(リハビリテーション部・作業療法士(主任))(11年)	1
恵み野病院	小川真澄(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(10年) 柳下瞳(リハビリテーション科・作業療法士)(11年) 高山恵太(リハビリテーション科・作業療法士)(5年)	1
大西病院	前橋初枝(作業療法科・作業療法士(科長))(22年)	1
大雪病院	伊藤まゆみ(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(21年)	1
札幌佐藤病院	前田さゆり(リハビリテーション部 作業療法科・作業療法科長)(19年)	1
長野病院	高橋明子(作業療法室・作業療法士)(25年) 田中靖(作業療法室・作業療法士)(14年2か月) 宮下真紀(作業療法室・作業療法士(主任))(8年) 杉森香織(作業療法室・作業療法士)(7年) 吉田恵(作業療法室・作業療法士)(6年) 森杏奈(作業療法室・作業療法士)(6年) 丹野和也(作業療法室・作業療法士)(7年) 榎木浩行(デイケア・作業療法士(デイケア所長))(12年)	1
勤医協中央病院	平賀なつえ(リハビリテーション部・作業療法士(技士長))(14年) 木村友美(リハビリテーション部・作業療法士(主任代理))(6年)	1
札幌鈴木病院	後藤心也(作業療法室・作業療法士(リハビリテーション科長・作業療法室長兼務))(10年) 海老名広実(作業療法室・作業療法士)(6年) 平野育子(作業療法室・作業療法士)(3年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
五稜会病院	矢崎秀幸(診療部 作業療法室・作業療法士(主任))(12年)	1
日鋼記念病院	山本英貴(作業療法科・作業療法士(主任))(12年)	1
札幌トロイカ病院	鈴木直毅(社会療法科・作業療法士)(5年目) 所樹里(社会療法科・作業療法士(主任))(19年) 熊崎繁典(社会療法科・作業療法士(副主任))(9年)	1
平松記念病院	北川貴也(作業療法科・作業療法士(科長))(11年)	1
桑園病院	田岡晴美(社会復帰部・作業療法士(室長))(22年)	1
石金病院	佐藤孝(作業療法科・作業療法士(主任))(17年)	1
市立稚内病院	大村正行(リハビリテーション科・作業療法士(科長))(28年) 大田緑(リハビリテーション科・作業療法士(係長))(18年)	1
八雲総合病院	小岩伸之(リハビリテーション室・作業療法士(係長))(22年)	1
函館渡辺病院	佐藤祐一(作業療法科・作業療法士(技師長))(25年)	1
亀田病院分院亀田北病院	古川和也(作業療法室・作業療法士)(15年)	2
輪厚三愛病院	池田久枝(リハビリテーション科・作業療法士)(11年) 京谷博美(リハビリテーション科・作業療法士)(8年) 藤本隆寛(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 横谷倫永(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 高山祥子(リハビリテーション科・作業療法士)(4年) 浅利早希(リハビリテーション科・作業療法士)(3年)	1
北星病院	川端安紗美(リハビリテーション科・作業療法士)(7年) 有沢沙織(リハビリテーション科・作業療法士)(5年) 有地かおり(リハビリテーション科・作業療法士)(4年) 小池裕美子(リハビリテーション科・作業療法士)(3年) 磯野一徳(リハビリテーション科・作業療法士)(3年) 関口靖子(リハビリテーション科・作業療法士)(3年)	1
千歳病院	平石頭司(リハビリ室・作業療法士(主任))(7年)	1
北祐会神経内科病院	加藤恵子(リハビリテーション課・作業療法士(主任))(10年)	1
本田記念病院	親谷淳一郎(作業療法室・作業療法士(課長))(12年)	1
市立札幌病院	石井陽史(リハビリテーション科・作業療法士(部門長))(10年) 細川亜希子(リハビリテーション科・作業療法士)(15年) 井部絵理(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 竹内優美(リハビリテーション科・作業療法士)(3年) 安田花織(リハビリテーション科・作業療法士)(2年)	1
五輪橋整形外科病院	塚尾真吾(リハビリテーション科・作業療法士)(5年)	1
高台病院	平泉淳一(作業療法科・作業療法士(科長))(10年)	1
大谷地病院	小林田尚(作業療法部・作業療法士)(11年) 高橋麻世(作業療法部・作業療法士)(8年) 岡本恭(作業療法部・作業療法士)(10年) 深瀬彩佳(作業療法部・作業療法士)(3年) 工藤卓也(作業療法部・作業療法士)(4年)	1
市立函館病院	森山秀人(リハビリ技術科・作業療法士(主任))(28年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
西堀病院	村上正和(リハビリテーション課・作業療法士(主任))(4年) 門木梨菜(リハビリテーション課・作業療法士)(3年) 宮崎拓(リハビリテーション課・作業療法士)(3年)	1
旭川リハビリテーション病院	中濱恒彦(リハビリテーション部作業療法課・作業療法士(主任))(16年)	1
函館中央病院	大井雅人(リハビリテーション科・作業療法士(技士長))(12年)	1
函館協会病院	福田和代(リハビリテーション科・作業療法係長)(20年)	1
函館脳神経外科病院	山崎礼二(作業療法課・作業療法課(主任))(10年)	1
北海道済生会西小樽病院	小玉武志(診療部 機能訓練課・作業療法士)(6年) 高橋奈津美(機能訓練課 作業療法士)(5年) 佐藤匠(機能訓練課・作業療法士)(4年)	1
札幌・すがた医院	世良彰康(リハビリテーション部・作業療法士(係長))(17年) 岩永輝明(リハビリテーション科(係長))(11年)	1
なるかわ病院	成部浩二(作業療法室・作業療法士(室長))(13年) 岸森徹平(デイケア・作業療法士)(9年) 要垣内千尋(作業療法室・作業療法士)(7年) 奥田吾記(作業療法士・作業療法士)(5年)	1
岡本病院	菊池雅史(作業療法室・作業療法士(室長))(8年)	1
富田病院	那須貴彦(作業療法係・作業療法士(主任))(12年)	1
高橋病院	野田正貴(リハビリテーション科・作業療法士(主任係長))(10年)	1
北海道立緑が丘病院	佐藤真吾(作業療法科・作業療法科長)(26年11か月) 中島彩(作業療法科・理療専門員)(20年10ヶ月) 澤村俊彦(リハビリテーション科・主査)(30年) 寺島正啓(リハビリテーション科・理療専門員)(23年2か月) 山田智子(リハビリテーション科・理療専門員)(22年2か月)	1
中野記念病院	加藤千晴(リハビリテーション部・作業療法士(係長)(9年)	1
江別すずらん病院	山平貴意(リハビリテーション課・作業療法士)(7年) 佐川尚史(リハビリテーション課・作業療法士)(5年)	1
札幌花園病院	前田郁美(地域生活支援部・作業療法士)(10年) ミラー彩夏(地域生活支援部・作業療法士)(13年) 木村陽子(地域生活支援部 作業療法室・作業療法士)(12年) 玉置昇一(地域生活支援部 デイケアセンター・作業療法士(係長))(15年)	1
札幌太田病院	菊地俊一(作業療法課・作業療法士(科長))(12年) 對馬正三(作業療法課・作業療法士)(8年) 米倉隼一(作業療法課・作業療法士)(10年) 市嶋優紀(作業療法課・作業療法士)(7年) 工藤真美(作業療法課・作業療法士)(9年5か月) 貝沼充祐(作業療法課・作業療法士)(6年) 小寺勇人(作業療法課・作業療法士)(6年)	1
森山メモリアル病院	中田団(リハビリテーション科・作業療法士(係長))(10年)	1
中垣病院	直江有洋(作業療法室・作業療法士(主任))(11年)	1
羊が丘病院	及川直樹(リハビリテーション科・作業療法士)(8年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
花川病院	木戸紗希子(リハビリテーション部・作業療法士(教務主任))(10年)	1
星が浦病院	木村豊(リハビリテーション部作業療法科・係長)(13年)	1
釧路北病院	佐々木卓也(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 武山郁美(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 丹羽恵里(リハビリテーション科・作業療法士)(6年)	1
市立釧路総合病院	奥宮育子(リハビリテーション科・作業療法士(専門員))(18年) 森田めぐみ(リハビリテーション科・作業療法士)(15年)	1
町立厚岸病院	佐藤秀樹(リハビリテーション室・リハビリテーション技士長)(5年)	1
石田病院	田代瑞穂(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(8年)	1
札幌しらかば台病院	東佳子(リハビリテーション科・作業療法士(係長))(19年)	1
植苗病院	松浦千果子(リハビリテーション部(作業療法科)・作業療法士(課長代理))(17年) 東法子(リハビリテーション部・作業療法士)(19年) 菊池知子(リハビリテーション部・作業療法士)(12年)	1
道央佐藤病院	西館知美(作業療法部・部長)(22年)	1
王子総合病院	脇本之博(医療技術部リハビリテーション科・認定作業療法士(主任))(19年)	1
あしりべつ病院	永田匡宏(診療部作業療法室・作業療法士(室長))(10年)	1
釧路孝仁会記念病院	下田晴昭(リハビリテーション部・作業療法科(係長))(13年)	1
札幌東和病院	千葉郁子(通所リハビリテーション・作業療法士(科長))(20年6か月)	1
渡辺病院	渡邊恒(リハビリテーション室・室長)(13年)	1
熊谷病院	野々村良子(作業療法課・作業療法士)(12年) 岡部はるか(作業療法課・作業療法士)(10年) 金澤知美(作業療法課・作業療法士)(2年) 笹島理沙(作業療法課・作業療法士)(2年)	1
さっぽろ香雪病院	佐藤誠(リハビリ科・作業療法士(主任))(8年)	1
メイプル病院	小川徳之(作業療法部・作業療法士(主任))(9年)	1
岩見沢北翔会病院	山本英明(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(6年)	1
新さっぽろ脳神経外科病院	土谷里織(リハビリテーション科・作業療法士)(9年)	1
宮の森記念病院	岡 睦(リハビリテーション科・作業療法士(副科長))(18年) 小野寺宏治(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(8年) 中島弘人(リハビリテーション科・作業療法士)(5年) 佐藤裕(リハビリテーション科・作業療法士)(4年) 菅原真太(リハビリテーション科・作業療法士)(5年) 小島佳祐(作業療法士)(5年) 坂本貴昭(リハビリテーション科・作業療法士)(4年) 清水正樹(リハビリテーション科・作業療法士)(5年) 菊池悦子(リハビリテーション科・作業療法士)(4年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
牧病院	安井秀一(精神科作業療法部門・作業療法士)(10年)	1
東北北海道病院	佐藤裕紀(リハビリテーション・作業療法士(リハビリテーション係長 作業療法主任兼務)(15年) 庄司歩(リハビリテーション・作業療法士)(2年) 喜納慎也(リハビリテーション・作業療法士)(2年)	1
登別厚生年金病院	篠原 淳(リハビリテーション・作業療法士)(6年)	1
釧路労災病院	石田さえ子(中央リハビリテーション部・主任作業療法士)(22年)	1
病院小計	80	165
		82

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
介護老人保健施設恵み野ケアサポート	小笠原明日香(リハビリテーション科・作業療法士)(16年) 高島理沙(リハビリテーション科・作業療法士)(3年)	1
介護老人保健施設老健のっぼろ	高橋仁(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(12年)	1
デイサービスたいよう	畠山博紀(医療法人社団 憲仁会 牧田病院デイサービス たい よう・作業療法士)(10年10ヶ月)	1
デイサービスだいち	吉岡秀章(医療法人社団 憲仁会 牧田病院デイサービス だい ち・作業療法士)(24年)	1
介護老人保健施設ら・ぱーす	遠藤優子(リハビリ科・作業療法士(リハビリ科科長))(18年) 伊藤真希(リハビリ科・作業療法士)(6年)	1
介護老人保健施設 グランドサン亀田	古川和也(リハビリテーション室・作業療法士(主任))(15年)	2
介護老人保健施設 エスポワール北広島	小田島秀典(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(13年)	1
介護老人保健施設 北星館	三瓶千尋(リハビリテーション科・作業療法士)(9年)	1
介護老人保健施設 セージュ山の手	清水満(リハビリテーション科・作業療法士(課長))(17年)	1
介護老人保健施設 やわらぎ苑上磯	高橋奈々子(機能回復訓練部・作業療法士(マネージャー))(20 年) 榎波清香(機能回復訓練部・作業療法士)(7年) 鳥本視穂(機能回復訓練部・作業療法士)(4年) 梶谷友紀(機能回復訓練部・作業療法士)(8年)	1
介護老人保健施設 ジョイウェルス桔梗	永井匠美(リハビリ部・作業療法士)(22年)	1
介護老人保健施設 響の杜	中山雅史(リハビリテーション科・作業療法士(科長))(18年) 神成佳幸(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 西勇典(リハビリテーション科・作業療法士)(5年) 大橋美里(リハビリテーション科・作業療法士)(8年)	1
帯広ケアセンター	片平修(障害福祉サービス事業所 帯広ケア・センター・作業療 法士(所長職))(25年)	1
介護老人保健施設 サニーヒル	豊島美由紀(医務課・作業療法士)(5年) 中川浩樹(デイケアセンター・作業療法士)(28年) 小島美晴(医務課・作業療法士)	1
太陽の園	福岡孝光(北海道社会福祉事業団太陽の園 発達医療センター・ 作業療法士)(27年)	1
介護老人保健施設 ケンゆのかわ	堀籠早苗(リハビリテーション科・作業療法士)(21年)	1
江別市健康福祉部子育て支援室 こども発達支援センター	谷藤弘知(子ども発達センター・センター長)(26年) 菅原友江(江別市子ども発達支援センター・作業療法士(主 任))(8年) 鈴木彩夏(江別市子ども発達支援センター・作業療法士)(2年)	1
小樽介護老人保健施設 はまなす	大野友紀(リハビリテーション科・作業療法士)(17年) 右近雅子(リハビリテーション科・作業療法士(主幹))(18年)	1
介護老人保健施設 アートライフ恵庭	平間健悟(リハビリテーション科・作業療法士)(9年) 野原英俊(リハビリテーション科・作業療法士)(6年)	1
介護老人保健施設 そよ風の里	高橋英吾(サービス支援課・作業療法士(係長))(20年)	1
デイケアセンターさくら	瀬下義正(デイケアセンターさくら リハビリテーション部・作 業療法士(部長))(15年)	2
高齢者総合福祉施設 アビターレ	浅田光博(アビターレ デイサービス・作業療法士(リーダー))(7 年)	1
介護老人保健施設 老健たいよう	宮下綾子(リハビリテーション部・作業療法士)(9年) 桂裕二(リハビリテーション部・作業療法士)(18年)	1
千代田町リハビリセンター	齋藤明德(千代田リハビリセンター・作業療法士)(8年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
介護老人保健施設 あいぜん苑	長谷川由美子(リハビリ部内・作業療法士(主任))(12年) 佐藤晃太郎(リハビリ部内・作業療法士(副主任))(8年)	1
介護老人保健施設 もえれパークサイド	荻生雅人(リハビリテーション課・作業療法士(課長))(28年)	1
デイホームかたる	玉邑亜矢 (デイホームかたる・作業療法士(通所介護事業所管理者/機能訓練指導員))(15年)	1
介護老人保健施設 北翔館	佐藤和佳奈(リハビリテーション科・作業療法士)(2年)	1
介護老人保健施設 徳洲苑なえぼ	小竹春花(リハビリテーション科・作業療法士(所属長))(9年) 丹羽真紀子(リハビリテーション科・作業療法士)(10年) 藤原美穂(リハビリテーション科・作業療法士)(2年)	1
介護老人保健施設 あつべつ	荒川朋子(業務課リハビリ係・作業療法士)(20年) 小澤寿乃(業務課リハビリ係・作業療法士)(9年) 土谷健太(業務課リハビリ係・作業療法士)(6年)	1
介護老人保健施設 アメニティ西岡	未定	1
介護老人保健施設 旭泉苑	岩井洋平(リハビリテーション科・作業療法士)(8年)	1
施設小計	32	51
合計	112	216

作業療法学科 臨床実習受入れ施設一覧
(総合臨床実習Ⅰ,Ⅱ－医療機関)

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
旭山病院	山下聖子(リハビリテーション部・作業療法士(課長))(28年)	1
札幌山の上病院	平恵浩(リハビリテーション部・作業療法士(課長))(24年) 清水兼悦(リハビリテーション部・作業療法士(部長))(27年) 竹内大人(リハビリテーション部・作業療法士(室長))(23年) 小林豪(リハビリテーション部・作業療法士(課長))(19年)	1
北海道済生会小樽病院	三崎一彦(リハビリテーション室・作業療法士(技術係長))(22年)	1
札幌徳洲会病院	越後歩(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(15年) 井部光滋(リハビリテーション科・作業療法士(副主任))(5年2か月)	1
岩見沢市立総合病院	鈴木光広(医務局 作業療法科・作業療法士(主任))(23年) 磯石栄一郎(医務局 作業療法科・作業療法士)(15年) 北川いづみ(医務局 作業療法科)(作業療法士)(14年) 宮本実(医務局 作業療法科)(作業療法士)(10年) 高橋右(医務局 作業療法科・作業療法士)(4年)	1
千歳豊友会病院	沼田士嗣(リハビリテーション科・作業療法士(科長))(8年) 岡崎里恵(リハビリテーション科・作業療法士)(4年)	1
牧田病院	山口竜矢(デイケアセンター・デイケア(主任)、作業療法)(12年) 工藤由佳子(デイケアセンター・作業療法士)(10年) 土屋語(デイケアセンター・作業療法士)(7年) 畑山裕太(デイケアセンター・作業療法士)(2年)	1
北海道中央労災病院	三宮孝太(中央リハビリテーション部・作業療法士)(9年)	2
KKR札幌医療センター	太田加苗(リハビリテーション科・作業療法士)(12年)	1
愛全病院	斉藤佑弥(リハビリテーション部・作業療法士(主任))(11年)	1
恵み野病院	小川真澄(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(10年) 柳下瞳(リハビリテーション科・作業療法士)(11年) 高山恵太(リハビリテーション科・作業療法士)(5年)	1
大西病院	前橋初枝(作業療法科・作業療法士(科長))(22年)	1
大雪病院	伊藤まゆみ(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(21年)	1
札幌佐藤病院	前田さゆり(リハビリテーション部 作業療法科・作業療法科長)(19年)	1
長野病院	高橋明子(作業療法室・作業療法士)(25年) 田中靖(作業療法室・作業療法士)(14年2か月) 宮下真紀(作業療法室・作業療法士(主任))(8年) 杉森香織(作業療法室・作業療法士)(7年) 吉田恵(作業療法室・作業療法士)(6年) 森杏奈(作業療法室・作業療法士)(6年) 丹野和也(作業療法室・作業療法士)(7年) 檜木浩行(デイケア・作業療法士(デイケア所長))(12年)	1
勤医協中央病院	平賀なつえ(リハビリテーション部・作業療法士(技士長))(14年) 木村友美(リハビリテーション部・作業療法士(主任代理))(6年)	1
札幌鈴木病院	後藤心也(作業療法室・作業療法士(リハビリテーション科長・作業療法室長兼務))(10年) 海老名広実(作業療法室・作業療法士)(6年) 平野育子(作業療法室・作業療法士)(3年)	1
五稜会病院	矢崎秀幸(診療部 作業療法室・作業療法士(主任))(12年)	1
日鋼記念病院	山本英貴(作業療法科・作業療法士(主任))(12年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
札幌トロイカ病院	鈴木直毅(社会療法科・作業療法士)(5年目) 所樹里(社会療法科・作業療法士(主任))(19年) 熊崎繁典(社会療法科・作業療法士(副主任))(9年)	1
平松記念病院	北川貴也(作業療法科・作業療法士(科長))(11年)	1
桑園病院	田岡晴美(社会復帰部・作業療法士(室長))(22年)	1
石金病院	佐藤孝(作業療法科・作業療法士(主任))(17年)	1
市立稚内病院	大村正行(リハビリテーション科・作業療法士(科長))(28年) 大田緑(リハビリテーション科・作業療法士(係長))(18年)	1
八雲総合病院	小岩伸之(リハビリテーション室・作業療法士(係長))(22年)	1
函館渡辺病院	佐藤祐一(作業療法科・作業療法士(技師長))(25年)	1
亀田病院分院亀田北病院	古川和也(作業療法室・作業療法士)(15年)	2
輪厚三愛病院	池田久枝(リハビリテーション科・作業療法士)(11年) 京谷博美(リハビリテーション科・作業療法士)(8年) 藤本隆寛(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 横谷倫永(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 高山祥子(リハビリテーション科・作業療法士)(4年) 浅利早希(リハビリテーション科・作業療法士)(3年)	1
北星病院	川端安紗美(リハビリテーション科・作業療法士)(7年) 有沢沙織(リハビリテーション科・作業療法士)(5年) 有地かおり(リハビリテーション科・作業療法士)(4年) 小池裕美子(リハビリテーション科・作業療法士)(3年) 磯野一徳(リハビリテーション科・作業療法士)(3年) 関口靖子(リハビリテーション科・作業療法士)(3年)	1
千歳病院	平石顕司(リハビリ室・作業療法士(主任))(7年)	1
北祐会神経内科病院	加藤恵子(リハビリテーション課・作業療法士(主任))(10年)	1
本田記念病院	親谷淳一郎(作業療法室・作業療法士(課長))(12年)	1
市立札幌病院	石井陽史(リハビリテーション科・作業療法士(部門長))(10年) 細川亜希子(リハビリテーション科・作業療法士)(15年) 井部絵理(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 竹内優美(リハビリテーション科・作業療法士)(3年) 安田花織(リハビリテーション科・作業療法士)(2年)	1
五輪橋整形外科病院	塚尾真吾(リハビリテーション科・作業療法士)(5年)	1
高台病院	平泉淳一(作業療法科・作業療法士(科長))(10年)	1
大谷地病院	小林田尚(作業療法部・作業療法士)(11年) 高橋麻世(作業療法部・作業療法士)(8年) 岡本恭(作業療法部・作業療法士)(10年) 深瀬彩佳(作業療法部・作業療法士)(3年) 工藤卓也(作業療法部・作業療法士)(4年)	1
市立函館病院	森山秀人(リハビリ技術科・作業療法士(主任))(28年)	1
西堀病院	村上正和(リハビリテーション課・作業療法士(主任))(4年) 門木梨菜(リハビリテーション課・作業療法士)(3年) 宮崎拓(リハビリテーション課・作業療法士)(3年)	1
旭川リハビリテーション病院	中濱恒彦(リハビリテーション部作業療法課・作業療法士(主任))(16年)	1
函館中央病院	大井雅人(リハビリテーション科・作業療法士(技士長))(12年)	1
函館協会病院	福田和代(リハビリテーション科・作業療法係長)(20年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
函館脳神経外科病院	山崎礼二(作業療法課・作業療法課(主任))(10年)	1
北海道済生会西小樽病院	小玉武志(診療部 機能訓練課・作業療法士)(6年) 高橋奈津美(機能訓練課 作業療法士)(5年) 佐藤匠(機能訓練課・作業療法士)(4年)	1
札幌・すがた医院	世良彰康(リハビリテーション部・作業療法士(係長))(17年) 岩永輝明(リハビリテーション科(係長))(11年)	1
なるかわ病院	成部浩二(作業療法室・作業療法士(室長))(13年) 岸森徹平(デイケア・作業療法士)(9年) 要垣内千尋(作業療法室・作業療法士)(7年) 奥田吾記(作業療法士・作業療法士)(5年)	1
岡本病院	菊池雅史(作業療法室・作業療法士(室長))(8年)	1
富田病院	那須貴彦(作業療法係・作業療法士(主任))(12年)	1
高橋病院	野田正貴(リハビリテーション科・作業療法士(主任係長))(10年)	1
北海道立緑が丘病院	佐藤真吾(作業療法科・作業療法科長)(26年11か月) 中島彩(作業療法科・理療専門員)(20年10ヶ月) 澤村俊彦(リハビリテーション科・主査)(30年) 寺島正啓(リハビリテーション科・理療専門員)(23年2か月) 山田智子(リハビリテーション科・理療専門員)(22年2か月)	1
中野記念病院	加藤千晴(リハビリテーション部・作業療法士(係長)(9年)	1
江別すずらん病院	山平貴意(リハビリテーション課・作業療法士)(7年) 佐川尚史(リハビリテーション課・作業療法士)(5年)	1
札幌花園病院	前田郁美(地域生活支援部・作業療法士)(10年) ミラー彩夏(地域生活支援部・作業療法士)(13年) 木村陽子(地域生活支援部 作業療法室・作業療法士)(12年) 玉置昇一(地域生活支援部 デイケアセンター・作業療法士(係長))(15年)	1
札幌太田病院	菊地俊一(作業療法課・作業療法士(科長))(12年) 對馬正三(作業療法課・作業療法士)(8年) 米倉隼一(作業療法課・作業療法士)(10年) 市嶋優紀(作業療法課・作業療法士)(7年) 工藤真美(作業療法課・作業療法士)(9年5か月) 貝沼充祐(作業療法課・作業療法士)(6年) 小寺勇人(作業療法課・作業療法士)(6年)	1
森山メモリアル病院	中田団(リハビリテーション科・作業療法士(係長))(10年)	1
中垣病院	直江有洋(作業療法室・作業療法士(主任))(11年)	1
羊が丘病院	及川直樹(リハビリテーション科・作業療法士)(8年)	1
花川病院	木戸紗希子(リハビリテーション部・作業療法士(教務主任))(10年)	1
星が浦病院	木村豊(リハビリテーション部作業療法科・係長)(13年)	1
釧路北病院	佐々木卓也(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 武山郁美(リハビリテーション科・作業療法士)(6年) 丹羽恵里(リハビリテーション科・作業療法士)(6年)	1
市立釧路総合病院	奥宮育子(リハビリテーション科・作業療法士(専門員))(18年) 森田めぐみ(リハビリテーション科・作業療法士)(15年)	1
町立厚岸病院	佐藤秀樹(リハビリテーション室・リハビリテーション技士長)(5年)	1
石田病院	田代瑞穂(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(8年)	1

実習施設名	当該施設における実習指導者 (所属・資格名) (臨床経験年数)	受け入れ 可能人数
札幌しらかば台病院	東佳子(リハビリテーション科・作業療法士(係長))(19年)	1
植苗病院	松浦千果子(リハビリテーション部(作業療法科)・作業療法士(課長代理))(17年) 東法子(リハビリテーション部・作業療法士)(19年) 菊池知子(リハビリテーション部・作業療法士)(12年)	1
道央佐藤病院	西館知美(作業療法部・部長)(22年)	1
王子総合病院	脇本之博(医療技術部リハビリテーション科・認定作業療法士(主任))(19年)	1
あしりべつ病院	永田匡宏(診療部作業療法室・作業療法士(室長))(10年)	1
釧路孝仁会記念病院	下田晴昭(リハビリテーション部・作業療法科(係長))(13年)	1
札幌東和病院	千葉郁子(通所リハビリテーション・作業療法士(科長))(20年6か月)	1
渡辺病院	渡邊恒(リハビリテーション室・室長)(13年)	1
熊谷病院	野々村良子(作業療法課・作業療法士)(12年) 岡部はるか(作業療法課・作業療法士)(10年) 金澤知美(作業療法課・作業療法士)(2年) 笹島理沙(作業療法課・作業療法士)(2年)	1
さっぽろ香雪病院	佐藤誠(リハビリ科・作業療法士(主任))(8年)	1
メイプル病院	小川徳之(作業療法部・作業療法士(主任))(9年)	1
岩見沢北翔会病院	山本英明(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(6年)	1
新さっぽろ脳神経外科病院	土谷里織(リハビリテーション科・作業療法士)(9年)	1
宮の森記念病院	岡 睦(リハビリテーション科・作業療法士(副科長))(18年) 小野寺宏治(リハビリテーション科・作業療法士(主任))(8年) 中島弘人(リハビリテーション科・作業療法士)(5年) 佐藤裕(リハビリテーション科・作業療法士)(4年) 菅原真太(リハビリテーション科・作業療法士)(5年) 小島佳祐(作業療法士)(5年) 坂本貴昭(リハビリテーション科・作業療法士)(4年) 清水正樹(リハビリテーション科・作業療法士)(5年) 菊池悦子(リハビリテーション科・作業療法士)(4年)	1
牧病院	安井秀一(精神科作業療法部門・作業療法士)(10年)	1
東北海道病院	佐藤裕紀(リハビリテーション・作業療法士(リハビリテーション係長 作業療法主任兼務))(15年) 庄司歩(リハビリテーション・作業療法士)(2年) 喜納慎也(リハビリテーション・作業療法士)(2年)	1
登別厚生年金病院	篠原 淳(リハビリテーション・作業療法士)(6年)	1
釧路労災病院	石田さえ子(中央リハビリテーション部・主任作業療法士)(22年)	1
合計	80	165
		82

別添資料として作業療法学科実習先の承諾書 111 枚（112 施設分）を添付した。

北海道医療大学 リハビリテーション科学部 進学需要調査(2)

編入枠についての進学意向(進路指導教員、予備校関係者)

➤ 他大学からの編入、学士編入をターゲットとした広報戦略を立てれば医療系学部の編入需要は相当見込めるのではないか

➤ 医療系学部の編入というのは学部卒業生の再入学が多い

・ 医療系学部の編入というのは学部卒業生の再入学が多い。普通の文系学部を卒業した人が資格を取るために再入学するという。(予備校関係者)

➤ 医療系に関しては編入枠は広報の仕方では相当集まるのではないかと。看護、理学療法等の保健医療系の学部で学士編入の制度があるとか、他大学在籍中に編入できる制度があるというのは意外と知られていない

・ 医療系に関しては編入枠は広報の仕方では相当集まるのではないかと。例えば年度ごとの編入学実績を3年次編入が何人、学士編入が何人いたと分かりやすくしっかり広報すれば医療系学部の編入は相当集まるのではないかと。

・ 医学科の編入は知られているが、看護、理学療法等の保健医療系の学部で学士編入の制度があるとか、他大学在籍中に編入できる制度があるというのは意外と知られていない。(予備校関係者)

理学療法学科編入学生履修モデル

① 本学で履修する科目(数字は単位数)

② 単位認定する科目(同)

区分	授業科目	配当年次	単位数		開講年次・時間数								履修モデル1 一般の4年大学 卒業生	履修モデル2 社会福祉系大 学卒業生	指定規則との関連		
			必修	選択	1年		2年		3年		4年				履修モデル1	履修モデル2	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
全学教育科目	導入科目	基礎ゼミナール(コミュニケーション実践論)	1前	1		30								①	①	科学的思考の基盤 必要単位数 14 認定単位数 24 履修単位数 4	科学的思考の基盤 必要単位数 14 認定単位数 24 履修単位数 4
	教養科目 (6単位以上履修)	文章指導(日本語の表現)	1前	1		30								①	①		
		人間と思想(心理学)	1後	2			30										
		人間と思想(死生学入門)	1前	2		30								②	②		
		人間と思想(哲学入門)	1前	2		30											
		人間と社会(医療の経済学)	1後	2			30										
		人間と社会(医療の法学)	1後	2			30							②	②		
		人間と社会(国際社会福祉論)	3前	2					30								
		人間と文化(文化人類学)	1前	2		30											
		人間と文化(環境の歴史)	2後	2					30								
		人間と文化(国際文化比較論)	2前	2				30									
	自然と科学(生命科学)	1前	2		30								②	②			
	健康・運動科学科目	健康・運動科学演習(運動科学演習)	1通	2		30	30						②	②			
	外国語科目 (4単位以上履修)	英語 I (オーラル・イングリッシュA)	1前	1		30								①	①		
		英語 I (オーラル・イングリッシュB)	2前	1			30							①	①		
		英語 II (英語A)	1後	1			30							①	①		
		英語 II (英語B)	2後	1				30						①	①		
		中国語(中国語)	1前	1		30											
		韓国語(韓国語)	1後	1			30										
		フランス語(フランス語)	2後	1				30									
	ドイツ語(ドイツ語)	2前	1				30										
	情報科学科目	情報処理演習(情報処理演習)	1前	1		30								①	①		
		統計学(基礎統計学)	3前	2					30					②	②		
自然科学入門(基礎数理)		1前	1		30								①	①			
自然科学科目 (5単位以上履修)	自然科学入門(物理学)	1後	2			30							②	②			
	自然科学入門(生物学)	1後	2			30							②	②			
	自然科学入門(化学)	1後	2			30							②	②			
医療基盤科目	個体健康科学(個体健康科学)	1前	2		30								②	②			
	医療倫理(医療倫理)	1後	2			30							②	②			
	地域連携(地域包括ケア演習)	3前	1					30					①	①			
	地域連携(モデル構築をつくる I)	2前	1				30						①	①			
	多職種連携(多職種連携論)	3前	1					30					①	①			
全学教育科目 合計27単位以上履修(うち必修19単位)					認定単位数(うち必修単位数)								24(16)	24(16)			
					履修単位数(うち必修単位数)								4(3)	4(3)			
					合計単位数(うち必修単位数)								28(19)	28(19)			
リハビリテーション 基盤科目	解剖学 I	1前	1		30								①	①	人体の構造と機能及び 心身の発達 必要単位数 12 認定単位数 0 履修単位数 12	人体の構造と機能及び 心身の発達 必要単位数 12 認定単位数 0 履修単位数 12	
	解剖学 II	1後	1			30							①	①			
	解剖学実習	2前	1				60						①	①			
	生理学 I	1前	1		30								①	①			
	生理学 II	1後	1			30							①	①			
	生理学実習	1後	1			60							①	①			
	運動生理学	2前	1			30							①	①			
	運動学 I	1後	1			30							①	①			
	運動学 II	2前	1			30							①	①			
	運動学実習	2後	1				60						①	①			
	老年学	2前	1				15						①	①			
	人間発達学	2前	1			15							①	①			
	医学概論	1前	1		15								①	①			
	病理学	2前	1			15							①	①			
	整形外科	2前	2			30							②	②			
	内科学	2後	2				30						②	②			
	神経学	2後	2				30						②	②			
	小児科学	2後	1				15						①	①			
	精神医学	2前	2			30							②	②			
	病態運動学	2後	1			30							①	①			
	高次脳機能障害学	2後	1			15							①	①			
	臨床心理学	2後	1			15							①	①			
	薬理学	2後	1			15							①	①			
	公衆衛生学	2後	1			15							①	①			
	栄養学	2後	1			15							①	①			
	リハビリテーション概論	1前	2		30								②	②			
	保健医療福祉論	3前	1					15					①	①			
	障がい者当事者論	2前	1			30							①	①			
	作業療法概論	1前	2		30								①	①			
	作業適用学	1後	2		30								①	①			
	積雪寒冷地の生活と諸問題	3通	1					15	15				①	①			
	理学療法専門科目	理学療法概論	1前	2		30								②	②	基礎理学療法学 必要単位数 6 認定単位数 0 履修単位数 14	基礎理学療法学 必要単位数 6 認定単位数 2 履修単位数 12
		基礎理学療法学	1後	2			30							②	②		
理学療法管理・運営論		4後	1						15				①	①			
理学療法研究法		3前	2					30					②	②			
理学療法英文原著読解		2通	2			30	30						②	②			
理学療法総合講義		4後	1						30				①	①			
理学療法研究セミナー I		3通	2				30	30					②	②			
理学療法研究セミナー II		4通	2						60				②	②			
医療コミュニケーション		2後	1				30						①	①			
理学療法基礎評価学 I		2通	2		30	30							②	②			
理学療法基礎評価学 II		2通	2		30	30							②	②			
理学療法評価学総合演習		2後	1			30							①	①			
画像診断学		3後	1					15					①	①			
物理療法学		3前	2				60						②	②			
運動療法学 I		2前	1			30							①	①			
運動療法学 II		2後	1			30							①	①			
義肢装具学 I		2後	1			30							①	①			
義肢装具学 II		3前	1				30						①	①			
日常生活動作学 I		2前	1			30							①	①			
日常生活動作学 II		2後	1			30							①	①			
骨関節障害理学療法学		3前	2				30						②	②			
骨関節障害理学療法学演習		3後	2					60					②	②			
神経障害理学療法学		3前	2				30						②	②			
神経障害理学療法学演習		3後	2					60					②	②			
発達障害理学療法学		3前	2				30						②	②			
発達障害理学療法学演習		3後	2					60					②	②			
内部障害理学療法学		3前	2				30						②	②			
内部障害理学療法学演習		3後	2					60					②	②			
理学療法治療学総合演習		3後	1					30					①	①			
スポーツ障害理学療法論		3後	1					30					①	①			
ハンドセラピー		3前	1			15							①	①			
神経筋促進治療論		3後	1				15						①	①			
徒手療法論		3後	1				30						①	①			
リハビリテーション工学	3前	1			15							①	①				
地域理学療法学	3前	2				30						②	②				
地域理学療法学演習	3後	1					30					①	①				
生活環境論	3前	1				15						①	①				
国際協力と理学療法	4後	2						30				履修単位数 4	履修単位数 4				
健康増進と理学療法	4後	1						15				履修単位数 4	履修単位数 4				
障害者スポーツ指導論	4後	1						30				履修単位数 4	履修単位数 4				
臨床実習 I	1通	1		45								①	①	臨床実習 必要単位数 18 認定単位数 0 履修単位数 20	臨床実習 必要単位数 18 認定単位数 0 履修単位数 20		
臨床実習 II	2後	2			90							②	②				
臨床実習 III	3後	6					270					⑥	⑥				
臨床実習 IV	4前	8						360				⑧	⑧				
臨床実習 V	4前	3						135				③	③				
臨床実習 VI	4前	3										③	③				
専門教育科目 合計101単位以上修得					認定単位数(うち必修単位数)								0(0)	8(8)			
					履修単位数(うち必修単位数)								101(101)	95(93)			
					合計単位数(うち必修単位数)								101(101)	103(101)			
理学療法学科 合計128単位以上修得(必修120単位・選択8単位以上)					認定単位数(うち必修単位数)								24(16)	32(24)	必要単位数 93	必要単位数 93	
					履修単位数(うち必修単位数)								105(104)	99(96)	認定単位数 24	認定単位数 32	
					合計単位数(うち必修単位数)								129(120)	131(120)	履修単位数 105	履修単位数 99	

作業療法学科編入学生履修モデル

① 本学で履修する科目(数字は単位数) ② 単位認定する科目(同)

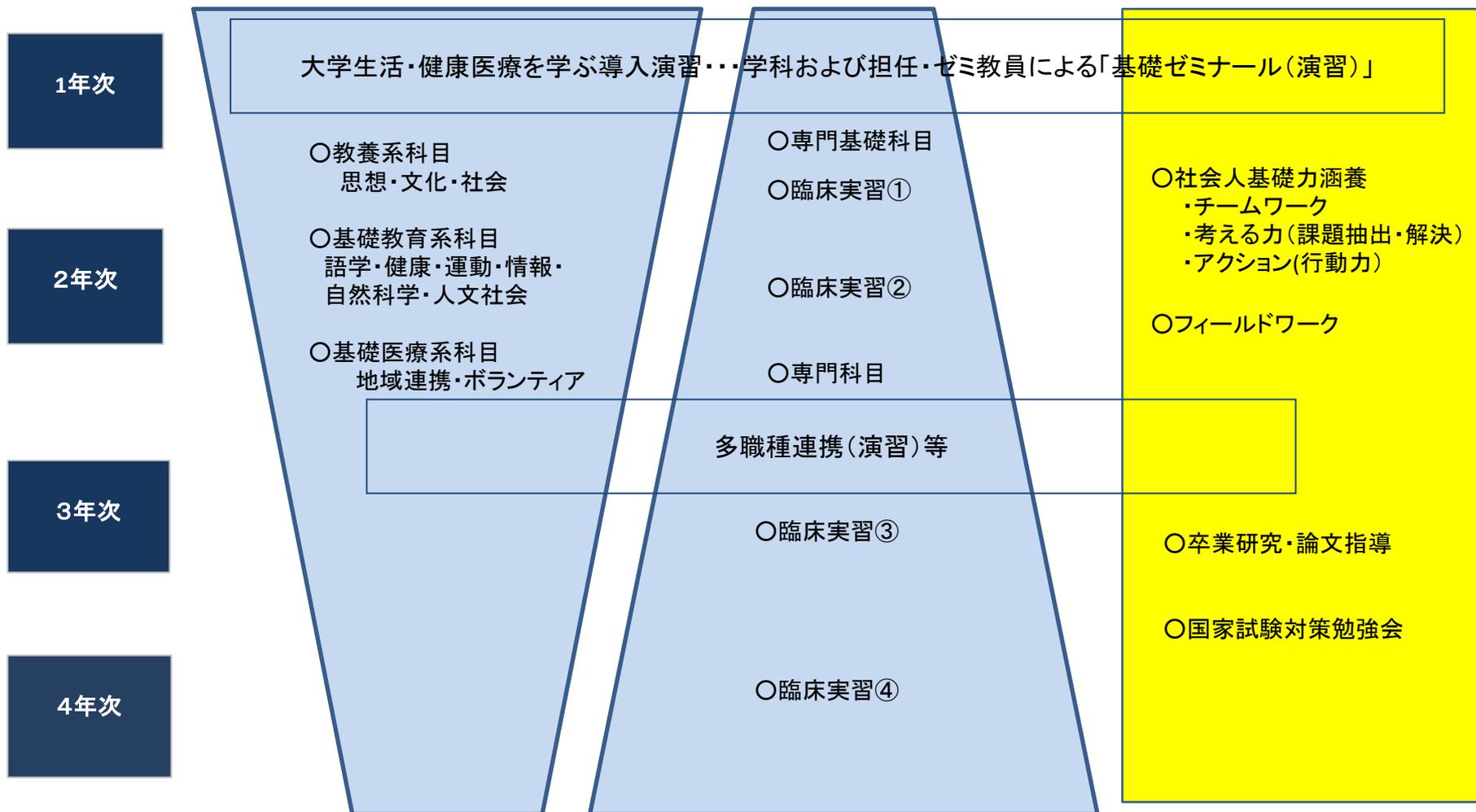
区分	授業科目	配当 年次	単位数		開講年次・時間数								履修モデル 1 一般の4年 大学卒業生	履修モデル 2 社会福祉系 大学卒業生	指定規則との関連			
			必修	選択	1年		2年		3年		4年				履修モデル1	履修モデル2		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
全学 教育科目	導入科目	基礎ゼミナール(コミュニケーション実践論)	1前	1		30								①	①	科学的思考の基盤	科学的思考の基盤	
	教養科目 (6単位以上履修)	文章指導(日本語の表現)	1前	1		30									①	①	必要単位数 14 認定単位数 24	必要単位数 14 認定単位数 24
		人間と思想(心理学)	1後	2			30								②	②	履修単位数 4	履修単位数 4
		人間と思想(死生学入門)	1前	2		30									②	②		
		人間と思想(哲学入門)	1前	2		30									②	②		
		人間と社会(医療の経済学)	1後	2			30								②	②		
		人間と社会(医療の法学)	1後	2			30								②	②		
		人間と社会(国際社会福祉論)	3前	2						30								
		人間と文化(文化人類学)	1前	2		30												
		人間と文化(環境の歴史)	2後	2					30									
		人間と文化(国際文化比較論)	2前	2			30											
	自然と科学(生命科学)	1前	2		30									②	②			
	健康・運動科学科目	健康・運動科学演習(運動科学演習)	1通	2		30	30							②	②			
	外国語科目 (4単位以上履修)	英語 I (オーラル・イングリッシュA)	1前	1		30									①	①		
		英語 I (オーラル・イングリッシュB)	2前	1			30								①	①		
		英語 II (英語A)	1後	1		30									①	①		
		英語 II (英語B)	2後	1			30								①	①		
		中国語(中国語)	1前	1		30												
		韓国語(韓国語)	1後	1		30												
		フランス語(フランス語)	2後	1			30											
	ドイツ語(ドイツ語)	2前	1			30												
	情報科学科目	情報処理演習(情報処理演習)	1前	1		30									①	①		
		統計学(基礎統計学)	3前	2					30						②	②		
	自然科学科目 (5単位以上履修)	自然科学入門(基礎数理)	1前	1		30									①	①		
		自然科学入門(物理学)	1後	2			30								②	②		
		自然科学入門(生物学)	1後	2			30								②	②		
		自然科学入門(化学)	1後	2			30								②	②		
	医療基盤科目	個体差健康科学(個体差健康科学)	1前	2		30									②	②		
		医療倫理(医療倫理)	1後	2			30								②	②		
		地域連携(地域包括ケア演習)	3前	1					30						①	①		
地域連携(デジタルカルガをつくるI)		2前	1			30								①	①			
	多職種連携(多職種連携論)	3前	1					30						①	①			
全学教育科目 合計27単位以上履修(うち必修19単位)					認定単位数(うち必修単位数)								24(16)	24(16)				
					履修単位数(うち必修単位数)								4(3)	4(3)				
					合計単位数(うち必修単位数)								28(19)	28(19)				
リハビリテーション 基盤科目	解剖学 I	1前	1		30									①	①	人体の構造と機能及び 心身の発達	人体の構造と機能及び 心身の発達	
	解剖学 II	1後	1			30								①	①			
	解剖学実習	2前	1				60							①	①	必要単位数 12 認定単位数 0	必要単位数 12 認定単位数 0	
	生理学 I	1前	1		30									①	①	認定単位数 0	認定単位数 0	
	生理学 II	1後	1			30								①	①	履修単位数 12	履修単位数 12	
	生理学実習	1後	1			60								①	①			
	運動生理学	2前	1			30								①	①			
	運動学 I	1後	1			30								①	①			
	運動学 II	2前	1			30								①	①			
	運動学実習	2後	1				60							①	①			
	老年学	2前	1			15								①	①			
	人間発達学	2前	1			15								①	①			
	医学概論	1前	1		15									①	①	疾病と傷害の成り立ち及び 回復過程の促進	疾病と傷害の成り立ち及び 回復過程の促進	
	病理学	2前	1			15								①	①			
	整形外科	2前	2			30								②	②	必要単位数 12 認定単位数 0	必要単位数 12 認定単位数 6	
	内科学	2後	2			30								②	②	履修単位数 17	履修単位数 11(必修) 履修単位数 1(選択)	
	神経学	2後	2			30								②	②			
	小児科学	2後	1			15								①	①			
	精神医学 I	2前	2			30								②	②			
	精神医学 II	2後	2			30								②	②			
	病態運動学	2後	1			30								①	①			
	高次脳機能障害学	2後	1			15								①	①			
	臨床心理学	2後	1			15								①	①			
	薬理学	2後	1			15								①	①			
	公衆衛生学	2後	1			15								①	①			
	栄養学	2後	1			15								①	①			
	リハビリテーション概論	1前	2		15									②	②	保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	
	理学療法概論	1前	2		30											必要単位数 2 認定単位数 0	必要単位数 2 認定単位数 1	
基礎理学療法学	1後	2		30											履修単位数 5	履修単位数 4		
保健医療福祉論	3前	1					15						①	①				
障がい者当事者論	2前	1			30								①	①				
積雪寒冷地の生活と諸問題	3通	1					15	15					①	①				
作業療法専門科目	作業療法概論	1前	2		30									②	②	基礎作業療法学	基礎作業療法学	
	職業倫理・管理学	4後	1						15					①	①	必要単位数 6 認定単位数 0	必要単位数 6 認定単位数 0	
	作業療法技術学演習 I	2前	1			30								①	①	履修単位数 11	履修単位数 11	
	作業療法技術学演習 II	2後	1			30								①	①			
	作業療法研究法	3前	1				15							①	①			
	作業療法学総合講義	4後	1						30					①	①			
	作業療法研究セミナー I	3通	2			30	30							②	②			
	作業療法研究セミナー II	4後	2						60					②	②			
	評価学概論	2前	1			30								①	①	理学作業評価学	理学作業評価学	
	身体機能評価学 I	2後	1			30								①	①	必要単位数 5 認定単位数 0	必要単位数 5 認定単位数 0	
	身体機能評価学 II	3前	1				30							①	①	履修単位数 6	履修単位数 6	
	精神機能評価学	2後	1			30								①	①			
	発達系評価学	2後	1			30								①	①			
	評価学実習	2後	1			60								①	①			
	画像診断学	3後	1					15										
	日常生活援助学	2後	2			30								②	②	作業療法治療学	作業療法治療学	
	日常生活援助学演習	3前	1				15							①	①	必要単位数 20 認定単位数 0	必要単位数 20 認定単位数 0	
	身体障害作業療法学	3前	2				60							②	②	履修単位数 22	履修単位数 22	
	身体障害作業療法学演習	3後	1				60							①	①			
	精神障害作業療法学	3前	2			30								②	②			
	精神障害作業療法学演習	3後	1				30							①	①			
	発達障害作業療法学	3前	2			30								②	②			
	発達障害作業療法学演習	3後	1				30							①	①			
	老年期障害作業療法学	3前	2			30								②	②			
	老年期障害作業療法学演習	3後	1				30							①	①			
	高次脳機能障害作業療法学	3前	2			30								②	②			
	高次脳機能障害作業療法学演習	3後	1				30							①	①			
	義肢装具学	3後	2					30						②	②			
	作業適応学	1後	2			30								②	②			
	音楽療法	3前	1					15										
	ハンドセラピー	3前	1					15										
	徒手療法論	3後	1					15										
	呼吸リハビリテーション学	3前	1					15										
	神経筋促進治療論	3後	1					15										
	園芸療法	3前	1					15										
	地域作業療法学	3前	2					30						②	②	地域作業療法学	地域作業療法学	
地域作業療法学演習</																		

教育課程内における、社会的及び職業的自立を図るための取組について、低学年次を主とする「全学教育」、2年次後期から本格化する実務実習を含めた高度専門医療人としての専門知識・技術習得のための「専門教育」、および4年間通じての「担任・ゼミナール」の3つを柱とする。また、この3つを横断的に融合させた1年次前期の導入教育、3年次前期には他学部との連携による「多職種連携(演習)」等を開設し医療系総合大学の強みを生かした取組を行っていく。

【全学教育】

【専門教育】

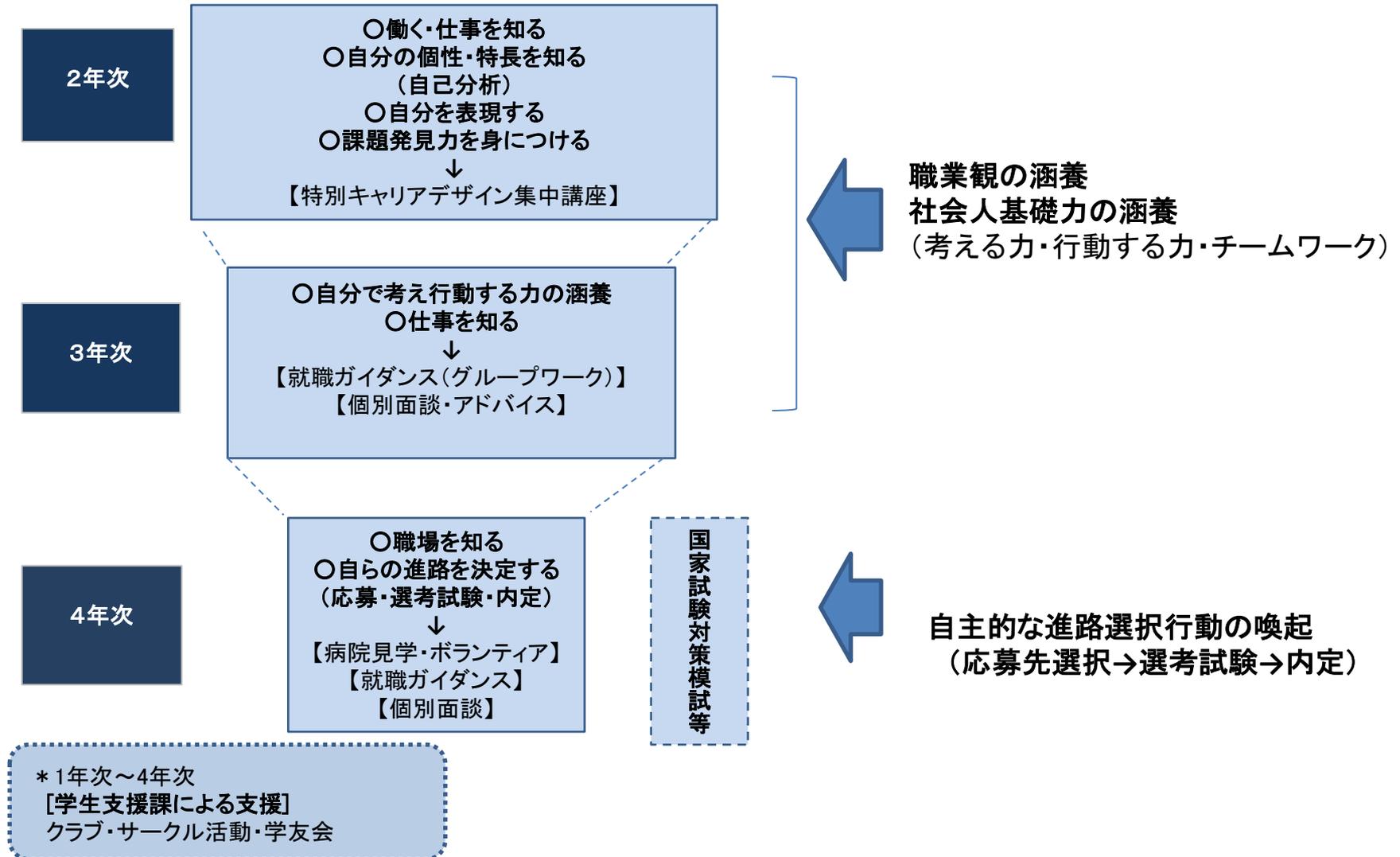
【担任・ゼミナール】



社会的・職業的自立に関する指導体制 概念図 ②

(教育課程外の取組について)

2年次より段階的に、職業観・社会人基礎力の涵養及び、学生が主体的で自主的な進路選択を行えるよう力を身につけることを目的とし、学生支援課のキャリア・就職支援専門職員による特別キャリアデザイン集中講座、就職ガイダンス・個別面談を効果的に実施する。また、4年次には学生が主体的に参加する病院・施設見学の促進も行っていく。さらに国家試験対策講模試等受験も促す。なお、この教育課程以外の取組は教育課程内の取組およびゼミを単位とする教員との緊密な連携によって行うものとする。



社会的・職業的自立に関する指導体制 概念図 ③

(適切な体制の整備について)

教育課程内は教員が、課程外の取組は職員が主となり運営していくが、卒業までの4年間で学生の社会的及び職業的自立を図るために、教職員が綿密に連携し協働可能な体制をつくる。医療系総合大学の強みを最大限発揮できるよう他学部学科教員との連携で運営する「多職種連携(演習)」を3年次前期において取組み、コメディカルでチーム医療に携わる体験学習を行う。また教育課程内外の橋渡し役として、キャリア就職支援専門職員が各種施策の画・運営等のコーディネートすることで、より効果的な連携を可能なものとする。なお、就職委員会においては各種施策の策定と検証および情報共有を行い各教員へその方向性と具体的な施策を逐次、フィードバックすることで、学部学科教員が一体となった動きが取れる体制とした。

